

第二十六條 町村農會及市農會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ總代會ヲ置キ總會ニ代フルコトヲ得  
 總代會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ會員ノ選舉シタル總代ヲ以テ之ヲ組織ス  
 總會ニ關スル規定ハ總代會ニ付キ之ヲ準用ス

◎町村農會ノ總代會ノ組織(第十七條)

農會令(舊)

(明治三十八年勅令第二百二十五號)

第二十條 農會ノ經費ハ市町村農會ニ在リテハ其ノ會員ノ負擔トシ其ノ他ノ農會ニ在リテハ之ヲ組織スル農會ノ負擔トス

第二十二條 農會ハ毎年總會ニ於テ經費ノ豫算及分賦收入ノ方法ヲ議決シ二月末日迄ニ行政廳ノ認可ヲ受ケヘシ

經費ノ豫算及分賦收入ノ方法ヲ變更セムトスルトキハ總會ノ議決ヲ經テ行政廳ノ認可ヲ受ケヘシ

◎本條ノ手續前ト會費請求權

明治三十八年勅令第二百二十五號農會令第二十條ハ單ニ農會經費ノ負擔者ヲ定メタルニ過キスシテ第二十二條ノ手續ヲ履踐スルニ非サレハ各會員カ負擔スヘキ經費ノ存否其數額及ヒ支拂ノ時期等未タ確定セサルカ故ニ農會ヨリ各會員ニ對スル經費分擔額請求權ノ存否モ亦確定セサルモノトス(大審大正二年民一〇二三頁)

破産法(舊)

(舊商法第三編破産)

◎破産法(舊)ノ前卷頁(商法三六七頁以下、續商法二二四頁以下)

第二十六條 債權ノ確定ハ承認又ハ裁判所ノ判決ヲ以テ之ヲ爲ス  
 調査會ニ於テ管財人ヨリモ又債權ノ確定シ若クハ貸借對照表ニ掲ケタル債權者ヨリモ異議ヲ申立テサルトキハ債權ハ承認ヲ得タルモノトス  
 管財人ノ債權ニ係ル承認又ハ異議ハ破産主任官其管財人ニ代ハリテ之ヲ爲ス

◎管財人ノ破産手續外ノ債務ノ承認

一 上告人ハ本件ニ於テ訴外合名會社竹若競賣部ハ上告人ノ申立ニ基キ舊商法破産編ノ規定ニ依リ破産ノ宣告ヲ受ケ上告人ハ本件手形債權ニ付債權届出ヲ爲シタリシニ當該破産管財人ハ破産債權調査會ニ於テ異議ヲ申立テ其ノ後大正十四年十一月頃ニ至リ右管財人ハ該破産事件ハ財團僅少ニシテ費用ヲ償フニ足ラサル状態ニ在リ他ニ債權届出人モ僅ニ一人ニ過キサルヲ以テ手續ヲ簡易ニ終了セシメタキニ付係争手形債務ハ承認スルニ因リ債權届ヲ取下ケラレタキ旨ノ申出アリ依テ上告人ハ大正十四年

十二月八日其ノ債權届ヲ取下ケタリ從テ右管財人ノ承認ニ依リテ時効ハ中断セラレタルモノナリト抗辯シ之カ立證トシテ甲第六號證ヲ提出シタルモノニシテ同號證ニ依リ右抗辯ノ基本タル事實ハ之ヲ認メ得ヘシト雖同號證ニ依リ明ナルカ如ク右破産管財人ハ債權調査會ニ於テ上告人ノ本訴債權ニ對シ異議ヲ述ヘ其ノ異議ハ未タ之ヲ撤回セサルモノナルヲ以テ破産管財人カ前記ノ如キ債務ノ承認ヲ爲スモ舊商法破産編第千二十六條所定ノ破産債權ヲ確定スヘキ承認タル效果ヲ生セサルコト明ナリ破産管財人ハ債權調査ノ期日ニ於テ債權確定ノ爲承認ヲ爲ス權限ナ有スルモ債權調査期日以外ニ於テ債務ノ承認ヲ爲スモ破産手續上何等ノ效果ヲ生スルモノニ非サルヲ以テ此ノ如キ行爲ハ破産管財人ノ權限ニ屬セサルモノト謂フヘク破産管財人ノ權限ニ屬セサル行爲ハ民法上ニ於テモ何等ノ效力ヲ生セサルモノナルヲ以テ右債務ノ承認カ破産者ニ對シ民法第四百七條第三號ノ承認タル效果ヲ發生スヘキモノニ非サルコト亦論ヲ俟タス(大審昭和三年民八〇六頁)

二 尙上告人ハ破産管財人ニ於テ和解ヲ爲ス權限ヲ有スルコトニ立脚シ前示債務ノ承認ハ畢竟和解行爲ヲ爲シタルモノナルヲ以テ破産法上債權確定ノ效果ヲ齎ラサストスルモ民法第四百七條ニ定ムル時効中断ノ利益ヲ受クルモノナル旨主張スレトモ債權調査期日以外ニ於テ債務ヲ承認スルコトカ破産管財人ノ權限ニ屬セサルコト前示説明ノ如クナル以上其ノ債務ノ承認ヲ內容

トスル和解モ亦破産管財人ノ權限ニ屬セサルモノト謂ハサルヘ  
カラサルノミナラス舊商法破産編第十九條第二項ニ依レハ破  
産管財人ハ和解ヲ爲スニハ破産者ノ意見ヲ聽キ且破産主任官ノ  
認可ヲ受クルコトヲ要スルモノナルニ拘ラス前記承認ニ付テハ  
毫モ破産主任官ノ認可ヲ得タル事亦ナキヲ以テ此ノ點ニ於テモ  
其ノ行爲ハ無効ナリト謂フヘク從テ右承認ニ依リ民法第四百十  
七條第三號所定ノ承認ノ效力ヲ發生スルニ由ナキモノナルコト  
明ナリ(同上)

第四十三條 協諾契約ノ確定シタルトキハ管財人ハ直チニ其執務  
ヲ罷メ且其執務ニ付キ計算ヲ爲ス可シ  
破産者ハ協諾契約ニ別段ノ定ナキトキニ限り任意ノ管理及處分ノ  
爲メ其財産ヲ取戻スコトヲ得  
協諾契約ノ履行ハ破産主任官ノ監督ヲ以テ之ヲ爲ス

◎協諾契約ト破産者ノ能力ノ回復

舊商法破産編第四十三條ノ趣旨ヲ稽フルニ協諾契約認可決定  
確定スルトキハ破産會社ハ財團ノ管理及處分ノ權能ヲ回復スヘ

スル訴訟ヲ爲ス權限ヲ有セサルヘキトコロ詐害行爲ノ取消ノ訴  
ハ債務者ノ財産ノ増加ヲ目的トスル訴ニ外ナラサルカ故ニ債務  
者ノ破産シタル場合ニハ破産手續ノ終了ニ至ル迄債權者ハ詐害  
行爲取消ノ訴ヲ提起スルニ付正當ノ當事者タルノ資格ヲ欠ケモ  
ノト謂ハサルヘカラス(東京地昭和三年法二八三九號一五頁)  
◎破産者ノ行爲能力(續商法一二四八頁)  
◎破産宣告後ニ爲シタル行爲ノ效力(續商法一二四八頁)

第四十七條

- 左ニ掲グル請求權ハ之ヲ財團債權トス
- 一 破産債權者ノ共同ノ利益ノ爲ニスル裁判上ノ費用
- 二 國稅徵收法又ハ國稅徵收ノ例ニ依リ徵收スルコトヲ得ヘキ請  
求權但シ破産宣告後ノ原因ニ基ク請求權ハ破産財團ニ關シテ生  
シタルモノニ限ル
- 三 破産財團ノ管理、換價及配當ニ關スル費用
- 四 破産財團ニ關シ破産管財人ノ爲シタル行爲ニ因リテ生シタル  
請求權
- 五 事務管理又ハ不當利得ニ因リ破産財團ニ對シテ生シタル請求  
權
- 六 委任終了又ハ代理權消滅ノ後急迫ノ必要ノ爲ニ爲シタル行爲

ク未タ破産終結決定ナキモ會社ノ取締役ハ會社ノ業務ヲ遂行シ  
得ヘキモノト解スヘシ(大審昭和三年法二八七九號一五頁)  
◎協諾契約成立ノ效果(續商法一二七〇頁)

破産法

(大正十一年法律第七十一號)

第七條 破産財團ノ管理及處分ヲ爲ス權利ハ破産管財人ニ專屬ス

◎破産管財人ノ管理ニ屬セサル權利

民法第八百八十七條第一項ノ取消權ハ子ノ一身ニ專屬スル權利  
ニシテ其ノ破産財團ニ屬セス子又ハ其ノ法定代理人ニ限り之ヲ  
行フコトヲ得ヘキモノトス(大審大正一五年法二六〇六號九頁)  
◎決議無効ノ訴ハ破産財團ニ關セス(續商法一二四八頁)

◎破産者ト廢罷訴訟ノ適格

凡ソ破産者ノ財産ノ管理及處分ノ權限ハ破産管財人ニ專屬スル  
モノナレハ破産管財人以外ノ者ハ破産者ノ財産ノ増加ヲ目的ト

- 二 因リ破産財團ニ對シテ生シタル請求權
- 七 第九十九條第一項ノ規定ニ依リ破産管財人カ債務ノ履行ヲ爲  
ス場合ニ於テ相手方カ有スル請求權
- 八 破産宣告ニ因リテ雙務契約ニ關シ解約ノ申入アリタル場合ニ  
於テ其ノ終了ニ至ル迄ノ間ニ生シタル請求權
- 九 破産者及之ニ扶養セラルル者ノ扶助料

◎雙務契約ノ解約ト財團債權

破産法第四七條第八號ニ依レハ破産宣告ノ結果貸貸借契約履備  
契約等一定ノ解約申入期間ヲ要スル雙務契約カ解約サレタル場  
合ニハ貸貸人勞務者等ハ右契約ノ終了ニ至ル迄ノ賃料報酬等ヲ  
財團債權トシテ請求シ得ルコト明カニシテ其ノ趣旨タルヤ此ノ  
種雙務契約ハ他ノ雙務契約ト其ノ性質ヲ異ニシ解約ノ申入ニ依  
リ契約ノ效果カ初ヨリ消滅ニ歸スルコトナク尙々解約申入期間  
經過後ノ效果ヲ消滅セシムルニ過キスシテ其ノ以前ノ部分ニ付  
テハ財團ハ相手方ノ履行ニ依リ利益ヲ受クルコト恰モ同條七號  
所定ノ他ノ種類ノ雙務契約ニ付解除ナキ場合相手方ノ履行ニ依  
リ財團カ利益ヲ受クルト全然同一ナルヲ以テ本號ニ於テモ前號  
ト同様貸貸人勞務者等カ破産宣告後其ノ契約ノ效果ニ依リ財團

ニ生シメタル利益ノ反對給付トシテ財團ニ對シ請求シ得ヘキ  
 賃料報酬等ノ債權ヲ以テ財團債權ト爲シタルモノニシテ破産宣  
 告後解約申入ノ日迄ノ間ニ於テモ相手方ノ給付ニ因リ財團カ利  
 益ヲ得タルコト勿論ナルヲ以テ其ノ間ノ賃料報酬等ノ債權亦財  
 團債權タルモノトス(神戸地昭和三年評論一七卷諸法四七一頁  
 法二八二五號一四頁)

◎假登記抵當權者ト財團債權ノ行使 (本卷〔キ〕競賣  
 法二條)

第五十三條 破産者カ破産宣告ノ後破産財團ニ屬スル財産ニ關シテ  
 爲シタル法律行為ハ之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得ス  
 破産者カ破産宣告ノ日ニ於テ爲シタル法律行為ハ破産宣告後ニ之  
 ナ爲シタルモノト推定ス

第五十四條 破産宣告ノ後破産財團ニ屬スル財産ニ關シ破産者ノ法  
 律行為ニ因ラスシテ債權ヲ取得スルモノ其ノ取得ハ之ヲ以テ破産債  
 權者ニ對抗スルコトヲ得ス  
 前條第二項ノ規定ハ前項ノ取得ニ之ヲ準用ス

◎本條ノ不對抗事項ト其ノ主張者

破産法第五十四條ニ掲ケタル債權ノ取得ハ之ヲ破産債權者ニ對  
 抗スルコトヲ得サルモノナレハ其ノ債權ハ破産財團ニ組入レサ  
 ルヘカラサルモノナルヲ以テ其ノ債權ヲ取得シタル第三者ニ對  
 シ之カ返還ヲ請求スルハ破産財團ヲ管理スル破産管財人ニ於テ  
 之ヲ爲スヘキモノト謂フヘク破産債權者ハ自ラ之ヲ請求スルコ  
 トヲ得サルモノトス何トナレハ若ク破産債權者ヲシテ自ラ之ヲ請  
 求スルコトヲ得セシムルトキハ法律カ破産財團ノ管理權ヲ破産  
 管財人ニ專屬セシメタル目的ニ背馳シ又否認權ノ行使ヲ破産管  
 財人ニ與ヘタル趣旨ニ反スヘケレハナリ加之破産管財人ハ破産  
 者ノ爲ニ破産財團ヲ管理スルノミナラス破産債權者ノ爲ニモ之  
 ナ管理シ且當ニ破産債權者ノ利益ニ於テ破産手續ヲ行フヘキモ  
 ノニシテ第三者ニ對スル返還請求ノ如キモ亦其ノ者ノ爲ニ之ヲ  
 行フモノナレハ破産債權者ヲシテ自ラ其ノ請求權ヲ行使セシム  
 ルノ必要ナキモノトス(大審大正一四年民五一三頁)

第五十五條 不動産又ハ船舶ニ關シ破産宣告前ニ生シタル登記原因  
 ニ基キ破産宣告ノ後爲シタル登記又ハ不動産登記法第二條第一號  
 ノ規定ニ依リ假登記ハ之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

但シ登記債權者カ破産宣告ノ事實ヲ知ラスシテ爲シタル登記又ハ  
 假登記ニ付テハ此ノ限ニ在ラス  
 前項ノ規定ハ債權ノ設定移轉又ハ變更ニ關スル登記又ハ假登録ニ  
 付テ之ヲ準用ス

◎破産宣告前ニ爲シタル假登記ノ效力

一 所有權移轉ノ假登記ヲ爲シタル不動産ニ付第三者カ所有權取  
 得ノ本登記ヲ爲シタル結果假登記債權者ニ於テ登記義務者ニ對  
 シ本登記手續ヲ求ムルコト能ハサルニ至リタルトキハ該假登記  
 債權者ハ假登記ノ效力トシテ其ノ第三者ニ對シ本登記ノ抹消ヲ  
 求ムルコトヲ得ルコトハ當院ノ判例(大正六年(オ)第一三五號  
 同年九月二十日第二民事部判決參照)トスル所ニシテ破産法第  
 五十五條第一項ニハ不動産又ハ船舶ニ關シ破産宣告前ニ生シタ  
 ル登記原因ニ基キ破産宣告ノ後爲シタル登記又ハ不動産登記法  
 第二條第一號ノ規定ニ依リ假登記ハ之ヲ以テ破産債權者ニ對抗  
 スルコトヲ得スト規定スルヲ以テ不動産ニ關シ破産宣告前ニ生  
 シタル登記原因ニ基キ破産宣告前ニ爲シタル所有權取得ノ假登  
 記ハ之ヲ以テ破産債權者ニ對抗シ得ルモノナルコト明ナリ從テ  
 此ノ如キ假登記債權者ハ登記義務者カ本登記前ニ破産宣告ヲ受  
 ケ其ノ目的タル不動産カ破産財團ニ組入レラレタル場合ニ於テ

ハ破産管財人ニ對シ假登記ニ依リ保全シタル債權ニ付本登記手  
 續ヲ請求シ得ルモノト解セサルヘカラス(大審大正一五年民六  
 ○七頁)  
 二 (右ノ引用判例) 假登記ノ性質及ヒ效力(續民法九三一頁)  
 ◎假登記抵當權者ト財團債權ノ行使(本卷〔キ〕競賣法二條)  
 ◎假登記ノ效力(第二續民法二五五頁以下)

第五十九條 雙務契約ニ付破産者及其相手方カ破産宣告ノ當時未タ  
 共ニ其ノ履行ヲ完了セザルトキハ破産管財人ハ其ノ選擇ニ從ヒ契  
 約ノ解除ヲ爲シ又ハ破産者ノ債務ヲ履行シテ相手方ノ債務ヲ履行  
 スルコトヲ得  
 前項ノ場合ニ於テ相手方ハ破産管財人ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ其  
 ノ期間内ニ契約ノ解除ヲ爲スカ又ハ債務ノ履行ヲ請求スルカヲ確  
 答スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得破産管財人カ其ノ期間内ニ確答ヲ  
 爲ササレトキハ契約ノ解除ヲ爲シタルモノト看做ス

◎管財人ノ契約解除ト破産者特約ノ效力

雙務契約ニ於テ契約解除ノ效力ハ當事者互ニ相手ヲ原狀ニ回復

スヘキ義務アルモノナルコト勿論ナルモ契約解除ノ效力ニ關シ  
 特約アルトキハ當事者ハ其特約ニ從フヘク特約ノ定ムル所ニ依  
 リテハ常ニ必スシモ原狀回復ノ義務ヲ負擔スルコトヲ要スルモ  
 ノニアラス而シテ破産法第五十九條ハ破産者カ破産宣告前爲シ  
 タル雙務契約ニ付當事者雙方ノ履行カ破産宣告ノ當時未タ共ニ  
 完了セズ其履行ノ完了スルヲ待ツニ於テハ徒ニ時日ヲ費シ從テ  
 破産手續ノ遂行ニ支障ヲ生シ又ハ之ヲ遲延セシムルカ如キ虞ア  
 ル場合ニ其遲延ヲ防止シ以テ破産手續ヲ圓滿ニ遂行セシムル爲  
 メ破産管財人ノ選擇ニ從ヒ其ノ契約ヲ解除シ得ヘク又ハ相手方  
 ナシテ契約ノ履行若シクハ解除ニ付キ催告スルコトヲ得セシメ  
 タルモノニシテ其解除ノ效力ニ特ニ別異ノ定テ爲シタルモノニ  
 アラスト解スヘキヲ以テ同條ニ基キ破産管財人ノ爲ス契約解除  
 ノ場合ニ在リテモ破産者カ雙務契約締結ノ當時契約解除ノ效果  
 ニ關スル特約ヲ爲シタルトキハ破産管財人モ亦其特約ニ拘束セ  
 ラルモノト解スルチ相當トス(大阪區大正一四年法二四七六  
 號一一頁)

**第六十九條** 破産財團ニ屬スル財產ニ關シ破産宣告ノ當時繼續スル  
 訴訟ハ破産管財人又ハ相手方ニ於テ之ヲ受繼グコトヲ得第四十七  
 條第七號ニ掲グル請求權ニ關スル訴訟ニ付亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ訴訟費用ハ之ヲ財團債權トス

◎破産宣告ト訴訟手續ノ受繼

一 民事訴訟法第七十九條ニ依レハ斯ル場合ニ於ケル受繼ハ破  
 産ニ付テノ規定ニ從フヘキモノナルコト一點ノ疑ナク而シテ破  
 産法第六十九條ニハ破産財團ニ屬スル財產ニ關シ破産宣告當時  
 繫屬スル訴訟ハ破産管財人又ハ相手方ニ於テ受繼テ爲スヘキ旨  
 ナ規定スレトモ是唯變體規定ニ於テ其ノ權能ヲ示シタルニ止リ  
 其ノ受繼手續ニ付テハ同法中手續規定ニ依ルヘキモノナリト解  
 スルチ至當トス(東京地大正一三年報八號九頁)

二 然リ而シテ手續規定タル第二百二十八條第二百四十條第二  
 四十六條第二百四十七條第二百六十一條ニ依レハ破産債權者ハ  
 裁判所ノ定メタル期間内ニ其ノ債權額及原因等ヲ届出ツルコト  
 ナ要スルノミナラス若シ其ノ債權ニ付破産宣告當時訴訟カ繫屬  
 スルトキハ其ノ裁判所名及番號ヲ届出ツルコトヲ要シ斯クシテ  
 届出テタル債權カ債權調査會ニ於テ異議ナカリシトキハ債權ハ  
 之レニ因リ確定スヘク若シ異議アルトキハ異議者ナ相手方トシ  
 テ債權確定ノ爲前掲中斷中ノ訴訟ノ受繼ヲ要シ而シテ法定期間  
 内ニ其ノ受繼ヲ爲シタル事實ヲ證明セザルトキハ其ノ配當ヨリ  
 除外セラレルコト明カナルト同時ニ民事訴訟法第七十九條ノ

場合ニハ同法第七十八條第二項ノ準用ナキ點ヨリ見レハ原告  
 ノ受繼申立ハ民事訴訟法破産法ノ規定ニ適用セザルモノト謂  
 フヘク從テ破産管財人ニ於テ之ヲ理由トシテ受繼テ肯セザル本  
 件受繼申立ハ之ヲ却下セザルチ得ス(東京地大正一三年報八號  
 九頁)

◎破産宣告ト訴訟手續ノ受繼(第八六條)

◎管財人ニ訴訟受繼ノ權限ナキ場合

一 原判決ハ本訴請求ノ一ナル失權通知無効確認ノ請求ニ付テハ  
 此ノ請求ハ破産財團ニ關スルモノナルカ故ニ之ニ關シテハ破産  
 管財人ニ於テ訴訟手續ヲ受繼スヘキモノトシテ之ヲ受繼セシメ  
 タル上被上告人勝訴ノ判決ヲ爲シタルトモ失權通知無効確認ノ  
 訴ニ付破産管財人ニ訴訟手續ヲ受繼スヘキ權限ナキコトハ當院  
 大正十三年(オ)第六百六十四號事件ノ判決(大正十四年一月  
 二十六日言渡)ノ趣旨ヨリ之ヲ窺ヒ得ヘキヲ以テ原院カ破産管  
 財人ニ斯カル權限アリトシテ本案ニ付上告人敗訴ノ判決ヲ爲シ  
 タルハ失當ナリ(大審大正一四年法二四七三號九頁)

二 (右一ノ引用判例)會社ノ破産ト重役資格ノ消長(第二續商  
 法一四九六頁、同二〇〇一頁)

◎財團ニ關スル訴訟ナリヤ否ノ判定

破産管財人カ訴訟手續ニ付受繼シ得ルハ破産財團ニ關スル場合  
 即破産者カ主觀的地位ニアリテ訴訟ノ目的物タル請求權又ハ請  
 求關係ノ成立カ勝訴ノ結果積極的ニ破産財團ヲ増殖スル場合ニ  
 限定セラレ居ルモノニシテ破産者カ被告トシテ貸金債權ノ請求  
 チ受クル本件ノ如キ場合換言スレハ破産者カ受働ノ地位ニア  
 リ假令勝訴スルモ唯破産財團ノ負擔ヲ防止スルニ過キサルトキ  
 ニハ受繼シ得ザルコトハ民事訴訟法第一七九條破産法第六九條  
 第一六二條ニ照シ明瞭ナリトス(宇都宮地昭和二年法二七〇七  
 號六頁)

◎本條第四號ニ關スル判例

◎株金拂込ノ催告前ト株主ノ詐害行爲(第二續商法一四六九頁)

**第七十二條** 左ニ掲グル行爲ハ破産財團ノ爲之ヲ否認スルコトヲ  
 得

一 破産者カ破産債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル行爲但シ  
 之ニ因リテ利益ヲ受ケタル者カ其ノ行爲ノ當時破産債權者ヲ害  
 スヘキ事實ヲ知ラザリシトキハ此ノ限ニ在ラス

二 破産者カ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタル後ニ爲シタル擔

保ノ供與、債務ノ消滅ニ關スル行爲其ノ他破産債權者ヲ害スル行爲但シ之ニ因リテ利益ヲ受ケタル者カ其ノ行爲ノ當時支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知リタルトキニ限ル

三 前號ノ行爲ニシテ破産者ノ親族、戸主、家族又ハ同居者ヲ相手方トスルモノ但シ相手方カ其ノ行爲ノ當時支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知ラザリシトキハ此ノ限ニ在ラス

四 破産者カ支拂ノ停止若ハ破産ノ申立アリタル後又ハ其ノ前三十日內ニ爲シタル擔保ノ供與又ハ債務ノ消滅ニ關スル行爲ニシテ破産者ノ義務ニ屬セス又ハ其ノ方法若ハ時期カ破産者ノ義務ニ屬セサルモノ但シ債權者カ其ノ行爲ノ當時支拂ノ停止若ハ破産ノ申立アリタルコト又ハ破産債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知ラザリシトキハ此ノ限ニ在ラス

五 破産者カ支拂ノ停止若ハ破産ノ申立アリタル後又ハ其ノ前六個月內ニ爲シタル無償行爲及之ト同視スヘキ有償行爲

第七十六條 否認權ハ訴又ハ抗辯ニ依リ破産管財人ノ行フ

本訴ハ債權者市來新カ其ノ債務者松永喜納ニ於テ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ上告人伊兵衛ニ所有不動産ヲ賣渡シ同上告人ハ更ニ其ノ情ヲ知リタル上告人ケサザル及純藏ニ買受不動産ノ各一部ヲ轉賣シタル事實ヲ原因トシ右債務者喜納ト受益者タル上告人伊兵衛トノ間ノ法律行爲ノ取消ヲ求メ且右債務者受益者間及受益者轉得者間ノ各所有權移轉登記ノ抹消手續ヲ求ムル爲上告人三名ヲ相手方トシ民法第四百二十四條ノ規定ニヨリ提起セラレタルモノナルトコロ右松永喜納ハ本訴カ第一審ニ繫屬中破産宣告ヲ受ケタル爲其ノ破産管財人重永義榮ニ於テ訴訟手續ヲ受繼キタルモノナリ而シテ民法第四百二十四條ノ規定ニ依リ破産債權者ノ提起シタル訴訟カ破産宣告ノ當時繫屬スルトキハ其ノ訴訟手續ハ受繼又ハ破産手續ノ解止ニ至ル迄中断スヘキコトハ破産法第八十六條第一項ノ規定ニ徴シ明ニシテ此ノ場合ニ於テハ破産管財人又ハ相手方ニ於テ訴訟手續ヲ受繼グコトヲ得ヘキコトモ亦同條第二項ノ規定ニヨリ同法第六十九條ノ規定ヲ準用スルヲ以テ毫モ疑テ容レサルトコロナリ然ラハ右市來新ノ提起シタル本訴ハ債務者松永喜納ノ破産宣告ニ依リ中断シ松永喜納ノ破産管財人重永義榮ニ於テ本訴ヲ受繼グコトヲ得ヘキモノトス(大審昭和三年法二八五四號九頁、報一五二號一二頁)

◎破産宣告ト訴訟手續ノ受繼(第六九條)

◎否認權行使ノ方式及效果

一 破産宣告前ニ於ケル破産者ノ法律行爲ノ否認權ハ固ヨリ破産管財人ノ行使スルモノナリト雖然モソハ必ス訴又ハ訴訟行爲タル抗辯ノ方式ニ依ラサルヘカラス且又其否認ノ效力換言スレハ其法律行爲カ破産財團ノ爲メニ關係的ニ取消サルコト(絶對的ニ取消サルルニ非ス)ハ管財人ノ訴又ハ抗辯ニ依ル主張ノミニテ生スルモノニ非ス(東京地昭和二年報一〇九號二四頁)

二 否認權ノ行使タル主張ハ裁判所ニ對シ判決ヲ以テ否認權ノ存在ヲ確定シ且否認スヘキコトヲ求ムル意思表示ニシテ其法律行爲ノ否認セラレ取消サルルコトハ此判決ニ依リテ創設セララルモノト謂ハサルヘカラス(同上)

第八十六條 民法第四百二十四條ノ規定ニ依リ破産債權者ノ提起シタル訴訟カ破産宣告ノ當時繫屬スルトキハ其ノ訴訟手續ハ受繼又ハ破産手續ノ解止ニ至ル迄之ヲ中断ス

第六十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

◎破産宣告ト訴訟手續ノ受繼

第四百條 左ノ場合ニ於テハ相殺ヲ爲スコトヲ得ス

一 破産債權者カ破産宣告ノ後破産財團ニ對シ債務ヲ負擔シタルトキ

二 破産者ノ債務者カ破産宣告ノ後他人ノ破産債權ヲ取得シタルトキ

三 破産者ノ債務者カ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知リテ破産債權ヲ取得シタルトキ但シ其ノ取得カ法定ノ原因ニ基クトキ債務者カ支拂ノ停止若ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知リタル時ヨリ前ニ生シタル原因ニ基クトキ又ハ破産宣告ノ時ヨリ一年前ニ生シタル原因ニ基クトキハ此ノ限ニ在ラス

◎本條第一號ノ意義

破産法第四百條第一號ニ破産債權者カ破産財團ニ對シテ債務ヲ負擔シタルトキトアルハ破産債權者カ破産管財人トノ法律行爲ニ依リ破産財團ニ對シ支拂フヘキ債務ヲ負擔スル場合ヲ云フモノニシテ上告人所論ノ如キ財團物件ヲ貸借シ又ハ賣得スル等破産財團ニ屬スル物件ニ對シ債務ヲ負ヘル場合ノミヲ稱スルニア

ラサルヲ以テ本件ニ於テ原院ノ認定シタル如ク破産債権者タル  
 上告人カ破産管財人タル被上告人トノ契約ニ依リ訴外株式會社  
 臺灣銀行ノ抵當權實行ニ基キ破産者山口善次郎所有ノ不動産ニ  
 對スル競賣ニ際シ第一點第二點說明ノ如キ契約ヲ爲シタルカ爲  
 賠償ノ豫定額ヲ破産財團ニ支拂フヘキ義務ヲ負フ場合ヲモ包含  
 スルモノト解スルヲ相當トス(大審大正一五年法二六六〇號一  
 六頁)

◎本條第三號ノ解釋

破産法第百四條第三號ノ規定ハ破産宣告前ノ相殺ヲ禁シタルモ  
 ノニ非ス又原告カ右相殺ヲ否認スルハ本訴ニ於テ管財人ニヨリ  
 爲サレタル否認權ノ行使ナルコトハ本訴記録ニヨリ明確ナルモ  
 管財人ヨリ抗辯トシテ行使セラレタル否認權ハ爾後本人ニ訴訟  
 ヲ受繼セラレルモ效力アリヤ否ヤ果タ抗辯權自體ノ性質ヲ論ス  
 ルマテモナク茲ニ所謂否認權ハ破産者ノ行爲ヲ要スルモノニ付  
 キ之ヲ行使ス可キモノナルヲ以テ第三者ノナス相殺權ヲ否認ス  
 ルコトヲ得サルモノトス(高岡區昭和二年法二七六四號七頁)

◎支拂停止後ノ讓受債權ト相殺

原告カ其主張ノ如キ金一萬七千二百二十九錢ノ債權ヲ新ニ取  
 得シタル上昭和二年八月十三日之ヲ自動債權トシテ被告ニ對シ

ノ所在地、外國ニ主タル營業所ヲ有スルトキハ日本ニ於ケル主  
 ル營業所ノ所在地、營業者ニ非サルトキ又ハ營業所ヲ有セサルト  
 キハ其ノ普通裁判籍ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

◎會社ノ移轉登記前ト破産ノ管轄

本件ニ於テ相手方ハ會社解散前已ニ本店ヲ德島市ニ移轉セシテ  
 以テ清算事務モ亦當然此ノ本店ニ於テ之ヲ行ヒ居レリト雖モ右  
 移轉ノ登記及公告ハ未タ之ヲ爲ササルヲ以テ此ノ事實從ヒテ又  
 清算事務所ノ同市ニ存スルノ事實モ原告人ノ善意ナル限リ之ヲ  
 以テ此ニ對抗スルヲ得サルニ於テ裁判所モ亦此ノ事實上ノ主張  
 ヲ省ルヲ得サルモノトス(大審大正一五年法二六〇四號一五  
 頁)

◎抗告裁判所ノ裁判ノ意義

第百八條 破産手續ニ關シテハ本法ニ別段ノ定メナキトキハ民事訴  
 訟法ヲ準用ス

相殺ノ意思表示ヲ爲シタリトスルモ該債權ハ被告カ支拂ヲ停止  
 シタル事實ヲ知悉シナカラ取得シタル和議債權ニ該當スルノミ  
 ナラス其主張自體ニ依ルモ之カ取得ニ付和議法第五條ニ準用セ  
 ラルル破産法第百四條第三號但書記載ノ如キ特段ノ事由ノ存ス  
 ルコトヲ認容シ難キ以上和議開始決定前ニ爲サレタル前記相殺  
 モ亦適及シテ無効タルヲ免レサルモノトス蓋シ和議手續ニ於ケ  
 ル債務者カ支拂ノ停止ヲ爲シタルトキハ和議債權ノ價格力著シ  
 ク低落スルハ自然ノ數ニシテ斯クノ如ク低落セル和議債權ヲ其  
 債務者カ買得シ以テ對當額ニ於テ自己ノ債務ト相殺スルトキハ  
 當該和議手續ニ於ケル債務者ノ資産狀態ハ益々惡化シ和議ノ成  
 立ヲ阻害スル結果ヲ生スルカ爲メ之カ相殺ヲ禁止スル必要アリ  
 トシ破産法第百四條ノ規定ヲ和議法ニ準用セラレルニ至リタル  
 ノ立法理由ト破産法第百四條ニ破産手續中ナル文字ノ存セサル  
 トニ鑑ミルモ相殺ノ意思表示カ何時爲サレタルヤハ前記問題ノ  
 重點ニ非ラズシテ相殺適狀カ何時成立スルニ至リタルカニ重キ  
 ナ置クヘキモノナレハナリ從テ原告ハ右相殺ヲ主張シテ被告ニ  
 對シ負擔スル前記債務ヲ免ルルコトヲ得サルニ因リ之カ擔保ト  
 シテ提供シタル本件物件モ亦之カ返還ヲ請求スルヲ得サル筋合  
 ナリト謂フヘシ(名古屋地昭和三年法二八四五號五頁)

第百五條

破産事件ハ債務者カ營業者ナルトキハ其ノ主タル營業所

破産法第百八條ニ依リ破産手續ニ準用セラレタル民事訴訟法第  
 四百五十六條第二項ニ所謂抗告裁判所ノ裁判トハ事件ノ本體ニ  
 付テ爲シタル裁判ヲ指稱シ本體ニ付テノ裁判ヲ前審ニ委任スル  
 裁判ヲ包含セサルモノトス(大審昭和二年法二七五五號一四  
 頁)

◎抗告裁判所ノ裁判ノ意義(民訴法三八三頁)

◎不服ノ理由ヲ記載セサル抗告狀ノ效力

破産事件ニ對スル抗告ニ付テハ破産法第百八條ノ規定ニヨリ民  
 事訴訟法ノ規定ヲ準用スヘキモノトス同法第四百五十七條ニ依  
 レハ抗告ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁  
 列長ノ屬スル裁判所ニ抗告狀ヲ差出シテ之ヲ爲スト規定シ不服  
 ノ理由ヲ記載スヘキコトヲ命セサルヲ以テ之カ理由ヲ抗告狀ニ  
 記載スルコトハ抗告ノ要件ニ非スト謂ハサルヘカラス從テ抗告  
 狀ノ不服ノ理由ヲ記載セサリシトキト雖モ裁判所ハ記録ニ就キ  
 原裁判ノ當否ヲ審査シ相當ノ裁判ヲ爲スヘキモノニシテ抗告ヲ  
 不適法トシテ棄却スヘキモノニ非ス(大審昭和二年報一三二號  
 一一頁)

第百十二條

破産手續ニ關スル裁判ニ對シテハ本編ニ別段ノ定アル

場合ヲ除クノ外其ノ裁判ニ付利害關係ヲ有スル者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得其ノ期間ハ裁判ノ公告アリタル場合ニ於テハ其ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間トス

◎管財人ニ對スル裁判ト抗告ノ許否

破産管財人ハ破産法第六十一條ニ依リ裁判所ノ監督ニ屬スルカ故ニ破産管財人カ其職務ノ執行ニ關シ法定ノ義務ヲ履行セサル場合ニハ裁判所ハ監督權ニ基キ之ヲ履行ヲ命スル裁判ヲ爲シ得ルノミナラス其ノ裁判ハ同法第六十二條ニ所謂破産手續ニ關スル裁判ニ外ナラサルカ故ニ破産管財人ハ同條ニ依リ即時抗告ヲ爲シ得ルモノトス本件ニ於テ九龍區裁判所ノ爲シタル命令ハ破産管財人タル抗告人カ同法第七十三條ニ基キ監督委員ノ請求ヲ拒絕シタルハ其ノ法定ノ義務ヲ履行セサルモノトナシ之カ履行ヲ命スル趣旨ニ於テ爲シタルモノナルコト記録上明白ナルカ故ニ叙上ノ理由ニ因リ其ノ裁判ヲ受ケタル抗告人ハ之ニ對シテ即時抗告ヲ爲シ得ルモノトス(大審昭和三年民七四一頁)

◎破産申立ノ却下ト抗告權者

一 抗告人ハ破産者岡野弘ニ對シ破産債權ヲ有スルノ故ヲ以テ破

産裁判所ニ其ノ届出ヲ爲シタルコトハ一件記録ニ徴シ明ナルヲ以テ破産法第六十二條ニ所謂其ノ裁判ニ付利害關係ヲ有スル者トシテ抗告ヲ爲シ得ルモノナルコト勿論ナリ何トナレハ破産裁判所ニ債權ヲ届出テタル者ハ當該破産手續ニ依リテ配當ヲ受ケ得ヘキ地位ヲ取得シタルモノナルヲ以テ破産宣告ニシテ廢棄セラレトキハ自然斯ル地位ヲ喪失スルニ至リ其ノ裁判ニ付利害關係ヲ有スル事明白ナルヲ以テナリ當院カ大正十五年十二月二十三日同年(ク)第一二一四號事件ニ付與ヘタル決定ノ趣旨ハ或債權者ノ爲シタル破産ノ申立却下スル裁判ニ對シテハ申立人タル該債權者ハ當然ニ利害關係ヲ有スル者ナルモ他ノ債權者ハ當然ニ斯ル利害關係ヲ有スル者ト云フヲ得ストスルニ外ナラサルヲ以テ本件ニ適切ナラス(大審昭和三年民七九〇頁)

二 本件ハ債權者秋山眞カ債務者荒井武治ニ對シ申立タル破産事件ニ付東京區裁判所カ與ヘタル破産決定ニ對スル債權者ノ抗告ニ基キ原審カ第一審決定ヲ廢棄シ破産申立ヲ棄却シタル決定ニ對シ抗告人ハ債務者ニ對シ債權ヲ有スルコトヲ理由トシテ利害關係人ナリト主張シ抗告申立ニ及ヒタルモノトス然レトモ破産申立ヲ棄却シタル決定ニ對シ抗告ヲ申立ツルヲ得ル利害關係人ハ申立人ノミニシテ申立人ニアラサル他ノ債權者ノ如キハ申立棄却ノ決定ニ付利害關係ヲ有セサルモノトス此等債權者ニ於テ債務者ニ對シ破産宣告ヲ求メント欲スレハ須ク新ニ自ラ破産申立ヲ爲スヘク他ノ債權者ノ爲シタル申立ヲ棄却シタル決定ニ對

シ抗告ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス(大審大正一五年民八九六頁)

◎破産手續ニ關スル裁判ト抗告期間

- 一 破産手續ニ關スル裁判ニ對スル抗告ハ本條ニ依リ即時抗告ニ依ルヘク又破産宣告ヲ決定ニ對スル抗告ヲ棄却シタル裁判ハ之ヲ公告スルコトヲ要セサルモノニシテ新ル公告セサル裁判ニ對スル即時抗告ハ本法第八條民事訴訟法第四六二條第二項ニ從ヒ該裁判ノ送達アリタル日ヨリ七日ノ不變期間内ニ之ヲ爲ササルヘカラサルモノトス(大審昭和二年法二七七五號一六頁)
- 二 破産法第六十二條ニ依リハ破産手續ニ關スル裁判ニ對スル抗告ハ即時抗告ニ依ルヘク其ノ期間ハ裁判ノ公告アルタル場合ニ於テハ其ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間ナリ原決定ハ破産宣告決定ニ對スル抗告ヲ廢棄シタルモノナルヲ以テ其ノ決定ハ之ヲ公告スルコトヲ要セサルモノナリ而シテ本件記録ニ依レハ原決定ハ抗告人ノ代理人ニ送達セラレタルモノナルヲ以テ即時決定ハ公告セラレサルモノト認ム然ラハ本件ノ抗告ハ破産法第八條及民事訴訟法第四百六十六條第二項ニ從ヒ原決定ノ送達アリタル日ヨリ七日ノ不變期間内ニ限リ之ヲ許サルモノトス(大審大正一二年法二一六一號二二頁)
- 三 強制和議認可ノ決定ハ言渡ノ外公告ヲ爲スコトヲ要スルヲ以テ之ニ對スル即時抗告ハ公告アリタル日ヨリ起算シ二週間内ニ之ヲ爲スヘク而シテ同期間ヲ計算スルニハ其ノ初日ヲ算入スヘ

- キモノニ非サルコト破産手續ニ準用アル民事訴訟法第六十五條ニ照シ疑ナキ所ニ屬ス(大審大正一四年法二四一九號二〇頁)
- 四 破産法第六十八條ノ公告ノ外送達ヲ爲スヘキ場合以外ノ場合ニ於テ送達ト公告トカ併存スル場合ニハ其何レカ後ナルモノハ全ク無用ノ手續ヲ爲シタルニ他ナラサルヲ以テ其有效ナル告知ノ方法ニ從ヒ叙上ノ法則ニ依リ即時抗告期間ヲ定ムヘキモノトス(東京地大正一二年評論一一卷諸法二一五頁)
- 五 當事者ニ非サル利害關係人ハ當事者中ノ何人カカ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキ期間ニ限リ其裁判ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(東京地大正一二年評論一一卷諸法二一六頁)

◎手續誤解ニ基ク期間經過ノ抗告

地方裁判所カ第二審トシテ爲シタル決定ニ對スル抗告ハ大審院之ヲ管轄スヘキモノナルコトハ裁判所構成法第五十條ノ規定スル所ニ係リ又本件岡山地方裁判所ノ第二審トシテ爲シタル決定ニ對スル抗告ハ右決定ノ抗告人ニ送達セラレタル翌日ヨリ起算シ七日ノ不變期間内ニ爲スヘク且抗告人ノ住所地下裁判所所在地間ノ里程ニ應シテ法定ノ猶豫期間ノ存スルコトハ破産法第六十二條第八條及破産手續ニ準用セラレル民事訴訟法第四百六十六條第四百五十七條第六十七條ノ規定スル所ニシテ而シテ抗告人兩名カ抗告ヲ申立テタル本件岡山地方裁判所ノ決定カ昭和

二年七月十日ヲ以テ抗告人兩名ニ送達セラレタルコトハ一件記録中送達證書中ノ記載ニ徴シ明ニシテ且抗告人兩名ノ住所地方神戸市ト岡山地方裁判所ノ所在地岡山市トノ間ニハ四十里ヲ超エサル里程ノ存スルコト本院ニ顯著ナル事實ナルニ依リ抗告人カ右決定ニ對シテ抗告ヲ申立ツルニハ前掲各法條ノ規定ニ從ヒ前記決定ノ送達アリタル日ノ翌日タル七月十一日ヨリ起算シ七日ノ不變期間ニ里程猶豫期間五日ヲ加ヘ運クトモ同月二十二日迄ニ大審院宛抗告狀ヲ岡山地方裁判所ニ差出シ以テ抗告提起ノ手續ヲ爲スヘキモノナルニ依レハ抗告人兩名ハ其ノ手續ヲ過チ七月十六日廣島控訴院ニ差出シタル爲同控訴院ハ管轄違トシテ同月二十二日抗告却下ノ決定ヲ爲スニ至リ之カ爲抗告人兩名ハ同月三十日ヲ以テ改メテ原審ニ本院宛ノ本件抗告狀ヲ差出シタル事實ヲ認ムルニ足リ從テ本件抗告ハ前記法定期間經過後ニ提起セラレ適法ニ非サルコト明ナルニ依リ不適法トシテ棄却ヲ免レサルモノトス(大審昭和三年民二三七頁、報一五〇號一三頁、法二八四五號一〇頁)

**第十七條** 本編ノ規定ニ依リ送達ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ公告ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

前項ノ登記ニ付テハ登録稅ヲ課セス

◎本條ノ登記ト商法第十一條ノ公告

破産法第二百二十二條ノ登記ニ付テハ商法第十一條ノ公告ヲ必要トセス(法曹會決議昭和二年法曹會雜誌五卷一〇號八一頁)

**第二十三條** 登記ノ原因タル行為カ否認セラレタルトキハ破産管財人ハ否認ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス登記カ否認セラレタルトキ亦同シ

第二百二十一條及前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

◎否認登記ノ要件

破産法第一二三條ニ於テ否認ノ登記ヲ要求スル所以ハ其登記簿ニ基キテ取引ヲ爲サントスル第三者ニ對シ法律行為ノ取消サレタルコト即チ否認セラレタルコトヲ告示スルニ在レハ其登記ハ其法律行為ニ付管財人ニヨリ否認權ノ行使アリタルヲ以テハ足

◎本條ノ公告ト抗告期間ノ起算點(第一四三條)

**第二十條** 裁判所カ破産者ニ關スル登記アルコトヲ知リタルトキハ破産管財人ニ對シテ送達ナク囑託書ニ破産決定書ノ謄本ヲ添附シテ破産ノ登記ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス  
破産財團ニ屬スル權利ニシテ登記シタルモノアルコトヲ知リタルトキ亦同シ

◎合名會社社員ノ破産ト本條

合名會社ノ社員ニ對シ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキハ破産法第二百二十條ニ依リ合名會社ノ登記ニ付キ社員ニ對スル破産ノ登記ヲ囑託スヘキモノトス(民事局長大正二年民事一四八二號回答)

**第二十二條** 登記所カ前三條ノ規定ニ依リ登記ノ囑託ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

ラス其確的ニ取消サレ否認ノ效力ヲ發生シタルコト換言スレハ其判決ノ確定シタル上ニ爲サルヘキモノト解スルチ相當トス(東京地昭和二年報一〇九號二四頁)

◎登記ノ原因タル行為カ否認セラレタルトキ

破産法第一二三條第一項ニ所謂「登記ノ原因タル行為カ否認セラレタルトキ」ナル文句ハ之ヲ單ナル文字論ヨリスレハ破産管財人カ否認ノ訴ヲ提起シ又ハ訴訟ニ於テ其抗辯ヲ爲シタルトキノ意ニ解スルチ得サルカ如シト雖モ同法第七七條第七八條ニ於テハ「否認權ノ行使」若クハ「破産者ノ行為カ否認セラレタル場合」ナル文句ヲ否認ノ判決確定シタル場合ノ意義ニ使用セルコト疑ナク而シテ第一二三條ハ第七七條ニ於テ否認確定ノ結果其財產カ破産財團ニ復歸スルコトヲ實體的ニ規定シタルニ對シ其手續トシテ財團ニ復歸シタル財產カ不動產ナル場合ニハ之ニ付其旨即チ否認ノ登記ヲ爲スコトヲ規定シタルモノト解スヘキニ因リナホ之ヲ否認ノ判決確定ノ意ニ解スルノ至當ナルコト明カナリトス(東京地昭和二年報一〇九號二四頁)

**第二十六條** 債務者カ支拂ヲ爲スコト能ハサルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ破産ヲ宣告ス



債務者カ支拂ヲ停止シタルトキハ支拂ヲ爲スコト能ハサルモノト推定ス

◎支拂不能ノ事實ヲ判断スル標準時期

◎抗告裁判時ニ於ケル資産信用ノ増加

債務者カ支拂不能ノ状態ニ在リヤ否ハ破産事件ヲ審査スル裁判ノ爲サレバ時ヲ以テ標準トスヘキカ故ニ假令第一審裁判所ニ於テ支拂不能ノ事實ヲ認メテ破産宣告ヲ爲セリトモ抗告裁判所カ支拂不能ノ事實ノ存否ヲ判断スルニ當リテハ該抗告裁判所カ裁判ヲ爲ス時ヲ以テ標準トスヘク從テ本件第一審裁判所ノ裁判宣告後ト雖債務者ノ資産ニ増加ヲ來タセル事實アルニ於テハ抗告裁判所カ之ヲ採テ判断ノ資料ニ供スルヲ妨ケス... 又不動産買戻權ヲ資産ト計上シ得ヘカラサル理由ナキカ故ニ原審カ本件ノ債務者ノ佐藤竹治ニ對シテ有スル不動産買戻權ヲ九千圓ト見積リ其ノ資産中ニ計上シタルコトヲ非難スルハ當ラス... 又債務者カ他人ヨリ金融ヲ受ケ得ル事情アルニ於テハ之ヲ以テ債務者ノ信用増加セリト認定スルヲ妨ケサルカ故ニ原審カ本件債務者ニ於テ伊藤治郎助ヨリ三萬圓ノ限度トシテ金員ノ融通ヲ受ケル特約ノ事實ヲ認メ以テ同人ノ信用増加シタルモノト認定シタル

等ノ利益ハ普通ノ強制執行ヨリモ大ナルカ故ニ純然タル破産理論ニノミ拘泥シテ多數債權者ノ存在ヲ破産開始ノ要件ナリトスルカ如キハ實際ト便宜ニ立却セテ破産法ノ精神ヲ没却シ單獨債權者ノ利益ヲ不當ニ蹂躪スルモノナリト謂ハサルヘカラス(高知地大正一四年法二四三七號一〇頁)

二 破産手續ハ多數債權者ノ競合スル場合ニ於テ其ノ間ニ公平ナル満足ヲ得セシムルコトヲ目的トスル所謂一般ノ強制執行ナルヲ以テ債權者一人ナルトキハ敢テ複雑ナル破産手續ヲ開始スル必要ナク單ニ民事訴訟法ニ依ル強制執行手續ヲ開始スルヲ以テ足ルモノナリトスル論ナキニ非スト雖破産開始ノ要件トシテモ債權者ノ多數存在スルコトヲ前提トセス單ニ破産原因アルトキハ申立ニ因リ破産ヲ宣告スル旨ヲ規定スルニ過キササルヲ以テ債權者一人ナル場合ニ於テモ破産開始ノ要件ニシテ存在スル限リ破産手續ヲ開始シ得ルモノト解スルヲ相當トス固ヨリ破産法ノ規定全體ノ上ヨリ觀察スルトキハ多數債權者ノ競合ヲ豫想シ其ノ間ノ公平ヲ維持スルコトニ努メタルコト明ナリト雖是レ唯多數債權者ノ競合スル普通ノ場合ヲ考慮シテ規定ヲ設ケタルニ過キササルモノニシテ必スシモ之カ爲ニ多數債權者ノ競合ナクハ破産ハ之ヲ開始セサル趣旨ナリト解スヘキニ非ス(大審昭和三年民七七頁)

ハ敢テ違法ニ非ス(大審大正一五年民三六二頁)

◎破産ノ宣告ト債權者ノ員數

一 破産手續カ多數債權者ノ存在ヲ前提トシ其ノ各自競争シテ他ヲ排斥シ獨リ完全ナル辨濟ヲ得ントスルヲ防止シ其ノ間ニ公平ナル満足ヲ得セシムルコトヲ目的トシテ立法セラレタル制度ナルコト從テ債權者一人ナルトキハ競合若ハ公平保持等ノ問題ナ生スルコトナキカ故ニ民事訴訟法上ノ強制執行ノ規定ヲ適用スレハ足り故ラニ繁雜ナル破産手續ヲ煩スヲ要セサルヲ通常トスルコトハ理論上明白ナリト雖實際生活上一人ノ債權者ニ對シテモ支拂ヲ爲スコト能ハサル者ハ他ノ債權者ニ對シテモ完全ナル支拂ヲ爲シ得サルコト寧ロ多數ノ事例ニ屬スルカ故ニ斯ル場合一般ノ多數債權者ノ存在スル事可能ナリトノ豫想ノ下ニ無條件ニ破産手續ノ開始ヲ認ムルモ亦社會生活ノ要求ニ適合スル便宜ナル一立法タルコトヲ失ハス而シテ外國ノ立法例中多數債權者ノ存在カ破産開始ノ要件タルコトヲ規定スルモノアルニ拘ラス我破産法カ特ニ之ヲ要件トスル旨ノ規定ヲ爲サザリシハ之ヲ必要トセサル趣旨ナリト認ムヘキコト當然ニシテ且破産手續ニ於テハ債權者ハ破産宣言ノ時ニ於テ有スル一切ノ財產(破産財團)ノ管理及處分ヲ爲ス權利ヲ失ヒ破産管理人其ノ管理及處分權ヲ專有シテ債權者ノ爲行使スルヲ以テ單獨債權者モ之カ利益ヲ享受シ得ヘク又破産上ノ否認權ヲ行使シ得ル便宜モアリテ此

ノ開始ヲ認ムルトキハ債權者ハ破産法上ノ否認權等ノ行使ニ因リ利益ヲ受ケル實益ナキニ非ス若反對論ノ如ク解センカ破産者ハ破産宣告ノ結果トシテ他ノ法令上種々ナル身上ノ效果ヲ受ケルニ拘ラス偶々債權者一人ナリシカ爲破産宣告ヲ免レ從テ破産者タル身上ノ效果ヲ受ケルコトヲ免ルルニ至リ債權者多數ノ場合ニ比シテ權衡ヲ得タルモノニ非ス加之破産財團カ破産手續ノ費用ヲ償フコト能ハサル場合ニ於テハ破産手續本來ノ目的ヨリ云ヘハ破産ノ宣告ヲ爲ス必要ナキカ如シト雖主トシテ破産者ニ對シ身上ノ效果ヲ附スルノ必要ヨリ破産宣告ヲ爲スト同時ニ破産廢止ノ決定ヲ爲ス點ヨリ考察スルトキハ債權者一人ナル場合ニ於テモ破産者タル身上ノ效果ヲ附スル必要上破産宣告ヲ爲シ得ルモノト解スルニ非サレハ破産財團カ破産手續ノ費用ヲ償フコト能ハサル場合ニ比シテ權衡ヲ得サルモノト謂ハサルヘカラス(同上)

四 又之ヲ手續上ノ便宜ヨリ觀察スルモ債權者一人ナル場合ニハ破産手續ヲ開始スルコトヲ得サルモノトセン乎裁判所ハ職權ニ因リテ債權者ノ多數ナルヤ否ヤヲ調査セサルヘカラス然ルニ債權者ノ多數ナリヤ否ヤハ破産手續ヲ進行シ破産債權ノ届出及其ノ調査ヲ俟ツニ非サレハ必スシモ明確ナリト云フヲ得サルヲ以テ斯ル調査ヲ必要トスルコトハ破産宣告ノ確定ヲ遷延セシムルニ至ル實際上ノ不便アルヲ免レス以上說示ノ如クナルヲ以テ原決定カ破産宣告ニハ債權者ノ多數ナルコトヲ必要トスルモノニ

非ス故ニ本件ニ於テ相手方以外ニ抗告人ニ對スル破産債權者ナシトスルモ破産宣告ヲ妨グヘキ事由ト爲ルコトナシト判示シ抗告人ノ抗告ヲ棄却シタルハ正當ナリ(同上)

第二百二十七條 法人ニ對シテハ其ノ財産ヲ以テ債務ヲ完済スルコト能ハサル場合ニ於テモ又破産ノ宣告ヲ爲スコトヲ得  
前項ノ規定ハ合名會社及合資會社ノ存立中ハ之ヲ適用セス

◎法人ニ對スル破産宣告ノ要件

法人ト雖支拂不能ノ事實存スルトキハ假令其ノ財産ヲ以テ債務ヲ完済スルコト能ハサル場合ニ非サルトモ於テモ猶破産ヲ宣告シ得ヘキコトハ破産法第二百六條第二百二十七條ノ規定上明ナリトス然ルニ原審ハ本件ニ付債務者タル甘藷配合肥料製造株式會社カ債務ノ支拂ヲ爲スコト能ハサルモノナルヤ否ノ事實ヲ確定スルコトナク單ニ同會社ハ其ノ財産ヲ以テ債務ヲ完済シ能ハサル状態ニ非サルノ故ヲ以テ本件破産ノ申立ヲ失當トシ原決定ヲ廢棄シ破産ノ申立ヲ棄却シタルハ前示破産法ノ規定ノ解釋適用ヲ誤レル違法アルモノトス(大審昭和二年法二七九七號一五頁)

第三百二十二條 債權者又ハ債務者ハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得債權者カ破産ノ申立ヲ爲ストキハ其ノ債權ノ存在及破産ノ原因タル事實ヲ證明スルコトヲ要ス

◎證明方法ニ依リタル破産決定ノ效力

一 債權者カ破産ノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ債權ノ存在及破産ノ原因タル事實ハ之ヲ證明方法ニ依リ闡明スヘク債務者モ亦破産ノ申立ヲ爭フ場合ニハ同様證明方法ニ依ルヘキモノナルコトハ破産法第三百二十二條ノ規定ニ徴シ明ナリトス(大津地大正一五年法二六四三號七頁)  
二 右ノ如ク債權ノ存在ハ債權者チシテ證明セシムルチ以テ足リ證明方法ニ依ラシメサルノ律意ハ破産ノ申立ハ單ニ破産宣告手續ヲ促スニ過キサルモノニシテ破産申立人ノ債權ノ存在ヲ確定スヘキモノニ非ス其性質上債務者ニ對スル假差押ノ申請ニ外ナラサルモノニシテ破産宣告決定ハ其假差押ノ裁判ニ該當シ破産申立人ノ債權ノ存否ハ破産宣告後ノ債權調査會ニ於ケル承認又ハ裁判所ノ判決ニ依リ始メテ確定スルモノナルカ故ニ破産申立ノ際債權ノ存在ニ付證明ヲ以テ闡明スルノ外尙證明ヲ要スト爲

スニ於テハ債權確定スルニ非サレハ破産宣告ヲ爲スト得サルノ不當ヲ見ルニ至ルカ故ナリ(同上)

三 而シテ若シ裁判所カ破産事件ヲ審理スルニ當リ破産申立人ノ債權ノ存否ニ付證明方法ニ依ラサル當事者一方ノ申請ヲ容レ證明方法ヲ以テ確定セシメントシタルトキハ當該審級ノ審理終結前相手方ヨリ其手續違背ニ異議ヲ留メテ之ヲ貴問シ裁判所チシテ適法ナル手續ノ下ニ審理遂行チ爲サシムヘク若シ異議ヲ留メサル場合ニ於テハ疏明方法ニ依ルヘキ規定ノ遵守ヲ拋棄シタルモノト解シ爾後當事者雙方ハ該手續ノ違背ヲ以テ破産宣告決定ノ效力ヲ爭フチ得スト爲スチ相當トス(同上)

第四百十條 破産申立人カ債權者ニ非サルトキハ破産手續ノ費用ハ假ニ國庫ヨリ之ヲ支辨ス破産申立人カ債權者ナル場合ニ於テ費用ノ豫納ナキニ拘ラス裁判所カ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキハ豫納金カ不足ナルニ至リタルトキ及裁判所カ職權ヲ以テ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキ亦同シ

◎破産手續費用ノ概算前拂

一 破産法第四百十條ニ基キ破産手續ノ費用ニ付キ破産管財人ヨ

リ未タ實際上其費用ノ發生セサル前ニ於テ概算ノ前渡請求アリタル場合ニハ同法第六十六條ニ依リ前拂ヲ爲スヘキモノトス(民事局長大正一三年民八九九六號回答)

二 前項破産管財人ノ費用ノ前拂請求書ニハ其ノ費用ノ項目及概算額ヲ記載セシムルチ相當トス(同上)

◎管財人ノ旅費ノ支辨方

破産管財人ノ旅費ニ付テハ法規ノ定ナキチ以テ地方ノ狀況管財人ノ身分等チ斟酌シ適宜相當ノ額ヲ支辨スヘキモノトス(民事局長大正一三年民八九九六號回答)

◎本條ノ通知費用ノ負擔者(第二四三條)

第四百十三條 裁判所カ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキハ直ニ左ノ事項ヲ公告スルコトヲ要ス

- 一 破産決定ノ主文
- 二 破産管財人ノ氏名及住所
- 三 前條ノ規定ニ依リ定メタル期間及期日
- 四 破産者ノ債務者及破産財團ニ屬スル財産ノ所持者ハ破産者ニ辨濟チ爲シ又ハ其ノ財産ヲ交付スヘカラサル旨及債務ヲ負擔ス

ルコト又ハ其ノ財産ヲ所持スルコト、所持者カ別除權ヲ有スル  
トキハ其ノ債權ヲ有スルコト一定ノ期間内ニ破産管財人ニ届  
出ツヘキ旨ノ命令  
知レタル債權者、債務者及財産所持者ニハ前項ニ掲ケル事項ヲ記  
載シタル書面ヲ送達スルコトヲ要ス  
前二項ノ規定ハ第一項第二號乃至第四號ニ掲ケル事項ニ變更ヲ生  
シタル場合ニ之ヲ準用ス  
第一項第四號ノ届出ヲ怠リタル者ハ之ニ因リテ破産財團ニ生シタ  
ル損害ヲ賠償スルコトヲ要ス

◎本條ノ公告ノ性質

◎本條ノ公告ト抗告期間ノ起算點

一 破産手續ニ關スル裁判ノ公告ハ特別ノ規定アル場合例ヘハ同  
法第一四五條第三五四條等ノ如キ場合ハ裁判ノ告知方法ハ公告  
ナリト規定セラレ且ツ其ノ公告ハ決定ノ主文及理由ノ要領ヲ公  
告スルヲ以テ足ルモノナリト雖モ其ノ他ノ場合ニ於テハ破産手  
續ニ關スル裁判ノ公告ハ裁判ノ正本ノ交付ヲ以テ送達ニ代フル  
コトヲ得トナス同法第一一七條ノ法意ニ鑑ミルトキハ裁判ノ全

文ノ公告ヲ必要トスルモノナリト謂ハサルヘカラス然ルニ右第  
一四三條ノ公告事項中破産宣告決定ニ關スルハ單ニ其ノ主文ノ  
ミニシテ理由ノ要領スラモ包含セス其ノ他ハ破産債權ノ届出及  
ヒ破産財團ノ管理ニ關スル事項ニ他ナラサルヲ以テ此ノ公告ハ  
破産宣告決定ノ公告ニハ非スシテ破産開始ノ際ニ於ケル破産債  
權者破産者ノ債務者及ヒ財産所持者ニ對スル破産手續管理上ノ  
特別ナル公告ニシテ其ノ性質上同法第一五六條ノ公告ニ對應ス  
ルモノナリト謂フヘク從テ此ノ公告ヲ以テ破産宣告決定自體ノ  
公告ナリトシ即時抗告ノ起算點トナスコトヲ得サルモノトス  
(東京地大正一二年評論一三卷諸法二一六頁)

二 破産法第一四三條ニ於テ第二項カ第一項ノ公告事項ヲ記載シ  
タル書面ヲ送達スルコトヲ要スト爲ス者ノ中ニハ破産者モ包  
含セサルヲ以テ若シ同條第一項ノ公告ヲ以テ破産宣告決定ノ公  
告ナリト解スルトキハ他ニ公告ノ外當事者ニ對シ該決定ヲ送達  
スヘキ旨ノ規定ナキニヨリ結局破産者ニ對シテハ何等ノ送達ヲ  
爲スコトヲ要セサルコトナリ其タ權衡ヲ失シタル結論ニ到達  
スル事實ニ徴スルモ叙上ノ公告ヲ以テ破産宣告決定自體ノ公告  
ナリトシ即時抗告ノ起算點トナスコトヲ得サルモノトス(同  
上)

第百五十五條 破産ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ破産宣告前ト雖

◎手續費用ノ前拂又ハ假拂ノ支出方

破産法第四百十條第百六十六條ニ依リ管財人ニ對シ報酬金並ニ  
破産手續費用概算前拂又ハ假拂ヲ要シ右ハ會計規則第五十九  
條第六十條各號ノ經費ニ屬セサルヲ以テ概算前拂ノ性質トシテ  
ハ支出シ能ハサルニ付該費用ハ裁判所決定額ヲ以テ仕拂義務確  
定額トシ裁判及當記諸費破産執行費ノ内ヨリ支出シ精算確定ノ  
上繰入辨償金トシテ徴收スヘキモノトス(司法省會計課長大正  
一二年會甲三九五號回答)

◎破産手續費用ノ概算前拂(第一四〇條)

第百六十七條 裁判所ハ債權者集會ノ決議若ハ監査委員ノ申立ニ因  
リ又ハ職權ヲ以テ破産管財人ヲ解任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ  
ハ破産管財人ヲ審訊スルコトヲ要ス

◎債權者集會ノ決議ト裁判所ノ裁量權

債權者集會ニ於テ破産管財人解任ノ決議ヲ爲スモ管財人ヲ解任  
スルト否トノ裁量權ハ一ニ裁判所ニ在リ債權者集會ニ於テ管財  
人解任ノ決議アルトキハ裁判所ハ管財人ヲ審訊シ解任ノ必要ナ

利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破産財團ニ關シ假差押、  
假處分其ノ他ノ必要ナル保全處分ヲ命スルコトヲ得  
裁判所ハ前項ノ規定ニ依ル處分ヲ變更シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得  
前二項ノ規定ニ依ル裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

◎本條ノ保全處分ヲ命スヘキ裁判所

破産法第一五五條ニ依ル破産財團ニ屬スル財産ニ對スル保全處  
分ハ假令事件カ抗告裁判所ニ繫屬中ナルトキニテモ破産裁判所  
ニ於テ之ヲ命スヘキモノニシテ抗告裁判所ニ於テ命スヘキモノ  
ニ非ス(加藤博士評論一三卷諸法四〇二頁)

◎本條ノ保全處分ト登録稅

破産法第百五十五條ノ保全處分ノ登記ハ登録稅ヲ要ス(司法省  
民事局長昭和二年法曹會雜誌六卷一號二二二頁)

第百六十六條 破産管財人ハ費用ノ前拂及報酬ヲ受クルコトヲ得  
其ノ額ハ裁判所之ヲ定ム

シト認メタルトキハ解任ヲ爲ササルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ  
 管財人ハ之ヲ解任セストノ決定ヲ爲スコトヲ要ス債権者集會ニ  
 於テ解任ノ決議アルニモ拘ラス裁判所ニ於テ何等ノ決定ヲ爲サ  
 ス之ヲ黙過スルコトハ不當ナリ何トナレハ第一六七條ニ於テ債  
 権者集會ノ決議其ノモノヲ以テ監査委員ノ申立ト同列ニ之ヲ置  
 ケルヲ以テナリ固ト申立アルトキハ解任ノ決定又申立却下ノ決  
 定ヲ爲スコトヲ要スルハ當然ナリ故ニ解任ノ決議アルトキモ亦  
 其ノ決議ノ趣旨ヲ容レテ解任ノ決定ヲ爲スカ又ハ解任セストノ  
 決定ヲ爲スヘキナリ是レ蓋シ第一八四條ニ依リ裁判所カ債権者  
 集會ノ決議ノ執行ヲ禁止スル場合ニ於テモ必ス禁止決定ヲ爲ス  
 ヘキモノナルニ見テモ明カナリ(加藤博士法學新報三四卷四號  
 一一六頁)

第百八十五條 破産管財人ハ就職ノ後直ニ破産財團ニ屬スル財産ノ  
 占有及管理ニ著手スルコトヲ要ス

◎破産管財人ノ管理ニ屬セサル權利(第七條)

第百八十八條 破産管財人ハ遲滞ナク裁判所書記、執達吏又ハ公證

人ノ立會ヲ以テ破産財團ニ屬スル一切ノ財産ノ價額ヲ評定スルコ  
 トヲ要ス此ノ場合ニ於テハ遲滞ノ虞アル場合ヲ除クノ外破産者ノ  
 立會ヲ求ムルコトヲ要ス

◎財團評價ニ立會タル執達吏ノ手数料

破産法第百八十八條ニ依リ執達吏破産財團ニ屬スル財産ノ價額  
 ノ評定ニ立會タル場合ニ於ケル手数料ハ執達吏手数料規則第十  
 六條ノ三ニ基キ同第八條ニ依ルヲ相當トス(民事局長回答大正  
 一二年民事第四三號)

第百九十三條

第一回ノ債権者集會前ニ於テハ破産管財人ハ裁判所  
 ノ許可ヲ得テ破産者及之ニ扶養セラルル者ニ扶助料ヲ與ヘ又ハ破  
 産者ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得  
 貨幣、有價證券其ノ他ノ高價品ノ保管方法ハ裁判所之ヲ定ム

◎本條ニ所謂營業ノ意義

破産法第百九十二條第一項第百九十四條等ニ所謂營業トハ商人

ノ商業ノミナラス非商人ノ業務ヲモ包含スルモノトス(齊藤學  
 士評論一三卷諸法七頁)

第百九十七條

破産管財人左ニ掲グル行爲ヲ爲スニハ監査委員ノ同  
 意ヲ得ルコトヲ要ス但シ第七號乃至第十四號ニ掲グル行爲ニ付千  
 圓以上ノ價額ヲ有スルモノニ關セザルトキハ此ノ限ニ在ラス  
 一 不動産ニ關スル物權、登記スヘキ日本船舶及外國船舶ノ任意  
 賣却  
 二 礦業權、漁業權、特許權、意匠權、實用新案權及著作權ノ任  
 意賣却  
 三 營業ノ讓渡  
 四 商品ノ一括賣却  
 五 借財  
 六 第九條第二項ノ規定ニ依ル相續拋棄ノ承認、第十條ノ規定ニ  
 依ル包括遺贈拋棄ノ承認及第十一條第一項ノ規定ニ依ル特定遺  
 贈ノ拋棄  
 七 動産ノ任意賣却  
 八 債權及有價證券ノ讓渡

- 九 第五十九條第一項ノ規定ニ依ル履行ノ請求
- 十 訴ノ提起
- 十一 和解及仲裁契約
- 十二 權利ノ拋棄
- 十三 財團債權、取戻權及別除權ノ承認
- 十四 別除權ノ目的ノ受戻

第百九十八條

第一回ノ債権者集會前ニ於テ前條ノ規定ニ依リ監査  
 委員ノ同意ヲ要スル行爲ヲ爲スノ必要アルトキハ破産管財人ハ裁  
 判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス  
 監査委員ヲ置カサル場合ニ於テハ破産管財人ハ債権者集會ノ決議  
 ヲ經ルコトヲ要ス但シ急迫ノ必要アルトキハ裁判所ノ許可ヲ得ル  
 ヲ以テ足ル

◎本條第一項ノ解釋

◎管財人ノ處分行爲ト急迫必要ノ存否

凡ソ破産管財人カ破産法第百九十七條ニ掲グル一定ノ行爲ヲ爲

スニハ監督委員ノ同意ヲ得ルコトヲ本則トス只同法第九十八條第一項ノ規定ニヨリテ第一回ノ債權者集會前ニ於テ前示第九十七條ノ規定ニ依リ監督委員ノ同意ヲ得ルコトヲ要スル行爲ヲ爲スノ必要アルトキハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要スルモノナリ從テ第九十八條第一項ノ規定ニ依リテ裁判所ノ許可ヲ得テ第九十七條ニ掲クル一定ノ行爲ヲ爲スハ第一回ノ債權者集會期日ノ開カレテ監督委員設置サルルカ又ハ設置セラレズト定メラルルコトヲ待ツテ得サレ急迫ノ必要アル場合ナリト解セサルテ得ス第九十八條第二項ニ監督委員ヲ置カサル場合ニ於テハ破産管財人ハ債權者集會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス但シ急迫ノ必要アルトキハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ以テ足ルトノ規定ヲ參照スレハ之ヲ首肯スルニ十分ナリ然リ而シテ本件ニ於テ破産管財人カ前示抵當權ノ承認ヲ爲スニ當リ裁判所ノ許可ノ申請ヲ爲シタルハ大正十五年九月四日ニシテ裁判所ハ同日之カ許可ヲ與ヘタルモノナレハ第一回ノ債權者集會期日タル同月十七日マテ僅ニ二週間ニ足ラス而シテ記録ニ徵スルモ破産管財人カ別除權ノ承認ヲ爲スニ付第一回ノ債權者集會期日ノ到來ヲ待ツコトヲ得サル程急迫ナリシ事情アリタルコトヲ推認スルコトヲ得ス從テ急迫ノ必要ナキニ拘ラス之アリト誤認シテ與ヘタル原裁判所ノ前示許可ハ失當ト認メサルヲ得ス(東京地昭和二年法二六七七號一〇頁)

◎管財人ノ行爲ノ許可ト内容ノ變更

破産法第九十八條ニ依レハ裁判所ハ破産管財人カ同法第九十七條所定ノ行爲ヲ爲スニ付之ヲ許可スルカ又ハ其ノ求ムル許可ヲ拒ムコトヲ得ルニ過キスシテ破産管財人ノ爲スヘキ行爲ノ内容ヲ變更シテ許可スルコトヲ得ヘキモノニ非ス(大審昭和二年法二八一六號一〇頁)

第二百二十八條

破産債權者ハ裁判所ノ定メタル期間内ニ其ノ債權ノ額及原因、一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權アルトキハ其ノ權利ヲ裁判所ニ届出テ且證據書類又ハ其ノ謄本若ハ抄本ヲ提出スルコトヲ要ス  
別除權者ハ前項ニ規定スル事項ノ外別除權ノ目的及其ノ行使ニ依リテ排濟ヲ受クルコト能ハサルヘキ債權額ヲ届出ツルコトヲ要ス  
破産債權ニ付破産宣告ノ當時訴訟カ繫屬スルトキハ第一項ニ規定スル事項ノ外裁判所、件名及番號ヲ届出ツルコトヲ要ス

◎破産債權ノ届出ト其ノ取下

條第二百八十八條ノ解釋上疑ヒナキ所ナリ(東京控大正一三年法二三一六號一一頁)

◎異議ノ取下

一 届出債權者及破産管財人ノ述ヘタル異議ハ相手方ノ債權ノ確定ヲ遮斷シ總債權者ノ爲メニ利益アリト雖其ノ異議タルヤ異議者自身ノ權利トシテ之ヲ述フルモノニシテ他ノ債權者ヲ代理スルコトノ意味ニ於テ異議ヲ述フルモノニ非サルカ故ニ異議者ニ在リテハ自由ニ其ノ異議ヲ取下クルコトヲ得ルモノトス(加藤博士評論一三卷諸法四七四頁)

二 異議ノ取下ハ異議ヲ述ヘラレタル届出債權者ニ對シ又ハ破産裁判所ニ對スル陳述ニ依リテ之ヲ爲スヘク裁判所ニ對スル陳述ハ書面又ハ口頭ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得口頭ニ依ル場合ハ書記之カ調書ヲ作ルモノトス(加藤博士評論一三卷諸法四七四頁)  
三 異議取下ハ債權者又ハ裁判所ニ對スル陳述ニ依リ直ニ其效力ヲ生シ債權表ノ更正ヲ俟テ始メテ其ノ效力ヲ生スルモノニ非ス(加藤博士評論一三卷諸法四七四頁)

四 異議ノ取下ハ異議ヲ述ヘラレタル届出債權者ニ對スル陳述ニ依リテ爲サレタルトキハ其ノ債權者ニ於テ債權表ノ更正ヲ申請スヘキモノトス(加藤博士評論一三卷諸法四七四頁)  
五 裁判所ニ對シ直接ニ異議取下ノ陳述ヲ爲ストキハ是レト同時ニ債權表更正ノ申請ノ意思ヲ表示スルモノナルカ故ニ裁判所ハ

破産債權ノ届出ノ取下ハ破産事件ヲ訴訟事件ト見ルモ口頭辯論ヲ經ルコトヲ要セサルカ故ニ相手方ノ承諾ヲ得ルコトヲ要セスシテ自由ニ之ヲ取下クルコトヲ得レトモ債權届出後債權調査會ノ調査ヲ經テ該債權ニ付キ何人モ異議ナク債權確定シ之ヲ債權表ニ記載セル後ニ在リテハ之ヲ取下爲スコトヲ得サルモノトス(加藤博士評論一三卷諸法四六九頁)

第二百四十條 債權調査ノ期日ニ於テ破産管財人及破産債權者ノ異議ナカリシトキハ債權ノ額及優先權ハ之ニ因リテ確定ス  
破産者カ異議ヲ述ヘタル債權ニ付破産宣告ノ當時訴訟カ繫屬スルトキハ債權者ハ破産者ヲ相手方トシテ之ヲ受繼グコトヲ得

◎異議ナキ債權ト確定ノ效力

破産債權調査期日ニ於テ届出ノ債權ニ付破産管財人及破産債權者ノ異議ナカリシトキハ其債權額及優先權ハ之ニ依リテ確定シ一度確定債權ノ債權表ニ記載セラレルヤ爾後右債權ハ破産者カ同期日ニ之ニ對シ何等ノ異議ヲ述ヘサリシ場合ニ限り破産者ニ對シ其破産手續ニ於ケルト將亦通常訴訟若クハ爲替訴訟手續ニ於ケルト同ハス確定判決ト同一ノ效力ヲ有シ他日之ヲ否定シ得サルコトハ破産法第二百三十二條第二百四十條第二百四十一

之ニ依リテ債權表ヲ更正スヘキモノトス(加藤博士評論一三卷  
諸法四七四頁)

第二百四十三條 破産債權者カ債權調査ノ期日ニ出頭セサル場合ニ  
於テ其ノ債權ニ付異議アリタルトキハ裁判所ハ之ヲ其ノ債權者ニ  
通知スルコトヲ要ス  
第一百八條第一項ノ規定ハ前項ノ通知ニ之ヲ準用ス

◎本條ノ通知費用ノ負擔者

破産法第二四三條ノ通知費用ハ豫納金アラハ之ヲ以テ支拂フモ  
可ナリ財團ニ現金カ存スレハ之ヨリ支拂フモ可ナリ若又破産法  
第四百十條ノ場合ニハ一時國庫ヨリ之ヲ支辨スルモ亦可ナリ當  
面現在何ヲ以テ之ヲ支拂フカハ殆ント問題トナラス要ハ此等ノ  
費用ハ共益費用トシテ財團債權トナルモノニ外ナラサルカ故ニ  
(破産法四七、一號) 結局財團ノ負擔ニ歸スヘク若財團力不足  
ナルトキハ破産申立人ノ負擔ニ歸スヘキナリ(法曹會決議昭和  
二年法曹會雜誌五卷四號一五〇頁)

第三百四條

強制和議ノ條件ハ各破産債權者ニ付平等ナルコトヲ要

右會社ノ破産債權ハ擔保セラレシテ却テ其ノ主タル債務者ノ  
債務ヲ増加セシメ其ノ條件ハ各破産債權者ニ對シテ平等ナラス  
右會社ハ他ノ破産債權者ニ比シテ不利益ヲ受クルモノト云ハサル  
ヘカラス然ルニ本件ノ場合カ前示例外ノ場合ニ該當スルモノト  
云フヲ得サルコト及同會社カ昭和二年十一月二十二日午後一時  
ノ債權者集會ニ於テ本件強制和議ニ不同意ヲ述ヘタルコトハ記  
録上明白ナルカ故ニ右強制和議ヲ認可スヘカラサルモノナルニ  
拘ラス第一審裁判所カ認可ノ決定ヲ爲シタルハ不當ニシテ右會  
社ノ抗告ニ因リ原裁判所カ該決定ヲ廢棄シ本件強制和議ハ之ヲ  
認可セサル旨決定ヲ爲シタルハ洵ニ相當ナリト云フヘク同會社  
カ主タル債務者河西作太郎ニ對スル請求ニ付右強制和議ノ條件  
ニ因リ債權者ノ競合ヲ來ス以外ニ何等ノ拘束ヲ受ケサルコト及  
同人ノ實力如何ハ右認可決定及原決定ノ當否ニ何等ノ關係ナキ  
モノトス(同上)

三 破産者ノ提供シタル本件強制和議條件竝ニ認可セラレタル條  
件ハ一、各破産債權ニ對シ和議認可決定確定ノ日ヨリ向フ二ヶ  
年間据置クコト二、爾後其翌年ヨリ毎年十二月二十五日限り各  
破産債權額ノ五分宛チ辨濟スルコトト謂フニアリ右ノ如ク破産  
債權ト定メラレタル以上右強制和議條件ニヨリ各債權者ノ辨濟  
ヲ受クヘキ債權額ハ破産宣告ノ時迄ノ債權額ニシテ其後ニ生ス  
ヘキ利息債權ハ各債權者ニ於テ之ヲ拋棄スルノ趣旨ト解スルノ  
外ナシ果シテ然ラハ本件破産債權ノ總テカ利息附ノモノナルト

但シ不利益ヲ受クル者ノ同意アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

◎不平等ナル強制和議ノ條件

一 本件記録ニ依レハ有隣生命保險株式會社カ抗告人ニ對シテ有  
スル破産債權ハ主タル債務者河西作太郎ノ債務ニ付抗告人ノ負  
擔スル保證債務ノ履行ヲ受クヘキ債權ニシテ第一審裁判所ノ認  
可シタル本件強制和議條件ニ於テハ各破産債權者ニ對スル抗告  
人ノ債務ニ付河西作太郎カ連帶保證ヲ爲シタルモノナルコト明  
白ナリ然ルニ凡ソ保證ノ制度ハ主タル債務ノ履行ヲ確保スル爲  
ニ認メラレタルモノナルニ主タル債務者カ保證人ノ債務ニ付更  
ニ保證スルモ例ヘハ限定承認ヲ爲シタル相續人カ被相續人ノ債  
務ヲ保證シタル保證人ノ債務ニ付更ニ保證スルカ如キ保證ノ實  
益アル例外ノ場合ヲ除キ其ノ保證ニ因リテ主タル債務ノ履行ハ  
毫モ確保セラレルモノニ非サルカ故ニ保證債務ニ付主タル債務  
者ノ爲ス保證ハ右例外ノ場合ヲ除キ法律ノ認メサル所ニシテ無  
效ノモノナリト解スルチ相當トス(大審昭和三年民六〇六頁)  
二 本件強制和議ノ條件ニ於テ主タル債務者河西作太郎カ前記會  
社ニ對スル抗告人ノ保證債務ニ付更ニ爲シタル連帶保證ハ右例  
外ノ場合ニ該當セサル限り無効ノモノナリト云フヘク隨テ右強  
制和議ノ條件ニ於テハ他ノ債權者ノ破産債權ハ擔保セラレルモ

キハ右條件ハ各債權者ニ對シ平等ナリト謂ヒ得ヘキモ破産債權  
中無利息ノモノアラシカ該無利息債權者ニ於テハ何等拋棄スヘ  
キ利息債權ナキヲ以テ之ニ對シテハ其全債權額ニ就キ滿足ヲ與  
フルコトトナリ利息附債權者トノ間平衡ヲ失スルニ至ルコト明  
白ナリトス而シテ本件記録ニ依レハ本件破産債權中ニハ利息附  
ノモノト無利息ノモノトアルコト明ナルヲ以テ本件強制和議條  
件ハ利息附債權者ニ對シ不利益ヲ蒙ラシムヘキモノト謂ハサル  
ヘカラス而シテ本件抗告人等ノ債權カ利息附ノモノニシテ同人  
等カ昭和二年十一月二十四日ノ本件強制和議ノ爲メノ債權者集  
會ニ於テ右條件ニ不同意ヲ唱ヘタル事實ハ之亦記録上明白ナル  
ヲ以テ右條件ニヨル強制和議ヲ認可シタル原決定ノ不當ナルコ  
ト明ナリ(東京地昭和三年法二八三〇號一七頁)

第三百十一條 法人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ強制和議ハ  
可決アリタルトキハ社團法人ニ在リテハ定款ノ變更ニ關スル規定  
ニ從ヒ財團法人ニ在リテハ主務官廳ノ認可ヲ得テ決人ヲ繼續スル  
コトヲ得

◎破産會社ニ於ケル強制和議ノ效力

一旦破産管財人カ起シタル訴訟ノ繫屬中強制和議ノ確定ニ因リ破産ノ解止シタルトキハ破産開始ニ因リ一旦解散シ唯破産ノ目的ノ範圍内ニ於テノミ存續シタル株式会社ハ復活繼續シ其破産財團ニ屬セシ財産ニ對シ再ヒ管理及處分ノ能力ヲ有スルニ至ルヲ以テ強制和議ニ特別ノ定メナキ限リ破産者タリシ者カ訴訟ヲ受繼スル迄モナク訴訟ハ破産者タリシ者ニ存續シ從來破産管財人カ爲シタル訴訟ヲ遂行スルコトヲ得ルモノニシテ本件原告カ破産解止ニ伴ヒ訴訟ヲ受繼シタルハ唯不必要ナル手續ヲ採リタルニ過キスシテ之カ爲メニ本訴訟ノ存續ニ消長ヲ來スヘキ限ニアラス(東京地大正一五年評論一五卷諸法二六二頁)

◎強制和議ノ可決ト訴訟手續ノ繼續

破産會社ハ元來破産開始ニヨリテ其財産ニ對スル管理處分權ヲ終局的ニ喪失スルモノニアラスシテ破産法第七條ノ規定ノ結果其破産財團ニ關スル管理處分權カ一時破産管財人ニ專屬スルニ過キス從テ強制和議ニヨリテ破産手續終了シタルトキハ破産會社ハ一時制限セラレタル同管理處分權ヲ當然ニ回復スルモノニシテ強制和議ニ別段ノ定メナキ限リ又民事訴訟法第七十九條ノ如キ規定ナキ以上ニハ管財人カ從來爲シ來リタル訴訟手續ハ中斷スルコトナク法律上當然ニ破産會社ニ於テ右訴訟手續ヲ繼續スヘキモノト解スルチ正當トス(東京地大正一四年法二四九六號六頁)

◎破産會社ノ強制和議申立ノ適否(第三一二條)

第三百十二條 法人ヲ繼續スルカ否ノ定リタルトキ又ハ選滞ナク其ノ手續ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ其ノ法人ノ理事又ハ之ニ準スヘキ者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ強制和議ノ認否ニ付決定ヲ爲ス爲期日ヲ定メ之ヲ公告スルコトヲ要ス  
前項ノ期日ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス  
法人ヲ繼續セサルトキ又ハ選滞ナク其ノ手續ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ強制和議不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

◎破産會社ノ強制和議申立ノ適否

一 凡ソ法人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ強制和議ノ可決アリタルトキハ會社ハ選滞ナク法人繼續ノ手續ヲ爲スヘク若シ之ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ強制和議不認可ノ決定ヲ爲スヘキモノナルコト破産法第三百十二條第三項ニ依リ明カナリ而シテ一方法人タル合資會社ハ有限責任社員ノ全員カ退社シタル爲メ解散シタル場合ニ於テハ無限責任社員ノ一致ヲ以テ合名會社トシテ會社ヲ繼續スルコトヲ得ヘキコト商法第一百八條ニ依リ明カナレトモ右以外ノ原因ニ因リ一旦解散シテ清算ノ手續ヲ開始

シタルトキハ最早法人繼續ノ手續ヲ爲シ得サルコト我商法ノ解釋上明白ナルヲ以テ例ヘハ合資會社カ社員ノ同意ニ因リ解散シ既ニ清算手續ヲ開始シタル以後ニ於テ破産ノ宣告ヲ受ケタルカ如キ場合ニ於テハ其後假令強制和議ノ可決アリトスルモ會社ハ最早法人繼續ノ手續ヲ爲シ得サルモノニシテ該強制和議ハ不認可ノ決定ヲ受ケルチ免レサルモノトス故ニ右ノ如キ原因ニ因リ解散シ既ニ清算手續中ニ在ル合資會社カ破産ノ宣告ヲ受ケ其後強制和議ノ申立ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ須ク該申立チ理由ナシトシテ却下スヘキモノト解セサルヘカラス(東京區大正一五年法二六三二號八頁)

二 凡ソ法人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ強制和議ノ可決アリタルトキハ會社ハ選滞ナク法人繼續ノ手續ヲ爲スヘク若シ之ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ強制和議不認可ノ決定ヲ爲スヘキモノナルコト破産法第三百十二條第三項ニ依リ明カナリ而シテ一方法人タル株式會社カ一旦解散シテ清算手續ヲ開始シタルトキハ最早法人繼續ノ手續ヲ爲シ得サルコト我商法ノ解釋上明白ナルヲ以テ株式會社カ解散ニ因リ既ニ清算手續ヲ開始シタル以後ニ於テ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ其ノ後假令強制和議ノ可決アリトスルモ會社ハ最早法人繼續ノ手續ヲ爲シ得サルモノニシテ該強制和議ハ不認可ノ決定ヲ受ケルチ免レサルモノトス斯ノ故ニ清算手續中ニ在ル株式會社カ破産ノ宣告ヲ受ケタルカ如キ場合ニ於テ右會社カ強制和議提供ノ申立チ爲シタルトキハ裁

第三百十八條 強制和議認否ノ決定ハ之ヲ言渡シ且公告スルコトヲ要ス但シ送達ヲ爲スコトヲ要セス

◎強制和議ノ認可ト即時抗告期間

強制和議認可ノ決定ハ言渡ノ外公告ヲ爲スコトヲ要スルチ以テ之ニ對スル即時抗告ハ公告アリタル日ヨリ起算シ一週間内ニ之ヲ爲スヘク而シテ同期間ヲ計算スルニハ其ノ初日ヲ算入スヘキモノニ非サルコト破産手續ニ準用アル民事訴訟法第六十五條ニ照シ疑ナキトコロニ屬ス(大審大正一四年法二四一九號二〇頁)

判所ハ須ク該申立チ理由ナシトシテ却下スヘキモノト解セサルヘカラス而シテ之ヲ本件ニ觀ルニ本件強制和議提供ノ申立チ爲シタル破産者中央證券信託株式會社ハ大正十四年十一月九日既ニ解散ニ因リ清算手續ヲ開始シ其後大正十五年三月十日東京地方裁判所ニ於テ破産宣告ヲ受ケタルモノナルコト本件記録ニ徴シ明白ナルヲ以テ右破産會社ノ爲シタル本件強制和議提供ノ申立ハ前記ノ理由ニ依リ之ヲ却下スヘキモノトス(東京區大正一五年法二六〇三號七頁、評論一五卷諸法四九六頁)

第三百二十一條 強制和議ハ認可ノ決定ノ確定ニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

◎破産會社ニ於ケル強制和議ノ效力(第三二一條)

第三百四十七條 破産者ハ債權届出ノ期間内ニ届出ヲ爲シタル總破産債權者ノ同意ヲ得タルトキ又ハ同意ヲ爲ササル破産債權者ニ對シ他ノ破産債權者ノ同意ヲ得テ破産財團ヨリ擔保ヲ供シタルトキハ破産廢止ノ申立ヲ爲スコトヲ得

未確定債權ニ付其ノ債權者ノ同意ヲ必要トスヘキカ否ハ裁判所之ヲ定ム破産債權者ニ供スヘキ擔保力相當ナルカ否ニ付亦同シ前項ノ規定ニ依ル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ルコトヲ得ス

◎破産廢止ノ申立ト債權者ノ同意

破産廢止ハ届出ヲ爲セル總債權者カ破産拋棄ノ意思アル場合ニ於テ之ヲ爲スチ本來ノ精神トス從テ債權届出期間内ニ届出ヲ爲シタル總債權者ノ同意ヲ得ヘキハ勿論(破産法第三百四十七條第一項)破産法第三百五十一條ニ依リ破産廢止ノ申立ニ付異議ヲ申立ツルコトヲ得ル債權者ノ同意モ亦之ヲ必要トス而シテ本件破産廢止ニ對スル異議申立期間ハ大正十五年三月二十五日迄ニシテ主文掲記ノ債權者ノ届出ハ破産届出期間經過後ナレトモ廢止ニ關スル異議申立期間經過前ニ爲サレタルヲ以テ破産者ハ須ラケ廢止ニ付キ同意ヲ得ヘキ必要アルモノトス(東京區大正一五年法二六三二號一七頁)

第三百五十三條

破産宣告ノ後裁判所カ破産財團ヲ以テ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ラスト認メタルトキハ破産管財人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破産廢止ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ債權者集會ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

前項ノ規定ハ無責任又ハ保證責任ノ相互保險會社、産業組合其ノ他ノ法人ニハ之ヲ適用セス破産手續ノ費用ヲ償フニ足ルヘキ金額ノ豫納アリタル場合亦同シ

◎合名會社ノ破産ト本條ノ廢止

合名會社ノ破産ノ場合ニ於テモ破産財團カ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ラサルトキハ破産法第三百五十三條第一項ニ依リ破産廢止ノ決定ヲ爲スヘキモノトス(加藤博士評論一三卷諸法四〇六頁)

第三百五十九條

裁判所破産手續中ニ破産財團ニ屬スル財團ノ額カ一萬圓ニ滿タサルコトヲ發見シタルトキハ小破産ノ決定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ小破産ノ決定ヲ爲シタル場合ニ於テハ裁判所ハ決定ノ主文ヲ公告シ且破産管財人、監査委員並知レタル債權者及債務者ニ之ヲ記載シタル書面ヲ送達スルコトヲ要ス

◎小破産ノ決定ト監査委員ノ失職

壞太利破産法第一七一條第三號ノ如ク小破産ノ場合ニハ破産主任官ニ於テ監査委員ヲ置カサルコトヲ命スルコトヲ得ト規定セルモノニ在リテハ一旦選任セル監査委員ハ解任アルマテハ其ノ

職ヲ持續スルモノト謂フヘシ然ルニ我破産法第三三六條ニ依レハ小破産ニ在リテハ監査委員ハ之ヲ置カスト規定シ且ツ小破産ノ決定アルトキハ其決定ハ當然確定スルヲ以テ小破産ノ決定以後監査委員ハ破産機關トシテ存置シ得サルモノナリ故ニ監査委員ハ爾後當然其職ヲ失フモノト解スルヲ正當トス(加藤博士評論一三卷諸法四〇五頁)

第三百六十三條

監査委員ハ之ヲ置カス

◎小破産ノ決定ト監査委員ノ失職(第三五九條)

第三百六十六條 小破産手續ニ關スル公告ハ第一百六條ノ規定ニ依ル揭示ヲ爲スチ以テ足ル

◎小破産手續ノ公告方法

破産法第三百六十六條ニ依リ小破産手續ニ關スル公告ハ其手續



費用ヲ可成算少ナラシムル簡易手續トシテ第十六條ニ從ヒ官報及新聞紙ニ公告ヲ爲スコトヲ要セスシテ單ニ同條所定ノ揭示ヲ爲スヲ以テ足ルモノト解シ其宣告ト同時ニ小破産ノ決定ヲ爲ス場合モ揭示ノミニテ足ル趣旨ナリトス(民事局長大正一二年民第一六七〇號回答)

第三百六十七條 破産者カ辨濟其ノ他ノ方法ニ因リ破産債權者ニ對スル債務ノ全部ノ免責ヲ得タルトキハ破産裁判所ハ破産者ノ申立ニ因リ復権ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス  
申立人ハ免責ヲ證スル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

◎破産手續ノ終了ト復権手續

- 一 破産者カ破産宣告ノ效果トシテ受クル制限中實體私法訴訟法上竝ニ居住身體ノ自由及ヒ信書ノ秘密等ニ關スル制限ハ破産手續ノ終了ト共ニ當然消滅スルモ公私榮譽權ノ喪失ハ復権ヲ得ルニ非サレハ回復セザルモノトス(齊藤博士評論一三卷諸法八頁)
- 二 破産廢止ノ場合ニモ尙復権ノ手續ヲ要スルモノトス(齊藤博士評論一三卷諸法三九八頁)

- 一 浪費又ハ賭博其ノ他ノ射倖行爲ヲ爲シ因テ著ク財產ヲ減少シ又ハ過大ノ債務ヲ負擔スルコト
- 二 破産ノ宣告ヲ遲延セシムル目的ヲ以テ著ク不利益ナル條件ニテ債務ヲ負擔シ又ハ信用取引ニ因リ商品ヲ買入レ著ク不利益ナル條件ニテ之ヲ處分スルコト
- 三 破産ノ原因タル事實アルコトヲ知ルニ拘ラス或債權者ニ特別ノ利益ヲ與フル目的ヲ以テ爲シタル擔保ノ供與又ハ債務ノ消滅ニ關スル行爲ニシテ債務者ノ義務ニ屬セス又ハ其ノ方法若ハ時期カ債務者ノ義務ニ屬セザルモノ
- 四 法律ノ規定ニ依リ作ルヘキ商業帳簿ヲ作ラズ、之ニ財產ノ現況ヲ知ルニ足ルヘキ記載ヲ爲サズ又ハ不正ノ記載ヲ爲シ又ハ之ヲ隱匿若ハ毀棄スルコト
- 五 第三百八十七條ノ規定ニ依リ裁判所書記カ閉鎖シタル帳簿ニ變更ヲ加ヘ又ハ之ヲ隱匿若ハ毀棄スルコト

第三百七十六條 債務者ノ法定代理人、理事及之ヲ準スヘキ者並支配人前二條ニ規定スル行爲ヲ爲シ債務者ニ對スル破産宣告確定シ

第三百七十四條 債務者破産宣告ノ前後ヲ問ハス自己若ハ他人ノ利益ヲ圖リ又ハ債權者ヲ害スル目的ヲ以テ左ニ掲グル行爲ヲ爲シ其ノ宣告確定シタルトキハ詐欺破産ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

- 一 破産財團ニ屬スル財產ヲ隱匿、毀棄又ハ債權者ノ不利益ニ處分スルコト
- 二 破産財團ノ負擔ヲ虚偽ニ増加スルコト
- 三 法律ノ規定ニ依リ作ルヘキ商業帳簿ヲ作ラズ、之ニ財產ノ現況ヲ知ルニ足ルヘキ記載ヲ爲サズ又ハ不正ノ記載ヲ爲シ又ハ之ヲ隱匿若ハ毀棄スルコト
- 四 第三百八十七條ノ規定ニ依リ裁判所書記カ閉鎖シタル帳簿ニ變更ヲ加ヘ又ハ之ヲ隱匿若ハ毀棄スルコト

第三百七十五條 債務者破産宣告ノ前後ヲ問ハス左ニ掲グル行爲ヲ爲シ其ノ宣告確定シタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

◎破産罪ノ處斷ノ要件

苟モ債務者タル株式会社ニ對シ爲サレシ破産宣告確定シ而シテ其ノ確定前債務者ノ取締役等ニ舊商法第五百十一條第一項各號所定ノ行爲アリタル以上其ノ行爲ト破産宣告確定トノ時期ノ懸隔奈何ニ論ナク又二者連繫ノ有無ヲ問ハス行爲者ハ舊商法第五十二條破産法第三百七十六條ノ規定ニ從ヒ處罰ヲ免レザルモノト謂ハサルヘカラス(大審大正一五年報九八號一五頁)

第三百八十七條 本法施行前破産若ハ復権ノ申立、破産若ハ家資分散ノ宣告又ハ支拂猶豫ノ許可若ハ假許可アリタルモノニ付テハ仍舊法ニ依ル但シ明治二十三年法律第三十二號商法第五十四條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス  
本法施行前ニ爲シタル家資分散又ハ支拂猶豫ノ申立ハ決定ヲ以テ之ヲ棄却ス此決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

◎破産法施行當時ト家資分散ノ宣告

破産法第三百八十七條第一項ニ本法施行前家資分散ノ宣告アリタルモノニ付テハ仍舊法ニ依ルトアルハ家資分散ノ宣告ハ即時ニ其ノ効力ヲ生スルモノナルヲ以テ同法施行前ニ爲シタル家資分散ノ宣告ハ之ニ對スル抗告アリタルカ爲ニ未確定ナルカ如キトキト雖仍舊法ニ依ルヘキコトヲ定メタルモノト解スヘク從テ家資分散ノ申立ニ付第一審ニ於テ其ノ宣告ヲ爲シ之ニ對スル抗告ニ因リ抗告審ニ於テ之ヲ廢棄シ其ノ申立ヲ排斥シタル場合ニ於テモ又第一審ニ於テ其ノ申立ヲ排斥シ抗告審ニ於テ其ノ宣告ヲ爲シタル場合ニ於テモ同法施行前ニ一旦其ノ宣告アリタル以上ハ再抗告ニ付テハ施行後ト雖舊法ニ依ルヘク之ニ反シ同法施行前ニ第一審及抗告審共其ノ申立ヲ排斥シタル場合ニ於テ再抗告アリタルトキハ同法施行後ハ同條第二項ノ規定ニ從ヒ其ノ申立ヲ棄却スヘキモノトス原決定ハ同法施行前ニ家資分散ノ宣告ヲ爲シタルモノニシテ之ニ對スル本件抗告ハ同法施行後ノ今日ニ於テモ仍舊法ニ依リ審理スヘキモノトス(大審大正一二年民一六九頁)

馬籍法

(大正十年法律第九十五號)

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ馬ノ所有者ハ其ノ日ヨリ起算シ三十日以内ニ其ノ旨ヲ其ノ馬籍ヲ管掌スル市町村長ニ届出ツヘシ但シ第四號ニ該當スル場合ニ在リテハ其ノ際ノ所有者ヨリ届出ツヘシ  
一 馬ヲ所有スルニ至リタルトキ  
(下略)

◎馬匹ノ所有權移轉ト馬籍法トノ關係

馬ヲ所有スルニ至リタルトキハ三十日以内ニ其ノ旨ヲ其ノ馬籍ヲ管掌スル市町村長ニ届出ツヘキコトヲ命シタル馬籍法第九條及届出ニ依リ馬籍ニ之カ所有者ヲ記載スヘキ旨ノ同第三條第四條ハ馬籍法施行規則第十九條第二十條第二十一條等ノ規定ト對照シ畢竟軍事上馬匹徵發ノ便ニ資スル爲ニ設ケタルモノニシテ馬籍ノ記載ヲ以テ馬匹ノ所有權移轉ニ付之カ必要條件トナシタルモノニ非スト解スルチ相當トス(大審大正一三年法二三〇八號二二頁)

馬匹去勢法

(明治三十四年法律第二十二號)

第三條 牡馬ノ去勢年齢ハ明ケ三歳トス去勢ハ春期又ハ夏期ニ於テ之ヲ行フ

◎牡馬去勢ノ時期

凡ソ馬匹所有者カ馬匹ノ去勢ヲ爲スニ付特ニ之ヲ禁シタル法令存在セサルヲ以テ何時ニテモ之カ去勢ヲ爲シ得ヘキコト論テ俟タス所論馬匹去勢法第三條第二項ニ於ケル春期又ハ夏期ノ規定ハ地方長官カ一般ニ右法規ニヨリ之ヲ行フヘキ場合ニ關スルモノニシテ本件ノ如ク特ニ地方長官ノ命令ニヨリ馬匹所有者カ自己ノ費用ヲ以テ去勢スヘキ場合ト交渉ナキヲ以テ本件ニ付廣島縣知事ノ命令シタル去勢ノ時期カ八月(夏期)ヨリ九月(秋期)ニ跨リタル理由トシテ其ノ命令カ違法ナリト云フチ得ス(大審大正一三年刑八八五頁)

陪審法

(大正十二年法律第五十號)

第三十七條 公判準備期日ニハ被告人及辯護人ヲ召喚スヘシ公判準備期日ハ之ヲ檢事ニ通知スヘシ

第三十八條 召喚狀ノ送達ノ日ト公判準備期日トノ間ニハ少クトモ五日ノ猶豫期間ヲ存スヘシ

◎猶豫期間ナキ召喚狀ノ效力

陪審法第三十七條ニ依リ被告人及辯護人ヲ召喚スル場合ニ於テハ同法第三十八條ノ規定ニ依ル猶豫期間ヲ存スヘキモノナリト雖召喚ヲ受クヘキ者ニ於テ異議ナキトキハ之ヲ存セサルコトヲ得ルモノナリトス(法曹會議議昭和三年法曹會議雜誌第六卷八號九四頁)

第九十五條 裁判所陪審ノ答申ヲ不當ト認ムルトキハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルチ間ハ決定ヲ以テ事件ヲ更ニ他ノ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得

第九十九條 裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルチ間ハ訴訟棄却、管轄違又ハ免訴ノ裁判ヲ爲スヘキ原由アルコトヲ認メタル場合ニ於テハ陪審ノ評議ニ付セスシテ審判ヲ爲スヘシ

◎陪審ノ答申ト羈束力

陪審法第九十五條ニ依レハ裁判所陪審ノ答申ヲ不當ト認ムルトキハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルチ間ハ決定ヲ以テ事件ヲ更ニ他ノ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得セシメタルカ故ニ裁判所ハ不當ナリト認ムル陪審ノ答申ニ基キ判決ノ言渡ヲ爲スヲ要セス相當ナリト認ムル陪審ノ答申ヲ得ルニ至ル迄他ノ陪審ノ評議ニ付スルチ妨ケス隨テ裁判所ハ陪審ノ答申ニ羈束セラレルコト無シト謂フヲ得ヘシ然リト雖陪審ノ評議ニ付シタル事件ニ付テハ裁

判所ハ陪審ノ答申ヲ排斥シテ獨自ノ見解ニ依リ事實ヲ認定スルヲ得ス必スヤ陪審ノ答申ヲ得タル後事實ノ判斷ヲ爲シタル上判決ヲ言渡ササルヘカラス但シ公訴棄却、管轄違、又ハ免訴ノ裁判ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ非ス(法曹會決議大正一五年法曹會雜誌五卷三號一三一頁)

賣藥法

(大正三年法律第十四號)

第一條 本法ニ於テ賣藥營業者ト稱スルハ賣藥ヲ調製又ハ輸入若ハ移入シテ販賣スル者ヲ謂フ  
原料品ニ加工セスシテ賣藥ト爲スモノハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ賣藥ノ調製ト看做ス

◎賣藥ノ意義

賣藥法ニ所謂賣藥ハ一般患者ノ需要ニ應スルカ爲メニ一種若クハ一種以上ノ疾病ノ治療ニ效驗アリトシ其可能性ヲ有スル或ル藥品ヲ以テ調製發賣スル藥劑ヲ指稱スルモノトス而シテ之ニ方

原料品名及ヒ其分量調製ノ方法、用法、用量並ニ效能ヲ記載シタル效能書若クハ之ニ代ハルヘキ文書ヲ添ヘ一定ノ裝置ヲ爲スコトハ賣藥ニ通例ナルモ其特質ニ屬スル事項ニ非サルノミナラス賣藥法ハ既ニ廢止ニ歸シタル賣藥規則ノ如ク效能書ノ添附ヲ以テ賣藥タルノ要件ト爲ササルヲ以テ上叙ノ文書ノ添附又ハ裝置ヲ缺クモ苟クモ藥劑ニシテ前掲ノ特質ヲ具備スル以上ハ之ヲ賣藥ト稱スルニ毫モ妨ナシ賣藥法ニ於ケル賣藥ノ意義亦同一ニ解スルチ相當トス(大審大正八年刑六一三頁)

◎賣藥營業ノ意義

藥劑ヲ調製シテ一人ニノミ販賣シ未ダ廣ク公衆ニ販賣スルニ至ラサル場合ト雖モ其目的公衆ヲシテ醫師ノ指揮ニ依ラズ疾病治療ノ爲メ之ヲ使用セシムルニ在ル以上ハ該藥劑ノ豫メ調製シ置キタルモノナルト否トニ論ナク賣藥營業ヲ爲シタルモノニ外ナラス(大審四三年刑一四二八頁)

◎販賣ノ意義

[賣藥法第十二條及ヒ第十三條ニ所謂]販賣トハ純然タル賣買ノ形式ニ依ル有價的讓渡行爲ノミナラス交換ノ如キ他ノ有價的讓渡行爲若クハ代物辨濟ニ因ル物ノ給付等有價的ニ所有權ヲ移轉スル行爲ヲモ包含スト解スヘキモノトス蓋シ上叙ノ各行爲ハ其性質所有權移轉ノ效果ヲ生セシムルコトニ於テ賣買ト異ナ

◎天產物ノ發賣ト賣藥法ノ適用

賣藥法第一條第二項ニハ原料品ニ加工セスシテ賣藥ト爲スモノハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ賣藥ノ調製ト看做ストアリテ天產產出物ト雖之ヲ其儘賣藥トシテ發賣スルニ付テハ亦同法ノ規定ニ遵由スルチ要スルハ論テ缺タス(大審大正七年刑一五一〇頁)

第二條 賣藥營業者賣藥ヲ發賣セムトスルトキハ方名、原料品及其

ノ分量調製ノ方法、用法、用量並效能ヲ記載シ主タル營業所所在地ノ地方長官ノ免許ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ前項ノ場合ニ於テ日本藥局方ニ記載セサル原料品ヲ使用セムトスル者ハ其ノ見本品ヲ提出スヘシ

第九條 賣藥ニ關スル廣告、賣藥ノ容器若ハ被包又ハ賣藥ニ添附シ若ハ添附セスシテ頒布スル文書ニハ左記ノ事項ヲ記載スルコトヲ得ス

- 一 猥褻ニ涉ル記事又ハ圖畫
- 二 避妊又ハ墮胎ヲ暗示スル記事
- 三 虛偽誇大ノ證明若ハ醫師其ノ他ノ者カ效能ヲ保證シタルモノト世人ヲシテ誤解セシムルノ虞アル記事
- 四 醫治ノ無效ヲ暗示シ或ハ暗ニ醫師ヲ誹謗スルカ如キ記事

◎賣藥法ニ違反スル賣藥廣告

賣藥法第九條第三號後段ハ賣藥ニ關シ頒布スル文書ニ醫師其他ノモノヨリ保證セラレタル賣藥ニアラサルニ拘ハラズ保證セラ

品ニ賣藥稅法ノ規定ヲ準用スト雖之ト目的ヲ異ニスル賣藥法ニハ賣藥稅法ノ如キ特別ノ規定ナキヲ以テ賣藥ノ發賣ニ付地方長官ノ免許ヲ受クヘキ同法第二條ノ規定ハ賣藥類似品ニ適用ナキモノト解釋スルヲ相當トス加之現行法制ニ於テハ賣藥類似品販賣ノ許可ニ關スルコトハ各地方廳令ヲ以テ規定セラレ本件被告ノ販賣シタル賣藥類似品ハ明治三十二年九月大阪府令第八十二號第一條第六號ノ賣藥規則外製劑ニ該當スルヲ以テ同令第二條ニ依リ其ノ製造販賣ノ許可書ヲ受クヘク之ニ違背シタル所爲ハ同令第九條ニ該當スルモノト然レハ原判決力免許ヲ受ケスシテ本件賣藥類似品ヲ販賣シタル所爲ニ對シ賣藥法第二條第一項第十五條ヲ適用シタルハ所論ノ如ク疑律ノ錯誤アルモノナリ (大審大正一三年刑八五頁)

爆發物取締罰則

(明治十七年布告第三十二號)

第一條 治安ヲ妨ケ又ハ人ノ身體財產ヲ害セントスルノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用シタル者及ヒ人ヲシテ之ヲ使用セシメタル者ハ死刑又ハ無期若クハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

レタル旨ノ記事ヲ掲ケタル場合ハ勿論其文詞ヲ曖昧ニシ右ノ如キ誤解ヲ生セシムヘキ虞アル記事ヲ掲ケタル場合ヲモ包含スルコト該規定ノ明文ニ照ラシモ疑ヲ容レス而シテ判示記事(都商會ノ賣藥ハ專門諸博士ノ賞讃ト且ツ賞金ヲ堵シテ公表シタル保證藥ナルカ故ニ云云)ハ一般世人ヲシテ本件賣藥ヲ保證藥品ナルカ如ク誤解セシムル虞アルモノナルコトハ右記事自體ニ徴シ明白ナレハ原審力同條ニ依リ處斷シタルハ相當ナリ(大審大正五年刑三二九頁)

第十二條 行政官廳ハ當該官吏ヲシテ賣藥ヲ調製シ若ハ販賣スル場所ニ臨檢セシメ又ハ賣藥ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

◎貯藏場所ト調劑所ノ延長

醫師カ調劑所以外ニ貯藏ノ場所ヲ有スル時ハ調劑所ノ延長ト見ルニ妨ケナケレハ均シク巡視員ノ檢査ヲ受クヘキモノトス(大審大正六年刑一〇八五頁)

◎賣藥類似品ノ無免許製造販賣ト制裁

賣藥稅法ハ徵稅權行使ノ爲テ第十九條ノ明文ヲ以テ賣藥類似

◎爆發物ノ意義及其ノ組成要件

爆發物取締罰則ニ所謂爆發物トハ化學的其ノ他ノ原因ニ依リテ急激ナル燃燒爆發ノ作用ヲ惹起シ以テ公共ノ平和ヲ擾亂シ又ハ人ノ身體財產ヲ傷害損壞シ得ヘキ藥品其他ノ資料ヲ調劑配合シテ製出セル固形物若クハ液體ヲ指稱スルモノニシテ其爆發物タルニハ自然ニ爆發作用ヲ起スト他ノ物トノ衝突摩擦ニ因リテ爆發スルトト間ハス爆發物中ニ爆發ヲ惹起スヘキ裝置ノ存在スルコトヲ要スルモノトス(大審大正七年刑六一八頁)

◎爆發物ノ使用ノ意義

爆發物取締罰則第一條ニ所謂爆發物ノ使用トハ同條所定ノ目的ヲ達スルカ爲メニ爆發可能性ヲ有スル物件ヲ爆發スヘキ狀態ニ措クノ謂ニシテ現實ニ爆發スルコトヲ必要トセス故ニ原判決ニ於テ被告等三名ハ下村馬太郎ヲシテ擲彈ヲ投擲セシメタル馬太郎ノ投擲力微弱ナリシカ爲メ爆發セザリシ事實ヲ認定シタルニ拘ハラズ之ヲ罰則第一條ニ所謂爆發物ヲ使用セシメタル事實ニ該當スト爲シ同條ニ依リ被告等ノ所爲ヲ處斷シタルハ違法ニ非ス(大審大正七年刑六二八頁)

◎爆發不能ニ非サル爆發物ノ性質

所揭鑑定ノ趣旨ハ本件彈丸ハ發火裝置不備ナルヲ以テ普通人ノ力ヲ以テシテハ投擲ニ依リテ之ヲ爆發セシムルコト容易ナラスト雖モ強弱中度ノ男子カ有スルカノ約一倍半ヲ以テ堅硬ナル物體ニ對シテ投擲スレハ爆發スルコトアルヘク決シテ絕對的ニ爆發不能ナルニ非ストノ意ニ外ナラス其他原判決ニ援用セル鑑定中ニハ機械力ニ依リテ前掲強弱中度ノ男子カ有スル投擲力ノ一倍半ニ相當スル作用ヲ遂行セシメ得ヘキ旨ノ說示アリテ判示彈丸ノ爆發不能ニアラサルコトヲ說明セリ既ニ判示彈丸ニシテ其性質裝置ニ於テ絕對的ニ爆發不能ニ非ストスレハ偶々投擲力ノ微弱ナル爲メ若クハ投擲ノ目的タリシ物體ノ堅硬ヲ缺キタル爲メ爆發作用ヲ惹起セシメ能ハサリシトスルモ是レ相對的關係ニ止マリ右擲彈ヲ爆發可能性ヲ有スルモノトシテ爆發物ヲ以テ論スルチ妨クヘキニ非ス然ラハ原判決ニ於テ被告等カ他人ヲシテ右擲彈ヲ使用セシメタル事實ヲ認メ之ヲ爆發物ノ取締規則第一條ニ間接シタルハ相當ナリ(大審大正七年刑六一九頁)

◎爆發物取締規則ノ旨趣

◎第一條及第三條ノ解釋及適用

爆發物取締規則ハ帝國ノ安寧秩序ヲ維持シ帝國臣民及ヒ帝國ニ在ル外國人ノ身體財產ヲ保護スルカ爲メ此等ノ法益ヲ侵害シ若クハ侵害スル虞アル危險性ヲ有スル爆發物ノ使用竝ニ爆發物

シテ爆發物ノ使用カ身體若ハ財產ヲ害セントスル目的ニ出テタルトキハ直ニ同條ノ罪ヲ構成スルモノト解スルチ相當トス故ニ原判決ニ於テ被告カ列示金庫ヨリ金錢ヲ取出サント欲シ「ダイナマイト」ニ雷管及導火線ヲ裝置シタルモノヲ右金庫上ニ置キテ爆發セシメタル事實ヲ認メ之ニ同條ヲ適用シタルハ正當ナリ而シテ刑法第七條ハ前掲規則第一條ヲ改廢シタルモノニ非サルノミナラス右所爲ハ火藥類ヲ破裂セシメテ他人ノ家具ヲ損壞シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタルモノニシテ即チ刑法第七條ニモ該當シ結局一個ノ行爲ニシテ二個ノ法條ニ觸ルルモノナルモ此ノ場合ニハ罰則第十二條ニ依リ重キ罰則第一條ヲ適用シテ處断スヘキモノトス(大審大正一一年刑一八九頁)

第三條 第一條ノ目的ヲ以テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

◎爆發物ノ所持ニ該當スル場合

既ニ爆發スヘキ性質ヲ具備セル諸原料ヲ自己ノ手ニ取集メ必要アルトキハ自由ニ使用シ爆發セシムルコトヲ得ヘキモノト爲シタル以上ハ縱令其藥品其他ノ物品ヲ調合シ一物體ト爲ササルモ

諸法令下 (八) 爆發物取締規則

三條

五條

若クハ其使用ニ供スヘキ器具ノ製造輸入所持又ハ注文其他法定ノ行爲ヲ嚴罰シテ之ヲ取締ルチ以テ立法ノ趣旨ト爲スカ故ニ罰則第一條ニ所謂治安又ハ人ノ身體財產トハ帝國ノ治安又ハ帝國臣民若クハ在帝國ノ外國人ノ身體財產ヲ指稱スルモノト解スヘク汎博ニ治安又ハ人ノ身體財產ト規定シアリテ特ニ制限スル所ナキヲ以テ外國ノ治安若クハ帝國外ニ在ル外國人ノ身體財產ヲ包含スト解スヘキニ非ス蓋此等帝國ト交渉ヲ有セサル外國又ハ外國人ノ利益ハ帝國法令ヲ以テ保護スヘキ目的ニ屬セサレハナリ從テ罰則第三條ニ所謂第一條ノ目的トハ帝國ノ治安ヲ妨ケ又ハ帝國臣民若クハ在帝國外國人ノ身體財產ヲ害スル目的ヲ以テスルノ意ナリト解スルチ相當トス故ニ外國ノ治安ヲ妨ケ又ハ帝國外ニ在ル外國人ノ身體財產ヲ害セントスル目的ヲ以テ爆發物若クハ其使用ニ供スヘキ器具ヲ製造輸入所持シ若クハ注文ヲ爲スモ罰則第三條ノ罪ヲ構成セス然ラハ原判決ニ於テ被告等カ中華民國ニ於テ革命的戰亂ヲ作スカ爲メニ即チ中華民國ノ治安ヲ妨ケ又ハ其人民ノ身體財產ヲ害スル目的ヲ以テ帝國内ニ於テ爆發物ヲ製造シタル事實ヲ認メ之ヲ爆發物取締規則第三條ニ依リ處断シタルハ擬律錯誤ノ違法アリト謂ハサルハカラス(大審大正四年刑六八頁)

◎本條ト刑法第一一七條トノ競合

爆發物取締規則第一條ニ身體財產トアルハ身體若ハ財產ノ義ニ

爆發物ヲ所持シタルニ外ナラサルチ以テ爆發物取締規則第三條ニ據リ重懲役ニ處スヘキモノニシテ火藥取締規則第二十五條ニ據リ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノニ非ス(大審二五年刑一卷二二頁)

◎爆發物ノ製造ト所持トノ別(諸法令中卷九二四頁)

◎第一條及第三條ノ解釋及適用(第一條)

第五條 第一條ニ記載シタル犯罪者ノ爲メ情ヲ知テ爆發物若クハ其使用ニ供スヘキ器具ヲ製造輸入販賣讓與寄藏シ及ヒ其約束ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

◎本條ノ犯罪者ノ意義

爆發物取締規則第五條ニ所謂犯罪者中ニハ同第一條ノ犯罪者既ニ遂ケタル者ノミナラス將來之ヲ實行セントスルモノヲ包含スト解ス可キコトハ同罰則カ帝國治安ノ維持及人ノ身體財產ノ保護ヲ立法ノ旨趣トセルコトニ鑑ミ且罰則第二條乃至第四條ノ規定ニ參酌シテ復々疑ヲ容レサル所ナリ(大審大正九年刑六九〇頁)

第六條 爆發物ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者第一條ニ記載シタル犯罪ノ目的ニアラサルコトヲ證明スルコト能ハサル時ハ六月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

◎爆發物ノ製造ト所持トノ別 (諸法令中卷九二四頁)

第八條 本則ニ記載シタル重罪犯アルコトヲ認知シタル時ハ直ニ警察官吏若クハ危害ヲ被ラントスル人ニ告知スヘシ違フ者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

◎本條ノ旨趣

爆發物ニ關スル犯罪ハ治安妨害行爲中最危險ノ行爲ナルカ故ニ他ノ犯罪行爲ニ比シテ之ヲ嚴重ニ處罰シテ危害ヲ未然ニ防止シ併セテ犯人ノ逮捕ヲ容易ナラシメントスル趣旨ニ依リ特ニ其罰則ヲ設定シタルモノナルコトハ同則各罰條ニ照シテ之ヲ推定スルニ難カラス從ツテ犯罪發覺ノ後ト雖モ未タ犯人ノ誰タルコトヲ知

ハ其罪證ヲ湮滅シタル者ハ正犯ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

◎本條ノ罪證ノ湮滅ノ意義

爆發物取締罰則第九條ニ謂フ所ノ湮滅トハ刑法(舊)第五百十二條ニ謂フ如キ罪證ト爲ルヘキ物件ナルニ於テハ其物件ノ消滅セサル以上ハ之ヲ湮滅ト云フヲ得サルモ第九條ニハ罪證ノ湮滅ト云フヲ得サルモ第九條ニハ罪證ノ湮滅ト云ヒ物件其モノノ湮滅ニ非サルカ故ニ縱令物件ノ形態ハ存スルモ其隱シテ罪證ト爲ルヲ得サルニ至ラシメタルニ於テハ即チ罪證ヲ湮滅シタルモノト云ハサルヲ得ス(大審二八年刑四三六頁)

第十二條 本則ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ仍ホ重キ者ハ重キニ從テ處斷ス

◎本罰則ト刑法殺人罪ノ規定トノ關係

爆發物取締罰則ノ規定ト刑法第九十九條以下ノ規定トハ人ノ身體ヲ害スル目的ヲ以テ爆發物ヲ使用シタル場合ニ付キ互ニ競

ル能ハサルトキハ危害既ニ去リタルモノトシテ其逮捕ヲ忽諾ニ付スルカ如キハ同罰則ノ精神ニ副ハサルコト一點ノ疑ヲ挾ム餘地アルコトナカルヘシ然レハ同則第八條ハ犯罪發覺ノ後ト雖モ犯人ノ誰タルコトヲ知レル者ニ對シテ警察官署ニ告知スルノ義務ヲ負ハシメタル趣旨ナリト解スルノ相當ナルノミナラス同條ニ重罪犯トアル文字中ニハ犯罪行爲ハ勿論其犯人ヲモ包含スルコト論テ峽タサルヲ以テ事件發生後ト雖モ絕對ニ同條ノ適用ナシト論スルヲ得ス又犯罪發覺ノ後ハ危害ヲ被ラントスル人ノ存在ス可キ謂ハレナキヲ以テ同條ハ之ニ告知セシムルノ趣旨ニアラサルコト勿論ナルモ之カ爲メ警察官署ニ對スル犯人ノ告知義務ヲ免カレシムルノ趣旨ニ出テタルモノト解ス可キモノニアラス又原判決ニハ若シ果シテ犯罪發覺ノ後ニ於テ亦告知ノ義務アリトセハ告知ノ義務ハ何レノ日ニ終了スルヤチ知ルニ由キ旨論スル所アルモ本則ノ告知義務ハ犯罪行爲及ヒ犯人カ既ニ警察官吏ニ發覺スルニ因リ終了ス可キモノナルコト該條ノ趣旨ニ徴シテ之認ムルニ足ルヘシ左レハ原審力叙上原判示ノ如キ解釋ノ下ニ被告ニ對シ無罪ヲ宣告シタルハ不法ナリ(大審大正六年刑一九二頁)

第九條 本則ニ記載シタル重罪ノ犯人ヲ贓匿シ若クハ隱蔽セシメ又

合スヘキモノニシテ此場合ニ於テハ右取締罰則ノ規定ト刑法ノ規定トヲ比較シ重キニ從テ處斷スヘキモノナルコト同罰則第十二條ノ規定ニ依リ明白ナリトス(大審大正七年刑六六五頁)

刑事懲戒法

(明治二十三年法律第六十八號)

第一條 凡ソ刑事懲戒スルハ左ノ場合ニ於テ懲戒裁判所ノ裁判ヲ以テスヘシ  
第一 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

◎監督官ト職務上ノ懈怠

一 刑事カソノ職務ヲ怠リ又ハ職務ヲ執行スルニ付法規ニ違反シタル行爲ヲ爲シタルトキハ監督官ハコレニ對シ注意ヲ促シ且適當ニ事務ノ取扱ヲ爲スヘキコトヲ訓示スルコトヲ得ルハ裁判所構成法第三十六條第一號ノ規定スル所ナレトモ刑事力適法ニ爲ス裁判權ノ行使ニ付テハ固ヨリ司法行政監督權ノ支配ヲ受クヘキモノニアラス(大審院ニ於ケル懲戒裁判所昭和二年法二六

四九號六頁)

二 然レトモ裁判權ノ行使ニ屬セサル事項ニツイテハ判事モ亦當然司法行政監督權ノ支配ヲ受クヘキモノニシテ判事ハ官吏職務規律ノ他ノ法規ヲ遵守シ苟クモ官吏タルノ威信ヲ傷クルカ如キ所爲ヲ爲ササルコトニ注意スルヲ要シ又監督官ニ於テハ部下ノ判事ニ對シテノ職務ノ内外ヲ問ハス非行失態ナキコトヲ期スルカ爲メニ平素周到ナル注意ヲ用フルノ職責ヲ有スルモノトス(同上)

三 故ニ若シ監督官ニ於テ叙上ノ職責ヲ怠リタルトキハ判事懲戒法第一條第一號ニ依リテノ職務ヲ怠リタルモノトシテ處罰ヲ免レサルモノトス然レトモ監督官カソノ職務ヲ怠リタルトスルニハ被監督者ニ對スル注意欠缺シ監督官上懈怠ノ事由アルコトヲ必要トスルカ故ニ部下ノ判事カ監督官ニ於テ周到ナル注意ヲ以テスルモ尙且コレヲ豫知スルコト能ハサルカ如キ偶然ノ非行失態ヲ爲シタル事實アレハトコレヲ以テ直チニ監督官ニ職務上ノ懈怠アリト謂フヲ得サルモノトス(同上)

◎判事カ懲戒セララル場合

時効ニ因リ公訴權消滅シタルニ拘ラス不注意ノ結果刑ヲ言渡シタル所爲ハ判事懲戒法第一條第一號後段ニ該當スルモノトス(名古屋控ニ於ケル懲戒裁判所大正一〇年評論一〇卷諸法一四四頁)

版權條例

(明治二十年勅令第七十七號)

◎版權登錄ノ效力

明治二十年勅令第七十七號版權條例ニ依ル版權登錄ハ單ニ版權ニ關スル事實ヲ登錄簿ニ記載スルニ止マリ著作權ノ内容ヲ審查シテ版權ノ許否ヲ決スルモノニ非サレハ著作權ニ非サル者カ版權登錄ヲ受ケタルノミニテ著作權ノ版權ヲ取得スルモノニ非ス(大審四二年民九八四頁)

◎文章一部ノ轉載ト僞版

本件係爭ノ高等小學讀本ニ諸史餘論中ノ文章ヲ轉載シタルハ全ク事實ノ參考文章ノ軌範ト爲スニ外ナラサルコト既ニ明確ナレハ之ヲ明治二十年第七十七號版權條例ニ照スニ其第一條ノ所謂圖書ヲ翻刻シタルモノニ非ス又同第十九條ニ依リ僞版ヲ以テ論スヘキモノニモ該當セス(大審二八年民二八八頁)

◎本法前ノ著作權ノ保護(諸法令中卷一〇八四頁)

肥料取締法

(明治四十一年法律第五十一號)

第一條 本法ニ於テ肥料ト稱スルハ植物ノ營養ニ供用スル物料ヲ謂フ

◎肥料ノ意義

- 一 肥料取締法ニ所謂肥料トハ植物ノ榮養ニ供用スル諸種ノ物料ヲ汎稱スルコト同法第一條ノ規定上毫毛疑ナシ而シテ原判決ニ燒灰肥料ト謂ヘルハ即チ之ヲ植物ノ營養ニ供スル一種ノ物料ト認定シタル趣意ナルコト自ラ明カナリ(大審大正七年刑二六九頁)
- 二 肥料取締法ニ所謂肥料トハ自然ニ發生存在スルト製造加工シタルトチ間ハ同法第一條ニ依リ植物ノ營養ニ供用スル物料ヲ汎稱シ當該官廳ニ於テ肥料トシテ免許シ若クハ一定ノ名稱ヲ有スルモノタルコトヲ要セサルモノトス(大審大正三年民一五六九頁、評論三卷諸法一六四頁)

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ肥料及原料ハ刑法第十九條ノ物ニ非サル場合ト雖之ヲ沒收スルコト

諸法令下 (七) 肥料取締法

一條

九條

一七九九

◎本條ノ沒收ニ關スル解釋

肥料取締法(舊)第七條末段ノ規定ヲ按スルニ同條ノ犯罪ハ肥料ヲ僞造シ若クハ肥料ニ他ノ物料ヲ混和スルモ未タ販賣ノ事實ナキ以上ハ之ヲ沒收スル能ハサルコト勿論ナレトモ其幾部ヲ販賣シテ犯罪ノ成立シタル以上ハ既ニ販賣シタルモノト未タ販賣セサルモノトチ間ハ僞造混和ノ肥料ハ悉ク之ヲ沒收スルノ法

トチ得

- 一 詐欺ノ行爲ヲ以テ免許ヲ受ケタル者
- 二 肥料ヲ僞造シ又ハ人ヲ欺罔スルノ目的ヲ以テ肥料ニ他物ヲ混和シタル營業者
- 三 僞造シ又ハ人ヲ欺罔スル目的ヲ以テ他物ヲ混和シタル肥料ヲ輸入移入又ハ授受シタル營業者
- 四 肥料ニ僞偽ノ保證票ヲ添附シタル營業者又ハ他人ノ保證票若ハ他人ノ保證票ヲ有スル容器ヲ他人ノ肥料ニ使用シタル營業者
- 五 僞偽ノ保證票ヲ添附シタル肥料又ハ他人ノ保證票若ハ他人ノ保證票ヲ有スル容器ヲ使用シタル肥料ヲ輸入移入又ハ授受シタル營業者

意ナルコトハ肥料取締法ノ目的ニ鑑ミテ明ナリ (大審四〇年刑一〇六九頁)

◎偽造肥料等ト刑法詐欺罪トノ關係

肥料取締法第七條ノ規定ナカリセハ本件被告ノ犯罪ハ刑法(舊)第三百九十二條ニ依リ處分スヘキモノナリト雖モ既ニ肥料取締法ナル新法ヲ以テ刑法ノ規定中ニ包含セラレタル偽造肥料及ヒ他物ヲ混和シタル肥料ヲ販賣シタル者ニ對スル特別ノ規定ヲ設ケタル以上ハ右規定ノ限度ニ於テ刑法ノ規定ハ變更セラレタルモノト解セサルヲ得サルヲ以テ原院カ本件被告ノ所爲ニ對シ肥料取締法ヲ適用シタルハ相當ナリ (大審三九年刑一四二二三頁)

◎本條第二號ノ解釋

肥料取締法第九條第二號ニ所謂肥料ニ他物ヲ混和スルトハ既成ノ肥料ニ他物ヲ混入スルト製造中ノ肥料ニ他物ヲ混入スルトト同ハス廣ク免許又ハ認可ヲ受テ製造スル肥料中ニ他物ヲ混入シタル場合ヲ包含ス故ニ其混入シタル他物カ特種ノ肥料分ヲ含有シ原肥料ノ效用ニ多大ノ影響ヲ及ボス場合ニ在テハ或ハ之ヲ別種ノ肥料ヲ製造シタルモノト看做シ同法第十條第四號ニ所謂免許又ハ認可ヲ受サル肥料ヲ製造シタルモノト認メ得ルコトアル可キモ其混和シタル他物ニシテ何等ノ肥料分ヲ含有セス從テ原

肥料ノ效用ニ何等ノ變化ヲ生セシメス單ニ人ヲ欺罔スル爲メ肥料ノ分量ヲ増加スルニ止マルモノナルトキハ別種ノ肥料ヲ製造シタルモノニアラスシテ肥料ニ他物ヲ混和シタルモノト解釋セサル可ラス然ルニ原判決ニハ「前略販賣ノ目的ヲ以テ該原料中ニ更ニ硅砂ヲ混入シ被告カ免許ヲ受ケタル肥料ト全ク別種ノ肥料五十貫九百十匁ヲ免許ヲ受ケスシテ製造シタルモノトス」トアリテ其硅砂カ特種ノ肥料分ヲ含有スルヤ否ヲ說示セス且硅砂カ肥料分ヲ有スルコトハ公知ノ事實ニモアラサルヲ以テ原院カ單ニ硅砂ヲ混入シタル事實ノミヲ認メ之ヲ以テ別種ノ肥料ヲ製造シタルモノト斷定シタルハ理由不備ノ判決ナリ (大審四三年刑二二二頁)

◎本條第四、五號ノ違反罪ノ構成

肥料營業者カ肥料ニ虛偽ノ保證票ヲ添附シタルトキハ肥料取締法第九條第四號ニ依リ處罰ス可ク肥料營業者カ虛偽ノ保證票ヲ添附シタル肥料ヲ情ヲ知テ他ニ授ケタルトキハ同法第五號ニ依リ處罰ス可ク讓受人ニ於テ虛偽ノ保證票カ添附シタルコトヲ知リタルト否トハ右讓渡人ノ處罰ニ關シ何等ノ影響ヲ及ボササルヲ以テ原判決ニ於テ被告實之助ハ肥料ノ製造及賣買ヲ營業トスル者ニシテ自己所持ノ重過燐酸石灰三十八俵ニ其燐酸全量百分ノ二五、五六ナルニ拘ハラヌ同全量百分ノ四五、〇〇ナル旨ヲ保證セル虛偽ノ保證票各一通宛ヲ添附シタル事實及同肥料ヲ

告融ニ賣渡シタル事實ヲ認メ各事實ニ對シ前記肥料取締法ノ各法條ヲ適用處罰シタルハ正當ナリ (大審四四年刑六一七頁)

〔附〕肥料取締法第九條第四號前段ノ罪ハ肥料ニ虛偽ノ保證票ヲ添附スルニ因リテ成立シ之ヲ他人ニ賣渡スコトヲ以テ犯罪ノ要件ト爲ササルカ故ニ其賣渡ノ事實ハ勿論其時期ノ如キハ固ヨリ罪ト爲ルヘキ事實ニ非サレハ之ヲ認メタル證據理由ノ明示ヲ必要トセス (大審大正四年刑二三四六頁)

◎本條第五號ノ旨趣

苟クモ肥料營業者ニシテ虛偽ノ保證票ヲ添附シタル肥料ヲ輸入移入又ハ授受シタルトキハ其營業カ肥料ノ製造、輸入、移入又ハ賣買ニ在ルト否ト問ハス等シク肥料取締法第九條第五號ニ依リ處罰スルノ趣旨ナリトス而シテ原判決ニ於テ被告融ハ肥料賣買業者ナルコトヲ認メアリ被告新件ニ付テハ單ニ肥料營業者ナルコトヲ列示シタルニ止マリ如何ナル種類ノ營業者ナルカヲ列示セスト雖モ既ニ肥料營業者ナルコトヲ列示シ右被告兩名カ虛偽ノ保證票ヲ添附セル列示肥料ヲ其情ヲ知テ買受ケタル事實ヲ認定シ各被告ニ對シ前記法條ヲ適用處罰シタルハ正當ニシテ原判決ハ罪トナルヘキ事實ヲ列示セサル理由不備ノ違法アリト云フコトヲ得ス (大審四四年刑六一二頁)

◎肥料分析法ノ性質

肥料分析法アルモノノ農商務省農事試驗場ニ於テ當事者ノ參考ニ賣スルカ爲メニ發行シタル一著作物ニ過キサレハ法令ノ效力ヲ有セサルハ勿論假令法令ニ於テ一定ノ目的ヲ以テ肥料分析法ヲ定メタリトスルモ眞實發見ヲ目的トスル裁判上ノ鑑定ニ於テハ必スシモ之ニ依ルコトヲ要セス學理ノ許容スル範圍ニ於テ自由ナル分析方法ヲ執ルコトヲ得ヘキヲ以テ法定ノ方法ニ依ラサル鑑定ヲ以テ違法ナリト論スヘカラス而シテ其方法カ果シテ眞實ノ發見ニ適當ナリヤ否ヤ又其鑑定ノ結果カ信ヲ措クニ足ルヘキヤ否ヤハ一ニ繫リテ事實裁判所ノ自由判斷ニ存スルモノト謂ハサルヘカラス (大審大正四年刑二三三九頁)

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ材料ニ處シ第一號乃至第四號ノ場合ニ於テハ其ノ肥料及原料カ刑法第十九條ノ物ニ非サルトキト雖モ之ヲ沒收スルコトヲ得

- 一 免許ヲ受ケスシテ肥料營業ヲ爲シタル者
- 二 第七條ニ依ル命令ニ違反シタル者
- 三 免許又ハ認可ヲ受ケサル製造方法ニ依リ肥料ヲ製造シタル營業者
- 四 免許又ハ認可ヲ受ケサル肥料ヲ製造、輸入、移入又ハ賣買シ



五 認可ヲ受ケスシテ製造場ノ位置又ハ製造者ハ設置ニ關スル設備ヲ變更シタル營業者

◎本條第一號ノ罪ノ構成要件

肥料取締法第十條第一號ノ罪ハ同法第二條ニ依ル地方長官ノ免許ヲ受ケサルニ拘ハラズ營業トスル目的ヲ以テ肥料製造輸入移入若クハ賣買ノ行爲ヲ爲スニ因リテ直ニ成立シ必スシモ現實ニ其行爲ヲ反覆スルコトヲ要スルモノニアラサルノミナラス原判決判示ノ事實ハ被告ハ肥料營業ノ免許ヲ受ケスシテ他人ノ製造シタル石灰窒素ノ免許分量ヲ含有セサルモ植物ノ營養ニ供用シ得ヘキモノ百四十噸ヲ營利ノ目的ヲ以テ購入シ後之ヲ福本某外敷名ニ販賣シタリト云フニ在リテ則チ營業行爲ヲ反覆シタルモノナルニ因リ原判決力前項法條ヲ適用處斷シタルハ正當ナリ (大審大正三年刑一五六七頁)

第十二條 肥料營業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リテ之ヲ適用スヘキ罰則ハ之ヲ

◎本規則違反ト犯意ノ要否 (諸法令上卷六〇頁)

第十三條 肥料營業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故チ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

◎法人ノ違犯事件ト本條ノ不適用

法人ノ代表者又ハ其雇人其他ノ從業者カ法人ノ業務ニ關シ肥料取締法及ヒ同法ニ基キテ發スル命令ニ違背セル罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ肥料取締法第十四條ニ依リテ明治三十三年法律第五十二號ノ準用アルテ以テ肥料營業者ハ其代理人戸主家族同居者雇人其他ノ從業者カ其業務ニ關シ肥料取締法又ハ同法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル場合ニ於テ罪責ヲ負フヘキ旨ノ規定ヲ爲セル肥料取締法第十三條ハ肥料營業者カ法人ニ非スシテ自然タル場合ニ於テ適用アル規定ナリト解スヘキモノトス (大審大正四年刑二三四七頁)

◎肥料取締法違反ト犯意ノ要否 (第二二條)

諸法令下 (七) 肥料取締法施行規則

五條

法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

◎本條ノ趣旨

◎肥料取締法違反ト犯意ノ要否

肥料取締法第十二條ニ於テ肥料營業者カ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セサル未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ法定代理人ニ營業者ニ對スル同法ノ罰則ヲ適用スヘキ旨ヲ規定セルハ肥料營業者カ同法第十三條ニ依リ其代理人戸主家族同居者雇人等ノ爲セル其業務ニ關スル犯罪ニ付責ヲ負フヘキ場合若クハ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セサル未成年者又ハ禁治産者カ自ラ營業ニ關シ犯罪ヲ爲シタル場合ニ於テ其法定代理人ヲシテ代リテ刑責ヲ負擔セシムルノ趣旨ヲ明示シタルニ過キス犯意ヲ必要トセサル罪ヲ除キ未成年者又ハ禁治産者タル營業者若クハ右營業者ノ代理人戸主家族同居者雇人等ノ犯意ナキ營業ニ關スル行爲ニ付キテモ仍ホ其法定代理人ニ刑責ヲ歸セシムルノ法意ニ非ス故ニ前示第十二條ノ存在ヲ以テ立論ノ根拠ト爲シ肥料取締法ニ於テ處罰スル犯罪ニハ犯意ヲ必要トセスト推論スルハ肯綮ヲ得タル見解ニ非ス (大審大正五年刑九二二頁)

肥料取締法施行規則

(明治四十一年農商務省令第十七號)

第五條 肥料營業ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ行商ヲ爲サムトスルトキハ行商地ノ地方長官ニ願出テ行商鑑札ヲ受ケ之ヲ携帯スヘシ雇人其他ノ從業者ヲシテ行商ヲ爲サシムル場合ニ於テハ各之ヲ携帯セシムヘシ

◎本條ノ行商ノ意義

肥料取締法施行規則第五條ハ行商ヲ爲ス者ヲシテ行商鑑札ヲ携帯セシメ行政上ノ取締ニ便ナラシムル目的ヲ以テ規定シタルモノニシテ營業所外ニ於テ爲ス肥料販賣行爲ノ一切ニ付キ之ヲ適用スヘキモノトス從ツテ即時賣買ノ場合ハ勿論販賣ノ約束ヲ爲ス場合チモ亦之ヲ行商ト認ムルチ相當トス蓋シ賣買ノ約束後時チ異ニシテ肥料ノ引渡ヲ爲スカ如キ之ヲ結果ヨリ觀レハ即時賣買ト同様ナル取締ヲ必要トスルモノタルチ以テナリ (法曹會決議大正六年法曹記事二七卷一〇號六九頁)

第十三條第四號 左記ノ肥料ヲ製造、輸入若ハ移入スル營業者ハ肥料ノ主成分量ヲ保證スル爲メ其ノ製造、輸入若ハ移入後遲滞ナク保證票ヲ肥料ノ各容器ノ外部ニ容器ヲ使用セサルモノニ在リテハ各箇ノ外部ニ添付スヘシ

四 堆積肥料、乾糞肥料、燐炭肥料、液肥ヲ他物ニ吸收セシメタル肥料

◎本條第四號ノ適用

獨立ノ肥料タル硫酸安世尼亞過燐酸石灰人糞尿其他ヲ調査シタル肥料ハ肥料取締法施行規則第十三條第一項第四號ニ該當スルヲ以テ其主成分量ヲ保證スル爲メ保證票ヲ添付ヲ要スルモノトス (刑事局長四四年刑事甲第一五三號回答)

第二十條 肥料營業者ハ各營業所ニ帳簿ヲ備ヘ肥料ヲ讓受ケ若ハ肥料營業者ニ之ヲ讓渡ス毎ニ其ノ名稱、數量、價額、年月日、相手方ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

肥料製造營業者ハ前項ノ外其ノ製造場ニ帳簿ヲ備ヘ肥料ヲ製造スル毎ニ其ノ名稱、數量及年月日ヲ記載スヘシ

前二項ノ帳簿ハ之ニ最終ノ記載ヲ爲シタル日ヨリ二年以上之ヲ保存スヘシ

◎本條ノ趣旨

肥料取締法施行規則第二十條ハ肥料營業者ノ取締上其取引ヲ一見明瞭ナラシムル必要アルカ爲メ取引毎ニ肥料ノ名稱數量價格年月日相手方ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘキ特殊ノ帳簿ヲ備ヘ置キ之ニ前記事項ヲ記載スヘキコトヲ要求スルモノニシテ他ノ目的ニ供スル帳簿 (本件ハ仕切帳) ニ該事項ヲ記載スル如キハ該條ヲ設ケタル趣旨ニ反ス從ツテ前示ノ如キ特殊ノ帳簿ニ所定事項ヲ記載スルニアラサレハ同條ノ制裁ヲ免ルル能ハサルモノトス (大審大正六年利三九七頁)

非訟事件手續法

(明治三十一年法律第十四號)  
(大正十一年法律第七十一號ノ改正法ニ依ル)

◎裁判所職員ノ忌避

非訟事件手續法第五條ニ裁判所職員ノ除斥ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ストアルハ一見除斥ノミニ關スル規定ヲ準用セシムルモノノ如キ觀アリト雖モ民事訴訟法ニ裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避ニ關スル規定ノ設ケアル所以ハ裁判ノ公平ヲ期シ其威信ヲ保ツカ爲メタルコト論テ俟タサルナリ而シテ裁判ノ公平ヲ期シ其威信ヲ保ツヘキハ訴訟事件タルト非訟事件タルトニ因リテ差別アルヘキ理由ナキカ故ニ非訟事件手續法第五條ハ單ニ除斥ノミニ限ラスシテ裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避ニ關スル民事訴訟法第一編第一章第五節ノ規定ヲ非訟事件ニ準用セシムルノ注意ナリト解釋スルヲ以テ其當テ得タルモノトス然レハ非訟事件ニ於テモ當事者カ判事ノ不公平ナル裁判ヲ爲スコトヲ疑フニ足ル可キ事情アルトキハ偏頗ノ恐アルモノトシテ其判事ヲ忌避スルコトヲ得ルモノナレハ原院カ抗告人ノ爲シタル忌避申請ヲ不適法ト爲シタルハ失當タルヲ免カレス (大審三八年民一一〇五頁)

第二條 裁判所ノ土地ノ管轄カ住所ニ依リテ定マル場合ニ於テ日本ニ住所ナキトキ又ハ日本ノ住所ノ知レサルトキハ居所地ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス

居所ナキトキ又ハ居所ノ知レサルトキハ最後ノ住所地ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス

最後ノ住所ナキトキ又ハ其住所ノ知レサルトキハ財産ノ所在地又ハ司法大臣ノ指定シタル地ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス相續開始地ノ裁判所カ管轄裁判所ナル場合ニ於テ相續カ外國ニ於テ開始シタルトキ亦同シ

◎内地居住ノ朝鮮人ト非訟事件ノ管轄 (諸法令上卷二二九頁)

第五條 裁判所職員ノ除斥ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

第六條 事件ノ關係人ハ訴訟能力者ヲシテ代理セシムルコトヲ得但自身出頭ヲ命セラレタルトキハ此限ニ在ラス

裁判所ハ辯護士ニ非シテ代理ヲ營業トスル者ニ退斥ヲ命スルコトヲ得此命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

◎非訟事件ノ申請人ノ能力

- 一 非訟事件ノ申請人ノ能力ハ民法ノ能力ニ關スル規定ニ依ルヘキモノトス(民刑局長四四年民刑第六九一號回答)
- 二 競賣法ハ其性質非訟事件手続法ニ屬スルモノニシテ非訟事件ニ於ケル行為能力ニ付キテハ之ヲ規定セル直接ノ明文ナシト雖モ訴訟能力ニ準ス可キモノナルコトハ非訟事件手続法第六條第一項本文ノ規定ニ徴シテ疑ヲ容レズ蓋シ右法條ニ於テ非訟事件ノ關係人ハ訴訟能力者ヲシテ代理セシムルコトヲ得ル旨ヲ規定シ訴訟能力者ニ非サレハ非訟事件ニ於ケル代理行為ヲ爲スコトヲ得サラシメタル點ヨリ推シテ考フレハ非訟事件ニ於ケル行為能力ハ一ニ訴訟能力ニ準シテ之ヲ定ム可キモノトセル注意ナルコトヲ知ルニ足レハナリ (東京地大正二年評論二卷諸法四九頁)

◎非訟事件ト代理權ノ範圍

非訟事件ニ關スル行為ニ付キ汎博ナル委任ヲナシタルトキハ其

代理權ノ範圍ハ當事者カ特ニ除外セザリシ限りハ其事件ニ於ケル凡テノ攻撃防禦ノ方法ヲ包括スル者トス(東京控四四年法七二六號二二頁)

第七條 民事訴訟法第六十四條ノ規定ハ前條第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス但裁判所ハ職權ヲ以テ私署證書ニ認證ヲ受クヘキ旨ヲ命スルコトヲ得此命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

◎非訟事件ト代理欠缺ノ補正

非訟事件手続法第七條ニハ特ニ民事訴訟法第六十四條ノ規定ヲ準用ス可キ旨ヲ掲ケタルニ不拘同法第七十條ヲ準用セザリシ點ヨリ推考スルトキハ非訟事件ニ於ケル代理人欠缺ハ之レカ補正追完ヲ許ササルモノトス(東京控三三年法一五號一〇頁)

第八條 申立及ヒ陳述ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得民事訴訟法第三百三十五條ノ規定ハ口頭ノ申立及ヒ陳述ニ之ヲ準用ス

ス

◎訴取下ノ自由ト共同事件(民訴法一七二頁)

第十條 期日、期間、證明ノ方法、人證及ヒ鑑定ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

◎本條ノ期間ニ關スル解釋

- 一 非訟事件手続法第十條ノ規定ハ同法中ニ規定シタル期間ニ適用スルコトヲ得ルニ止マリ本件ノ如キ商法中ニ規定シタル期間ニ適用スルヲ得サルコトハ多言ヲ待タス何トナレハ商法ノ如キ實體法中ニ規定シアル事項ニ付テ非訟事件手続法ノ如キ手續法ヲ以テ左右スルコトハ特ニ明文アルコトヲ要スレハナリ本論旨中ノ距離遠隔ノ場合ニ於ケル實際ノ便宜如何ノ如キハ立法論トシテ多少ノ價值ナキニ非サルヘシト雖モ法律論トシテハ固ヨリ採用スルニ足ラス(大審三六年民六三三頁)
- 二 登記申請ト里程猶豫(續商法一一二四頁)

諸法令下 (七) 非訟事件手続法

八條—一二條

一八〇七

三 即時抗告ノ期間起算方(第二二條)

◎登記期間ノ計算方(第二續商法一三四〇頁)

◎非訟事件ノ證據調ト不服ノ申立

非訟事件手續ニ於ケル證據調施行ノ方法ニ關スル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス(大審昭和三年民五九二頁)

第十一條 裁判所ハ職權ヲ以テ事實ノ探知及ヒ必要ト認ムル證據調ヲ爲スヘシ

◎非訟事件ノ抗告ト口頭辯論ノ趣旨

◎非訟事件ノ相手方死亡ト審理ノ續行

一 非訟事件ニ付テハ裁判所ハ職權ヲ以テ事實ノ探知及必要ト認ムル證據調ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ非訟事件手續法ニ基ク抗告ニ付同法第二十五條民事訴訟法第四百六十二條ノ規定ニ依リ抗告裁判所カ口頭辯論ノ爲反對ノ利害關係ヲ有スル相手方ヲ呼出シタル場合ニ於テモ該口頭辯論ハ一般訴訟手續ニ於ケル必要的口頭辯論ト大ニ其ノ趣ヲ異ニシ單ニ裁判資料ヲ補充スル目的

ヲ有スルニ過キサルモノトス從テ叙上ノ場合ニ於テ反對ノ利害關係ヲ有スル相手方カ親族會員ニシテ其ノ一人カ死亡セルトキノ如キモ手續ノ中断ヲ來スコトナク裁判所ハ其ノ他ノ親族會員ノミチ口頭辯論ヲ爲呼出シ手續ヲ續行スルヲ妨ケス固ヨリ裁判所カ親族會員ノ死亡ニ因ル缺員ヲ補充セシメ其ノ補缺員ヲ呼出スコトヲ必要ナリト認ムル場合ニ於テハ斯ル手續ニ出テシムルコトヲ得ヘシト雖其ノ要否ノ判断ハ一ニ裁判所ノ職權ニ屬スルヲ以テ叙上ノ手續ニ出テサリシトスルモ之ヲ以テ違法ナリト云フテ得サルモノトス(大審昭和二年民四九六頁、法二七四三號五頁)

二 非訟事件ト手續ノ中断及受繼(次項)

◎非訟事件ト手續ノ中断及受繼

一 清算人解任申請事件ニ關スル抗告手續ニ於テ相手方ノ死亡ニ因ル手續ノ中断アリタル場合ニ在リテハ民事訴訟法第七十八條ノ準用ニ依リ抗告人ハ裁判所ニ對シ相手方ノ承繼人ヲシテ手續ヲ續行セシムヘキ旨ノ申立ヲ爲スヘク又裁判所ハ此申立ニ付キ口頭辯論ヲ經スシテ裁判ヲ爲スコトヲ得ルノ筋合ナリ而シテ本件ノ申立ハ斯ル趣旨ノ申立ニ他ナラサルコト明白ニシテ又松岡廣ハ相手方松岡嘉七郎ノ承繼人ナルコト本件記録ニ依リ明瞭ナリ仍テ本件ノ申立ヲ理由アリトシ主文ノ如ク評決(手續ヲ受繼キタルモノトス)シタリ(大審大正七年民一四九頁)

◎職權主義ノ證據調ト其ノ效果

一 非訟事件ニ付キ裁判所ハ必ス職權ヲ以テ事實ノ探知及ヒ證據調ヲ爲ササルヘカラサルモノニアラサレハ原裁判所カ本件ニ付キ職權ヲ以テ叙上ノ措置ヲ爲ササリシニ拘ハラテ抗告人主張ノ事實ハ疏明ナシトノ理由ノ下ニ抗告ヲ棄却シタレハトテ所論ノ如ク法則ヲ不當ニ適用シタル違法ノ裁判ナリト謂フヘカラス(大審大正九年法一七八五號一六頁)

二 非訟事件ニ於テハ裁判所ハ職權ヲ以テ事實ノ探知及ヒ必要ト

◎非訟事件ト私人證明書ノ證據力

訴訟ニ關スル規定ニ依リテ證言ヲ以テ證據方法ト爲スコトヲ得ルニ拘ラス當事者カ之ヲ捨テテ私ニ第三者ヲシテ證明書ヲ作成セシメタルトキハ其書面ハ裁判所ニ於テ之ヲ真正ト認ムルモ證據トシテ採用スルコトヲ得サルハ夙ニ當院ノ判例トスル所ニシテ非訟事件ニ於テモ是レト法理ヲ異ニスヘキ理由ナキヲ以テ事件ノ起リタル後ニ作成セラレタル私人ノ證明書ハ非訟事件ニ於テモ之ヲ證據トシテ採用スルコトヲ得サルモノトス(大審大正一〇年法一八六四號一九頁)

◎非訟事件ノ證據調ト當事者ノ立會

民事訴訟ニ於ケル證據調ニ付訴訟當事者カ立會フノ權利ヲ有シ裁判所カ此ノ立會ノ機會ヲ與フルコトナクシテ證據調ヲ爲シタルトキハ違法ナリト雖民事訴訟ニ於ケル當事者ノ右立會權ハ訴訟材料ノ蒐集ニ付當事者主義ヲ採用シタル結果ニ外ナラス然ルニ非訟事件手續法ハ第十一條ニ裁判所ハ職權ヲ以テ事實ノ探知及必要ト認ムル證據調ヲナスヘシト規定シ事件ノ材料ノ蒐集ニ付職權主義ヲ採用シタルヲ以テ證據調ノ範圍又ハ其ノ方法ハ一ニ裁判所職權上之ヲ定メ事件關係人ノ申出等ニ羈束セラレルモノニアラサルカ故ニ事件關係人ニ民事訴訟ニ於ケルカ如ク證據調ニ立會フ權利ナルモノヲ認ムルヲ從テ裁判所カ非訟事件ニ於ケル證據調ニ事件關係人ニ對シ之ニ立會フノ機會ヲ與ヘサリシテ目シテ違法ナリト云フヲ得ス(大審昭和三年民五九七頁)

◎非訟事件ト審問ノ不奉行

一 戶籍法第六十四條ニ依ル戶籍訂正許可申請事件ニ付テハ別ニ手續ヲ定メタル法規ナキヲ以テ非訟事件手續法第一條ニ從ヒ同法第一編ノ規定ヲ適用スヘキコト勿論ニシテ同事件ノ審問ハ之ヲ公行ス可カラサルコト同法第十三條ノ法文上明白ナリ然レ

ハ訂正許否ノ裁判ニ對スル抗告ニ付民事訴訟法第四百六十二條第四項ニ從ヒ口頭辯論ヲ開ク場合ニ於テモ之ヲ公行スヘカラサルハ當然ナリ(大審大正五年法一一四九號三三頁)

二 非訟事件ノ審問ヲ公行セザリシヤ否ヤハ之ヲ調査ニ明記スヘキ旨ノ法規ナシ從テ調査ニ審問ヲ公行セザルコトノ記載ナキ場合ト雖モ此一事ニ因リ裁判所ハ之ヲ公行シタルモノト斷定スルヲ得ス(大審三九年民六九一頁)

◎審問ヲ公行シタル決定ノ效力

非訟事件手続ニ於テ行ハルヘキ審問ハ之ヲ公行スヘキニ非サルコト非訟事件手続法第十三條ノ規定スル所ナリ然ルニ原裁判所カ本件ニ付爲シタル審問ハ之ヲ公行シタルコト口頭辯論調査ト題スル各審問調査中「辯論ヲ公開ス」トノ記載ニ微シ明ナルヲ以テ該審問ノ手續ハ右第十三條ニ違背シタルモノト謂フヘク而シテ原決定カ右審問ニ基キ爲サレタルモノナルコトハ同決定ノ理由ニ據リ明白ナル所ニシテ斯ノ如キ決定ハ前同法第二十四條第二項民事訴訟法第四百三十六條第六號ニ該當スル違法アルモノナルコトハ當院判例ノ示ス所(大正十五年(ク)第七百十一號同年八月三日第二民事部決定昭和二年十月十二日同年(ク)第八百四號第四民事部決定)ナルヲ以テ原決定ハ廢棄ヲ免レサレモノトス(大審昭和三年法二八八七號一〇頁)

二 訴訟代理人アル場合ト期間ノ伸長(民法一〇七頁)

◎裁判告知ノ方法

一 本條一、二項ニ依レハ裁判ハ之ヲ受クル者ニ告知スルニ因リテ其效力ヲ生シ裁判ノ告知ハ裁判所ノ相當ト認ムル方法ニ依リテ之ヲ爲スモノナレハ抗告裁判所カ口頭審理ヲ經テ抗告ノ裁判ヲ爲ス場合ニ於テモ裁判所カ裁判ヲ告知スルニ送達ニ依リテ相當ト認ムルニ於テハ其裁判ヲ受クル者ニ之ヲ送達シテ告知スルヲ以テ足レリトス(大審大正三年民九四六頁、評論三卷諸法二七二頁)

二 非訟事件ノ裁判告知ノ方法ハ郵便送達又ハ普通郵便ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(民刑局長三二年民刑一四五〇號回答)

三 非訟事件ノ裁判ヲ送達ニ依リ告知スヘキ場合ニ於テハ裁判ノ正本又ハ謄本ノ何レヲ送達スルモ或ハ之ヲ交付スルモ差支ナキモノトス(民刑局長三二年民刑第二〇五號回答)

◎裁判告知ノ方法ト其ノ適否

一 親族會員ノ選定就招集決定ノ謄本ヲ送達スヘキ者ノ住所ニアラサル他ノ場所ニ於テ本人ニ代リテ送達ヲ受クヘキ權限ナキ者ニ交付シ後日本人カ直接其受取人ヨリ該謄本ヲ受ケタリトスル

第十五條 檢事ハ事件ニ付キ意見ヲ述ヘ審問ヲ爲ス場合ニ於テハ之ニ立會フコトヲ得

事件及ヒ審問期日ハ檢事ニ之ヲ通知スヘシ

◎檢事ノ意見ヲ聽カサル裁判ノ效力

過料ノ裁判ニ對スル抗告事件ニ付檢事ノ意見ヲ聽カスシテ裁判ヲ爲シタリトスルモ之カ爲メ其裁判ヲ廢棄スルコトヲ要セザルモノトス(大審大正三年評論三卷諸法三頁)

第十八條 裁判ハ之ヲ受クル者ニ告知スルニ因リテ其效力ヲ生ス裁判ノ告知ハ裁判所ノ相當ト認ムル方法ニ依リテ之ヲ爲ス告知ノ方法、場所及ヒ年月日ハ之ヲ裁判ノ原本ニ記入スヘシ

代理人ノ爲ス抗告ト里程猶豫ノ標準

一 抗告會社ノ代理人ノ爲ス即時抗告期間ノ伸長ハ會社ノ所在ヨリ算定スヘキモノトス(大審大正一三年民四九七頁)

モ本條第二項ニ所謂裁判所ノ相當ト認ムル方法ニ依リ爲サレタル告知ト謂フコトヲ得サルモノトス(東京地大正三年評論三卷民法三六七頁)

二 非訟事件手続法第一八條第二項ニ依レハ裁判ノ告知ハ裁判所ノ相當ト認ムル方法ニ依リ之ヲ爲スヘキモノニシテ被告知者ノ留守宅ナル住所ニ於テ裁判ノ旨趣ヲ記載セル書面ヲ被告知者ニ交付スルハ被告知者ヲシテ該裁判ヲ知リ得ヘキ狀態ニ置キタルモノト解スヘキカ故ニ適法ナルモノトス(東京地大正五年評論六卷民法八九頁)

三 親族會員選定ニ關スル裁判ノ告知ハ非訟事件手続法第十八條ニ依リ裁判所カ相當ト認ムル方法ニ從ヒ之ヲ爲スヘキモノニシテ本件ノ如キ出征軍人ヲ親族會員ニ選定シタル場合ニ於テハ告知スヘキ裁判ノ趣旨ヲ記載シタル書面ヲ同人ノ留守宅ナル住所ニ於テ其親族ニ交付シタルトキハ普通ニ被告者ヲシテ該裁判ヲ知リ得ヘキ狀態ニ置キタルモノト解スルコトヲ得ルカ故ニ原院カ親族會員選定ノ決定ヲ被告知者山口市太郎ノ住所ナル東京市芝區白金臺町一丁目四番地ノ留守宅ニ於テ親族ニ交付シタルニ因リ市太郎ニ對スル告知ノ效力ヲ生シタルモノト爲シタルハ相當ナリ(大阪控大正六年法一二七九號二三頁)

四 出征軍人ニ對スル親族會招集通知(續民法一三四〇頁)

五 親族會員選定ノ告知方法(民法六〇八頁)

◎未成年戶主ト親族會招集通知(續民法一三四〇頁)

◎法定代理人ト親族會招集通知受領權(續民法二三頁)

◎會員全部ニ告知セサル裁判ノ效力

- 一 會員全部ニ告知セザリシ裁判ノ效力 (第二續民法一一〇九頁)
- 二 非訟事件手続法第一九條ニ依リ爲サレタル親族會員選定變更ノ決定ト雖モ當初選定シタル會員ノ外ニ新ニ會員ヲ増加シタルニ過キサルトキハ從前ノ會員ヲ廢止シ新ニ會員全部ヲ選定シタルモノニ非サレハ其決定ハ増加シタル會員ニ告知スルニ依リテ效力ヲ發生シ從前ノ會員ニ對スル告知ノ有無ヲ問フノ要ナキモノトス(大審大正一〇年評論一〇卷諸法八八頁)

[附] 非訟事件手続法第十八條ノ法意ハ裁判ノ内容ニ包含セラレタル人ニ告知スルニ非サレハ其人ニ對シ裁判ノ效力ヲ發生セサルモノトス(東京控三三三年法九號八頁)

◎本條第三項ノ解釋及適用

- 一 非訟事件手続法第十八條第三項ノ規定ハ裁判ノ告知ヲ受ケタル年月日場所等ヲ裁判ノ原本ニ記入スヘキモノニシテ告知ヲ發シタル年月日等ヲ記入スヘキモノニ非ス(民利局長三六六年民利第五〇一號回答)
- 二 親族會員選定決定ハ申請人ノ外親族會員ニモ告知スヘキモノ

◎本條第一項ノ適用

非訟事件手続法第十九條第一項ハ裁判ノ當時ノ事由ニ基キ裁判ヲ取消シ又ハ變更スヘキ場合ノ規定ナルカ故ニ親族會招集ノ裁判ノ當否ヲ争フニ非スシテ招集セラレタル會員ノ招集後ニ於ケル行爲ノ當否ヲ争フ事實關係ニハ之ヲ適用スヘキモノニ非ス(大審三八年民八八六頁)

◎親族會員ノ變更決定ノ性質

裁判所カ或者チ親族會員ニ選任シタルチ不當ナリト思料シ其選任ヲ取消シテ他ノ者ヲ親族會員ニ選任スルハ則チ親族會員ノ資格者中相當ト認ムル者ヲ會員ニ選定スル一作用ナルチ以テ其變更ノ決定ハ親族會員選任ノ決定ニ外ナラス(大審大正二年民七四八頁)

◎裁判ノ取消又ハ變更ヲ爲シ得ル時期

非訟事件ノ裁判ニシテ即時抗告ヲ許ス規定ナキモノハ其ノ裁判ノ執行力完結シタル後ハ抗告ヲ許ササルモノトス如何トナレハ裁判執行ノ完結後ニ於テハ抗告ヲ爲スモ其ノ目的ヲ失ヒ何等ノ利益ナキニ歸ス可ケレハナリ故ニ親族會方家督相續人ヲ選定スル決議ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ決議ニ對シ民法第九百五十一

ニシテ從テ非訟事件手続法第十八條第三項ハ親族會員ニ爲シタル告知ニ付テモ亦適用セラレヘキモノトス(民利局長三六六年民利第四一〇號回答)

第十九條 裁判所ハ裁判ヲ爲シタル後其裁判ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得  
申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ申立ヲ却下シタル裁判ハ申立ニ因ルニ非サレハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得ス  
即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判ハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得ス

◎本條ニ關スル諸問

- ◎親族會員ノ變更ヲ爲シ得ル裁判所(續民法一三四三頁)
- ◎親族會員増員ノ手續(續民法一三四三頁)
- ◎遺言ニ因ル親族會員ト増減ノ可否(第二續民法一一〇八頁)
- ◎隱居許可ノ取消許否ト本條(第二續民法九七六頁)
- ◎検査役選任決定ノ取消又ハ變更(續商法二二四條)

◎親族會員ノ變更ト裁判所ノ職權

裁判所カ親族會員選任ノ決定ヲ爲シタル後モ其親族會員ノ變更又ハ増員ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ職權ニ爲シタル裁判ノ取消又ハ變更ヲ爲シ得ルコト非訟事件手続法第十九條第一項ニ徴シ明白ナリト雖モ右取消又ハ變更ハ裁判所ノ職權ヲ以テ爲スヘキコトニ屬シ當事者ノ申請ヲ俟テ始メテ爲スヘキモノニアラス當事者ニ之カ申請權ヲ與ヘタルモノニアラス當事者カ其取消又ハ變更ヲ求ムル申請ヲ爲スハ單ニ裁判所ノ職權ノ發動ヲ促ス機會ヲ與フルニ過キス從テ裁判所カ當事者ノ申請ニ促サレテ事實審査ノ結果原裁判ノ取消又ハ變更ヲ爲スノ必要ナシトテ當事者ノ申請ヲ却下スルハ原裁判ヲ相當ナリトスルニ止マルチ以テ若シ原裁判力違法ニシテ不服ナラハ其裁判ニ對シ抗告ヲ爲スハ格別非訟事件手続法第十九條第一項ニ基ク裁判ノ取消又ハ變更ヲ促ス申請ヲ却下スル決定ハ該申請力元來申請權ナキ當事者ノ爲シタル申請ナルカ故ニ之ヲ却下セラレタリトテ何等

條ノ訴ナク又訴アルモ取消サルルコトナク確定セルトキハ親族會員選定及招集ノ裁判ハ茲ニ確定シ且其ノ執行ヲ完結シタルモノナレハ之ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得サルニ至ルモノトス非訟事件手続法第十九條第一項ニ規定セル裁判ノ取消又ハ變更ニ付テモ亦同一ニシテ裁判ノ執行力完結シタル後ハ同條ノ適用ナキモノトス(法曹會決議大正二年法曹記事二四卷三號)

當事者ノ權利ニ消長ヲ來スヘキモノニアラサルハ勿論又申立ニ因リテ裁判ヲ爲ス場合ニ申立テ却下シタル裁判ニアラサルヨリ當事者ハ其却下決定ニ對シテ抗告ヲ爲シ得ヘキモノニアラス  
(東京地大正一四年法二四六三號一〇頁)  
◎親族會員ノ選定ト職權調査(第二續民法一一〇七頁)

◎本條ニ依ル裁判ノ取消ノ效果

- 一 非訟事件ノ裁判力後日ニ至リテ取消サレタル場合ト雖モ當事者方其裁判ニ從ヒテ既ニ爲シタル行爲ハ當然無効ト爲ルヘキモノニ非ス(大審三九年民八六五頁)
- 二 非訟事件ノ裁判ニ對スル抗告ハ特ニ定メタル場合ノ外執行停止ノ效力ヲ有セザレハ之ニ從ヒテ爲シタル行爲ハ後日其裁判力取消サレタル時ト雖モ尙ホ有效ナリトス(大審四〇年民一九九頁)
- 三 非訟事件ノ裁判ハ抗告ノ申立アルトキト雖モ法律ニ特別ノ規定アル場合ノ外執行力ヲ有スルヲ以テ其裁判ヲ受ケタル者力之ニ從ヒテ爲シタル適法ノ行爲ハ法律上有效ナリトス(大審三九年民八六五頁)

第二十條 裁判ニ因リテ權利ヲ害セラレタルトスル者ハ其裁判ニ對

◎裁判ニ因リ權利ヲ害セラレタル者(一)

- 一 非訟事件手続法第二十一條ニ依レハ親族會員ヲ選定シ親族會ヲ招集スル決定ニ對シテハ此ノ決定ニ依リ權利ヲ害セラレタルトスル者ヨリ抗告ヲ爲シ得ヘキコト明白ニシテ同法第十九條第一項第一條第二項ノ規定アルノ故ヲ以テ右決定ニ對シ第二十二條ニ依リ抗告ヲ許ササルノ趣旨ナリト解スル能ハス抗告人ノ援用ニ係ル當院決定ハ執レモ斯ル趣旨ヲ示スルモノニアラス而シテ右第二十條ニ權利ヲ害セラレタル者トハ必シモ裁判ニ因リ確定ノ權利ノ主張ヲ妨ケラレル場合ノミチ指稱スルモノニアラスシテ當該裁判力抗告ヲ爲サントスル者ノ權利ノ主張ニ對シ直接不利ナル影響ヲ及ボス場合ヲモ包含スルモノト解スヘク豐テ被相續人トシ家督相續力開始セラレヘキ手續ノ進行ハ池田家財産ノ處分ヲ遺產相續ニ依リテ取得シタリト主張スル相手方ニ對シ權利ノ保存實行ト納聖相容レサルモノナレハ之ヨリ右裁判ニ因リ直接不利ナル影響ヲ被ル者ニ當リ前記決定ニ對シ抗告ヲ爲スノ適格ナシト云フヘカラス(大審昭和三年法二九〇七號一〇頁)
- 二 不適法ナル親族會召集決定ニ基ク親族會ノ決議ハ民法第九百五十一條ノ救濟ヲ求ムル迄モナク當然其ノ效力ナキモノナレハ親族會召集決定ニ基ク親族會決議ノ有效ナルコトハ右決定ノ效力ノ存續セルコトヲ前提トシ若右決定ニシテ不適法トシテ廢棄

シテ抗告ヲ爲スコトヲ得  
申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ申立テ却下シタル裁判ニ對シテハ申立人ニ限リ抗告ヲ爲スコトヲ得

◎本條ノ解釋

- 一 非訟事件手続法第二十條第一項ノ規定ハ實體法上ノ權利侵害ヲ原因トシテ其權利ノ回復侵害ノ排除等ヲ請求ノ目的トスル場合ニモ必スヤ抗告ノ形式ニ依ラサルヘカラストノ注意ニ非ス(大審三九年民四二八頁)
- 二 非訟事件手続法第二十條ハ普通ノ場合ニ於ケル原則ヲ定メタルニ過キスシテ同法第二十四條ノ除外例ヲ設ケタルモノニ非サレハ抗告裁判所ノ裁判ニ因リテ權利ヲ害セラレタルトスル場合ニハ同條ノ外尙ホ第二十四條ノ規定ニ據ラサルヘカラス(大審三九年民六九一頁)

◎本條ノ抗告ヲ爲シ得ル時期

◎第一九條ノ「裁判ノ取消又ハ變更ヲ爲シ得ル時期」參看

◎本條ノ抗告ヲ爲シ得ル場合(一)

セラレル場合ニ於テハ該決議ハ當然何等ノ效力ヲ發生セザルモノナルヲ以テ假令既ニ其ノ決議ヲ了シタリトスルモ相手方ハ前記決定ニ對シ抗告ヲ爲スノ利益ナキモノト云フヲ得サルモノトス(同上)

◎本條ノ抗告ヲ爲シ得ル場合(二)

◎裁判ニ因リ權利ヲ害セラレタル者(二)

- 一 非訟事件手続法第二十條第一項ニ所謂權利中ニハ音ニ私權ノミナラス公權モ亦包含スルモノト解スヘキモノトス故ニ例ヘハ事件ノ關係人ハ事件ニ付キ適法ナル審理ヲ受ケルノ權利ヲ有スルモノナルヲ以テ若シ裁判所カ手續ニ關スル法則ニ違背シ裁判ヲ爲シタルトキハ事件ノ關係人ハ之ニ因リ右權利ヲ害セラレタルモノトシテ其裁判ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(東京控四四年法七三九號二一頁)
- 二 本件ニ於テ親族會員選任ノ決定カ親族會員タルコトヲ得サル者ヲ親族會員ニ選任シタル不法アリトセハ之ニ基キ爲シタル親族會召集ノ決定モ亦不法ト謂ハサルヲ得ス而シテ抗告人ハ未成年者ノ親權者トシテ未成年ノ子ニ代ハリテ民法第八百八十六條ニ掲ケタル行爲ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スル地位ニ在ル者ニシテ本件親族會召集申請事件ニ付テハ事件ノ關係

人ト謂フコトヲ得ヘキヲ以テ不適法ナル親族會招集決定ニ因リ  
適法ナル審理ヲ受クルノ權利ヲ害セラレタルコトヲ理由トシテ  
非訟事件手續法第二十條第一項ニ依リ右招集決定ニ對シ抗告ヲ  
爲スコトヲ得ルモノトス(同上)

三 未成年者ノ母ハ未成年者ニ對スル親權ヲ行使スルニ當リ其親  
族會ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ適法ニ行使シ得サル場合多キ  
ヲ以テ親族會ヲ組織セル會員ノ選任ニ關シ利害關係ヲ有スルコ  
ト勿論ナリ從テ一度親族會員増員決定ヲ爲シタルニ拘ハラス更  
ニ之ヲ取消シタル裁判力其母ノ權利ニ消長ヲ來ス可キコトアル  
ヤ又論ヲ俟タス而シテ斯ノ如ク利害關係ヲ有スル者ハ右取消ノ  
決定ニ對シ權利ヲ害セラレタル者ナリトシテ抗告ヲ提起スヘキ  
資格ヲ有ス(浦和地四五年法八一號二五頁)

四 未成年者ノ後見人ハ其資格ニ於テ爲スヘキ或行爲ニ付テハ親  
族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルト共ニ其同意ヲ得テ其行爲ヲ爲  
スノ權利ヲ有スルモノナリ而シテ其親族會ハ固ヨリ適法ニ成立  
シタルモノナラサル可カラザレハ不法ニ選定セラレタル親族會  
員ヨル或ル親族會ノ同意ヲ得ヘキモノト爲スハ其權利ヲ害スル  
モノナリ故ニ親族會員ノ選定力不法ナルトキハ後見人ハ其資格  
ニ付テ自己固有ノ權利トシテ非訟事件手續法第二十條第一項ニ  
依リ其選定ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ(大審大正一〇年  
法一八二四號一九頁)

五 本家ノ戸主ハ分家ノ届出ニ對シ同意權ヲ有スルモノナルヲ以

告理由トハ獨立シタル攻撃方法タル事實上ノ主張ナルヲ以テ原  
審ハ宜シク右主張ニ對シテモ其當否ヲ判斷セサルヘカラザルニ  
拘ハラス之カ判定ヲ爲スコトナク抗告ヲ棄却シタルハ重要ナル  
争點ニ對スル判斷ヲ遺脱シタル不法アリ(大審大正一四年法二  
四七七號九頁)

◎不動産ノ假登記假處分ト抗告

不動産假登記ノ申請ニ依リ發セラレタル假處分命令ニ對シテハ  
之ニ依リ權利ヲ害セラレタリト主張スル者ト雖モ非訟事件手續  
法ノ規定ニ從ヒ即時抗告ハ勿論其他一般抗告ヲ爲スコトヲ得サ  
ルモノトス(大審大正七年法一四〇九號二五頁)

◎不服ノ理由ヲ掲ケサル抗告狀ノ效力

商法違反ノ非訟事件ニ付キ抗告裁判所ノ與ヘタル決定ニ對シ抗  
告ヲ爲スニ當リ其抗告狀ニ唯原決定ノ廢棄ヲ求ムル旨ノ申立ヲ  
掲クルノミニテ之カ理由ヲ記載セサルモ抗告提起ノ效力アルモ  
ノトス(大審四四年民二二頁)

◎非訟事件ノ抗告ノ效力

親族會員中無資格者アルヲ理由トシ其選任ニ對シテ抗告ニ爲シ  
タル場合ニ於テハ縱令親族會ノ解散シタル後ト雖モ之ヲ取調ヘ

テ既ニ爲シタル分家ノ戸主及ヒ其家族ノ身分登記變更ノ許可申  
請ニ付キ利害關係ヲ有スルモノトス從テ其許可ノ裁判ニ因リ權  
利ヲ害セラレタルトキハ之ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得ルハ論ヲ  
缺タス(大審大正二年民三七四頁)

六 裁判所カ戸籍法ニ依リ爲シタル裁判ニ因リ權利ヲ害セラレタ  
リトスル者ハ非訟事件手續法第二十條ニ依リ其裁判ニ對シテ抗  
告ヲ爲スヘキモノトス(大審大正三年評論三卷諸法一七七頁)  
七 商業登記事件ハ非訟事件手續法第三篇第三章以下ニ規定セラ  
ルルヲ以テ商號登記ハ非訟事件ナルコト明瞭ニシテ而シテ其登  
記ハ法律上一定ノ效力ヲ生シ且ツ事件ヲ終局セシムルモノナル  
カ故ニ亦非訟事件手續法二〇條ニ所謂裁判ナリトス(東京控四  
三年最八卷一二頁)

◎限定承認ト債權者ノ利害(第二續民法一二七五頁)

◎管轄權ナキ裁判所ノ裁判ト抗告

一 親族會招集申請決定ニ對スル不服(續民法一三三四頁)  
二 抗告人カ原審ニ於テ盛岡區裁判所カ本件親族會員ノ増員並其  
會員二名ノ選定ヲ爲シタル當時未成年者甲ハ東京市外濠野川町  
三十六番地ノ管轄ニ屬スヘキモノナレハ原決定ハ管轄ナキ裁判  
所ノ裁判ニシテ抗告人ハ之ニ依リ其權利ヲ害セラレタルモノナ  
レハ非訟事件手續法第二十條第一項ニ依リ抗告ヲ爲ス旨ヲ主張  
スルコトハ原決定ノ事實摘示ニ依リ明ニシテ右主張ハ爾餘ノ抗

果シテ其事實アルニ於テハ該選定ノ決定ヲ廢棄スヘキモノトス  
(大審三二年民一一卷一一四頁)

◎無資格者ヲ選定セル親族會ノ效力(民法六一〇頁)

◎無資格者ノ選任ト其親族會決議(續民法一三三七頁)

◎親族會員タル資格ナキ者ノ選任(民法六一二頁)

◎親族會員タルコトヲ得サル者ノ意義(第二續民法一一一〇  
頁)

第二十二條 即時抗告ノ期間ハ裁判ノ告知ノ日ヨリ之ヲ起算ス  
民事訴訟法第七十四條乃至第七十六條ノ規定ハ即時抗告ノ期  
間ヲ懈怠シタル場合ニ之ヲ準用ス

◎即時抗告ノ期間ノ起算方

一 非訟事件手續法第二十二條第一項ノ即時抗告ノ期間ハ裁判ノ  
效力ヲ生シタル時ヨリ起算スヘキモノニシテ該期間計算方法ハ  
同法第十條民事訴訟法第六十五條ニ依リ初日ヲ算入セサルモ  
ノトス(東京控三三年法一四號九頁)  
二 即時抗告ト期間ノ起算(民法三九一頁)  
◎異議申立トアル即時抗告ト其訂正(民法五四八頁)



◎裁判告知ノ方法ト其ノ適否(第一八條)

第二十四條 抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限り抗告ヲ爲スコトヲ得  
民事訴訟法第四百三十五條、第四百三十六條及第四百五十三條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

◎抗告裁判所ノ裁判ノ意義

- 一 非訟事件手続法第二十四條ノ裁判トハ本案ノ裁判ヲ意味シ單ニ原裁判ヲ廢棄シタルニ止マリ本案ニ付キ裁判ヲ爲サスシテ之ヲ原裁判所ニ委任シタル裁判ヲ指稱スルニ非サルヲ以テ斯ル裁判ニ對シテハ抗告ヲ許ササルモノトス(東京控大正元年法八五號二〇頁)
- 二 非訟事件手続法第二十四條ニ所謂抗告裁判所ノ裁判トハ事件ニ付キ覆審ヲ爲シタル裁判所ノ裁判ヲ指スモノニシテ此裁判ニ因リ始メテ權利ヲ害セラルル者ニ對スル場合ト否ラサル場合トヲ區別スルノ要ナシ(大審三九年民六九一頁)
- 三 抗告裁判所ノ裁判ノ意義(民訴法三三三頁)

◎再抗告ノ裁判ニ對スル抗告

- 一 非訟事件手続法ニ依ル再抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ如何ナル理由アルモ更ニ抗告ヲ許サス(大審四〇年民一二六九頁)
- 二 戶籍事件ト抗告(諸法令上卷四二〇頁)

第二十五條 抗告ニハ前五條ニ定メタルモノヲ除ク外民事訴訟法ノ抗告ニ關スル規定ヲ準用ス

◎抗告裁判所ノ審理權

- 一 抗告裁判所ハ其抗告人ト反對ノ利害關係ヲ有スル者ニ抗告ヲ通知シテ書面上ノ陳述ヲ爲サシメ若クハ口頭辯論ノ爲メ當事者ヲ呼出スコトヲ得ルニ止マリ必スシモ右抗告人ト反對ノ利害關係ヲ有スル者ヲ審問スルコトヲ要セスシテ該抗告人ノミテ審問シ其申請ニ因リ證據調ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(大審大正一〇年評諭一〇卷諸法二五九頁)
- 二 非訟事件手續ハ職權審理手續ナルカ故ニ再抗告裁判所ハ抗告裁判所ノ確定シタル事實ニ基キ再抗告人ノ主張如何ニ拘ハラズ職權ヲ以テ法律違背ノ有無ヲ審査スルコトヲ得ヘキモノトス

◎抗告審ノ委任ニ因ル裁判ト抗告(民訴法三三三頁)

◎即時抗告ノ裁判ニ對スル再抗告ノ性質

- 一 家督相續人選定ノ爲メニスル親族會員並ニ親族會ノ招集申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテ爲ス抗告ハ即時抗告ニシテ抗告ニハ非訟事件手續法第二〇條乃至第二四條ニ定メタルモノノ外民事訴訟法ノ抗告ニ關スル規定ヲ準用スヘキモノナレハ第一ノ抗告カ即時抗告ノ規定アル場合ナルトキハ其裁判ニ對スル第二ノ抗告モ亦即時抗告ノ規定ニ從フヘキモノトス(大審大正一〇年評諭一〇卷諸法三六一頁)
- 二 即時抗告ノ決定ニ對スル再抗告ノ性質(民訴法三九一頁)

◎非訟事件ト再抗告ノ許否

- 一 重要物產同業組合法第十九條ハ過料ニ付キ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ヲ準用スル旨規定シタルニ止マルヲ以テ同條ノ過料ニ關スル抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ス(大審三七年民四一頁)
- 二 重要物產同業組合法ニ於テモ抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ非訟事件手續法第二十四條ニ從ヒ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限り更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(大審六年民一二四頁)

(東京控四三年最八卷一二頁)

三 非訟事件ノ抗告ト口頭辯論ノ趣旨(第一一條)

四 職權主義ノ證據調ト其ノ效果(第一一條)

◎抗告審ヘノ抗告ト期間算定ノ標準(本卷補遺、非訟事件手續法二五條)

第三十五條 假理事又ハ特別代理人ノ選任ハ法人ノ主たる事務所所在地ノ區裁判所ノ管轄トス  
法人ノ解散及ヒ清算ノ監督ハ其主たる事務所所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

◎會社代表者ノ特別代理人ノ選任(第二續商法三三三頁)

第三十八條 不在者ノ財産ノ管理ニ關スル事件ハ其住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

◎行旅死亡者ノ遺留物件ト其ノ管理

行旅死亡者ノ遺留物件アル場合ニ於テ其相續人分明ナラサルトキハ市町村長ハ管轄裁判所ノ檢事ニ通知シ檢事ハ該遺留物件ノ多寡ニ拘ラス相續財產管理人選任ノ請求ヲ爲スヘキモノトス (民刑局長四三年民刑第九三九號回答)

第六十一條 裁判所カ職權ヲ以テ裁判ヲ爲シ又ハ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ裁判前ノ手續及ヒ裁判ノ告知ノ費用ハ不在者ノ財產ノ負擔トス裁判所ノ命シタル處分ニ付キ必要ナル費用亦同シ

◎檢事ノ管理人選任ノ申立ト費用ノ支出

檢事ニ於テ相續財產管財人選任ノ申立ヲ爲スニ付キ要スル印紙料ハ裁出科目中人事訴訟及非訟事件費ノ目ヨリ支出スヘキモノニシテ非訟事件手續法第六十一條ニ該當スル場合ニ於テハ相續財產ヨリ辨償ヲ受クヘキモノトス (民刑局長三三年民刑第八一五號回答)

第六十六條 民法第九百七十八條ノ遺產ノ管理ニ關スル事件ハ相續人ノ廢除又ハ其ノ取消ノ請求ニ付キ第一審ニ於テ訴ヲ受ケタル裁判所ノ管轄トス

◎遺產ノ管理ニ關スル假處分 (民訴法六〇五頁)

第九十條 隱居ノ許可ハ隱居ヲ爲サントスル戶主ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

許可ノ申請ニハ法定ノ推定家督相續人ヲ表示シ又ハ家督相續人タルヘキコトヲ承認シタル者ヲ表示シ且其者ヲシテ署名、捺印セシムヘシ  
隱居ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

◎本條第二項ノ解釋

非訟事件手續法第九十條第二項ノ解釋ニ付左ノ二説アリ從テ學

說實例其撰チ一ニセサルニヨリ御會チ高教チ仰ク「甲說」第二項「且其者ヲシテ署名捺印セシムヘシ」トアルハ其前段「又ハ家督相續人タルコトヲ承認シタルモノヲ表示シ」トアル文辭ニノミ接續スルト解セサルヘカラス故ニ其隱居申請要式ニハ法定推定家督相續人タルコトヲ表示スルヲ以テ足ルモノトス「乙說」民法第七百五十七條ノ届出ハ隱居者及家督相續人ヨリ爲スヘキモノト規定シアルヲ見レハ非訟事件手續法第九十條第二項其者トハ法定推定家督相續人チモ包含スト解スルヲ妥當トス「決議」甲說ヲ可トス——理由、民法第七百五十三條又ハ第七百五十四條ノ場合ニ於テ法定ノ推定家督相續人アルトキハ其者カ幼者其他意思能力ナキ者ナルトキ又ハ其者ノ意ニ反スルトキト雖モ戶主ハ裁判所ノ許可ヲ得テ隱居ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ許可ノ申請ニ法定ノ推定家督相續人チ干與セシムル要ナキカ故ニ甲說ノ如ク解スルヲ相當トス (法曹會決議四三年法曹記事二〇卷一二號三七頁)

◎未成年者ノ隱居ト法定代理人ノ同意 (第二續民法九七九頁)

第九十一條 廢家ノ許可ハ廢家セントスル戶主ノ住所地ノ區裁判所

諸法令下 (七) 非訟事件手續法

九〇條—一九三條

一八二一

ハ管轄トス  
利害關係人及ヒ檢事ハ前項ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得  
第七十八條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

◎廢家ノ許可ニ關スル諸問

- ◎未成年者ノ廢家ト意思能力 (第二續民法九八六頁)
- ◎未成年者ノ廢家ト法定代理人ノ同意 (同上)
- ◎廢家ノ正當事由 (第二續民法九八三頁)
- ◎裁判所ノ許可ナキ廢家ノ效力 (同上)

第九十三條 民法第九百七十八條ノ戶主權ノ行使ニ付キ必要ナル處分ハ第六十六條ニ定メタル裁判所ノ管轄トス

◎廢嫡訴訟ト當事者ノ死亡

一 相續人廢除ノ請求訴訟中原告タル被相續人死亡スルモ之レカ

爲メ訴訟消滅ニ歸シ被告カ相續人ト爲ルヘキモノニアラス(東京控評論一卷民法九三頁)  
二 廢適訴訟ト當事者ノ死亡(第二續民法一二三二頁)

第九十五條 親族及ヒ檢事ハ前條ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得  
第六十二條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第九十四條 家督相續人ノ選定ニ關スル許可ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス  
裁判所カ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ相續財産ノ負擔トス

第九十五條 親族及ヒ檢事ハ前條ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得  
第六十二條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

サレモノニアラス裁判所ハ各場合ノ事情ニ依リ相當ト認メタル場所ヲ指定シ得ルコト論テ俟タス(大審昭和二年法二七八號 一一頁)

第九十九條 裁判所ハ親族會員又ハ其補缺ノ選定ニ付キ申請人又ハ民法第九百四十四條ニ掲ケタル者ヲシテ會員タルニ適當ナル者ヲ指定セシムルコトヲ得

◎親族會員ノ選定ト職權調査(第二續民法一一〇七頁)

第一百條 親族會員タルコトヲ辭セントスル者ハ裁判所ニ其申請ヲ爲スヘシ  
前項ノ申請ニ相當スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

◎偽造辭任書ニ基ク辭任許可ノ效力(續民法一三三五頁)

◎本條ニ關スル諸問

- ◎決議不服ノ不成立ト選定許可ノ抗告 (第二續民法一一二六頁)
- ◎後日ノ許可ヲ條件トセル相續人選定 (第二續民法一二三九頁)
- ◎順位變更ノ許可ナキ相續人選定決議 (第二續民法一二三九頁)
- ◎遺棄ノ選定又ハ不選定ト正當事由(第二續民法一二四〇頁)

第九十六條 無能力者ノ爲メニ設ケヘキ親族會ニ關スル事件ハ其者ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス  
裁判所カ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ無能力者ノ負擔トス

◎未成年者ノ親族會ト招集場所

裁判所カ未成年者ノ爲メ親族會ヲ招集スルニ當リ定ムヘキ招集ノ場所ハ必スシモ未成年者ノ住所地ニ於テ之ヲ定メサルヘカラ

第一百條 親族會ノ招集又ハ親族會員ノ辭任ノ申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

民法第九百四十四條ニ掲ケタル者ハ親族會員タルコトヲ得サル者ノ選任ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得  
第六十二條ノ規定ハ前二項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

◎本條ノ適用範圍

非訟事件手續法第一百條ノ規定ハ親族會招集當初ノ選任ニ付テハ異議ナク結了シタル後其會員ノ職務上ノ行爲ヲ論議シテ之ヲ廢除セントスル事實關係ニ適用スヘキモノニ非ス(大審三八年 民八八六頁)

◎本條ニ關スル諸問

- ◎親族會ノ招集決定ニ對スル抗告(第二續民法一一〇九頁)
- ◎親族會員タルコトヲ得サル者ノ意義(第二續民法一一一〇頁)
- ◎當然無効ナル親族會決議(第二續民法一二二四頁)

第百三條 民法第十七條第一項但書ニ定メタル期間ノ伸長ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

◎相續開始ノ事實ヲ知りタル時ノ意義(第二續民法一 二六八頁)

第百十二條 遺言書ノ檢認ハ公證人カ記載シタルモノヲ除ク外遺言ノ方式ニ關スル總テノ事實ヲ調査シテ之ヲ爲ス

◎遺言書ノ檢認及開封ニ關スル諸問 (第二續民法一三〇七頁)

第百十四條 遺言書ノ提出、開封及ヒ檢認ニ付テハ調査ヲ作ルヘシニハ左ノ事項ヲ記載シ、列事書記及ヒ立會人之ニ署名、捺印ス

- 一 提出者ノ姓名、住所
- 二 提出、開封及ヒ檢認ノ年月日
- 三 立會人ノ姓名、住所
- 四 訊問シタル證人、鑑定人、相續人其他ノ利害關係人ノ姓名、住所及ヒ其陳述
- 五 事實調査ノ結果

◎本條第二項ノ趣旨

非訟事件手續法第百十四條第二項ニ於テ立會人ノ姓名住所ヲ記載スヘキコトヲ命シタルハ遺言書ノ開封ノ如ク立會人アル場合ニ關スル規定ニシテ檢認ニ付テハ之ヲ要スルモノニ非スト解スヘキモノトス(大審四四年民七八九頁)

第百十五條 裁判所ハ遺言書ノ開封及ヒ檢認ヲ爲シタルトキハ出頭セザリシ相續人其他遺言ノ旨趣ニ關係アル者ニ其旨ヲ告知スヘシ

トチ得

◎遺言書檢認ノ告知ノ趣旨

裁判所ニ於テ遺言書ノ檢認ヲ爲シタルトキハ不出頭ノ相續人等ニ對シ其ノ旨告知スヘキモノナルコトハ非訟事件手續法第百十五條第一項ノ規定スル所ナリト雖同項ハ該告知ヲ以テ檢認ノ效力ヲ生スルノ條件ト爲スノ趣旨ニ非サルコト勿論ナルト同時ニ遺言書ノ檢認カ裁判ニ非サルコトハ前點説明スルカ如クニシテ非訟事件手續法第十八條ハ裁判ニ關スル規定ニ依リ之ヲ遺言書ノ檢認ニ準用スル旨ノ規定存スルコトナキカ故ニ縱令裁判所ニ於テ前叙ノ告知ヲ爲ササレハトテ右第十八條ニ依リ又ハ之ニ準據シテ檢認ノ效力ヲ云爲スルヲ得サルヤ言テ俟タサル所ナルノミナラス前叙告知ノ欠缺ニ依リ檢認ヲ無効トスヘキ理由亦アルコトナシ(大審昭和三年法二八四〇號一五頁)

第百二十條 法人設立ノ登記ハ理事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

諸法令下 (七) 非訟事件手續法

一一五條—一二二條

一八二五

◎原本ヲ添附セサルニ基ク登記ノ懈怠(續民法七七〇頁)

第百二十一條 事務所ノ新設又ハ事務所ノ移轉其他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事、理事ノ缺ケタル場合ニ於テハ假理事ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

要ス

要ス

◎本條第一項ノ法意

非訟事件手続法第二百一十一條第一項ノ登記ハ理事全員ノ申請ヲ要セス其内一名ニテモ之ヲ爲シ得ルノ律意ナリトス(大審三五年民六卷九頁)

◎取締役ノ退任就任ト變更登記(商法八六頁)

◎取締役ノ交迭ト登記義務者(續商法六八四頁)

第二百二十九條ノ二 商法第九十八條ノ規定ニ依リ検査役ノ選任ニ關スル裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ取締役及ヒ検査役ノ陳述ヲ聽クヘシ

◎検査役ノ選任ニ關スル諸問(第二續商法一五四二頁)

第三百三十四條 商法第四十七條、第四十八條及ヒ商法施行法第二百二條第二項ノ場合ニ於ケル會社ノ解散ノ命令ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

在地ノ區域裁判所ノ管轄トス

◎本條ノ適用

非訟事件手続法第三百三十六條ノ規定ハ會社解散ノ場合ノミナラス會社カ事業ニ著手シタル後其設立ノ無効ナルコトヲ發見シタル爲メニ清算人ノ選任ヲ要スル場合ニモ亦之ヲ適用スヘキモノトス(大審四二年民二〇三頁)

第四百四十四條 登記シタル事項ノ公告ハ官報及ヒ新聞紙上ニ少クモ一回之ヲ爲スコトヲ要ス  
公告ハ之ヲ掲載シタル最終ノ官報及ヒ新聞紙發行ノ日ノ翌日之ヲ爲シタルモノト看做ス

◎登記事項ノ公告ニ關スル本條ノ解釋

一 商業登記ニ關スル規定タル非訟事件手続法第四百四十四條ヲ閱スルニ同條ニハ商業登記ヲ爲シタル事項ノ公告ハ官報又ハ新聞

諸法令下 (七) 非訟事件手続法

一一三六條—一四五條

一八二七

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前利害關係人ノ陳述ヲ聽キ檢事ノ意見ヲ求ムヘシ  
前二項ノ規定ハ會社ノ申請ニ依リ開業期間ノ伸長ニ付キ裁判ヲ爲ス場合商法施行法ノ規定ニ依リ會社ノ營業ノ禁止ヲ命スル場合及ヒ日本ニ設立シタル外國會社ノ支店ノ閉鎖ヲ命スル場合ニ之ヲ準用ス

◎第二項ノ利害關係人ノ意義

一 利害關係人トハ或事實又ハ或法律關係ニ因リ自己ノ權利義務ニ影響ヲ受クル者ヲ云フ(大審四一年民一〇二四頁)  
二 非訟事件手続法第三百三十四條第二項ニ所謂利害關係人トハ會社ノ解散ニ付キ法律上利害ノ關係ヲ有スル總テノ者ヲ指稱ス從テ解散ノ命令ニ對シ最モ深キ關係ヲ有スル會社自身ハ同條ノ利害關係人タルコト論テ疑タヌ(大審四一年民一〇二四頁)

◎本條ニ關スル諸問(第二續商法一三三九頁)

第三百三十六條 清算人ノ選任又ハ解任ニ關スル事件ハ會社ノ本店所

紙ニ少クモ一回以上之ヲ爲ストアリテ毫モ一種以上ノ新聞紙ニ公告スヘキコトヲ要求セス寧ろ區域裁判所ニ於テ其自由ノ意見ニ從ヒテ一箇又ハ數箇ノ新聞紙ヲ選擇シテ公告スルノ權能ヲ有スルモノナルコトヲ推知シ得ヘシ(東京地大正二年法八八二號一〇頁)  
二 非訟事件手続法第四百四十四條ノ規定ニ依レハ商業登記ヲ爲シタル事項ノ公告ハ官報及ヒ新聞紙ニ少クモ一回ヲ爲スコトヲ要スルモノトス(東京控四三年法六七九號一三頁)

第四百四十五條 區域裁判所ハ毎年十二月ニ翌年登記事項ノ公告ヲ掲載セシムヘキ新聞紙ヲ選定シ官報及ヒ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ  
公告ハ掲載セシムヘキ新聞紙カ休刊又ハ廢刊ヲ爲ストキハ更ニ他ノ新聞紙ヲ選任シ前項ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

◎裁判所ノ新設ト公告新聞指定ノ公告

裁判所ノ設立ニ關スル法律施行後新設區域裁判所管轄内ノ商業其他法定ノ登記公告ハ其區域裁判所ノ指定新聞紙ニ公告スヘキモノ

ト解スヘキモ前管轄區域列所カ指定シタル新聞紙ト異ナラサルニ於テハ非訟事件手続法第百四十五條ニ準スル公告ハ之ヲ要セス(法務局長大正六年民一六八二號通牒)

◎登記公告ノ契約ト請負(諸法令中卷七三六頁)

第四百十七條 登記スヘキ事項ノ登記、其變更又ハ消滅ノ登記ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外當事者ノ申請アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

◎本條ノ趣旨

非訟事件手続法第百四十七條ハ商業登記ハ原則トシテ當事者ノ申請ヲ待テ之ヲ爲スヘキモノニシテ職權ニ依リ之ヲ爲スコキモノニアラサルコトヲ規定シタルニ止リ其ノ當事者カ何人ナルカヲ決定シタルモノニアラス(大審昭和二年彙報三八卷民事下二三九頁)

◎行政區劃ノ變更ト變更登記ノ要否

請ヲ爲サリシコト前叙ノ如シト雖モ未ダ被審人等ニ該申請義務ニ關シ懈怠アリト爲シ得サルヲ以テ之ヲ處罰セサルヲ相當トス(同上)

四 株式會社ノ支店ノ所在地ハ登記事項ニ屬シ其變更ヲ生シタルトキハ二週間内ニ本店及支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要スルコトハ商法ノ規定スルコトナレハ他ニ特別ノ規定ナキ限り登記シタル支店ノ場所ニ付事實上ノ變更ナキモ土地ノ名稱又ハ番號ノ表示ニ生シタル變更アリタル場合ニモ亦登記シタル場所ノ變更アリトシテ之カ登記ヲ爲スヘキモノトス(東京控昭和三年報一六六號一七頁)

五 非訟事件手続法第百五十七條ニ依リテ準用セラレル不動産登記法第五十九條ニ依レハ行政區劃又ハ其名稱ノ變更アリタルトキハ登記簿ニ記載シタル行政區劃又ハ其名稱ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做サルル結果縱令支店所在場所ノ名稱及番號ノ表示ニ變更ヲ生シタルモ之カ爲支店所在場所ノ變更ニ因ル支店變更登記申請ヲ爲スコトヲ要セサルモノト解スルヲ妥當ナリトス(同上)

六 「登記事項ノ變更」ノ範圍(商法二二頁)

七 行政區劃ノ變更ト變更登記ノ要否(第二續商法一三四四頁)

一 支店所在場所ノ地番變更ハ商法第五十三條所定ノ登記事項ノ變更ニ該當スルコト言テ俟タサルコトコナレト同時ニ又右ハ非訟事件手続法第百五十七條不動産登記法第五十九條ニ所謂行政區劃ノ名稱ニ變更アリタル場合ト認ムルヲ相當トス可ク從テ右非訟事件手続法不動産登記法ノ各法條ニ照シ登記簿ニ記載シタル行政區劃ノ名稱ハ當然變更セラレタルモノト看做スコキコト明ラカナレトモ非訟事件手続法第百四十七條ニ徵シ不動産登記法第百條ノ二ヲ準用スルニ由ナキ商業登記ニ在リテハ登記ニ公示力ヲ認メタル立法ノ趣旨ニ鑑ミ不動産登記法第五十九條ノ準用アルノ一事ニ依リテハ未ダ被審人等ニ登記事項變更ニ基ク登記申請義務ナシト斷スルヲ得サルモノトス(東京地昭和三年法二九二七號一四頁)

二 然レトモ被審人等提出ノ陳情書ト題スル書面ニ依レハ前記地番變更力單ニ內務省告示ニ依リテ表示セラレタルニ過キサル事實ヲ認メ得ヘク惟フニ右申請義務ニ關シ懈怠アリト謂ハシカ爲メニハ被審人等ニ於テハ右地番變更ノ事實ヲ知リタルカ又ハ知ラサルニ付過失アリタルコトヲ要シ從テ被審人等ニ對シ通知其他ノ方法ニ依リ該事實ヲ了知セシムルカ又ハ之ヲ了知セシメ得可カリシ特別ノ事情ノ存スルコトヲ要スルモノト解スルヲ相當ト認ム可キヲ以テ右特別ノ事情ノ存在ヲ認ムヘキ何等ノ根據ナキ本件ニ在リテハ被審人等ニ右地番變更ヲ知ラサリシニ付過失アリト認メ難ク又取締役タル被審人等ニ付就任後直チニ登記申

ルコトヲ發見シタルトキハ管轄登記所ニ其更正ヲ申請スルコトヲ得

◎本條ノ趣旨

非訟事件手続法第百四十八條ノ規定ハ當事者ノ錯誤又ハ遺漏ニ出テタルト將タ登記所ノ錯誤又ハ遺漏ニ處テタルトト問ハス總テ之ヲ更正登記トシテ同條ノ適用ヲ受クヘキモノトス(法務局長大正三年民一二一七號通牒)

◎登記日附ノ錯誤ト更正登記ノ拒否

株式會社支店所在地登記所ニ於テ大正九年二月十九日ニ同月十七日某地支店設置ノ變更登記ヲ爲シタリ然ルニ支店設立ノ日附二月十七日ト登記シタルハ錯誤ニ付四月廿六日設置ト更正ノ登記ヲ本店所在地登記所ノ登記ヲ證スル書面ヲ添付シテ申請ヲ爲シタル場合ハ之ヲ受理スヘキモノニ非ス元來更正ノ登記事項ハ更正スヘキ登記ノ登記以前ニ係ル事實ナラサルヘカラサルニ本件ノ如キ更正スヘキ登記ノ登記以後ニ係ル事實ニ更メントセルハ變更登記ノ性質ヲ帶フルモノニシテ更正登記ノ本質上許スヘカラサルモノナリ併モ更正登記ハ更正セラレタル時ヨリ其效力

ヲ發生スルモノニアラスシテ基本登記ノ當時ニ遡リ更正ノ效力ヲ有スヘキモノナレハ本問更正登記ハ四月二十六日支店設置ノ效力ヲ基本登記タル二月二十七日ニ遡ラセシメントスルモノニシテ其登記ハ却テ事實ト符合セサル錯誤ノ結果ヲ招來スルモノト云フヘシ要スルニ本件二月十九日登記以前ニ於テ事實支店ノ設置ナカリシトセハ二月十九日ノ登記ハ無原因ノ登記ニシテ商法上許スヘカラサルモノナルカ故ニ抹消ノ登記ヲ爲シ而シテ四月二十六日設置後更ニ支店設立登記ヲ爲ササルヘカラサルモノトス如上ノ理由ニ依リ本問更正登記ハ不適法トシテ却下スヘキモノトス (法曹會決議大正九年法曹記事三〇卷八號二五頁)

◎登記ノ遺漏ニ該當セサル場合

抗告會社カ資本減少ノ登記ヲ申請スルニ當リ申請書ニ添付シタル株主總會ノ決議録ニハ株數ノ減少ニ依ル資本減少ノ決議ノ記載ハ存スレトモ各株ノ拂込金額ヲ變更スル決議ノ記載ハ存セス又其ノ變更ノ登記ヲ申請シタルニモ非サレハ登記所カ右ノ方法ニ依ル資本減少ノ登記ヲ爲シタル以上ハ各株ノ拂込金額ノ變更ヲ登記セサルコトヲ以テ登記ニ遺漏アリト謂フヘカラス從テ此ノ場合ニ資本減少ノ登記ニ遺漏アリトシテ其ノ更正ヲ申請スルコトハ非訟事件手続法第一四八條ノ規定ニ適セサルモノトス (大審大正一三年評論一三卷諸法一一二頁)

第四百八條ノ二 當事者ハ登記ヲ受ケタル後其登記カ商法又ハ本法ノ規定ニ依リテ許スヘカラサルモノナルコトヲ發見シタルトキハ管轄登記所ニ其抹消ヲ申請スルコトヲ得

◎不適法ナル登記ト抹消手續

一 登記官吏カ誤ツテ不適法ノ登記申請ヲ受理登記シタルカ如キ場合ニ於テハ登記申請者ハ先ツ非訟事件手続法第四百八條ノ二ニ依リ該登記ヲ爲シタル管轄登記所ニ對シ其事由ヲ具シテ既存登記ノ抹消ヲ申請スヘク其主張ニシテ容レラレス申請却下ノ裁判ヲ受ケタル時ハ茲ニ初メテ該裁判ニ對シ抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツヘキモノニシテ本件抗告人ノ如ク如上ノ手續ヲ踏ムコトナクシテ漫然不適法ノ申請ニ基キテ爲サレタル登記自體ノ抹消ヲ求メシカ爲メニ當裁判所ニ抗告スルカ如キハ法律ノ許ササルトコロナリ (東京地大正一三年法二二六九號一七頁)

二 元來支店ニ非サルモノヲ支店トシテ登記シタル場合ハ其登記ハ非訟事件手続法第四百八條ノ二又ハ同法第五百一一條ノ二乃至第五百一一條四ノ規定ニ依リ抹消スヘキモノトス而シテ出張所所在地ニ於テノミ爲シタル登記ヲ抹消スルニハ其ノ申請ニ

付テハ同法第五百十條ノ三ノ規定ヲ適用スルコトヲ要セス (司法次官大正七年民七七五號回答)

◎許スヘカラサル登記ノ意義 (第一五一條ノ二)

◎許スヘカラサル登記ノ發見ト其ノ處置 (第一五一條ノ二)

◎不法登記抹消ノ請求ト其ノ當事者

實際存在セサル不實ノ登記カ形式上存在シ原告會社ノ權利ノ行使其ノ活動ノ阻碍セラルル以上原告會社ニ於テ之ヲ除却セサルヘカラサルハ當然ニシテ實際登記事項ノ變更ナク且取締役タル資格ヲ有セサル者ニ依リテ爲サレタル其ノ登記ハ固ヨリ許スヘカラサル不適法ノモノナルヲ以テ後ニ説明スル如ク原告會社ノ取締役員ハ非訟事件手続法第四百八條ノ二ニ依リ其ノ抹消ノ申請ヲ爲シ得ヘキモノナリト雖其ノ登記ノ存シ登記簿上被告等カ現ニ取締役タルノ觀ヲ呈スルコトハ登記官吏カ形式の審査權ヲ有スルニ過キサル我法制ノ下ニアリテハ眞ノ取締役ニ於テ抹消申請ヲ爲スノ妨害タルヘク尙非訟事件手続法第五百一一條ノ一以下ノ法意ヨリ推考スレハ被告等カ實際其ノ登記ヲ申請シタルヤ否ヤテ問ハス被告等チシテ其ノ名ニ依リテ爲サレタル取締役トシテ就任シタルコト其ノ他ノ登記ノ抹消ヲ承認セシムル手續上ノ必要アリ且斯ル場合ニ在リテハ併セテ其ノ理由タルヘキ株主總會ノ決議ノ存在セサルコトノ確認ヲ求ムルコトヲ得ヘキモノニシテ抹消ヲ爲ス事ノ承認ヲ求ムルコトハ抹消登記手續ヲ

爲スコトノ請求中ニ包含スル事項ナリト認メ得ヘキカ故ニ原告ノ請求中右ノ部分ハ其ノ理由アリ被告等ハ登記ノ申請ニ關與セサルノ故ヲ以テ之ヲ拒否スルコトヲ得サルモノトス然レトモ非訟事件手続法第四百八條ノ二ニ於ケル抹消申請ヲ爲シ得ル當事者トハ爲サレタル登記ヲ目標トシ現ニ實體上其ノ登記ノ申請ヲ爲ス權能ヲ有スル者ヲ指稱スルモノト解スルチ相當ト爲スカ故ニ本件ノ場合ニ於ケル當事者ハ即チ實際會社ノ取締役タル地位ニ在ルモノノ總員ニシテ其ノ總員ノミ唯ニ抹消申請ノ資格ヲ有シ取締役タル者ハ其ノ申請ニ與ルコトヲ得ルモノニ非ス左レハ登記ノ形式上取締役タルニ過キスシテ實際其ノ資格ヲ取得シタルモノニ非サル被告等ニ對スル登記ノ抹消手續ヲ爲スヘキコトノ請求ハ其ノ理由ナキモノト謂ハサルヘカラス (仙臺地古川支部昭和二年法二七三九號八頁)

◎〔右ニ對スル研究〕 (判例研究四卷一一號研究篇八五問五七九頁)

第五百十條 本章ノ規定ニ依リ連署ヲ以テ申請ヲ爲スヘキ場合ニ於テ正當ノ事由ニ因リ連署スルコト能ハサル者アルトキハ其他ノ者ノミニテ申請ヲ爲スコトヲ得

連署ヲ爲スコト能ハサル事由ハ之ヲ證明スルコトヲ要ス

◎故意ニ連署ヲ拒否シタル場合ト本條

株式会社ノ解散ノ登記申請ニハ總取締役總監査役ノ連署ヲ要スルコトハ非訟事件手續法第九十五條ノ命スル所ニシテ申請ニ付連署スルコト能ハサル場合之カ正當ノ理由アルトキニ限り非訟事件手續法第五十條ニ依リ其他ノ者ノミニテ申請ヲ爲スコトヲ得ヘキモノナリ而シテ同條ノ正當ノ理由ノ中ニハ登記義務者ノ故意又ハ懈怠ニ依リ連署ヲ爲ササル場合ヲ包含セザルコトハ右登記申請ノ解釋ヨリスルモ明白ナリトス從テ登記申請義務者ノ一人カ故意ニ連署ヲ爲サスシテ爲メニ解散ノ登記ヲ完了スル能ハサル場合ニハ他ノ義務者タル取締役ハ登記申請セザルニ付正當ナル理由アル場合ニ該當セス又株式会社カ株主總會ニ於テ解散ヲ決議シ然カモ取締役ノ一人カ故意ニ連署セス爲メニ他ノ共同申請義務者カ解散ノ登記ヲ完了スルコト能ハサル場合同人ニ對シ他ノ申請義務者ハ之カ連署ヲ求メサルヘカラス或ハ之ニ依テ會社ニ損害ヲ生スルコトアル場合ニハ會社ハ故意ニ連署ヲ爲ササル義務者ニ對シ損害ノ賠償ヲ求メ得ヘキモノトス (東京地大正一四年評諭一五卷諸法一三五頁)

登記ヲ抹消セントシタルハ相當ナルモ機械器具ノ販賣貸與ニ關スル部分ヲモ等シク抹消セントスルハ失當ナリ (大審大正八年民二四三三頁)

第五百十條ノ三 本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ニ付キ支店ノ所在地ニ於テ其登記申請スルニハ申請書ニ本店ノ所在地ニ於テ爲シタル登記申請書面ヲ添附スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ各本條ニ定メタル書類ハ之ヲ添附スルコトヲ要セス

◎本條ノ法意及適用

一 非訟事件手續法第五十條ノ三ノ規定ハ支店所在地ニ於ケル登記申請書ノ添附書類ヲ省略スル趣旨ノミニテ以テ規定セラレタルモノニ非ス本店所在地ニ於ケル各登記所ノ登記ノ統一ヲ期スル必要ニ基キ設ケラレタルモノナルカ故ニ支店所在地ニ於テ登記申請スル場合ニハ必ず申請書ニ本店所在地ニ於ケル登記申請書面ヲ添附スルコトヲ要ス (司法次官大正七年民四六四號回答)

二 舊商法ニ依ル合資會社カ支店所在地ニ於テ登記申請スル場合ニ於テハ非訟事件手續法第五十條ノ三ノ趣旨ニ準シ本店所

第五百十條ノ二 官廳ノ許可ヲ要スル事項ノ登記申請スルニハ申請書ニ官廳ノ許可書又ハ其認證アル標本ヲ添附スルコトヲ要ス

◎電氣器具ノ販賣ト官許ノ要否

抗告會社ハ水力ヲ利用シテ電氣ヲ發生セシメ一般ノ需要ニ應ジテ電燈電力ヲ供給スルコト並ニ電氣ニ關スル諸機械器具ノ販賣貸與ヲ爲スコトノ二箇ノ事業ヲ目的トシテ大正八年四月二日其設立登記ノ申請ヲ爲シ同日登記ヲ結了セリ然レニ非訟事件手續法第五十條ノ二ニ依レハ右電氣發生ノ事業ニ付テハ電氣事業法ニ依ル事業經營許可ノ書類ヲ添附シテ登記ノ申請ヲ爲スコトヲ要スルモノナルニ抗告會社ハ右ノ許可ヲ受クルニ先チテ大正八年四月二日登記ノ申請ヲ爲シタルモノニシテ該登記ハ無効ナルヲ以テ非訟事件手續法第五十一條ノ二ニ依リ之ヲ抹消セザル可カラスト雖モ電氣ニ關スル機械器具ノ販賣貸與ニ付テハ固ヨリ官廳ノ許可ヲ要スルモノニ非ス而シテ其事業ノ性質上電氣發生ノ事業ト不可分の關係ヲ有スルモノニ非サルカ故ニ此部分ニ關スル登記ハ固ヨリ有效ニシテ之ヲ抹消スヘキモノニ非ス然レハ則チ奈良區裁判所柳生出張所カ前記電氣發生ニ關スル部分ノ

在地ニ於テ爲シタル登記申請書面ヲ添附スルニ於テハ其他ノ書面ハ之ヲ要セス (民事局長大正元年民四二二號通牒)

三 商業登記ノ申請書ニハ非訟事件手續法第五十條ノ三ニ依リ必ス本店ノ所在地ニ於テ爲シタル登記申請書面ヲ添附スルコトヲ要シ之ヲ添附セザル申請ハ縱令各本條ニ定メタル書類ヲ添附スルモ同條ノ規定ニ適セザルモノニシテ許スヘキ限ニ在ラズ (大審大正三年民三八七頁)

◎在支那日本會社ノ支店ト本條ノ適用

支那在留ノ本邦人カ我商法ノ規定ニ從ヒ同國ニ於テ會社ヲ設立シ其ノ登記ヲ爲シタル場合ハ勿論我商法及ヒ條約ノ規定ニ從ヒ日支人合併ノ日本會社ヲ設立シ在支那帝國領事館カ之ヲ本邦會社ト認メ右會社ノ設立登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ會社カ本邦内地ニ支店ヲ設ケタルトキハ商法ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地タル支那ニ於テハ勿論支店ノ所在地タル本邦内地ニ於テモ其ノ登記ヲ爲ス可キモノニ付キ此ノ場合ニ於テ非訟事件手續法第五十條ノ三ノ規定ニ依リ申請書ニ本店ノ所在地ニ於テ爲シタル登記申請書面ヲ添附シ支店所在地ノ登記所ニ登記ノ申請ヲ爲シタルトキハ登記所ハ其ノ申請ヲ受理シ支店設立ノ登記ヲ爲ス可キモノトス (司法次官大正三年民八二二號通牒)

◎本條ハ登記期間ニ關スルモノニ非ス



非訟事件手續法第五十條ノ三ハ支店所在地ニ於テ登記ヲ申請スル場合ニ申請書ニ添附スヘキ書類ニ關スル規定ニシテ登記ヲ爲スヘキ期間ニ關スルモノニ非ス (大審大正五年民一四三三頁)

◎支店所在地ノ登記官吏ト審査權ノ獨立

- 一 支店所在地ノ登記官吏ハ本店所在地ノ登記官吏ト獨立シテ登記申請ノ適否ヲ審査スルノ權能ヲ有スルモノトス (東京地大正六年法一三四五號二一頁)
- 二 支店所在地ノ登記官吏ハ本店所在地ニ於ケル登記手續書面ニ對シテハ其適否ヲ審査スルノ權能ヲ有セスト論スルモノアルモ非訟事件手續法第五十條ノ三ノ法意ハ右書面ノ添附ヲ以テ本法各條ニ定メタル書類ノ添附ヲ省略セシメ且統一ノ登記ヲ希望スルノ意ニ過キスシテ敢テ本店所在地ノ登記官吏ノ不適法ナル登記ヲ強ユルモノニアラス從テ支店所在地ノ登記官吏ハ添附書類ノ備不備ニ對シテ固ヨリ容喙スル機會ヲ與ヘラレザルモ申請ノ形式申請ノ内容ニ付テハ本店所在地ノ登記官吏ト獨立シテ其適否ヲ審査スルノ權能ヲ有シ又併セテ義務ヲ有スルモノトス (法曹會決議大正九年法曹記事三〇卷二五頁)

第五百一十一條 登記所ハ登記ノ申請カ商法又ハ本章ノ規定ニ適セザ

ルトキハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ却下スヘシ此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得  
前項ノ決定ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ之ヲ申請人ニ送達スルコトヲ要ス

◎登記官吏ノ審査權

- 一 非訟事件手續法第五十一條ニ依レハ登記所ハ登記申請カ同法第三編第三章ノ規定又ハ商法ノ規定ニ適セザルトキニ限り決定ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ得ヘキモノトス而シテ非訟事件手續法第八十八條第一、二項ニ依レハ變更登記ノ申請書ニハ登記事項ニ付キ株主總會ノ決議ヲ要スル場合ニ於テハ其決議ヲ添附スルコトヲ要スルモノニシテ取締役ノ解任選任ハ株主總會ノ決議ヲ經ヘキモノナレハ解任改選ニ基ク取締役變更ノ登記ヲ申請スルニ當リ申請書ニ株主總會ノ決議ヲ添附セザルトキハ登記所ハ其申請ヲ却下スヘキモノナルコト寔ニ明カナリト雖モ苟モ其決議ヲ添附セラレアリテ形式上適式ナルトキハ登記所ハ進テ之ニ記載セラレタル決議ノ實質ニ付キ調査ヲ爲シ其有效ナルヤ否ヤヲ判斷スルノ職權ヲ有セザルモノナレハ其決議カ實質上無効ナリトノ理由ヲ以テ登記ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス

(大審大正七年民二一八六頁)

- 二 何トナレハ株主總會ノ決議カ有效ナルヤ否ヤハ困難ナル實體法上竝ニ事實上ノ問題ヲ解決スルニアラサレハ容易ニ決スルコトヲ得サルコト鈔カラシテ登記所ニ於テ之ヲ決スルニ適セザレハナリ故ニ非訟事件手續法第五十一條ハ登記官吏ニ形式的審査權ヲ與ヘタルニ過キスシテ斯カル實質的審査權ヲ與ヘタルモノニアラスト解スルチ相當トス是ヲ以テ登記官吏ハ登記申請書及ヒ添附書類カ形式上適式ニ成立シタルヤ否ヤヲ審査スルコトヲ得ルニ過キスシテ一旦其適式ナルコトヲ判斷シタル以上ハ縱令決議録ニ記載セラレタル決議カ招集ノ權限ヲ有セザルモノノ招集シタル株主總會ノ決議ナル爲メ法律上當然無効ニシテ商法第六十三條ノ規定ニ依リ訴テ却下セザル場合ト雖モ登記官吏ニ於テ其無効ヲ判斷スルコトヲ得サルモノトス然ルニ原裁判所カ登記官吏ハ變更登記申請書ニ添附セル決議録ニ掲ケタル決議ノ實質上無効ナルヤ否ヤヲ審査スル職權アリト爲シ豐橋區裁判所登記官吏カ假處分命令ニ依リ職務執行ヲ停止セラレ其後取締役ヲ解任セラレタル西岡忍龍ノ招集開會シタル株主總會ノ爲シタル決議ハ無効ナリト判斷シ登記申請ヲ却下シタルハ相當ナリト裁判シタルハ不法ニシテ抗告論旨ハ理由アリ(同上)
- 三 登記官吏ノ審査權(續商法四五二頁、本卷〔フ〕不動産登記法四九條)

◎許スヘカラサル登記ノ意義(第一五一條ノ二)

諸法令下 [七] 非訟事件手續法

一五一條ノ二

一八三五

◎許スヘカラサル登記ノ發見ト其ノ處置(第一五一條ノ二)

◎支店所在地ノ登記官吏ト審査權ノ獨立(第一五〇條ノ三)

第五百一十一條ノ二 登記所ハ登記ヲ爲シタル後其登記カ商法又ハ本法ノ規定ニ依リテ許スヘカラサルモノナルコトヲ發見シタルトキハ登記ヲ爲シタル者ニ對シ一ヶ月ヲ超エサル期間ヲ定メ其期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ登記ヲ抹消スヘキ旨ヲ通知スヘシ  
登記ヲ爲シタル者ノ住所又ハ居所カ知レザルトキハ前項ノ通知ニ代ヘ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ公告スヘシ  
登記所ハ右ノ外相當ト認ムル新聞紙ニ同一ノ公告ヲ掲載セシムルコトヲ得

◎許スヘカラサル登記ノ意義

- 一 非訟事件手續法第五十一條ノ二「登記カ商法又ハ本法ノ規定ニ依リ許スヘカラサルモノ」トアルハ同法第五十一條ニ依リ申請ヲ却下スヘキ總テノ場合ヲ包含スルモノニ非ス登記シタル事件カ其登記所ノ管轄ニ屬セザルトキ又ハ事件カ登記スヘキモノニ非ザルトキノミチ云フモノニシテ即チ不動産登記法第

百四十九條ノ二ト同趣旨ニ解スヘキモノトス(法曹會決議大正三年法曹記事二四卷五號七六頁)

二 合名會社ノ解散カ商法ノ定ムル要件ヲ具ヘサルカ爲無効ナル場合ニ於テハ右解散ニ基キ爲サレタル解散清算人選任ノ登記ハ非訟事件手續法百四十八條ノ二及百五十一條ノ二第一項ニ所謂商法又ハ本法ノ規定ニ依リテ許ス可カラサルノ登記ニ該當シ其ノ抹消ハ右各法條ニ基キ當事者ノ申請又ハ職權ヲ以テ爲サル可キモノトス(大審昭和二年彙報三八卷民事下一三九頁)

◎許スヘカラサル登記ノ發見ト其ノ處置

非訟事件手續法百五十一條ノ二第一項ニ「登記所ハ登記ヲ爲シタル後其登記カ商法又ハ本法ノ規定ニ依リテ許スヘカラサルモノナルコトヲ發見シタルトキハ登記ヲ爲シタル者ニ對シ一ヶ月ヲ超ヘサル期間ヲ定メ其期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ登記ヲ抹消スヘキ旨ヲ通知スヘシ」トアリテ登記官吏ハ登記事項ニ付キ實質ノ如何ヲ審査スル職責ナキニセヨ其實質カ商法ノ規定ニ從ヒ通知ヲ爲スヘキコト法文上明カナリ而シテ外國ニ於テ設立セラレタル會社ト雖モ日本ニ本店ヲ設ケルモノハ日本ニ於テ設立スル會社ト同一ノ規定ニ從フヲ要スルコト商法第二百五十八條ニ定ムル所ナルニ原審ノ確定スル所ニ依レハ抗告會社ハ米國ニ於テ設立セラレタル株式會社ニシテ日本ニ本店ヲ設ケル

モノナルニ拘ハラス商法ノ規定ニ從ハサルモノナルヲ以テ商法上成立ヲ認メラルヘキニ非サレハ曩キニ東京區裁判所ニ於テ抗告會社ノ申請ニ因リテ爲シタル登記ハ商法ノ規定ニ依リ許スヘカラサルモノナルコト更ニ多言ヲ缺タス然レハ同裁判所ノ登記官吏カ此事實ヲ發見シタルニ因リ前示非訟事件手續法ノ規定ニ從ヒ抗告會社ニ對シ登記ヲ抹消スヘキ旨ノ通知ヲ爲シタルハ正當ナリ(大審大正七年民二三三〇頁)

◎登記官吏ノ審査權(第一五一條)

百五十一條ノ六 登記所ハ登記ヲ爲シタル後其登記ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滞ナク登記ヲ爲シタル者ニ其旨ヲ通知スヘシ但其錯誤又ハ遺漏カ登記所ノ過誤ニ出テタルトキハ此限ニ在ラス  
前項但書ノ場合ニ於テハ登記所ハ遲滞ナク地方裁判所長ノ許可ヲ得テ登記ノ更正ヲ爲スヘシ

◎本條ニ所謂錯誤又ハ遺漏ノ意義

非訟事件手續法第一五一條ノ六ニ所謂錯誤又ハ遺漏トハ登記セムト欲セシトコロト登記セラレタルコトカ一致ヲ缺ク場合ヲ指スモノナルコトハ之ヲ民事訴訟法第二四一條ノ所謂錯誤若クハ民法ニ所謂錯誤等ノ意義ニ照シテ明白ナリトス(東京控大正九年評論九卷商法四九三頁)

◎商號登記ニ關スル諸問

- ◎同一營業ノ意義(第二續商法一三〇三頁)
- ◎商號ノ類似セルヤ否ヲ定ムル標準(第二續商法一三〇五頁)
- ◎未登記商號ニ權利ヲ認ムルヤ(第二續商法一三〇三頁)
- ◎營業未開始者ト商號登記ノ許否(同上)

百五十七條 不動産登記法第十條、第十三條、第十八條、第二十二條、第二十四條及百五十九條ノ規定ハ商業登記ニ之ヲ準用ス

◎行政區劃ノ變更ト變更登記ノ要否(第一四七條)

百五十八條 商號ノ登記ハ同市町村内ニ於テハ同一ノ營業ノ爲メ他人カ登記シタルモノト判然區別シ得ルトキニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

百七十八條 清算ノ終了ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ清算人カ其計算ノ承認ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

◎本條ニ關スル諸問(第二續商法一三八五頁)

百八十條 合名會社ノ支店ノ設立、其本店又ハ支店ノ移轉其他變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス  
前項ノ申請書ニハ其登記事項ニ付キ總社員ノ同意又ハ或社員ノ一致ヲ要スル場合ニ於テハ會社ヲ代表スヘキ社員ノ定アルトキニ限リ總社員ノ同意又ハ或社員ノ一致アリタルコトヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

商法第八十三條ノ但書ノ規定ニ依リ裁判所ノ或社員ヲ除名シタル場合ニ於ケル變更ノ登記ノ申請書ニハ其判決ノ謄本ヲ添付スルコトヲ要ス

◎會社ノ變更登記ト其ノ義務者

- 一 會社カ右登記ノ義務ヲ履行スル手續ニ付テ之ヲ觀ルニ非訟事件手續法第八十六條但書ニハ合名會社ニ於テ總社員ノ申請ニ因リテ爲スヘキ登記ハ合資會社ニ於テハ其無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スル規定シアルモ其本文ニ於テ同法第八十條ノ規定ヲ準用シアリテ同條第一項ニハ變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スル規定シアルニ依テ之ヲ觀レハ合資會社ニ於ケル變更ノ登記ハ會社ヲ代表スル無限責任社員全員ヨリ其申請ヲ爲スヘキモノナルコト明カナルヲ以テ其無限責任社員カ合資會社ノ代表者トシテ社員變更ノ登記ヲ爲スヘキモノト解スルチ相當トス(大審大正六年民六一頁)
- 二 非訟事件手續法第一八〇條ニ所謂變更ノ登記トハ登記スヘキ事項ニ變更アリテ其ノ變更ヲ登記スヘキ場合ニ該リ登記セラレ

リテ之ヲ爲ス

◎會社ノ變更登記ト其ノ義務者(第一八六條)

第百八十八條 支店ノ設立、本店又ハ支店ノ移轉其他變更ノ登記ハ總取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

◎本條ノ總取締ノ意義

- 一 本條第一項ニ所謂總取締役トハ法律又ハ定款ニ定メタル員數ノ取締役ノ謂ニ非スシテ變更登記ヲ申請スヘキ當時ニ於テ商法第百六十七條ノ二ニ依リ取締役ノ權利義務ヲ有スル地位ニ在ル者及ヒ現ニ在任セル取締役ノ總員ヲ意味スルモノトス(東京控大正九年法一六七五號一六頁)

タル事項カ事實ニ合セサルカ爲其登記ヲ抹消スヘキ場合チ云フモノニアラス然レトモ合名會社ノ解散カ商法ノ定ムル要件ヲ具ヘサルカ爲無効ナル場合ニ於テハ右解散ニ基キ爲サレタル解散清算人選任ノ登記ハ非訟事件手續法第一四八條ノ二及第一五一條ノ二第一項ニ所謂商法又ハ本法ノ規定ニ依リテ許スヘカラサル登記ニ該當シ其ノ抹消ハ右各法條ニ基キ當事者ノ申請又ハ職權チ以テ爲サルヘキモノニシテ而モ合名會社ノ登記ハ一般ニ會社カ其申請人タルヘキモノニ非ス其ノ場合ニ從ヒ特ニ法律ニ依リ定メラレタル社員其他ノ一定ノ資格ヲ有スル者カ申請人タル可キモノナルチ以テ右第一四八條ノ二ニ所謂當事者ノ何人ナルカモ亦社員其他ノ者ニ付キ之ヲ定ムヘキモノニシテ直接ニ適用スヘキ明文ナキノ故チ以テ直ニ會社夫自體ヲ其申請人タルヘキモノト解スヘキモノニアラサルヤ言テ俟タス(大審昭和二年彙報三八卷民事下一三九頁)

◎本條ノ趣旨(第一四七條)

第百八十六條 第百七十九條乃至第百八十四條ノ三ノ規定ハ合資會社ノ登記ニ之ヲ準用ス但合名會社ニ於テ總社員ノ申請ニ因リテ爲スヘキ登記ハ合資會社ニ於テハ其無限責任社員ノ全員ノ申請ニ依

- 二 非訟事件手續法第百八十八條第一項ニ總取締役ト云ヘルハ只普通ノ場合ニ著眼シテ斯ク云ヘルニ過キスシテ其ノ眞意ハ取締役ノ權利義務ヲ有スル者總員ノ義ナリト解セサルヘカラス蓋若然ラストセハ登記ノ必要ヲ生シタル後總取締役辭任シタルカ如キ場合ニハ一人モ登記義務者ナキニ至ルノ不都合アレハナリ次ニ取締役就任シタル場合ニ於テハ未タ法定數ニ達セザルトキト雖其ノ就任ナキモノト云フチ得ス其ノ就任ノ時ヨリ之カ登記ノ必要ヲ生スルモノトス(當院大正二年(ク)第四百十四號同年十二月十二日ノ決定參照)而シテ新ニ就任シタル取締役即現任ノ取締役ハ法定數ニ達セス退任シタル取締役ニシテ猶取締役ノ權利義務ヲ有スル者ヲ加フレハ定款所定ノ取締役定員ヲ超過スル場合ト雖其ノ退任取締役ハ定款ニ所謂取締役ニハ非スシテ現任取締役ト俱ニ非訟事件手續法第百八十八條第一項ニ所謂取締役ニ該當スト解スヘキモノナルカ故ニ取締役ノ定員ニ達セザル以前ニ於テモ既ニ就任シタル取締役ニ付テハ其ノ就任ヲ登記スヘキモノトス(大審大正一五年法二六五〇號一〇頁)
- 三 (右ノ引用判例)取締役ノ退任就任ト變更登記(商法八六頁)

- ◎退任重役ト職務執行權(第二續民法一四九九頁)
- ◎監査役ノ退任就任ト職務執行ノ當否(第二續商法一五三四頁)

◎支店設立ノ登記ト申請者

- 一 會社ノ登記手續ニ關スル非訟事件手続法第百八十八條ニ依リハ株式會社ニ於ケル支店設立登記ハ會社ノ總取締役ヨリ申請スヘキモノニシテ會社ハ此場合ニ於ケル登記申請人トシテ適格ヲ有セサルモノトス(大審大正六年法一二五三號二四頁)
- 二 株式會社ノ支店設立ノ登記申請ハ總取締役ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要シ會社ハ其申請人トシテ適格ヲ有セス(大阪地大正六年法一二一九號二八頁)

第百八十九條

會社ノ資本増加ノ登記ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スルコトヲ要ス

- 一 株式ノ引受ヲ證スル書面
- 二 株式申込證
- 三 商法第百二十四條ノ規定ニ從ヒテ監査役又ハ検査役力爲シタル調査報告書及ヒ其附屬書類
- 四 資本ノ増加ニ關スル株主總會ノ決議錄

◎本條第四號ノ解釋

非訟事件手続法第百八十九條第四號ニ所謂株主總會ノ決議錄トハ商法第百八條同第百九條ニ依リ作成セラルル決議錄ノ外尙ホ同第百二十三條ノ報告ニ因リ總會ニ於テ作成セラルヘキ決議錄ヲモ併稱スルモノトス(大審四一年刑八九頁)

◎株式會社ノ合併ト報告總會(第二續商法一三三六頁)

第百九十條

會社ノ資本減少ノ登記ノ申請書ニハ之ニ關スル株主總會ノ決議錄ヲ添付スルコトヲ要ス

第百八十二條第二項ノ規定ハ資本減少ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

◎資本減少ト登記申請期間

資本減少ノ方法ヲ完了シタル時ヨリ起算スヘキモノトス(民事局長一〇年民事三一號回答)

◎資本減少ノ登記ト公告及催告ノ書面(第二續商法一五五五頁)

設立ノ登記ハ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

◎合併會社ノ拂込不同ト登記ノ受否

甲、乙、丙ノ三會社ヲ合併シテ丁ナル株式會社ヲ新設スル場合右三會社ノ株主ニ割當テタル各株ノ拂込金額不同(甲會社ハ十二圓五十錢、乙會社ハ十五圓丙會社ハ二十圓拂込ノ如シ)ナリトモ該新設登記申請ハ受理スヘキヤ……「回答」株式ノ金額同一ナルニ於テハ貴見ノ通ト思考ス(昭和三年六月四日民事第六四七號民事局長回答、法曹會雜誌第六卷七號一三五頁)

◎會社ノ合併ト拂込額ヲ異ニスル株式(第二續商法一四四一頁)

◎故意ニ連署ヲ拒否シタル場合ト本條(第一五〇條)

第百二十二條 外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケタル場合ニ於テ其登記ヲ申請スルトキハ會社ノ代表者ハ申請書ニ支店ノ代表者ノ氏名、住所ヲ記載シ且左ノ書面ヲ添付スルコトヲ要ス  
一 本店ノ存在ヲ認ムルニ足ル書面

◎引受ヲ證スル書面ノ意義

本條二三所謂引受ヲ證スル書面トハ株式會社ノ合併ノ際資本金ヲ増加スル場合ニ於テ其増加部分ニ對スル株式ノ引受ヲ證スル書面ヲ謂フ會社ノ合併ニ因ル株式併合ノ場合ニ於テ商法第百二十五條第二項ニ依リテ準用セラルル同法第百二十條ノ三第ニ項ニ依リテ行ハレタル競賣ノ結果新株式ノ競落アリタルコトヲ證スル書面ハ之ニ該當セス何トナレハ其ノ新株ノ競落ハ會社所有ノ株式ノ讓渡ト解スヘキモノニシテ新株式ノ引受ト解スヘキモノニ非ラサレハナリ(法曹會雜誌大正一二年法曹會雜誌二卷二號八五頁)

第百九十三條ノ二 株式會社カ合併ニ因リ變更ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第百八十二條第二項及第百八十九條第三號、第四號ニ掲ケタル書類及ヒ株式ノ割當並ニ引受ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第百九十五條 資本ノ増加並ニ減少、解散及ヒ合併ニ因リ變更並ニ

- 二 代表者タル資格ヲ證スル書面
  - 三 會社ノ定款又ハ會社ノ性質ヲ識別スルニ足ル書面
- 前項ノ書面ハ外國會社ノ本國ノ管轄官廳又ハ日本ニ在ル領事ノ認  
證ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス

◎第一項第一號及第二號ノ解

非訟事件手續法第二百二條ニ規定セル本店ノ存在ヲ認ムルニ足  
ル書面及代表者タル資格ヲ證スル書面ハ外國會社ノ管轄官廳又  
ハ日本ニ在ル領事ノ認證ヲ受ケタルモノナル以上他ニ一定ノ形  
式ヲ要スル規定ナキカ故ニ如何ナル形式ノ書面ナリトスルモ同  
條ノ要件ニ何等ノ欠缺ナキモノトス(靜岡地大正七年評論七卷  
諸法三三〇頁)

◎外國會社ト支店代表者ノ選任(續民法七三七頁)

第二百七條

過料ノ裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スハ  
裁判所ハ裁判ヲ爲ス前當事者ノ陳述ヲ聽キ檢事ノ意見ヲ求ムハ  
シ

當事者及ヒ檢事ハ過料ノ裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗  
告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス  
手續ノ費用ハ過料ニ處スル言渡アリタル場合ニ於テハ其言渡ヲ受  
ケタル者ノ負擔トシ其他ノ場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス  
抗告裁判所カ當事者ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタルトキハ抗告  
手續ノ費用及ヒ前審ニ於テ當事者ノ負擔ニ歸シタル費用ハ國庫ノ  
負擔トス

◎過料事件ノ審問

- 一 非訟事件手續法第二百七條ノ過料ノ裁判ヲ爲スニ付キ當事者  
ノ陳述ヲ聽ク爲メ之ヲ呼出シタルモ出頭セザルトキハ缺席ノ儘  
裁判ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(民刑局長三一年民刑第二三八  
六號回答)
- 二 戶籍法違反事件ニ付キ裁判所ハ違犯者ヲシテ申述ヲ爲サシム  
ル爲メ相當ノ手續ヲ爲シタルニ拘ラス其申述ヲ爲サザルトキハ  
檢事ノ意見ヲ求メタル上自由ナル心證ニ依リテ之カ裁判ヲ爲ス  
ヘキモノトス(民刑局長三二年民刑二〇一號回答)

◎檢事ノ意見ヲ聽カサル過料ノ裁判

◎過料事件ノ裁判ト抗告

過料ノ裁判ニ對スル抗告事件ニ付キ抗告裁判所カ檢事ノ意見ヲ  
聽カスシテ直ニ裁判ヲ爲スモ之カ爲メニ其裁判ヲ廢棄スル事ヲ  
要スルモノニ非ス(大審大正三年民二九頁)

- 一 過料事件ニ付キ違反者ヲ處罰セザル場合ト雖モ非訟事件手續  
法第二百七條ニ依リ裁判ヲ爲スヘキモノトス(民事局長四四年  
民刑四二八號回答)
- 二 檢事ハ右不罰ノ決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ(同上)
- 三 過料ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ノ方法ニ依リ不服ノ申立ヲ爲  
スヘキモノトス(長崎控一〇年評論一〇卷諸法三六六頁)

四 商法施行法第五十三條ニ規定セル登記ヲ懈怠シタル爲メ過料  
ニ處セラレタル事件ニ對スル抗告ノ手續ハ民事訴訟法第四百五  
十六條ヲ準用ス(大審三二年民一〇二二頁)

第二百八條 過料ノ裁判ハ檢事ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス此命令ハ執  
行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス  
過料ノ裁判ハ執行ハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ之レヲ爲シ  
執行ヲ爲ス前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

諸法令下 (七)

廣島縣職工募集取締規定

◎過料ノ裁判ノ執行

- 一 非訟事件手續法第二百八條第二項ハ過料ノ裁判ノ執行方法ヲ  
定メタルモノニシテ過料ノ裁判アリタルトキハ檢事ハ必ス執行  
ノ命令ヲ爲ササルヘカラサルハ本條ニ依リ決定セラレヘキモ  
ノニ非ス(民刑局長三二年民刑第八六四號回答)
- 二 過料ノ裁判ノ執行ハ檢事ナキ區裁判所ニ於テハ其地ノ警察官  
ニ於テ之ヲ爲シ得ヘキモノトス(民刑局長三二年民刑第一六二  
四號回答)

廣島縣職工募集取締規定

(廣島縣令)

◎本令ニ基ク廣島縣令ノ效力(諸法令上卷四九四頁)

### 府縣制

(明治三十二年法律第六十四號)  
(改正大正十五年法律七十三號)

第六條第一、二項 府縣内ノ市町村公民ハ府縣會議員ノ選舉權及被選舉權ヲ有ス  
陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者(未タ入營セサル者及歸休下士官兵ヲ除ク)及戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ者ハ選舉權及被選舉權ヲ有セス兵籍ニ編入セラレタル學生生徒(勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除ク)及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者亦同シ

### ◎府縣制第六條第二項ノ事變ノ意義

本條第二項ニ所謂事變トハ國家ノ存立ニ影響ヲ及ボスヘキ程度ノモノニ局限セラレヘキモノニ非スシテ兵役法ニ所謂事變ト同一ニ解釋スヘキモノトス(行政昭和三年法二九一五號一二頁)

### ◎選舉人名簿ノ無登錄ト被選舉權

選舉人名簿ニ登錄セラレルコトハ被選舉權ノ要件ニ非ス(行

政昭和三年法二九一五號一五頁)

◎議員ノ資格ト被選舉權トノ關係(諸法令中卷七七一頁)

### 第二十七條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

- 一 成規ノ用紙ヲ用キサルモノ
  - 二 議員候補者ニ非サル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
  - 三 一投票中二人以上ノ議員候補者ノ氏名
  - 四 被選舉權ナキ議員候補者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
  - 五 議員候補者ノ氏名ノ外他學ヲ記載シタルモノ但シ爵位、職業、身分、住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス
  - 六 議員候補者ノ氏名ヲ自書セサルモノ
  - 七 議員候補者ノ何人ヲ記載シタルカヲ確認シ難キモノ
  - 八 府縣會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 前項第八號ノ規定ハ第八條、第三十二條又ハ第三十六條ノ規定ニ依ル選舉ノ場合ニ限り之ヲ適用ス

### ◎振假名又ハ表裏兩面記載ノ投票

被選舉人ノ氏名ニ振假名ヲ施シ又ハ投票用紙ノ表裏兩面ニ被選舉人ノ氏名ヲ記載シタルハ何レモ氏名以外ノ記載ニ非サルヲ以テ其投票ハ無効ト云フヲ得ス(行政大正一四年法二三九三號一八頁)

### ◎投票ノ效力ニ關スル諸問(諸法令中卷七四八頁以下、本卷〔七〕町村制二五條)

第二十八條 投票ノ效力ハ選舉立會人ノ議決ス可否同數ナルトキハ選舉長之ヲ決スヘシ

### ◎候補者ノ被選舉權有無ノ決定時期

府縣制第二十七條第一項第四號第二十八條乃至第二十九條ノ三第五項ニ徴スレハ府縣會議員候補者ノ被選舉權ノ有無ハ選舉會ニ於テ選舉長力選舉立會人ノ意見ヲ聽キ之ヲ決定スヘク候補者ノ届出當時選舉長ニ於テ被選舉權ノ有無ヲ調査シ其届出ノ受理不受理ヲ決定スヘキモノニ非ス(行政昭和三年法二八二三號一四頁)

### 第三十一條

當選者定マリタルトキハ選舉長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ同時ニ當選者ノ住所氏名ヲ告示シ且選舉錄及投票錄ノ寫ヲ添ヘ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ當選者ナキトキハ直ニ其旨ヲ告示シ且選舉錄及投票錄ノ寫ヲ添ヘ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ  
當選者當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ其ノ當選ヲ承諾スルヲ否テ府縣知事ニ申出ツヘシ  
一人ニシテ數選舉區ノ選舉ニ當リタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ何レノ選舉區ニ應スヘキカヲ府縣知事ニ申立ツヘシ  
前二項ノ申立テ其ノ期限内ニ爲ササルトキハ當選ヲ辭シタルモノト看做ス  
第六條第六項ニ掲グル在職ノ官吏以外ノ官吏ニシテ當選シタルモノハ所屬長官ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ニ應スルコトヲ得ス  
前項ノ官吏ニシテ當選シタル者ニ關シテハ本條ニ定ムル期間ヲ二十以內トス  
府縣ニ對シ請負ヲ爲シ又ハ府縣ニ於テ費用ヲ負擔スル事業ニ付府縣知事者ハ其ノ委任ヲ受ケタル者ニ對シ請負ヲ爲ス者若ハ其

支配人又ハ主トシテ同一ノ行為ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、役員若ハ支配人ニシテ當選シタル者ハ其ノ請負ヲ罷メ又ハ請負ヲ爲ス者ハ支配人若ハ主トシテ同一ノ行為ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、役員若ハ支配人タルコトナキニ至ルニ非サレハ當選ニ應スルコトヲ得ス  
前項ノ役員トハ取締役、監査役及之ニ準スヘキ者其清算人ヲ謂フ

◎縣會議員ノ資格取得ノ始期

縣會議員ノ資格ハ當選ノ效力ニ依リ取得スルモノニシテ其任期ノ起算點ハ承諾ノ申立テ候テ始マルモノニアラス唯之ヲ辭シ又ハ之ヲ辭シタルモノト看做スヘキ場合ニ當選ハ其效力ヲ解除セラルルニ過キス故ニ縣會議員ニ當選シタル者カ承諾又ハ辭退ノ未定ナル時期ニ於テ縣會議員ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受スルニ於テハ即チ公務員其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シタルモノニシテ刑法第百九十七條ノ犯罪ヲ構成スヘキモノトス(大審大正元年刑五六五頁)

◎府縣ノ請負ヲ爲ス者ノ範圍

一 新聞紙ノ持主ニシテ府縣ノ報酬ヲ得テ縣公文ヲ該新聞紙上ニ

掲載スヘキコトヲ約シタル者ハ府縣制第六條第十一項ニ所謂府縣ニ對シ請負ヲ爲ス者ニ該當シ其ノ府縣ニ於テ被選舉權ヲ有ス(行政大正一四年法二四三八號一五頁)  
二 政府ノ請負ヲ爲ス者ノ範圍(諸法令中卷七三三頁)

◎縣金庫事務ノ取扱銀行ト請負法人

一 銀行ノ營業目的業務ノ範圍取扱金額及利益金額等何レノ方面ヨリ之ヲ觀ルモ縣金庫事務取扱銀行業務ノ主要ナル部分ヲ占ムルモノト認ムルヲ得サル場合ハ其ノ銀行ハ府縣制第六條第一項ニ規定スル主トシテ府縣ニ對シ請負ヲ爲ス法人ニ該當セサルモノトス(行政大正一四年評論一四卷諸法二九九頁)  
二 縣金庫事務ノ取扱ヲ爲ス銀行ノ委託ヲ受ケ縣支金庫事務ノ取扱ヲ爲ス銀行ハ假令其ノ委託ヲ受クルニ付キ縣ノ認可ヲ經又縣カ直接ニ之ニ對シテ指揮監督ヲ爲シ若クハ之ヲシテ報告ヲ爲サシムル事實アリトスルモ縣ハ直接ニ契約ヲ締結セサル以上府縣制第六條第九項ニ所謂府縣ノ爲メ請負ヲ爲ス法人ト謂フヲ得ス(行政四五年法七八五號二五頁)  
◎政府ニ對シ請負ヲ爲ス法人(諸法令中卷七三四頁)

◎選舉ノ規定ニ違反シタル選舉ノ效力

縣會議員選舉ニ於テ假ニ(一)選舉人ニ非サル者カ投票所内ニ

◎被選舉權ノ喪失決定ノ性質

被選舉權ノ喪失ナル事實ハ其原因タル事由ノ發生ニ因リ當然發生スルモノニシテ府縣參事會ノ決定ハ單ニ其事由中確認ヲ要スルモノニ付之ヲ爲スニ過キサルコトハ同法第三十七條第一項ニ照シ明瞭ナレハ該決定ハ確認的ノモノニシテ創設的ノモノニ非ス從テ決定ノ日カ被選舉權回復後ナルノ故チ以テ該決定ヲ違法ナリト爲ス(行政昭和三年法二九一五號一二頁)

第四十條 府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

◎本條ノ法意及適用

一 府縣制第四十條ニ依リ府縣會議員選舉ニ付準用セララル衆議院議員選舉法第百二條ニ所謂被選舉人タルコトヲ禁ストハ被選舉權ヲ喪失セシムルノ意義ナリトス(行政大正六年法一三三三號三二頁)  
二 府縣制第四十條ニ「衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス」トアルハ同法頒布ノ當時既ニ行ハレタル衆議院議員選舉ニ關ス

入り投票記載所附近ヲ徘徊シ(二)議員候補者ノ運動員カ投票所内ニ入りテ投票者ニ話懸ケ又ハ椅子ニ坐シ長時間滞留シテ一般投票者ノ顔ヲ窺視シ其ノ自由意思ヲ妨ケ(三)選舉人カ投票所内ニ出入シテ未タ投票セサル者ノ氏名ヲ調査シ使又ハ電話ヲ以テ呼出テ爲シ(四)選舉ニ關係ナキ吏員カ自由ニ投票所内ニ在リテ執務シ居リタル等ノ事實アリトスルモ之カ爲選舉人カ其ノ意ニ非サル議員候補者ヲ選舉シタルコトヲ認ムルヲ得サル以上該選舉ハ之ヲ無効トスヘキ限ニ在ラス(行政昭和三年法二八九七號九頁)

◎本條ノ法意(本卷「チ」町村制三二條)

◎「選舉ノ規定ニ違反スル」ノ意義(本卷「チ」町村制三二條)

第三十七條第一項 府縣會議員被選舉權ヲ有セサル者ナルトキ又ハ第三十一條第七項ニ掲グル者ナルトキハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ノ有無又ハ第三十一條第七項ニ掲グル者ニ該當スルヤ否ハ府縣會議員カ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ因リ被選舉權ヲ有セサル場合ヲ除クノ外府縣參事會其ノ異議ヲ決定ス

ル罰則ノミニ止マラス其後行ハルヘキ同罰則ヲモ準用スルノ旨趣ナリトス(大審四一年刑六〇五頁)

◎同旨(大審三七年刑一五三頁)

三 府縣制第四十條ニ依リ府縣會議員選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ストアリ而シテ其所謂衆議院議員選舉ニ關スル罰則ハ昭和三年二月二十日ノ總選舉ヨリ施行セラレタルコト明ナレトモ本件選舉ハ大正十五年法律第七十三號府縣制中改正法律ノ附則第一項ニ本法中議員選舉ニ關スル規定ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ストアルニ依リテ列示年月日施行セラレタルモノニシテ同條第五項ニハ「本法施行ノ際大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法未タ施行セラレサル場合ニ於テハ本法ノ適用ニ付テハ同法ハ既ニ施行セラレタルモノト看做ス」トノ規定アルヲ以テ本件ニ付衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ適用シタルハ相當ナリ(大審昭和三年法二八二八號一頁)

◎府縣制四十條改正前本條ノ法意(諸法令中卷八〇六頁)

◎選舉法ノ施行時期(諸法令上卷八一〇頁)

第六十八條

府縣參事會ノ職務權限左ノ如シ  
一 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事

代リ府縣會ノ權限ニ屬スル事項ヲ議決スルコトヲ規定セリ而シテ該議決ノ行政事務執行ニアラサルコトハ言テ要セザル所ナリ其第三項ニ於テ府縣參事會ハ府縣知事ヨリ府縣會ニ提出スル議案ニ付キ府縣知事ニ對シ意見ヲ述フヘキコトヲ規定セリ道ハ府縣ノ利益ヲ圖リ府縣會ノ意思ヲ府縣ノ行政官ニ疏通セシムル爲メノ規定ナレハ素ヨリ府縣行政ノ執行ナリトスルヲ得ス其第四項ニ於テ府縣參事會ハ府縣會ノ議決シタル範圍内ニ於テ財產及營造物ノ管理ニ關シ重要ナル事項ヲ議決シ其第五項ニ於テ府縣參事會ハ府縣費ヲ以テ支辨スヘキ工事ノ執行ニ關スル規定ヲ議決スヘキコトヲ規定セリ以上兩項ノ規定ニ依レハ稍參事會ハ府縣行政ノ執行ニ從事スルカ如キ疑アルモ右兩項ノ規定ヲ同第八十七條ニ參照セハ府縣會議決ノ意思ヲ貫徹セシムル爲メ參事會ニ於テ府縣會ノ意思ヲ表明シ以テ府縣行政官ヲシテ該意思ニ從フテ府縣財產及營造物ヲ管理シ又ハ工事ノ執行ヲ爲サシムルノ法意ナルコトヲ知り得ヘキヲ以テ是レ亦參事會ハ府縣行政ノ執行ニ干與スルモノト云フヲ得ス又其第六項ニ於テ參事會ハ府縣ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事項ヲ議決シ其第七項ニ於テ參事會ハ法令ニ依リ其權限ニ屬スル事項ヲ議決スヘキコトヲ規定スルモノモ參事會ヲシテ府縣ノ行政ノ執行ヲ爲サシムルモノト認メ得ヘキモノナキノミナラス府縣制ニ於テ府縣參事會ヲ以テ府縣ノ代議機關ナル府縣會其物ト同一視スルコトハ同第八十二條同第八十三條同第八十五條ニ於テ府縣會若クハ府縣參事會

二 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急務ヲ要シ府縣知事ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキ府縣會ニ代テ議決スル事

三 府縣知事ヨリ府縣會ニ提出スル議案ニ付府縣知事ニ對シ意見ヲ述フル事

四 府縣會ノ議決シタル範圍内ニ於テ財產及營造物ノ管理ニ關シ重要ナル事項ヲ議決スル事

五 府縣費ヲ以テ支辨スヘキ工事ノ執行ニ關スル規定ヲ議決スル事但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 府縣ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事項ヲ議決スル事

七 其ノ他法律命令ニ依リ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事項

◎府縣參事會ト府縣行政ノ執行

◎府縣參事會名譽參事會員ノ性質

一 府縣參事會ノ職務權限ヲ規定シタル府縣制第六十八條ヲ審按スルニ其第一第二項ニ於テ府縣參事會ハ府縣會ノ委任ヲ受ケタルトキ又ハ急務ヲ要シ府縣會ヲ招集スル暇ナキトキハ府縣會ニ

ノ議決云云トシ府縣會ノ議決ト府縣參事會ノ議決ト同一視スルニ依ルモ明ナリ既ニ府縣參事會ヲ以テ府縣會ト同一視スル以上ハ同制ニ於テ府縣參事會ヲ以テ府縣ノ行政ヲ執行スルモノト認メサルハ多言ヲ要セザル所ナリ又府縣制第四章即チ府縣行政ノ規定シタル章中第八十七條ニ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事項ハ其議決ニ依リ府縣知事ニ於テ專決處分スルコトヲ得トアリ是ニ由テ之ヲ視レハ府縣知事ハ府縣參事會ナル議決機關ニ於テ議決シタル後初メテ其議決ニ係ル事項ノ執行ニ着手スルヲ得ルモノナリ左スレハ參事會ノ職務權限ニ屬スル議決ナルモノハ府縣ノ行政執行ニ屬セザルコト愈明了ナリ(大審三六年刑一四三頁)

二 今試ニ市制ヲ按スルニ同制ニ於テハ市參事會ヲ以テ市ノ行政機關トナシタルカ故ニ同制第三章市行政中ニ於テ市參事會ノ職務權限ヲ規定シ其職務權限ノ規定ニハ市會ノ議決ヲ執行スル事等ノ明文アリ之ニ反シテ府縣制ニ於テハ府縣參事會ノ爲メニ別ニ一章ヲ設ケ之ヲ府縣行政ノ章中ニ於テ規定セザルノミナラス其職務權限ノ規定中ニハ總テ何々ノ事項ヲ議決ストアリテ府縣會ノ議決ヲ執行スル等ノ文字ナク毫モ市參事會ノ職務權限ニ類スル所アルナシ是ニ由テ之ヲ視ルモ立法者ニ於テ府縣參事會ヲ以テ府縣ノ行政執行機關ト爲スノ意ニアラサルコトヲ知ルニ足レリ既ニ府縣參事會ハ府縣ノ行政執行機關ニアラストスル以上ハ廣島縣參事會名譽參事會員タル被告ハ同縣ノ行政執行ヲ掌



トル者ニアラサルヲ以テ同縣吏員ニアラサルコト辯テ俟タサル所ナリ(同上)

第七十五條 府縣ニ有給ノ府縣吏員ヲ置クコトヲ得前項ノ府縣吏員ハ府縣知事ノ委任ス

◎府縣吏員ノ資格及職務ノ權限

- 一 府縣吏員ナルモノハ府縣制第七十五條ノ規定ニ基キ置クモノニシテ同條第二項ニ依リ府縣知事ノ委任シ且ツ同第八十一條第九十條ニ依リ府縣知事ノ監督ニ屬シ其命ヲ受ケテ事務ニ從事スルモノニシテ彼ノ關係ノ關係ニ依リ職務ニ從事スル職員ノ比ニ非ラスシテ純然タル公吏ナルコト論テ待タス而シテ岡山縣工手ナルモノハ即右府縣制第七十五條ニ基キ訓令ヲ以テ定メタル職制上ノ職員ニシテ其公吏タルコト疑ヒナシ(大審三六六年刑一〇一二頁)
- 二 府縣制第七十五條ニ依リ任命セラレタル府縣吏員ハ法人タル府縣ノ事務ヲ取扱フ職責ヲ有スルモノニ屬スル行政事務ニ干與スルコトヲ許サル可キモノニアラス之ヲ沿革ニ觀スルニ現行府縣制ノ前法タル明治二十三年法律第三十五號府縣制第五十二條

ニハ府縣知事ハ府縣會ノ議決ニヨリ府縣費用ヲ以ツテ府縣財產又ハ營造物ノ管理若クハ土木工事ニ必要ナル有給ノ府縣吏員ヲ置クコトヲ得但府縣吏員ハ府縣知事ニ於テ之ヲ委任監督ストアリテ明治三十二年法律第六十四號現行府縣制第七十五條府縣ニ有給吏員ヲ置クコトヲ得前項ノ府縣吏員ハ府縣知事ノ委任免ストノ規定ニ相當シ現行法ニ於ケル府縣吏員ノ職務權限ハ亦前法規定ノ範圍ヲ出テサルコトヲ窺知スルニ難カラズ蓋シ國ノ行政事務ハ相當官吏若クハ委任ヲ受ケタル公吏ニ於テノミ有效ニ之ヲ處置スルヲ得ヘキモノナレハ原審力山梨縣吏員タル被告詳議ニ於テ法令ニ基カス又特別ノ任命ヲ受ケタル事實ナキニ拘ラズ國ノ行政事務ニ屬スル水利使用出願ニ關スル事務ニ干與シタル點ヲ以テ其職務權限ニ屬セサルモノト判定シタルハ正當ナリ(大審大正八年刑九九五頁)

第七十八條 府縣知事ハ府縣ヲ統轄シ府縣ヲ代表ス

- 一 府縣知事ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ
- 一 府縣費ヲ以テ支辨スヘキ事件ヲ執行スル事
- 二 府縣會及府縣參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發スル事

◎府縣ノ訴訟ト代表者ノ指定

府縣知事ハ國ノ行政ニ於ケル民事ノ訴訟行爲ニ付キ其所屬ノ官吏ヲ指定シテ國ノ代表者ト爲スコトヲ得ルノ例ニ依リ府縣ノ行政ニ於ケル民事ノ訴訟行爲ニ付テモ亦其所屬ノ官吏ヲ指定シテ府縣ノ代表者ト爲スコトヲ得ルモノトス(大審三六六年民六三頁)

(附) 府縣知事カ民事ノ訴訟行爲ニ付キ府縣ノ代表者ヲ指定シタルトキハ其指定セラレタル官吏ハ直接ニ府縣ヲ代表スルモノニシテ府縣知事ノ代理人ニ非サルヲ以テ知事ハ其代表者ヲ指定スルト同時ニ(其指定ヲ解ク迄ハ)自ラ府縣ノ代表者トシテ該訴訟行爲ヲ爲スノ權能ナキモノトス(大審三六六年民六二頁)

第八十條 府縣知事ハ府縣ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ郡島ノ官吏吏員又ハ市町村吏員ニ補助執行セシメ若ハ委任スルコトヲ得

府縣知事ハ府縣ノ行政ニ關シ其職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ府縣吏員ニ臨時代理セシムルコトヲ得

◎堤防ノ所屬及管理

營造物タル堤防ノ途セントスル利益ヲ直接ニ享受スルモノハ國ニ非スシテ縣ナルトキハ其營造物ノ所屬ハ縣ニシテ國ニ非ス從テ縣知事ハ縣ノ機關タル資格ニ於テ之カ管理ヲ爲スヘキモノトス(東京控大正六年法一二七二號二八頁)

◎府縣ト學資金償還請求ノ適格

府縣立師範學校生徒ニ對スル學資金償還請求ノ行爲ハ師範學校ノ管理ニ關スルモノナレハ其經營者タル府縣ニ於テ之ヲ爲シ得ルモノトス(大審三七年民一三二八頁)

◎府縣ノ吏員及官吏ト知事ノ訴訟代理

- 一 府縣吏員ハ府縣制第八十條第二項ニ依リ府縣官吏ハ同制第十八條地方官制第十三條ニ依リ各知事ノ訴訟代理ヲ爲シ得ヘキモノトス(大審三五年民一一卷五七頁)
- 二 府縣制第八十條第二項ニ依レハ府縣知事ハ府縣ノ行政ニ關シ其職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ府縣吏員チシテ臨時代理セシムルコトヲ得ト規定セルチ以テ府縣知事ハ府縣代表者トシテ爲スヘキ訴ニ付府縣道路主事ニ其代理ヲ委任シ得ルモノト謂ハサルヘカラス蓋シ民事訴訟法第六十三條ニ依レハ訴訟代理人ニハ辯護士チ以テ爲スヘキ旨規定スレトモ同法中ニハ府縣制ノ適用ヲ除外セル規定ナキノミナラス他ニ右府縣制ニ依ル訴訟代理ヲ禁止セルモノト解スヘキ何等ノ根據存セザレハナリ(東京控昭和三一年報一四八號二頁)

第九九條 府縣賦課ノ細目ニ係ル事項ハ府縣會ノ決議ニ依リ關係市町村會ノ議決ニ付スルコトヲ得

市町村會ニ於テ府縣會ノ議決ニ依リ定マリタル期限内ニ其議決ヲ爲ササルトキ若クハ不當ノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣參事會之ヲ議決スヘシ

◎戶數割ノ賦課ニ關スル判例

- 一 長野縣稅賦課徵收規則ニ於テ戶數割ハ市町村會ノ決議ヲ以テ各人ノ納額ヲ定ムト規定スル場合ニハ各人ノ戶數割納額ヲ定ムルコトハ之ヲ市町村會ノ議決ニ一任シタルモノト認ムルノ外ナキチ以テ町會ニ於テ戶數割ノ算出方法ニ付キ議決アリトスルモ是レ單ニ各人ノ納額ヲ定ムル經路ニ過キザレハ納額ヲ定ムルニ付キ其方法ノ適用ヲ誤リタリトスルモノ之ヲ以テ納額ニ付テノ議決ヲ違法ト爲スヘキモノニアラス(行政大正一〇年評論一〇卷諸法一九五頁)
- 二 山梨縣稅賦課規則第十二條ニハ縣稅戶數割賦課ニ關スル各戶ノ等差ヲ定ムル標準ニ付何等ノ規定ナキカ故ニ各戶ノ賦課額ハ之ヲ市町村會ノ議決ニ一任シタルモノト解スルチ相當トス縣稅戶數割賦課額ヲ定ムルニ當リ貧富ノ程度ニ依リ等差ヲ附スルニハ縣稅賦課規則又ハ村會ノ決議ニ特別ノ規定ナキ限りハ地租所得稅營業稅ノ如キ特種ノ租稅等ノミチ標準トシテ作成シタル基數調ニ據ルコトヲ要セス公簿ニ現ハレタル財產ハ勿論動産債權生活狀態其ノ他ノ情況ヲ斟酌考慮シテ之ヲ決定スルコトハ條理上不當ノ事ニ非ス(行政大正三年法九六號一二三頁)
- 三 府縣制第九九條ニ基キ設ケタル長崎縣稅賦課方法第二條ハ縣稅戶數割ノ賦課方法ニ付テハ市町村會ノ議決ニ一任シタルカ故

第九十五條第一項 府縣制ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法若ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書又ハ徵稅傳令書ノ交付後三箇月内ニ府縣知事ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

◎府縣制第九十五條ノ「賦課」ノ意義

府縣制第九十五條ハ府縣稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法若ハ錯誤アリト認ムルトキハ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ規定シ其ノ所謂賦課トハ徵稅令書又ハ徵稅傳令書ヲ以テ府縣稅ノ負擔ヲ命スル處分ヲ指稱シ之ニ違法又ハ錯誤アリト認ムル場合ニ其ノ取消變更ヲ求ムル爲異議ノ申立ヲ爲スコトヲ許シタルモノニシテ村會ノ議決ノ取消ヲ求ムル異議ノ申立ヲ許シタルモノニ非ス其ノ他法律勅令中右ノ如キ議決ノ取消ヲ求ムルコトヲ許シタル規定ナキチ以テ本件異議申立ヲ不適法トシテ却下シタル被告ノ決定ハ正當ナリ(行政昭和三年法二九〇〇號一六頁)

◎本條ノ異議申立期間ノ算定方

府縣制第九十五條ノ異議申立期間ノ計算ニ付テハ徵稅令書又ハ徵稅傳令書ノ交付ヲ受ケタル日ハ之ヲ算入セス其ノ翌日ヨリ起

- 二 竹數村會カ其ノ適當ト認ムル見立ノ方法ニ依リ各納稅義務者ノ生活狀態ヲ觀察シテ等差ヲ設ケ負擔額ヲ議決シタルハ適法ノ措置ニシテ其ノ議決ニ遵據シタル村長ノ賦課亦適法ナリ前年度ニ比シ多額ノ縣稅戶數割ヲ賦課セラルルモ納稅義務者ノ財產又ハ所得力増加セス且縣稅戶數割一月平均額前年度ニ比シ減少シタル事實ノミチ以テ其ノ増課ハ錯誤ニ出テタル者ト謂フコトヲ得ス(行政大正三年法九八〇號二〇四頁)
- 四 長崎縣稅戶數割ノ各人ニ對スル賦課額ヲ定ムルコトニ付テハ同縣稅賦課徵收規則ニ之カ標準ニ關スル規定ナキチ以テ縣參事會カ府縣制第九九條第二項ニ依リ其ノ賦課額ヲ定ムルニハ自ラ相當ト認ムル所ニ依リ之ヲ議決スルコトヲ得ルモノトス(行政大正三年法九七〇號一三三頁)
- 五 縣稅賦課規則ニ市町村會ハ戶數割ノ賦課ニ關シ毎年度開始前ニ左ノ事項ヲ議決スヘシト規定シ納稅義務者ノ所得額住宅坪數ヲ標準トシテ課スヘキ稅額ノ割合其ノ他ノ賦課ノ細目ニ關スル事項ヲ列記シアルニ拘ラス管下ノ町村カ戶數割賦課細目ハ連年之ヲ變用スヘキ旨ノ規定ヲ設クルハ該規則ニ反スル違法ノ規定ニシテ無効タルチ免レス(行政大正一五年彙三八卷行政一二二六頁)
- 六 府縣稅戶數割規則(後出)

◎巖手縣令ノ自轉車鑑札ヲ受クヘキ時期(本卷補遺)

巖手縣稅納稅義務者取締規則

諸法令下 (7) 府縣制 一一五條

算スヘク其ノ期間ノ末日ニシテ公休日ニ當ルトキハ其ノ翌日ヲ以テ期間ノ滿了日トス(行政昭和二年法二六九二號一四頁)

### 府縣稅戶數割規則

(大正十年勅令第四百二十二號)

第一條 戶數割ハ一戶ヲ構フル者ニ之ヲ賦課ス  
戶數割ハ一戶ヲ構ヘサルモ獨立ノ生計ヲ營ム者ニ之ヲ課スルコトヲ得

### ◎戶及世帯ノ意義

戶トハ世帯ノ義ニシテ世帯トハ住所又ハ之ニ準スヘキ居所ニ限ラス家事經濟ノ全部又ハ一部ヲ營ム場所ヲ云フモノトス(行政大正一五年法二五七〇號一四頁)

### ◎議決當時不計算ノ所得ト賦課ノ標準

府縣稅戶數割賦課ニ關スル村會議決ノ當時計算セラレザリシ所得ト雖モ當時計算スヘカリシモノナル以上行政訴訟ニ於テ之ヲ所得ニ加算シテ賦課ノ標準ト爲シ賦課額ヲ算定スルモ賦課ノ總

算定スルコトヲ得」ハ各納稅義務者ノ資力算定標準ノ一トシテ資產ノ狀況ヲモ採用スルコトヲ得ルノ趣旨ニシテ之ヲ採用シタル場合ニ於テハ當該町村ノ戶數割總額ノ十分ノ四以內ニ於ケル一定ノ金額ハ各納稅義務者ノ資產ノ狀況ヲ標準トシテ各自ニ之ヲ配當スルコトヲ要スルモノト解スルヲ相當トス而シテ右ノ趣旨ト異ナル方法ニ依リ爲シタル配當ハ違法ニシテ反證ナキ限りハ資產ノ狀況ニ相應セサルモノト認ムヘク戶數割ノ賦課ハ取消ヲ免レサルモノトス(行政大正一五年法二六七四號一三頁)

三 府縣稅戶數割規則第三條ニ所謂資產ノ狀況ヲ斟酌シ之ヲ算定スルコトヲ得トハ各納稅義務者ノ資力算定標準ノ一トシテ資產ノ狀況ヲ採用スルコトヲ得ルノ趣旨ニシテ之ヲ採用シタル場合ニ於テハ當該町村ノ戶數割總額ノ十分ノ四以內ニ於ケル一定額ハ各納稅義務者ノ資產ノ狀況ヲ標準トシテ各自ニ之ヲ配當スルコトヲ要スルモノニシテ資產ノ狀況良好ナル一部ノ納稅義務者ニ對シテノミ之ヲ配當スルコトヲ許スノ趣旨ニ非ス(行政大正一五年法二五五一號一四頁)

四 資產ノ狀況ノ認定ニ付具體的標準ヲ設ケテ概括的ニ考量斟酌シタルト具體的ニ毎々ノ事實ヲ調査シタルト同ハス其ノ認定シタル資產ノ狀況カ事實ニ適合シ之ニ對スル斟酌賦課ノ金額カ各納稅義務者ノ資產狀況ニ相應スルコトヲ要スルモノトス(昭和二年法二七七二號一三頁)

額ヲ原告ノ不利益ニ變更スルコトヲ得サルニ止リ違法ニ非ス(行政大正一五年法二五七三號一二頁)

第三條 資力ハ戶數割納稅義務者ノ所得額及住家坪數ニ依リ之ヲ算定ス但シ所得額及住家坪數ノミニ依ルチ適當ナラズト認ムル場合ニ於テハ納稅義務者ノ資產ノ狀況ヲ斟酌シテ之ヲ算定スルコトヲ得

### ◎資產狀況ノ斟酌云云ノ意義

一 府縣稅戶數割規則第三條ニ依ル資產狀況ノ斟酌ニ付テハ所得額及住家坪數ニ依リ資力ノ算定ノ如ク同則及同則施行細則中詳細ノ規定ナシトスルモ各納稅義務者ノ資產ノ狀況ニ應シ其資力ヲ算定スルコトヲ要シ府縣ノ自由裁量ニ依リ得ヘキモノト解スルヲ得ス從テ本件ニ於ケルカ如ク各納稅義務者ノ資產狀況ニ付具體的ノ調査ヲ爲サス單ニ客觀的ニ資產ノ多寡ヲ定メタルノミナラス資產アル者ノ中ニ就テ資產ノ狀況ニ依ル賦課額ヲ配當セラル者ト然ラサルモノトノ別ヲ設ケ以テ戶數割配當額ヲ定ムルカ如キハ結局資力ニ對應スル賦課ナリト云フヲ得サルモノトス(行政大正一四年法二四三六號九頁)

二 府縣稅戶數割規則第三條ニ所謂「資產ノ狀況ヲ斟酌シテ之ヲ

### ◎資產狀況ニ相應セサル戶數割

一 府縣稅戶數割規則第三條ニ所謂資產ノ狀況ヲ斟酌シ之ヲ算定スルコトヲ得トハ各納稅義務者ノ資力算定標準ノ一トシテ資產ノ狀況ヲ採用スルコトヲ得ルノ趣旨ニシテ之ヲ採用シタル場合ニ於テハ當該町村ノ戶數割總額中法定ノ金額ハ各納稅義務者ノ資產ノ狀況ヲ標準トシテ之ヲ配當スルコトヲ要スルモノト解スヘク從テ戶數割ノ賦課ニ付所得額又ハ住家坪數ニ對スル配當額ノ比較酌量シト思ハルル者ニハ資產ノ狀況ニ依ル配當額ヲ輕クシ前者ニ對スル配當額ノ比較酌量シト思ハルルニハ後者ニ依ル配當額ヲ重クスルカ如キ配當方法ハ反證ナキ限り資產ノ狀況ニ相應セサルモノニシテ違法ナリ(行政昭和二年法二六六號一四頁)

二 七本木村ニ於ケル本件大正十五年縣稅戶數割ノ資產狀況斟酌ニ依ル賦課カ地租、所得稅、國稅營業稅、縣稅營業稅雜稅、報酬、給料、住家其ノ他ノ建物、耕地、宅地、雜種地及醫師收得金ヲ標準トシ夫々箇數ヲ定メ其ノ箇數ニ應シテ納稅義務者各自ノ負擔箇數ヲ算出シ此ノ箇數ニ比例シテ縣稅戶數割總額ノ十分ノ四以內一定額ヲ納稅義務者各自ニ配當シ而モ敢テ所得額若ハ住家坪數ニ對スル賦課額ノ比較酌量シ認メラルル者ニハ資產狀況斟酌ニ依ル配當額ヲ少クシ前者ノ比較酌量シ認メラルル者ニハ後者ヲ多クスルカ如キ方法ヲ採リタルモノニ非サルコトハ當事者雙方爭ナキ事實ナリ而シテ前示各種ノ標準中ニハ固

リ資産ニ非サルモノアリト雖執レモ資産ノ狀況ヲ測定スルニ足ルヘキモノト謂フチ妨ケス尤モ其ノ中ノ箇々ニ付テ比較スルトキハ一見原告主張ノ如ク權衡ヲ得サルモノナキニ非サルカ如クナルモ彼是綜合シテ得タル箇數ニ至リテハ各人ノ資産ノ狀況ヲ表示スルモノト認メ得サルニ非ス加之同村ニ於テハ戸數割規則施行前多年前示ノ標準ト略同様ノ標準ヲ用ヒ戸數割總額ヲ見立割トシテ賦課シ來リタル慣行アリ本件資産狀況酌ニ依ル賦課カ右ノ慣行ヲ戸數割總額ノ内一定額ニ付疊用シタルモノニ外ナラサルコトハ當事者同争ナキ所ナルヲ以テ此ノ點ヨリ觀ルモ前示ノ標準ニ依リタル本件配當額ハ反證ナキ限リ資産ノ狀況ニ適應セルモノト認メサルヘカラス而モ原告ハ本件賦稅戸數割ニ付原告ノ負擔額カ其ノ資産狀況ニ適應セサルモノナルコトニ付特別ノ立證ヲ爲ササルヲ以テ原告ノ主張ハ採用スルコトヲ得ス

(行政昭和二年法二八四三號一三頁)

三 單ニ資産ノ形態ヲ變更スルニ過キサシ山林伐採ノ所得ニ因ル一時的ノ納稅額ヲ標準トシテ府縣稅戶數割規則第三條ノ資産狀況酌ニ因ル賦課額ヲ定ムルハ資産狀況ニ對スル賦課ト認ムルヲ得ス(行政大正一五年法二五二二號一二頁)

◎隱居相續ニ因ル財産移轉ト資力算定方

隱居相續ニ因ル財産移轉ニ付第三者ニ對抗スル爲必要ナル法定ノ手續ヲ爲サス依然被相續人ニ於テ該財産ヲ管理シ自己ノ名義

ヲ以テ租稅公課ヲ負擔セルノ事實アリ而モ該財産ヲ自己ノ財産トシテ管理收益スルモノナリトノ主張ニ對シ何等反對ノ立證ヲ爲ササル者ニ對シ縣稅戶數割賦課ノ標準タル資力ニ右財産及之ヨリ生スル所得ヲ算入シタルハ不當ニ非ス(行政昭和二年法二七二五號一五頁)

◎特別賜金ト資産狀況酌ノ標準

本件戸數割ノ賦課ニ付先ツ爭點ノ一タル特別賜金ヲ納稅義務者ノ資力算定標準中ニ加フルコトノ當否ニ付審按スルニ原告ハ府縣稅戶數割規則施行細則第八條第四號ヲ援用シ特別賜金ヲ所得額中ニ算入スヘカラサルハ勿論之ヲ資産狀況酌ノ標準中ニ加フルコトモ亦違法ナルカ如クニ主張スト雖右規定ハ單ニ營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得ヲ納稅義務者ノ資力算定標準タル所得額ニ加フルコトヲ禁スルニ止マリ資産狀況酌ノ酌ニ付テモ亦之ヲ加フルヲ得サルコトヲ規定シタルモノニ非ス而シテ原告カ取得シタル特別賜金ハ原告ノ資産ヲ増加シタルモノト認ムヘキヲ以テ被告カ之ヲ原告ノ資産狀況酌中ニ加ヘテ賦課額ヲ配當シタルハ正當ナリ(行政昭和三年法二八二九號九頁)

不動産登記法

(明治三十二年法律第二四號)

第一條 登記ハ左ニ掲ケタル不動産ニ關スル權利ノ設定、保存、移轉、變更、處分ノ制限又ハ消滅ニ付之ヲ爲ス

一 所有權 二 地上權 三 永小作權 四 地役權 五 先取特權 六 質權 七 抵當權 八 賃借權

◎土地建物ノ一部ニ對スル登記ノ許否

土地建物ノ一部ニ對スル賃借權設定ノ登記申請ハ受理スヘキモノトス(民利局長回答法曹記事一〇九號三〇頁)

◎不動産ノ一部ニ抵當權ヲ設定シ得ルヤ (第二續民法三三八三頁)

◎分筆セサル土地ノ一部讓渡ノ效力(第二續民法二九二頁)

◎賣買ノ豫約ト登記ノ許否

諸法令下 (7) 不動産登記法

一條

賣買後ニ至リ單ニ買戻スコトヲ約シタル賣買豫約ノ行爲ノ如キハ登記法中登記スヘキ規定アラサルヲ以テ被告上告人カ上告人ノ請求ノ中認諾シタルモノアリト雖モ被告上告人ヲシテ上告人ノ請求ニ從ヒ登記ヲ爲サシムルコトヲ得サルモノトス(大審三三三年民二六頁)

◎假裝賣買ノ登記ト復舊手續

一 虛偽ノ意思表示ニ依リ登記簿上不動産ヲ他人ノ所有名義ト爲シタル場合ニ於テ真正ナル所有者カ其所有名義ヲ回復スルニハ必スシモ其所有權登記ノ抹消登記手續ヲ爲スコトヲ要セス更ニ所有權移轉ノ登記手續ヲ爲スニ依リテモ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス何トナレハ此登記モ亦新名義人ニ所有權アルコトヲ公示スルノ效力ヲ生スルノミナラス不動産登記法ニ於ケル所有權移轉登記ハ廣義ニ解スヘキモノニシテ權利ノ承繼移轉アリタル場合ノミニ制限スヘキモノニアラサルヲ以テ斯ル場合ニ於テ所有名義ヲ他人ヨリ真正ナル所有者ニ復歸スルニモ其登記ニ依ルコトヲ得ヘキモノト解スルチ相當トスレハナリ(大審大正一〇年民一一五七頁)

二 假裝賣買登記ノ回復手續(第二續民法一〇九頁)

◎登記ノミノ無效確認ヲ許スヘキヤ

一八五七

一 賣買ニ因ル所有權移轉登記ハ賣買行為ニ因リ所有權ノ移轉シタル法律關係ヲ公示スル方法ニシテ不動産登記法ニ基キ爲サルル登記官吏ノ職務行為ニ屬シ右所有權移轉ノ法律關係其ノモノニアラサルコト勿論ナリ然レハ被控訴人等ハ法律關係タル本件土地建物ノ所有權移轉ニ付其有效ナリヤ否ヤノ確認ヲ求メ得ヘキコト疑ナシト雖モ單ニ其公示方法タル該所有權移轉登記ノ無効ナルコトノ確認ヲ求ムルヲ得ヘキモノニ非ス(東京控大正一四年法二四一七號九頁)

二 登記ノミノ無効確認訴訟ノ許否(續民法九三〇頁)

◎登記請求權ト消滅時效

一 所有權ニ基ク物權的請求權ト時效(第二續民法二二六頁)  
二 獨立シテ時效ニ罹ラサル權利(第二續民法二二六頁)

◎登記ノ對抗力ニ關スル諸問(第二續民法一七七條)

第二條 假登記ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

一 登記ノ申請ニ必要ナル手續上ノ條件カ具備セザルトキ  
二 前條ニ掲ケタル權利ノ設定、移轉、變更又ハ消滅ノ請求ヲ保全セントスルトキ

見解ノ下ニ大正十一年九月十三日附假登記ヲ以テ無効ナルモノトシテ此ノ前提ニ據テ判決ヲ爲シタルハ其ノ根柢ニ誤謬アルモノトス(大審大正一四年民六〇一頁評論一五卷民法七一二頁)

二 不動産登記法第一條ニ掲ケタル權利ノ設定移轉變更又ハ消滅ノ請求權ヲ保全セントスルトキ假登記ヲ爲スコトヲ得ヘク又其請求權カ始期附若クハ停止條件附ナルトキ其他將來ニ於テ確定スヘキモノナルトキ亦同シキコト同法第二條ノ法文上明瞭ナリト雖モ元來假登記ハ後日ニ爲スヘキ本登記ノ順位ヲ假登記ノ時ニ遡フシムル效力アルニ過キサルモノナルヲ以テ假登記ノ當時其登記義務者ノ權利ニ付本登記アル場合ニ非サレハ登記法上爲スコトヲ得サルモノニシテ假令之ヲ爲スモ其效ナキコト本院判例(大正四年(オ)第二六號大正六年三月二日言渡)ニモ示ス如クナリ(大審大正八年民一六四九頁)

◎保證人ノ不動産ニ對スル假登記

不動産ノ賣買ニ際シ賣主ノ保證ヲ爲シタル者ニ對シ賣主カ當該所有權移轉ノ請求權ヲ有スルコトハ反證無キ限り保證契約ノ内容上多ク云フノ要ナク而シテ此ノ請求權カ從タルモノナリトコトヲ以テ假登記ヲ妨クル理由ト爲スニ足ラサルハ不動産登記法ニ於テ現在尙未確定ナル請求權ニ付テモ亦假登記ヲ許シアルコトニ徴シ何等ノ疑ヲ容レズ但假登記ハ他日本登記アリタル場合ニ其ノ物權的處分ノ效力ヲ假登記當時ニ遡及セシムルモノナ

右ノ請求權カ始期附又ハ停止條件附ナルトキ其他將來ニ於テ確定スヘキモノナルトキ亦同シ

◎未登記不動産ト假登記ノ許否

一 不動産所有權移轉ノ本登記又ハ不動産上ノ他物權得喪ノ本登記等ハ當該所有權カ既登記ナルカ若ハ少クトモ同時ニ登記セラレルニ非サレハ(不動産登記法第二百二十八條乃至第三百一十一條)手續上之ヲ爲スチ得サルハ論無キカ故ニ從ヒテ又其ノ假登記ト雖所有權カ未登記ナル以上之ヲ爲スチ得サルハ當然ノ結果ナリ蓋ニ登記ノ判例トスルトコロハ蓋斯ル趣旨ニ外ナラス然ルニ夫ノ未登記ノ不動産所有權ニ付爲サルヘキ保存登記ナルモノハ新ニ登記チ起サムトスルモノニシテ既登記ノ不動産所有權アルコトヲ前提トスル前掲諸般ノ登記トハ其趣ヲ異ニスルトコロアルヲ以テ其ノ假登記ニ於テモ亦必シモ同一轍ニ論スルチ得サルモノアリ而モ斯ル假登記ハ保存登記ノ申請ニ必要ナル手續上ノ條件カ具備セザル場合(不動産登記法第二百五條第六條參照)ニ先ツ之ヲ爲シ置ク實際上ノ必要アルハ言チ俟タザルト共ニ之ヲ禁スル法規ノ存スルコトハ竟ニ之ヲ發見スルニ由ナキヲ以テ結局不動産所有權保存登記ナルモノモ亦現行法上許サルヘキモノナリト解決スルチ相當トセザルヘカラス原裁判所カ之ト反對ノ

◎抹消登記ノ假登記ヲ許スヘキヤ

ルカ故ニ以上ノ場合ニ於テモ保證人カ現時已ニ當該不動産物權ノ主體タルコトハ之ヲ必要トスト解除セザル可ラス蓋爾ラサレハ他日本登記アリタル結果其ノ未タ當該權利ノ主體タラザリシ當時ニ於テ業ニ已ニ目的タル物權的處分ノ效力カ發生シタルコトトナリ極メテ不合理ナル結果ヲ見ルニ至ルヘケレハナリ(大審大正一三年民五五頁)

抹消登記ノ假登記ヲ許スヘキヤ  
登記ノ申請ニ必要ナル條件カ具備セザルトキ假登記ヲ爲スコトヲ得ヘキコトハ不動産登記法第二條第一號ノ定ムルトコロニシテ同條第一號ノ「登記」中ニハ登記抹消ノ登記チモ包含スルモノト解スルコトヲ得ヘシ而シテ登記原因ノ無効チ原因トシテ抹消登記ヲ爲ス場合ニ於テモ殊ニ其無効チ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルトキノ如キハ豫メ抹消ノ假登記ヲ爲シ後ノ本登記チシテ假登記ノ時ニ爲サレタルト同一ノ效力ヲ有セシムルニ付キ利益アリ又登記原因ノ無効ニ因ル登記ノ抹消ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ豫告登記ヲ爲スヘキモノナレトモ豫告登記ハ第三者ニ訴ノ提起アリタル事實ヲ公示シ第三者ヲ警戒スルコトヲ目的トスルモノニ過キサルヲ以テ豫告登記ヲ爲スヘキ場合ト雖モ假登記ヲ爲スコトヲ得サルノ理由ナキヲ以テ登記原因ヨリ賣買ノ無効チ原因トシテ爲ス抹消登記ノ假登記ハ之ヲ許スヘキモノニアラストノ論旨ハ其理由ナキモノトス(大審大正一〇

年民一三九九頁)

◎假登記ニ對スル假登記ヲ許スカ

假登記ハ不動産ノ所有權移轉等ノ請求權ヲ保全セントスルトキ之ヲ爲スコトヲ許スモノナルモ假登記ニ對スル假登記ハ數回重復シテ不動産上權利者ノ地位ヲ假定スルコトト爲リ新ノ如キハ不動産登記法ノ許ササル所ナルヲ以テ本件ニ於テ抗告人ヨリ宅間等ニ對スル賣買ニ因ル所有權移轉ノ假登記ノ申請ハ假登記ニ對スル假登記ニシテ許容スヘキモノニ非スト雖モ中野與四郎ニ對スル申請ハ抗告人ハ寧ニ代位シ同人ト與四郎間ノ賣買ニ因ル所有權移轉ノ請求權保全ヲ目的トシテ之ヲ爲スモノナレハ寧ニ對スル假登記ノ前提タリトモ其申請ノ許容セザレサル爲メ有與四郎ニ對スル申請ヲ却下スヘキモノニ非ス(大審大正四年法一〇二五號三八六頁)

◎所有權ノ相次移轉ト全部假登記

土地又ハ建物所有權保存ノ假登記名義人甲ハ乙ニ丙ニ順次所有權移轉ノ假登記ヲ爲スコトヲ得(民事局長回答大正一三年法曹會雜誌二卷八號六五頁)

◎第二號ノ權利消滅ニ因ル假登記

爲スコトヲ得サルモノトス(大審大正六年民一一六一頁)

◎賣買豫約ノ權利保全ノ假登記

一 賣買ノ豫約ハ買主ヲシテ直接ニハ賣買締結ノ請求權ヲ有セシムルニ過キサルモ買主カ其請求權ニ基キ後日賣買完結ノ意思ヲ表示スルニ於テハ目的ノ不動産ニ付キ所有權ノ移轉ヲ求ムル請求權ヲ生スルカ故ニ此請求權ハ不動産登記法第二條第二號ニ該當スルヲ以テ假登記ニ依リ保全スルコトヲ得ルモノトス(大版控大正八年評論八卷諸法五五六頁)  
二 不動産物權賣買ノ豫約カ成立セル場合ニハ賣買完結ノ意思表示ヲ爲ス權利ヲ有スル者ハ不動産登記法第二條第二號ニ基キ此ノ權利ヲ保全スル爲メ假登記ヲ爲スヲ得ヘク而シテ他日右ノ不動産物權移轉ノ本登記カ爲サレタルトキハ此ノ本登記ノ效力ハ假登記ノ當時ニ遡及スルヲ以テ此ノ時期以後ニ於テ該不動産ニ付爲サレタリシ各種ノ處分ニ對シテハ總テ右ノ移轉ヲ對抗スルヲ得ヘク其ノ處分カ法律行爲ニ基クモノタルトハ總テ之ヲ區別スルコト無シ此ノコトハ當院從來ノ判例ニ照シ自ラ明白ナリ(例ハ大正六年九月二十日言渡同年(オ)第三百三十五號事件大正四年四月五日言渡同年(オ)第八百七十六號事件ノ各判決)左レハ原裁判所ノ確定スル如ク大正九年四月二十日訴外佐藤春次郎ハ本件不動産ニ付賣買ノ豫約ニ基キ權利保全ノ假登記ヲ爲シ翌

不動産登記法第二條ニ所謂權利ノ消滅ニ因ル假登記トハ既ニ本登記ヲ爲シタル權利ノ消滅シタル場合ニ於ケル登記抹消ノ假登記ヲ意味シ單ニ假登記ヲ爲シタルニ過キサル權利カ消滅シタル場合ノ如キハ之ニ包含セザルモノト解スルチ相當トス(東京地大正元年法八二二號一九頁)

◎將來ニ於テ確定スヘキ請求權

一 不動産登記法第二條第二號所謂將來ニ於テ確定スヘキ請求權トハ特定ノ不動産ニ付請求權ノ發生スヘキ基本ノ法律關係アリテ之ニ將來或法律條件ノ加ハルニ因リ發生スヘキ請求權ヲ指スモノトス(法曹會決議昭和三年雜誌六卷三號一〇六頁)  
二 不動産登記法第二條第二號第二項ニ所謂將來ニ確定スヘキ請求權トハ法律カ假登記ヲ認メタル精神ヨリ之ヲ觀且ツ之ヲ停止條件附又ハ始期附ノ請求權ト竝立セシメタル點ヨリ之ヲ觀レハ不動産ニ關スル純然タル將來ノ請求權ヲ謂フニアラスシテ特定ノ不動産ニ付キ或法律關係アリテ其法律關係ヨリ請求權カ將來ニ發生スヘキ場合換言スレハ其不動産ニ付キ請求權ノ發生スヘキ基本關係アリテ之ニ將來或法定條件ノ加ハルニヨリテ請求權ノ發生スヘキ場合ヲ謂ヘルモノト解ス——第一順位ノ推定相續人(例ハ法定ノ推定家督相續人直系卑屬タル推定遺產相續人ノ如シ)ハ被相續人ノ贈與シタル不動産ニ對シ不動産登記法第二條第二號ニ依リ此等ノ將來ノ請求權ヲ保全スル爲メ假登記ヲ

十年八月二十五日ニ至リ右賣買ニ依ル所有權移轉ノ本登記ヲ爲シタルカ先是大正九年十一月二日被上告人ノ爲ニスル處分禁止ノ假處分命令アリ翌三日其ノ登記カ爲サレタリト云フ事實ナル以上前記訴外人ノ所有權取得ハ之ヲ以テ前記假處分命令ヲ得タル被上告人ニ對抗スルチ得ヘキモノナルコトハ以上ノ判示ニ徴シ疑チ容レザルトコロナルニ拘ラス原裁判所カ之ト反對ノ判斷ヲ爲シタルハ失當ナリ(大審大正一一年法二〇三〇號一八頁)  
三 不動産賣買ノ豫約ニ基キ其賣買カ既ニ完結セラレタルトキハ豫約者ノ債務ハ既ニ履行セラレテ賣買ノ效力ヲ生シ其目的タル財產權ハ相手方ニ移轉スルチ以テ豫約ニ因ル相手方ノ財產權移轉ノ請求權ハ賣買完結後ニ存在スヘキ謂レナシ故ニ右ノ如キ豫約ニ基キ賣買完結後ニ於テハ賣買ニ因ル權利移轉ノ登記又ハ假登記ヲ爲スコトヲ得ルハ勿論ナルモ豫約ニ因ル權利移轉ノ請求權ヲ保全センカ爲メニスル假登記ハ之ヲ爲スコトヲ得サルモノニシテ之ヲ爲スモ其效ナキモノトス(大審大正九年民三一一頁)

◎根抵當ト假登記ノ不許

一 根抵當ハ其擔保スル債權カ將來ニアラサレハ確定セザルニ止リ抵當權自體ハ當初ヨリ存在スルモノナルチ以テ之カ設定ニ付キ假登記ヲ許スヘキモノニアラス(東京控大正二年評論二卷民法五八五頁)  
二 根抵當即チ將來發生シ得ヘキ債權ニ對シテモ抵當權ヲ設定ス

ルコトヲ得ヘキカ故ニ其本登記ハ之ヲ受理スヘク假登記ヲ爲ス可キモノニ非ス(民三六九條參照)(大正元年一月一六日法曹會決議)

◎樹木ノ集團ニ對スル假登記ノ許否

原決定ニハ樹木ノ集團ト雖立木法ニ依リ登記シテ始メテ不動産ト看做サルヘキハ立木法第一條第二條第一項ノ明文ニ照シ疑ノ存セサル處本件樹木ニ付テハ未タ立木法ニ依リ登記存在セザルモノナレハ之ヲ以テ不動産ト看做スヲ得ス從テ之ニ不動産登記法第三十二條ノ假登記假處分ノ規定ハ其準用ナキモノト解セザルヲ得スト説示シアルモ若シ本件樹木ノ集團ニシテ立木法ニ依ル所有權保存ノ登記ヲ爲シ得ルカ如キモノナリトセハ其本登記ノ申請ニ必要ナル手續上ノ條件カ具備セザル場合ニ假登記ノ申請ヲ爲シ得ルハ不動産登記法第二條ノ解釋上明カナル所ナルカ故ニ原裁判所カ新ル理由ヲ以テ本件假登記ノ申請ヲ排斥シタルハ違法トス(大審大正一四年法二四七一號一頁)

◎登記義務者ノ逃亡ト假登記又ハ代位登記(第四六條ノ二)

◎假登記ニ關スル諸問(第七條)

當事者ヲ保護セントノ趣旨ニアラス而シテ登記ハ一ノ公示方法ナルヲ以テ豫告登記ノアリタル以後ニ於テ係争不動産ニ付キ物權ノ得喪變更ニ關スル法律行為ヲ爲シタル第三者ハ一應豫告登記ノ存スル事實ヲ知レルモノナリト推定スヘク訴訟ノ結果ニ依リ利益ナル影響ヲ受クヘキ場合アルハ當然ノ事理ニ屬ス然レトモ豫告登記ノ原因タル訴訟ノ結果ニ依リ第三者ニ於テ不利益ナル影響ヲ受クルハ豫告登記知了ノ效力ニアラスシテ一ニ登記原因ノ無効又ハ取消ノ效果ニ基クモノナレハ實體法上登記原因ノ無効又ハ取消ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗シ得サル場合ニ於テハ善意ノ第三者ハ訴訟ノ結果ニ依リ毫モ影響ヲ受クヘキモノニアラス(大審大正五年民二二三一頁)

二 從テ豫告登記ノ存セル事實ヲ知レルコトト豫告登記ノ原因タル訴訟ニ於ケル登記ノ無効若クハ取消ノ内容ヲ知レルコトトハ全然別箇ノ觀念ニ屬シ明ニ之ヲ區別スヘク前者ニ對シ惡意ナルコトトハ後者ニ付キ惡意ナラサルヘカラサル推定ヲ生スルモノニアラス蓋シ前者ハ善意ノ第三者ヲシテ不測ノ損害ヲ受ケサラシメンカ爲メニ登記原因ノ無効又ハ取消ニ基ク訴訟ノ提起アリタルコトヲ表示スル登記其者ノ存在事實ニ關シ後者ハ其豫告登記ノ存在セル事實ノミナラス進テ登記原因ノ無効若クハ取消ノ内容タル法律事實ニ關スルヲ以テナリ從テ登記原因ノ無効ニ因ル登記抹消ノ訴ヲ提起シタル場合ニ於テ實體法上登記原因ノ無効ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗シ得サルモノナルトキハ訴ノ提起者

諸法令下 (7) 不動産登記法

五條

七條

一八六三

第三條 豫告登記ハ登記原因ノ無効又ハ取消ニ因ル登記ノ抹消又ハ回復ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テ之ヲ爲ス但登記原因ノ取消ニ因ル訴ニ付テハ其取消ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ル場合ニ限ル

◎豫告登記ニ關スル諸問

◎登記原因ノ意義(三五條)  
◎假裝賣買ニ基ク登記抹消ノ訴ト豫告登記(第二續民法一一二頁)

◎豫告登記ヲ爲スヘキ場合ト假處分(民訴法五九四頁)  
◎豫告登記抹消ニ關スル諸問(第一四五條)

◎豫告登記ノ目的及效力

一 豫告登記ハ登記原因ノ無効又ハ取消ニ因ル登記ノ抹消又ハ回復ノ訴ノ提起アリタル場合ニ受訴裁判所カ職權ヲ以テ之ヲ登記所ニ囑託シ其登記ニ依リ訴ノ提起アリタルコトト第三者ニ豫告シ係争ノ不動産ニ付キ法律行為ヲ爲サントスル善意ノ第三者ヲシテ訴訟ノ結果生スルコトアルヘキ不測ノ損害ヲ防止セシメントスル專ラ善意ノ第三者保護ノ目的ニ出ツルモノニシテ訴訟ノ

ハ單ニ第三者カ豫告登記ノアリタル後之ヲ知リナカラ係争不動産ニ付キ物權ヲ取得シタル事實ヲ立證スルノミナラス進テ其取得當時登記原因ノ無効ノ内容タル法律事實ヲ知リタル事實ヲ立證セザルヘカラス(同上)

第五條 他人ノ爲メ登記ヲ申請スル義務アル者ハ其登記ノ欠缺ヲ主張スルコトヲ得ス但其登記ノ原因カ自己ノ原因ノ後ニ發生シタルトキハ此限ニ在ラス

◎本條ノ解釋

上告人ハ其先代ノ包括承繼人トシテ先代カ被上告人ニ對シ約シタル信託契約ノ趣旨ニ從ヒ被上告人ノ爲メ係争不動産ノ所有權移轉ノ登記ヲ爲スヘキ地位ニ在ル者ニシテ不動産登記法第五條ノ所謂他人ノ爲メニ登記ヲ申請スヘキ義務アルモノニ外ナラサレハ其爲シタル登記力誤レルコトヲ主張シテ其登記ノ抹消ヲ請求シ得ヘキモノニ非ス(大審大正九年評論九卷諸法二〇〇頁)

第七條 附記登記ノ順位ハ主登記ノ順位ニ依ル但附記登記間ノ順位

ハ其前後ニ依ル  
假登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ本登記ノ順位ハ假登記ノ順位ニ依  
ル

◎假登記後ノ本登記義務者

登記義務者ハ登記名義人タルコトヲ要スルモノナレハ所有権取  
得ニ關スル假登記ヲ經タルモノカ其權利ノ本登記ヲ爲サントス  
ルニ當リ其不動産ニ付キ第三者ノ所有権取得ノ登記アルトキハ  
假登記ノ權利者ハ第三者ニ對シ假登記アリタル權利ヲ主張シテ  
所有権取得ノ登記ヲ抹消ヲ求メ其手續ヲ經タル後ニ於テ原所有  
者ヲ登記義務者トシテ本登記ヲ爲スヘシ又地上権抵當權ニ關ス  
ル假登記ヲ經タル者カ其本登記ヲ爲サントスルニ當リ其不動産  
ニ付キ第三者ノ所有権取得ノ登記アルトキハ第三者ハ假登記アリ  
タル地上権抵當權等ニ關スル權利ヲ對抗セラルル結果其本登記  
ヲ爲スヘキ義務ヲ承継スルモノナレハ假登記ヲ經タル如上權  
利者ハ現在ノ登記名義人ナル第三者ニ對シテノミ本登記ヲ爲ス  
ヘキコトヲ求ムル權利アリ(大審大正四年評議四卷諸法七三頁)  
◎假處分後ニ於ケル本登記ノ許否(民法六〇〇頁)

◎假登記ト内容ヲ異ニセル本登記

加ハタルトキハ其損害カ登記官吏ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ  
テ生シタル場合ニ限リ之ヲ賠償スル責任ニ任ス

◎官吏ノ不法行爲ト賠償責任(第二續民法八九四頁以  
下)

第十五條 登記簿ハ一筆ノ土地又ハ一棟ノ建物ニ付一用紙ヲ備フ同  
一ノ登記所ノ管轄ニ屬スル不動産カ登記簿ヲ分設シタル數箇ノ區  
畫ニ跨カルトキハ其ノ一箇ノ區畫ノ登記簿ニノミ其ノ不動産ニ關  
スル用紙ヲ備フ

◎二重登記ノ孰レカ有效ナリヤノ判定

一 二重登記ノ效力(第二續民法二四八頁)  
二 同一建物ニ付眞ノ所有者ノ爲シタル二重ノ保存登記ノ存スル  
時ハ初メニ爲シタル保存登記カ有效ニシテ後ニ爲サレタルモノ  
ハ無効ナリト云フヘク假令初メニ爲サレタル保存登記カ多少事  
實ト符合セサルモノアリト雖モ其登記セラレタル建物ニ付テノ

一 甲乙丙ノ三人カ賣買ニ因ル所有權移轉ノ假登記ヲ爲シタル後  
乙丙方同一ノ不動産ニ付更ニ賣買ニ因ル所有權移轉ノ登記ヲ爲  
スハ假登記權利者以外ノ者カ爲シタル別箇ノ登記ニシテ假登記  
後爲スヘキ本登記ト同一ニ非サルモノトス!如上ノ場合ニ於  
テ登記官吏カ乙丙ノ申請ヲ受理シ假登記ノ次順位ニ別箇ノ登記  
ヲ爲シタルハ相當ナリトス(大審大正一〇年民九七二頁)  
二 假登録ト内容ヲ異ニセル本登録(續民法九三三頁)

◎假登記ニ關スル諸問

◎假登記名義人ト利害關係人(諸法令上卷二〇四頁)  
◎假登記抵當權者ト其ノ配當額ノ供託(本卷〔キ〕競賣法二  
條)  
◎假登記抵當權者ト財團債權ノ行使(同上)  
◎競落人ト假登記權利者トノ關係(本卷〔キ〕競賣法二條)  
◎不動産ノ讓渡ト假登記抹消請求權(第一四四條)  
◎假登記ニ抵觸スル登記抹消ノ時期(第一四四條)  
◎外國會社ノ支店閉鎖ト假登記ノ抹消(第一四四條)

◎假登記ノ效力(第二續民法二五五頁以下)

第十三條 登記官吏カ其職務ノ執行ニ付キ申請人其他ノ者ニ損害ヲ

保存登記ナルコトヲ認ムルニ足ル程度ノモノナル時ハ後ニ至リ  
テ之ヲ更正スルヲ得ルモノニシテ猶其登記ヲ以テ有效ナルモノ  
ト云ハサル可カラス(東京地昭和二年法二六八一號九頁)

三 不動産登記法カ一不動産一用紙主義ヲ採用セルコトハ同法第  
十五條ノ規定ニ徴シ明カナルヲ以テ或不動産ニ付一旦登記用紙  
ヲ起サレタル以上屆後該不動産ノ權利ニ關スル登記ハ總テ右用  
紙上ニ爲サルヘク別ニ登記用紙ヲ起シテ登記ヲ爲スヘキモノニ  
非サレトモ元來不動産登記法カ一不動産一用紙主義ヲ採レル所  
以ハ登記ノ混亂紛糾ヲ避ケントスルニ出テタルモノナレハ既ニ  
或不動産ニ關スル登記用紙ノ起サレ之カ未タ閉鎖サレサルニ先  
チ後日偶々別異ノ登記用紙カ起サレ同一不動産ニ關シ登記ノ爲  
サレタル場合ト雖其後前ノ登記用紙ニシテ閉鎖サレンカ後ノ當  
記用紙ニ爲サレタル登記カ有效ト認ムルコト致テ不可ナシ蓋シ  
法律ハ只同一不動産ニ付特ニ二個ノ登記用紙ノ併立ヲ許ササル  
ニ止マルモノナルヲ以テ右ノ如ク前ノ登記用紙カ閉鎖サレタル  
トキ始メテ後ノ登記用紙ニ於ケル登記カ效力アラシムルコトハ  
一不動産一用紙主義ヲ採用セル法ノ精神ニ反スルコトナケレハ  
ナリ(大審昭和二年法二七二五號五頁)

四 同一人カ同一物ノ所有權ニ付爲シタル二個ノ保存登記ノ效力  
ハ其登記意思ノ有無ヲ以テ之レヲ決スヘキモノニシテ其前後ニ  
依リ定ムヘキモノニアラス(大阪控昭和三年法二八五五號一三  
頁)



五 右ニ關スル研究〔反對〕(判例研究第五卷第八號研究篇四三  
問二五五頁)

六 二個ノ用紙ニ爲サレタル登記ハ互ニ相矛盾衝突スル結果登記  
トシテノ效力ヲ失ヒ不動産ニ關スル法律關係ハ登記ト無關係ニ  
專ラ實體法上ノ原則ニ依リテ定マルモノトス(暁道博士評論六  
卷諸法一一四頁)

第二十三條 登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル場合ニ於テハ司法  
大臣ハ三ヶ月ヨリ少カラサル期間ヲ定メ其期間内ニ登記ノ回復ヲ  
申請スル者ハ仍ホ其登記簿ニ於ケル順位ヲ有スヘキ旨ヲ告示スル  
コトヲ要ス

◎回復登記ノ性質

回復登記ハ登記簿ノ全部若クハ一部カ滅失シタル場合ニ於テ司  
法大臣ノ告示ニ基キ一旦爲シタル登記ヲ其原狀ニ回復スルモノ  
ニ外ナラサレハ商業登記ノ如キ公告ヲ爲スコトヲ要スルモノニ  
在リテモ既ニ一タヒ登記公告ヲ爲シタル以上ハ更ニ回復登記ヲ  
公告スルノ要ナシ(大審四二年民六七一頁)

◎回復登記ノ申請期間後ト登記事務

抵當權設定者カ一旦其ノ設定登記ヲ爲シタル以上最早其ノ登記  
義務ナシト云フハ其ノ設定登記現存シテ更ニ其ノ登記ヲ爲スノ  
必要ナキ普通ノ場合ニ於テ正當ナルモ當記簿滅失シ抵當權者カ  
登記ノ回復ヲ申請スヘキ期間ヲ徒過シタル爲抵當權者ノミニテ  
登記ノ申請ヲ爲シ得サル場合ニ於テハ抵當權設定者ハ更ニ設定  
登記ノ義務ナキモノト云フヲ得ス此ノ場合ニ於テ抵當權ハ其ノ  
抵當權公示ノ必要上抵當權ニ基ク物權的請求權トシテ設定者ニ  
對シテ更ニ設定登記手續ヲ請求スルコトヲ得ヘク設定者ハ之ニ  
應スル義務ヲ負擔スルモノト解セサルヘカラス一其ノ義務ニ  
因リ設定者カ重ネテ登記手續ノ煩勞ヲ負擔スルハ已ムヲ得サル  
所ニシテ之ニ因ル損害賠償ヲ抵當權者ニ請求シ得ルヤ否ハ別個  
ノ問題ナリ(大審昭和三年民七九七頁)

◎相續人申請ノ回復登記ノ名義

登記簿滅失シタル爲メ登記名義人ノ相續人ヨリ回復登記ノ申請  
アリタル場合ハ直チニ相續人名義ニ回復登記ヲ爲スヘキモノト  
ス(民事局長大正一二年民事三五七二號回答)

◎登記簿ノ消滅ト對抗力ノ消長(第二續民法二五三頁)

第二十六條 登記ハ登記權利者及ヒ登記義務者又ハ其代理人登記所  
ニ出頭シテ之ヲ申請スルコトヲ要ス

◎本條ニ關スル諸問

- ◎賣主ノ登記義務(第二續民法七一五頁、同二五三頁)
- ◎相續人ニ對スル登記請求ノ手續(第二續民法二五三頁)
- ◎不動産ノ轉賣ト前買主ノ登記請求權(續民法九二四頁)
- ◎登記抹消ノ請求ニ關スル諸問(第二續民法二五四頁)
- ◎不明ナル相續ニ對スル登記手續ノ請求(民法六七九頁)
- ◎土地賣主ノ絶家ト登記手續(民法六七九頁)
- ◎相續未定中ニ於ケル競賣ノ手續(第二續民法一二八七頁)
- ◎登記義務者ノ逃亡ト假登記又ハ代位登記(第四六條ノ二)

◎登記權利者及義務者ノ意義

- 一 不動産登記法ニ所謂登記權利者トハ登記原因ニ基キ登記ヲ申  
請シ其登記ニ依リ登記名義人ト爲リテ登記ノ利益ヲ受クヘキ者  
ヲ云フニ外ナラス(大審四二年民九六九頁)
- 二 不動産登記法ニ所謂登記權利者トハ登記スヘキ事項ニヨリ直

◎共有不動産ニ關スル登記義務

一 係争不動産ハ典產會會員ノ共有財産ニシテ表面上會員タル甲  
及ヒ乙ノ共有名義ナリシテ右典產會解散シ協義ノ結果甲以外ノ  
共有者ハ其持分ヲ甲ニ讓渡シ甲ノ單獨所有ト爲シ其登記名義ヲ  
乙ヨリ甲ニ移轉スヘキ契約ヲ爲シタルトキハ乙ハ其契約ニ依リ  
係争不動産ニ對スル二分ノ一ノ共有持分ニ付キ所有權移轉登記  
手續ヲ爲スヘキ義務ヲ負フモノトス(大審大正八年評論八卷諸  
法四三九頁)

二 登記簿上現ニ數人ノ共有名義タル土地カ實際上既ニ分割セラ  
レ其數人カ現ニ各自單獨ニテ各分割地チ所有スル場合ニ於テ其  
分割力契約ニ依リタルト否ト又現時ノ共有名義人間ニ行ハレタ  
ルト將々前主タル共有者間ニ行ハレタルトチ間ハス其分割地所  
有ノ現狀ニ符合スル登記手續ヲ爲スコトハ現時ノ共有名義人ノ

接ニ權利ヲ得又ハ義務ヲ免レル者ヲ謂フ從テ間接ノ利害關係人  
ハ登記權利者ニ非ス(東京控四一年法五〇五號七頁)

三 當該登記ニ自己ノ權利ニ不利益ナル影響ヲ受クルモノ之ヲ登  
記義務者ト云ヒ利益ナル影響ヲ受クルモノ之ヲ登記權利者ト云  
フ故ニ例ヘハ地上權設定登記ノ場合ニハ地上權者ハ登記權利者ニ  
シテ所有權者ハ登記義務者ナルニ反シ地上權抹消登記ノ場合ニ  
ハ地上權者ハ登記義務者ニシテ所有權者ハ登記權利者ナリ(大  
審昭和二年法二八一三號一七頁)

當ニ爲スヘキ事項ニシテ特別ノ事由アルニ非サル限り原則トシテ現時ノ各共有名義人ノ相互ニ有スル權利義務ニ屬スルモノトス(大審大正四年評論四卷諸法二二六頁、同年大審民一六七四頁)

- 三 登記手續ノ請求ト共同訴訟(民法三三八頁)
- 四 共有權ノ確認ト權利關係ノ合一(民法三三六頁)

◎法人格ナキ會ト登記申請名義

法人格ヲ有セサル或會(例之講會)ニ於テ會長自身ニ於テ會ニ關スル一切ノ法律行為ヲ爲サシムル意思ヲ以テ會則ヲ設ケタルトキハ會長一人ノ名義ヲ以テ抵當權ノ登記ヲ爲スコトヲ得(法曹會昭和二年六月二八日決議)

第二十七條 判決又ハ相續ニ因ル登記ハ登記權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

◎本條ニ所謂判決ノ意義

一 不動産登記法第二十七條ノ判決中ニハ轉付命令ヲ包含セサルモノトス(大阪區大正五年評論五卷諸法一四頁)

續テ請求スルカ如キハ給付ノ請求ニ外ナラス不動産登記法第二十七條ノ判決ハ右給付ノ請求ニ基ク判決ヲ謂フモノナレハ上告人ニ於テ本訴權利關係ノ承認ヲ得タリトスルモ之ニ因リテ直ニ登記手續ヲ爲スコトヲ得ス(大審四四年民八七七頁)

六 本條ニ所謂判決ノ意義(本卷補遺不動産登記法二七條)

第二十八條 登記名義人ノ表示ハ變更ノ登記ハ登記名義人ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

◎本條ノ登記ヲ申請シ得ヘキ場合

所有名義人ノ表示變更登記ハ權利ノ主體及ヒ權利關係ニ何等ノ異動ナクシテ登記名義人ノ表示ノ變更アル場合ニノミ之ヲ許スヘキモノトス(大阪地四二年法六三一號一四頁)

◎變更登記ノ請求ニ包含スヘキ事項

上告人所有名義ニ登記シアル土地ヲ被上告人所有名義ニ登記スルコトハ先ツ上告人所有名義ノ登記ヲ抹消スルニ非レハ爲スチ得サル筋合ナレハ被上告人ノ原院ニ於ケル控訴人所有名義ニ登記スヘシトノ請求中ニハ當然上告人所有名義ノ登記ヲ抹消スヘ

二 不動産登記法第二十七條ニ所謂判決ハ登記義務者ニ對シ登記手續ヲ爲スヘキ旨ヲ命シタル判決ヲ指示スルモノトス不動産登記法第二十七條ニ所謂判決ハ登記義務者ニ對シ登記手續ヲ爲スヘキ旨ヲ命シタル判決ヲ指示ス何トナレハ斯ル判決ニ非サレハ登記義務者ノ登記ヲ求ムル意思表示ヲ補充スルニ足ラサレハナリ而シテ該判決ハ所謂給付判決ナリ故ニ確認判決ニテハ不十分ナリトス(法曹會決議大正五年法曹記事二六卷八號五頁)

三 不動産登記法第二十七條ニ所謂判決トハ登記義務者ノ意思表示ニ代ルモノナルヲ以テ該判決ハ民事訴訟法第七三六條所定ノ意思ノ陳述ヲ爲スコトノ判決即チ登記義務者ニ對シ具體的ニ登記スル意思ノ陳述ヲ爲スコトヲ命シタル判決ヲ指稱スルモノトス(長野地大正六年評論六卷民法四五七頁)

四 和解調書中登記義務者ノ登記申請ニ關スル意思表示ノ記載アルニ於テハ判決ニ因ル登記ノ場合ニ準シ登記權利者ノミニテ登記ヲ申請スルコトヲ得(司法省民利局長回答三五年法一〇六號二四頁)

五 上告人ノ主張事實ニ依レハ訴外の場合吉郎平カ被上告人先代石島太左衛門ヨリ買受ケタル係争山林ヲ上告人ニ於テ右吉郎平ヨリ讓受ケ其所有權ヲ取得シタルヲ以テ被上告人チシテ其權利關係ヲ承認セシメント云フニ在レハ上告人ハ讓渡人ニ對シテ所有權移轉登記ノ請求ヲ爲シ得ヘク而シテ地所ノ所有權移轉登記手續キコトヲモ包含スト解セサルヘカラス(大審三五年民五二頁)

キコトヲモ包含スト解セサルヘカラス(大審三五年民五二頁)

第三十二條 假登記ハ次條ノ場合ヲ除ク外假登記權利者ノ申請ニ因リ其ノ目的タル不動産ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ヨリ遲滞ナク囑託書ニ假處分命令ノ正本ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス  
前項ノ假處分命令ハ假登記權利者カ假登記原因ヲ疏明シタルトキハ區裁判所之ヲ發スルコトヲ要ス  
申請ヲ却下シタル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得  
前項ノ即時抗告ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

◎假登記ニ關スル諸問(第二條)

◎假登記ト民訴假處分トノ自由選擇

假登記ハ假處分ト同シク不動産上ノ權利ノ保全方法ニ外ナラスト雖モ彼此互ニ獨立セル保全方法ナレハ反對ノ規定ナキ限り當事者ハ自由ニ之ヲ選擇スルコトヲ得ヘシ故ニ假登記ノ方法ニ依

り權利保全ノ目的ヲ達シ得ヘキ場合ト雖モ假處分ヲ爲スノ必要ナシトシテ其申請ヲ却下スルコトヲ得ス(大阪控三八年法三〇七號九頁)

◎假登記ノ假處分ト其ノ疏明

- 一 請求權ヲ保全スル爲メ不動産登記法ニ因ル假登記假處分ハ登記權利者ニ於テ實體法上ノ請求權アルコトヲ疏明スレハ足り敢テ請求權ノ行使ヲ侵害セラルル虞アルコトヲ疏明スル要ナキモノトス(札幌地大正五年法一一〇九號二五頁)
- 二 (一) 假登記ニ對スル更正ノ申請ニ付テモ不動産登記法第三十二條第二項ニ依リ申請者ハ其事由ヲ疏明スヘク此點ニ關シテハ非訟事件手續法ノ準用ニ依リ裁判所カ職權ヲ以テ必要ナル證據ヲ爲スヘキモノニアラス(大審大正四年民四七五頁)

◎不動産及船舶ノ假登記假處分

◎假登記假處分ノ登記原因

不動産ト船舶トカ共ニ抵當權ノ目的ナル場合ニ於テモ假登記假處分ハ一個ノ申請ヲ以テスルコトヲ得ヘシ此場合ニ於テハ一個ノ決定ヲ爲スヘク登記囑託ハ各別ニ之ヲ爲スヘキモノトス而シテ何レノ囑託書ニモ不動産ト船舶トカ共同擔保タルコトヲ表示

スコトヲ得ル旨規定シアルモ其ノ申請ヲ採用シテ假登記假處分命令ヲ發シタル場合ニ於テハ同法中抗告ヲ爲シ得ヘキ旨ノ規定ナキニ依リテ之ヲ觀レハ假登記假處分命令ニ對シ抗告ヲ爲シ得ヘキヤ否ヤハ不動産登記法ノ規定ニ依リテ決スヘク非訟事件手續法第二十條ノ規定ノ適用ヲ排除シタルモノト解スルチ相當トスヘク又假登記假處分ハ民事訴訟法ニ於ケル假處分ト其ノ性質ヲ異ニシ民事訴訟法第七百五十六條第七百四十五條ノ規定ヲ準用スルコトヲ得サルニ由リテ之ヲ觀レハ假登記假處分命令ニ對シテ不服アル者ハ本案ニ付訴ヲ提起シ假登記ノ基本タル權利ノ有無ニ付判斷ヲ受ケタル上該命令ノ取消ヲ求ムルノ外ナキモノニシテ抗告ノ方法ヲ以テ不服ヲ唱フルコトヲ許ササル法意ナリト解スルチ相當トス(大審大正一三年民一三一頁、同旨大正三年民二八八頁、大正五年民二〇〇二頁)

第三十五條

- 一 申請書
- 二 登記原因ヲ證スル書面
- 三 登記義務者ノ權利ニ關スル登記證書
- 四 登記原因ニ付キ第三者ノ許可同意又ハ承諾ヲ要スルトキハ之ヲ證スル書面

スヘキモノトス假登記假處分決定ハ登記原因ニアラサルコトハ不動産登記法第三十二條ニ徴シテ明ナリ民事訴訟法ノ假處分決定ハ登記原因ナレハ其正本ハ登記原因ヲ證スル書面ニ屬スレトモ假登記ノ原因ハ其假處分決定前ニ存シ假處分決定ハ假登記ノ手續ニ關スルモノタルニ過キサルヲ以テ此決定正本ハ登記原因ヲ證スル書面ニ屬セス(法曹會決議大正一一年法曹記事三一卷三二頁)

◎假登記假處分命令ト起訴命令

- 一 假登記權利者カ不動産登記法ニ依リテ假登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ自カラ進ンテ本案ニ付訴ヲ提起シ其權利ノ有無ニ付キ判斷ヲ受ケルコトハ之レヲ爲シ得ヘキ民事訴訟法ノ假處分ノ規定ニ準據シテ假登記義務者ヨリ其權利者ニ對シ本案ノ訴ヲ起スヘキ旨ノ申立ヲ管轄區域裁判所ニ爲シ假登記權利者ヲシテ其事項ニ付キ訴訟ヲ起サシムルコトヲ求メ得可キモノニ非ス(大審三三年民一一一六頁)
- 二 假登記假處分命令ト起訴命令(民訴法六八一頁)

◎假登記假處分命令ト抗告ノ許否

不動産登記法第三十二條第三項ニハ同條第一項ノ規定ニ依ル假登記假處分命令ノ申請ヲ却下シタル決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲

- 五 代理人ニ依リテ登記ヲ申請スルトキハ其權利ヲ證スル書面
- 登記原因ヲ證スル書面カ執行力アル判決ナキトキハ前項第三號及
- 第四號ニ掲ケタル書面ヲ提出スルコトヲ要セス

◎登記原因ノ意義

- 一 登記法ニ所謂登記原因トハ登記ヲ要求シ得ヘキ直接原因タル一切ノ法律事實ヲ汎稱スルモノニシテ登記セラルヘキ權利變動ノ原因タル法律關係ハ勿論相續時効又ハ裁判殊ニ判決等ノ如キ之ニ因リ登記ヲ爲スヘキ法律事實ヲ包含スルモノトス(大阪地四二年法五九三號一六頁)
- 二 登記原因ノ意義(續民法九一九頁)
- 三 證書カ公正證書トシテ強制執行ノ適法ナル債務名義タルヲ得サルノ理由ノミニテハ未タ其證書カ抵當權設定ノ登記原因ヲ證スル書面ニアラスト謂フチ得ス(東京地大正四年評論四卷諸法七六頁)

◎作成者名下ニ捺印ナキ原因證書

不動産登記法第三十五條第二號ニ依リ登記申請ニ付キ提出スヘキ登記原因ヲ證スル書面ハ其作成者ノ名下ニ捺印アルモノヲ以テ

スルヲ普通トスルモ其捺印アル書面ヲ以テスルニ限ルヘキニ非  
スシテ其捺印ナシト雖モ一應登記原因ヲ證スルニ至ルト認メラ  
ル書面ナルニ於テハ登記原因ヲ證スル書面タルコトヲ妨ケサ  
ルモノトス(大審大正一〇年評論一〇卷諸法五四六頁)

◎登記ノ申請ト雙方代理

- 一 不動産物權ノ設定及移轉カ法律行為ニ基因スル場合ニ於テハ  
一人カ登記權利者登記義務者雙方ノ代理人トナリテ登記ノ申請  
ヲ爲スコトヲ得右ノ如キ場合ニ於ケル登記義務ハ民法第八條  
但書ニ所謂債務ノ履行ナリト解スルチ相當トスルチ以テ雙方代  
理ヲ妨ケサルモノナリトス依テ前決議ハ之ヲ變更ス(法曹會決  
議大正一〇年法曹記事三一卷八號四九頁)
- 二 登記ノ申請ハ代理人ニ依リテ之ヲ爲シ得ヘキコトハ不動産登  
記法第二十六條ノ規定スル所ニシテ其ノ代理ニ付キ雙方代理又  
ハ相手方ノ代理ヲ許スヘキヤ否ヤハ一ニ民法第八條ノ規定ノ  
精神ニ依リテ解釋スヘキモノトス而シテ本件遺言ニ基ク所有權  
移轉登記申請ハ債務ノ履行ニ準スヘキモノナルチ以テ遺言執行  
者ハ同時ニ受遺者トシテ登記ノ申請ヲ爲スコトヲ得ヘキモノト  
ス(司法省民事局長回答大正九年法曹記事三〇卷五號六二頁)
- 三 登記ノ義務ハ其登記原因タル法律行為ニ附隨シテ負擔セシメ  
タル民法上ノ債務ナリト云ヒ得ヘキチ以テ單ニ登記ノ申請ス  
ル場合ニ於テハ民法第八條但書ニ依リ當事者ノ一方カ相手方

- 五 登記原因及ヒ其日附
  - 六 登記ノ目的
  - 七 登記所ノ表示
- 八 年月日

◎本條ノ適用範圍

審按スルニ登記申請書ノコトヲ規定シタル不動産登記法第三十  
六條及地上權ノコトヲ規定シタル同第一百十一條ニハ當事者カ任  
意ニ登記ノ申請ヲ爲ス場合ト判決ニ基キテ登記申請スル場合  
トノ區別ナキカ故ニ判決ニ基キテ登記ヲ爲ス場合モ右法條ノ適  
用ヲ受クヘキモノナルニ原院カ後ノ場合ニハ同法條ニ依ルヘキ  
モノニ非スト説示シタルハ同條ノ解釋ヲ誤リタルモノトス(大  
審三七年民一四一四頁)

◎無番地上ノ建物登記ノ申請

土地カ無番ナルトキト雖モ其地上ニ建物アルトキハ其建物登記  
ヲ爲スコトヲ妨ケス不動産登記法第三六條第三七條及同法施行  
細則第九條ノ規定ハ通常ノ場合ニ適用セラルルモノニシテ若シ  
土地ニ番號ナキ場合ニ於テハ無番トシテ登記ノ申請ヲ爲スコト

諸法令下 (7) 不動産登記法

三六條

四二條

一八七三

ノ代理人トナリ又ハ同一人ニシテ當事者雙方ノ代理人ト爲ルコ  
トヲ得ルモノトス(司法省民事局長大正一四年民事八五五九號  
回答)

◎第二項ニ所謂執行力アル判決

登記手續ヲ命シタル判決ハ其性質上假執行ノ宣言ヲ付スヘキモ  
ノニ非ス故ニ假執行宣言アリタルトキト雖モ該判決ハ不動産登  
記法第三十五條第二項ニ所謂執行力アル判決ニ該當セス依テ該  
判決ニ依リ登記申請シタルトキハ登記官吏ハ同法第四十九條  
第四號ニ依リ其申請ヲ却下スヘキモノトス(法曹會決議大正二  
年法曹記事二四卷三號)

第三十六條

- 申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スル  
コトヲ要ス
- 一 不動産所在ノ都市區町村字及ヒ土地ノ番地
- 二 地目及ヒ段別又ハ坪數
- 三 申請人ノ氏名住所若シ申請人カ法人ナルトキハ其名稱及ヒ事  
務所
- 四 代理人ニ依リテ登記申請スルトキハ其氏名住所

ヲ禁スルノ趣旨ニ非サルナリ勿論此場合ニ於テモ建物ノ所在ヲ  
明確ナラシムル爲メ其所在ノ何レナリヤチ明カナラシムル程度  
ノ土地ノ表示ヲ爲スコトハ必要ナリトス(法曹會決議大正五年  
法曹記事二六卷九號四八頁)

◎國有無番地上ノ未登記建物ノ競賣 (本卷(キ)競賣法二二  
條)

第四十二條 申請人カ登記權利者又ハ登記義務者ノ相續人ナルトキ  
ハ申請書ニ其身分ヲ證スル戸籍吏ノ書面又ハ之ヲ證スルニ足ルヘ  
キ書面ヲ添面スルコトヲ要ス

◎本條ノ法意

上告人ノ先代久次郎カ被上告人ヨリ本件土地ニ付キ實買ニ假  
裝シ其所有名義ヲ變更シタル爲メ被上告人ニ對シ右實買ニ因ル  
所有權移轉登記ヲ抹消スル義務アルニ拘ハラヌ未ダ其義務ヲ履  
行セスシテ死亡シタル場合ニ於テ其抹消登記義務ヲ履行スルニ  
ハ上告人主張ノ如ク先ツ相續人ニ於テ相續登記ヲ爲スコトヲ要  
スルモノニアラス其相續人カ直チニ抹消登記義務ヲ履行スヘキ  
モノナルコトハ不動産登記法第四十二條ノ規定ニ微シ明カナリ

(右抹消登記義務者ノ相續人カ抹消登記義務ヲ履行スル場合モ抹消登記義務者ノ相續人ノ相續人カ抹消登記義務ヲ履行スル場合モ法理ハ全然同一ナリ(大審大正九年民一〇〇九頁))

第四十四條 登記義務者ノ權利ニ關スル登記清證カ滅失シタルトキハ申請書ニ其登記所ニ於テ登記ヲ受ケタル成年者二人以上カ登記義務者ノ人違ナキコトヲ保證シタル書面ニ通テ添附スルコトヲ要ス

◎本條ノ保證ト不動産登記法第四四條ノ保證(第二續民法一五頁)

第四十六條ノ二 債權者カ民法第四百二十三條ノ規定ニ依リ債務者ニ代位シテ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ債權者及ヒ債務者ノ氏名又ハ名稱、住所又ハ事務所及ヒ代位原因ヲ記載シ且代位原因ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

- 五 申請書ニ掲ケタル不動産又ハ登記ノ目的タル權利ノ表示カ登記簿ニ載ルルトキ
- 六 第四十二條ニ掲ケタル書面ヲ提出シタル場合テ除ク外申請書ニ掲ケタル登記義務者ノ表示カ登記簿ト符合セザルトキ
- 七 申請書ニ掲ケタル事項カ登記原因ヲ證スル書面ト符合セザルトキ
- 八 申請書ニ必要ナル書面又ハ圖面ヲ添附セザルトキ
- 九 登記税ヲ納付セザルトキ

◎登記官吏ノ審査權

不動産登記法第四十九條ノ規定ニ依リ明カナル如ク元來登記官吏ハ專ラ形式上ノ事項ヲ調査スヘキモノニシテ權利ノ契約ハ有效ナリヤ否ヤ及ヒ抵當權ノ效力ノ及フ範圍如何ト謂フカ如キ實質上ノ事項ヲ審査シテ申請ノ許否ヲ決スヘキモノニアラス同條第二號ニ「事件カ登記スヘキモノニ非ザルトキ」トアルハ同法第一條ニ掲ケル權利又ハ事項ニアラサルヤ否ヤト謂フカ如キ形式上ノ問題ニ關スルモノニシテ實質上ノ問題ニ關スルモノニ非ス(大審大正二年法八八〇號二七頁)

諸法令下 (7) 不動産登記法

四九條

◎登記義務者ノ逃亡ト假登記又ハ代位登記

甲ヨリ乙乙ヨリ丙ニ土地所有權移轉シタルモ登記ヲ爲ササル内乙逃走行衛不明ト爲リタルトキハ丙ハ甲乙及乙丙間ノ歸轉原因ヲ疏明シ二個ノ假登記處分命令ヲ申請スルコトヲ得但甲乙間ノ移轉登記ニ付テハ丙ハ民法第四百二十三條及不動産登記法第四十六條ノ二ニ依リ乙ニ代位シテ其登記ノ申請ヲ爲スコトヲ得ハク乙丙間ノ移轉登記ニ付テハ右ノ登記ヲ爲シタル後不動産登記法第二條第一號及第三十二條ニ依リ假登記ヲ爲スコトヲ得(司法省法務局長大正二年民一二九一號回答)

第四十九條 登記官吏ハ左ノ場合ニ限リ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ申請ヲ却下スルコトヲ要ス但申請ノ欠缺カ補正スルコトヲ得ヘキモノナル場合ニ於テ申請人カ即日ニ之ヲ補正シタルトキハ此限ニ在ラス

- 一 事件カ其登記所ノ管轄ニ屬セザルトキ
- 二 事件カ登記スヘキモノニ非ザルトキ
- 三 當事者カ出頭セザルトキ
- 四 申請書カ方式ニ適合セザルトキ

◎事件カ登記スヘキモノニ非ザルトキ

- 一 買戻權ハ賣買ト同時ニ買戻ノ特約ヲ登記スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルチ得サルカ故ニ其後ニ登記スルコトハ第三者ニ對抗スルノ效力生セシメントスル登記ノ目的ニ副ハス隨テ賣買ト同時ニ登記セザリシ買戻契約ニ基ク買戻權ノ登記ハ不動産登記法第四十九條第二號ニ所謂事件カ登記スヘキモノニ非サル場合ニ該當スルチ以テ其申請ハ之ヲ却下スヘキモノトス(大審大正七年民五七〇頁)
- 二 登記簿上第一次ニ於テ甲ノ爲メ賣買ニ因ル所有權移轉ノ登記第二次ニ於テ乙ノ爲メ家督相續ニ因ル所有權移轉ノ登記第三次ニ於テ丙等ノ爲メ所有權移轉請求權ノ假登記ノ後遺言ニ因ル所有權移轉ノ登記アリタルトキハ右土地ノ所有權ハ甲ノ遺贈ニ因リ直接丙ニ移轉スヘキ事實ナルニ拘ハラズ登記簿上ニ於テハ乙ニ於テ相續ニ因リ取得シタルモノト更ニ遺言ニ因リ取得シタルコトト爲ルチ以テ右乙ノ爲メノ登記ノ抹消セラレサル限リハ丙ノ爲メノ遺言ニ因ル登記ハ之ヲ許スヘキモノニ非ス然レハ不動産登記法第四十九條第二號ニ依リ丙ノ登記申請ヲ却下スヘク登記官吏ニ對シ其爲シタル登記ヲ抹消スヘク命シタルハ相當ナリ(大審大正三年民六四一頁、法九六二號二一九頁)
- 三 農工銀行法第八條ハ農工銀行ニ對シ絕對ニ第二順位ノ抵當ヲ徵スルコトヲ禁シタル趣旨ニアラスト解スルチ正當トスルチ以

テ農工銀行カ第二順位ノ抵當チ爲シタリトスルモ該抵當權ノ設定チ以テ不動産登記法第四九條第二號ニ所謂事件カ登記スヘキモノニアラサルトキトアルニ該當スルモノト謂フチ得ス從テ登記官吏ハ其登記申請チ受理シテ之カ登記チ爲スヘキモノトス  
 (大津地大正八年評論八卷諸法二一四頁)  
 ◎許スヘカラサル登記ノ意義(本卷(七)非訟事件手續法一五一條ノ二)

◎未登記抵當權ノ實行ト登記ノ受否

未登記ノ抵當權ハ之チ以テ第三者ニ對抗スルコトチ得サルニ止マリ其ノ設定者ニ對シ之カ實行チ爲スコトチ妨ケラルヘキモノニアラス故ニ登記官吏ハ競賣法第二十六條ニ因ル登記囑託チ却下スルコトチ得ス(法曹會議大正四年法曹記事二六卷一二號)  
 ◎未登記抵當權ノ實行(諸法令上卷一九二條)

◎襲名登記前ノ抵當登記ノ效力

自己カ先代チ襲名シタル爲メ同一姓名ナリシヨリ相續登記チ爲スコトチク漫然先代名義ノ土地ニ付キ抵當權設定登記チ爲シタルトキト雖モ荷クモ既ニ登記官吏力チ受理シ其登記チ爲シタル以上ハ該登記ハ有效ニシテ當然無効ノモノニ非サルモノト解スルチ妥當トス蓋シ不動産登記法第四九條ニハ登記官吏力登

記申請チ却下スヘキ場合チ列記セルモ本件ノ如キ場合ハ同條列記ノ孰レニモ該當セス而モ同條列記ノ場合ト雖モ既ニ一旦登記セラレタル以上ハ同條第一號及第二號ノ場合チ除キ其登記ハ有效ニシテ登記官吏ハ抹消ノ手續チ執ルコトチ得サルコトハ同法第四百九條ノ二ニ微シテ明ナリ(東京控大正一四年法二四六九號一三頁)

◎登記簿ト不符合ナル登記申請ノ受否

一 苟モ申請書ニ記載スル不動産又ハ登記ノ目的タル權利ノ表示自體カ登記簿ト相違シ兩立チ許ササルトキハ登記官吏ハ其申請チ却下セサル可カラスシテ假令其實質ニ於テハ既存登記カ變更若クハ抹消セラルヘキモノニシテ申請力正當ナル場合ト雖モ變更若クハ抹消ノ登記チ爲ササル限リハ其申請チ容レテ登記チ爲スヘキニアラス(大審大正二年民六三二頁、同年法八八五號二七頁)  
 二 遺言狀ニ記載シタル遺言者ノ住所ト登記簿ノ所有者ノ住所ト符合セサル場合又ハ遺言狀ニ記載シタル土地ノ表示ト登記簿上ノ土地ノ表示ト符合セサル場合ニ於テモ遺言者ト不動産所有者ト同一人ナルコト又ハ遺言狀ノ不動産ト登記簿上ノ不動産ト同一ナルコトノ確認アル限リ遺言狀ノ趣旨ニ從テ登記處分チ爲スコトチ妨ケサルモノトス(法曹會議大正九年法曹記事三〇卷八號二〇頁)

◎原因證書ト申請書ト少差アル場合

原因證書ト登記申請書ノ物件トハ其坪數ニ於テ僅々ノ相違アルモ原因證書ノ物件ト登記申請書ノ物件トハ同一物件ナルコトチ認メ得ラルル以上ハ不動産登記法第四九條第七號ニ該當セサルモノトス(東京控四四年法七〇九號二二頁)

◎登録税ノ不足ト登記ノ效力

適法ナル登録税ヲ納付セサル登記申請ハ登記官吏ニ於テ之チ却下スルコトチ要スルハ不動産登記法第四九條ノ規定スル所ナレトモ登記官吏カ其登録税ノ不足ニ心附カスシテ一旦之チ受理シテ適法ナル登記チ爲シタル以上ハ其登記申請書ニ適當ナル印紙ノ貼用ナカリシ一事チ以テ登記其者チ無効トスヘキモノニアラス(大審大正七年評論七卷諸法二八三頁)  
 ◎登録税ノ免脱ト詐欺罪(刑法一三六頁)

◎租税公課ノ遁脱ト詐欺罪ノ成否(續刑法六〇四頁)

◎申請ニ欠缺アル登記ト是正方法(第一四九條ノ二)

第五十六條 權利ノ變更ニ付キ登記上利害ノ關係チ有スル第三者アル場合ニ於テハ申請書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトチ得ヘキ裁判ノ附本チ添附シタルトキニ限リ附記ニ依リテ其登記チ爲ス

◎第三者ニ對抗シ得ヘキ裁判ノ意義

不動産登記法第六十四條第五十六條ノ第三者ニ對抗スルコトチ得ヘキ裁判ハ更正ノ裁判其モノチ謂フニ非スシテ更正チ承諾セサル第三者ニ對シ出訴ノ未得タル裁判チ謂フモノニシテ之チ添附スルニ非サレハ更正ノ申請チ爲スコトチ許サレサルモノトス(大審大正四年民四七五頁、法一〇一九號三五五頁)

第五十九條 行政區畫又ハ其名稱ノ變更アリタルトキハ登記簿ニ記載シタル行政區畫又ハ其名稱ハ當然之チ變更シタルモノト看做ス字又ハ其名稱ノ變更アリタルトキ亦同シ

◎行政區劃ノ變更ト變更登記ノ要否

- 一 不動産登記法第五十九條ノ規定ハ登記名義人ノ表示ニ付テモ適用アリ而シテ同條所定ノ事實發生シタルトキハ其登記カ何レノ登記所ニ存スルチ間ハス總テ變更セラレタルモノト看做スヘキモノトス(法曹會決議大正一四年法二四五號二〇頁)
- 二 行政區劃又ハ字ノ變更ニ伴ヒ土地ノ變更アリタルニ因リ登記名義人ノ表示ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テ登記官吏力登記ノ添附書類其ノ他ニ依リ右變更ノ事實ヲ知リタルトキハ職權ヲ以テ其ノ變更登記ヲ爲スヘキモノナルコト不動産登記法第百條ノ二ノ規定ノ旨趣ニ照シ疑ナキ所ナリ(大審大正一二民四二四頁)
- 三 行政區劃ノ變更ト變更登記ノ要否(本卷「ヒ」非訟事件手續法一四七條)

◎國名ノ變更ト變更登記ノ要否

國名ノ變更ハ行政區劃又ハ其名稱變更ナリト見ル可カラサルハ勿論ナレトモ現ニ帝國政府力支那共和國ヲ承認シタル上ハ從來登記簿ニ記載シタル清國ノ名稱ハ當然支那共和國ト變更シタルモノト看做シ取扱フチ相當トス(司法省法律局長昭和三年民一一二七號通牒)

第六十五條 抹消シタル登記ノ回復ヲ申請スル場合ニ於テ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ附本ヲ添付スルコトヲ要ス

◎本條ノ趣旨

本條ハ抹消セラレタル登記ノ回復申請ニ關スル手續ヲ規定シタルモノニシテ其回復請求ニ付登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者ニ物權ヲ對抗スルコトヲ得ル場合ト否ラサル場合トノ存スルコトヲ規定シタル趣旨ニ非ス(大審大正一二年民四六〇頁)

◎本條ノ適用

不動産登記法第六十五條及ヒ第六十六條ノ規定ハ登記カ形式上正當ノ手續ニ因リ抹消セラレタル場合ニ適用スヘキモノニシテ登記官吏ノ錯誤ニ依リ之ヲ抹消シタル場合ニ適用スヘキモノニ非ス(大審三五年民一〇卷一三九頁)

◎本條ノ利害關係人ニ該當スル者

- 一 抵當權者カ其抵當權ノ目的タル土地ノ所有權ヲ取得シタル結果混同ニ因リ抵當權消滅ノ抹消登記ヲ爲シタルニ右所有權ノ移轉ハ虛偽ノ意思表示ニ基クモノトシテ其登記ハ無効ナルヲ以テ抹消スヘキ旨ノ判決確定シタルトキハ抵當權者ハ抹消シタル抵當權登記ノ回復ヲ申請シ得ヘキモノナレハ土地所有權者(抵當權設定者)ハ登記上利害關係人トシテ承諾書ヲ交附スヘキモノトス(大審大正六年評論六卷諸法三九四頁)
- 二 抵當權ノ設定登記ヲ經タル後所有權者カ不法ニ其登記抹消ノ手續ヲ爲シタルトキハ縱令其後ニ於テ所有權者他人ニ移轉スルモ仍ホ不法ニ登記ヲ抹消シタル當時ノ所有權者トシテ登記回復ノ手續ヲナスヘキ者トス何トナレハ所有權者ニシテ抵當權登記ニ付不法ニ抹消ノ手續ヲナスニ於テハ爾後所有權者他人ニ移轉シタルカ爲メニ抹消セラレタル抵當權ノ登記ヲ原狀ニ回復スヘキ義務ヲ免ルル能ハサルヤ明カナレハナリ故ニ不法ニ抹消セラレタル抵當權ノ登記ヲ回復スル手續ハ登記義務者タル抹消當時ニ於ケル所有權者ニ對シテ之ヲ請求スルハ當然ナリ而シテ現在ノ所有權者ハ登記ヲ抹消スル手續ニ何等干與スル所ナキヲ以テ抹消セラレタル登記ノ回復ニ付登記義務者ノ地位ニ立ツヘキモノニ非ラス唯登記法第六十五條ニ所謂登記上利害關係人有スル第三者タルニ過キサレハ之ニ對シテ抵當登記ノ回復ニ付キ其承諾ヲ要求スルハ格別ナリト雖モ抹消登記ノ回復ヲ請求スヘキモノニ非ス(大審四四年法七四二號二八頁)
- 三 不動産登記法第二十五條第二項第六十五條ニ依リハ抹消シタル登記ノ回復ヲ囑託スル場合ニ於テモ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ囑託書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ附本ヲ添付スルコトヲ要スルハ勿論ナルモ其所謂登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者ナルヤ否ハ單ニ登記ノ形式ニ於テ利害ノ影響ヲ及ボスニ因リテ定マルモノニ非スシテ其者ノ取得シタル權利ニ對シ利害ノ關係ヲ生スル事實ニ因リテ定マルモノトス本件ニ於テ原審ノ確定セル所ニ依リハ本件土地ニ對シ明治三十九年六月二十日受附田中シナノ爲メ假差押ノ記入ノ登記アリタル後抗告人等ニ於テ該土地ノ所有權又ハ持分權ヲ取得シタル旨ヲ登記シ而シテ其後大正元年九月三十日ニ至リ右假差押取消決定ニ依リ其登記ノ抹消ヲ登記シタルモ次テ大正三年七月二十五日假差押取消決定ノ廢棄決定ニ依リ更ニ抹消登記ノ回復登記ヲ爲シタルモノナルヲ以テ單ニ登記ノ形式ノミヲ以テ觀ルトキハ抗告人等カ所有權又ハ持分權ヲ取得シタル以後ナリトモ一旦假差押ノ登記抹消ノ登記アル以上ハ抗告人等ニ於テ其利益ヲ享受スヘク之カ回復ニ付テハ利害ノ關係ヲ有スル第三者ナルカ如シト雖モ抗告人等ハ所有權ヲ制限スル假差押ノ存スルコトヲ其記入登記ニ依リテ知ルモノト謂フ可ク而モ所有權又ハ持分權ヲ取得シタルモノナレハ其後ノ假差押ノ取消ニ依リテ抗告人等ノ權利ヲ擴大スヘキ何等正當ノ理由ヲ有セス隨テ其抹消登記ノ回復シ前假差押ノ記入登記ヲ爲スハ抗告人等ノ權利取得當

時ノ原狀ニ復スルモノニシテ之カ爲メ抗告人等ニ何等ノ利害ヲ及ホスモノニ非ス抗告人等ハ本件回復登記ニ付キ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者ニ非サルヲ以テ原審方同一趣旨ヲ列示シ登記官吏ノ處分ヲ正當ナリトシ抗告人等ノ抗告ヲ棄却シタルハ相當ナリ(大審大正四年民一〇八三頁)

◎不法登記ノ回復ト其ノ當事者

債務者カ債権者ニ對シ負擔セル債權擔保ノ爲メ其所有不動産ニ債権者ノ爲メ抵當權ヲ設定シ其登記ヲ經タル後未ダ右債權並ニ抵當權ノ消滅セサルニ拘ハラス擅ニ債権者名義ノ文書ヲ偽造行使シテ該抵當權設定登記ヲ抹消シタルカ如キ場合ニ於テハ右抹消セラレタル抵當權設定登記ノ回復登記ヲ申請スルニ付テノ登記義務者ハ該抵當權設定當時ノ不動産ノ所有者ニシテ且抵當權設定者タル債務者ナリトス而シテ後日該不動産カ其負擔タル抵當權ノ設定登記ヲ抹消セラレタル債權者第三者ノ所有ニ歸シ既ニ右第三者カ所有權取得ノ登記ヲ經タリトスルモ右第三者ハ不動産登記法第六十五條ニ所謂登記上利害關係ヲ有スル第三者タルニ止マリ之カ爲メ抵當權設定當時ノ不動産所有者タル抵當債務者カ其儘自ラ抹消シタル該抵當權設定登記ノ回復義務者タルノ地位ニ變動ヲ來サス(東京地判昭和三年報一六二號二二頁)

◎登記回復承認ノ請求ト登記義務者ノ權利(本卷補遺不動産登記法六五條)

第八十一條 土地ノ分合滅失段別若クハ坪數ノ減少又ハ地目變更ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ其土地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ申請書ニ其登記名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添付スルコトヲ要ス

◎土地ノ分合ニ關スル承諾

一 差押ノ記入アル土地ニ付テ分合若クハ地目變更等ノ申請ヲ爲スニハ不動産登記法第八十一條ノ規定ニ依リ其登記名義人ノ承諾ヲ要スルモ豫告登記ノ記入アル土地ニ付テハ此限ニアラス(司法次官大正二年民八〇五號回答)

二 耕地整理登記第八條ノ二ノ規定ニ依リ施行者カ登記名義人ニ代リ分筆ノ登記ヲ申請スル場合ナルニ於テハ不動産登記法第八十一條ノ規定ヲ適用スル限ニ在ラス(法務局長大正四年民二五〇號回答)

三 既登記ノ土地カ河川ノ敷地トナリタル場合ニ於ケル登記ノ抹消又ハ土地ノ表示ノ變更等ノ登記囑託ニ付テハ不動産登記法第八十一條第四百六條ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス(法務局長大正六年民四〇一號回答)

四 假差押ハ所有權ニ關スル處分ノ制限ナレハ假差押登記ハ所有權以外ノ權利ニ關スル登記ニ外ナラサルカ故ニ不動産ノ分合若クハ地目變更ノ登記ヲ申請スルニハ不動産登記法第八十一條ニ依リ假差押登記名義人ノ承諾書ヲ添付スルコトヲ要スルモノトス(法曹會決議大正三年法曹記事二五卷四號)

◎土地ノ分割ト抵當權者ノ承諾

抵當權ノ設定アル土地ト雖モ其所有者ニ於テ之ヲ分割シ及ヒ其地目ヲ變更シテ土地臺帳ニ之カ記載ヲ爲シ進シテ登記簿ニ變更登記ヲ爲スコトヲ妨ケス而シテ之ヲ爲スモ毫モ抵當權ノ實行ニ障礙ヲ與フルモノニ非ス——土地ノ所有者ハ抵當權者ノ承諾ナクハ絕對ニ土地ノ分割又ハ地目ノ變更ヲ爲スコトヲ得サルモノト謂フヲ得ス(大審大正七年民七〇七頁)

◎分筆登記ニ同意スヘキ旨ノ假處分

分筆登記申請ニ同意スヘシトノ趣旨ノ假處分命令ヲ求ムルハ意思ノ陳述ヲ爲スヘキコトノ假處分ヲ求ムルモノニシテ此ノ如キ請求ハ性質上許スヘカラサルモノトス(四五年四月一二日大審院判決)故ニ此ノ如キ假處分命令正本ヲ添付スルモ登記法第八十一條ニ所謂登記名義人ニ對抗スルコトヲ得ル裁判タル效力ヲ有セサルヲ以テ其登記申請ヲ却下スヘキモノトス(法曹會大

諸法令下 (7) 不動産登記法

正元年九月廿八日決議)

◎参照、意思ノ陳述ヲ求ムル判決ト假執行(民訴法五七五頁)

第八十二條 甲地ヲ分割シテ其一部ヲ乙地ト爲シタル場合ニ於テ分筆ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ分割ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ甲地ノ登記用紙中表示欄ニ殘餘部分ノ表示ヲ爲シ分割ニ因リテ他ノ部分ヲ登記何號ニ移シタル旨ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ抹スルコトヲ要ス

◎既存登記ト同一地番ノ登記ノ拒否

◎土地ノ分割登記ノ要件

凡ソ土地ニ地番ヲ附スルハ主トシテ其土地ノ存在ヲ明確ニシ他ノ土地トノ混淆ヲ防キ以テ土地ノ簡別性ヲ明カニスルコトヲ期スルモノナルカ故ニ既存登記ノ土地ト分割登記ノ申請ノ土地ト同一ナルト別異ナルト將又既存登記ノ土地カ事實上存在スルト



否トテ同ハス苟モ既存登記カ廢存スル以上ハ重テ同一番地ノ名稱ヲ附シテ更ニ別箇ノ用紙ヲ備フルハ土地ノ簡別性ヲ紛亂スルモノニシテ登記法上許スヘキモノニ非ス而テ又抗告人申請ニ係ル爾餘三筆ノ分割登記ニ付テハ叙上ノ如キ地番ノ競合ナシト雖モ土地ノ分割登記ハ一筆ノ土地ヲ分割シテ數筆ノ土地ト爲スモノニシテ其分割セラレタル土地ハ互ニ登記上不可分ノ關係ヲ有スルモノナルカ故ニ此等諸地番ノ競合ナキ部分ノミテ分離シテ分割登記ヲ爲スヘキモノニ非ス(大審大正七年民二四四五頁)

**第九十一條** 建物ノ分合其番號若クハ構造ノ變更其滅失其建坪ノ増減又ハ附屬建物ノ新築アルトキハ其建物ノ所有權ノ登記名義人ハ遲滞ナク登記申請スルコトヲ要ス  
建物ノ敷地ノ番號ノ變更アリタルトキ亦同シ

◎一用紙中ノ或建物ノ滅失ト其ノ登記

建物登記簿ニ於ケル一用紙中ノ或建物ノミカ滅失シタルトキハ變更登記ヲ爲ス可キモノニシテ滅失登記ヲ爲スヘキモノニ非ス(大審大正一五年民六〇九頁)

◎變更登記ノ代位ト抵當權者ノ義務

不動産登記法第九十三條第八十一條ノ注意ハ同一不動産ニ對シ登記簿上ノ表示ニ付キ甲抵當權者カ債務者乙ニ代位シテ變更登記ヲ爲サントスルトキハ乙抵當權者ハ之ニ同意スヘキ旨ヲ同接ニ命シタルモノトス(名古屋控大正六年法一一二七六號二六頁)

**第六十三條** 登記官吏カ登記ヲ完了シタル後其ノ登記ニ付キ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滞ナク其旨ヲ登記權利者及ヒ登記義務者ニ通知スルコトヲ要ス但登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ其一人ニ通知スルヲ以テ足ル

◎登記ノ誤脱ニ關スル諸問

- ◎事實ト相違スル部分アル登記(第二續民法二四九頁)
- ◎地番ニ錯誤アル家屋保存登記ノ效力(同上二五〇頁)
- ◎登記ノ誤脱ト對抗力トノ關係(第二續民法二五一頁)

**第六十四條** 第五十六條及ヒ第五十七條ノ規定ハ登記ノ更正ヲ爲ス

◎建物構造ノ變更ト變更登記ノ要否

既登記建物ノ構造ニ變更アルトキハ登記書面ノ記載ト吻合セシムル爲メ變更登記申請ヲ爲スヲ要スルヲ以テ假令實際ノ取扱上登記面ノ記載カ實物ト吻合セサル場合ニ於テ競賣ヲ實行スルコトアルモ變更登記ノ要ナキモノト爲スヘキニ非ス(大審大正六年民一五七〇頁)

◎買受後登記前ノ建物燒失ト登記申請人

建物ノ買受後其登記前該建物燒失シタル場合ニ於テハ買主ヨリ所有權登記ヲ受ケタル後滅失登記申請ヲ爲スコトヲ要セスシテ直チニ現在登記名義人ヨリ滅失登記申請ヲ爲スモ差支ナキモノトス(司法省民事局長回答大正九年法曹記事三〇卷五號六一頁)

**第九十三條** 建物ノ分合其構造ノ變更其滅失又ハ其ノ建坪ノ減少ノ登記申請スル場合ニ於テ其建物ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ第八十一條ノ規定ヲ準用ス

場合ニ之ヲ準用ス

◎登記ノ更正ノ意義

- 一 不動産登記法ニ所謂登記ノ更正ト稱スルハ既存ノ登記ニ錯誤又ハ遺漏アル爲メ其一部ノ附加又ハ抹消ニ依リテ之ヲ訂正スル場合ヲ謂フモノトス從テ登記更正ノ方法ニ依リ不動産保存ノ先取特權ノ登記ヲ之ト全ク異ナリタル不動産工事ノ先取特權ノ登記ヲ變更スルコトヲ得ルモノニアラス(大審大正四年評論五卷諸法二九頁)
- 二 登記ニ誤謬アルニ當リ之ヲ更正センニハ其誤謬カ申請者ノ過失ニ因ルト登記官吏ノ過失ニ因ルトナ同ハ均シク變更登記ノ方法ヲ以テスヘキモノニシテ誤謬訂正ノ爲メ變更登記申請スルハ即チ登記ノ更正手續ニ外ナラス(大審四一年民九〇二頁)

◎更正登記ノ申請ヲ爲シ得ル者

錯誤ノ更正登記手續ハ所有名義人ヨリ爲スヘキモノニシテ前主ニ對シ之ヲ要求スヘキ筋合ノモノニアラス(大阪控昭和二年法二六六五號一二頁)

◎更正登記ノ手續ト承諾義務アル場合

更正登記ハ登記簿ノ記載ニ誤記アリタル場合ニ於テ之ヲ匡正シ  
 實際ノ事實ニ符合セシムルコトヲ目的トスルモノニ係リ而モ登  
 記ハ一旦完了シタル後ハ其ノ登記シタル事項タルヤ表現セラレ  
 タル状態ニ於テ公正ノ效力ヲ生スルモノナルヲ以テ登記ニ錯誤  
 又ハ遺漏アルトキ登記上利害關係ヲ有スル第三者ハ必スシモ之  
 カ登記ノ更正ニ關シ承諾ヲ與フルノ義務ナシト雖本件ノ如ク被  
 上告人ハ其ノ目的タル建物ニ付二萬八千四百七圓ノ債權ヲ擔保  
 スル第一順位ノ抵當權ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルモノ  
 ナルニヨリ該建物ニ付第二順位ノ抵當權ヲ有シ右第一順位ノ抵  
 當權登記以後ニ登記ヲ爲シタル上告人「エム、エス、ジョセフ」  
 フ」ハ被上告人カ更正登記ヲ爲スニ當リ之カ承諾ヲ爲スヘキ義  
 務アリト謂ハサルヘカラス蓋上告人「エム、エス、ジョセフ」  
 ハ本件建物ニ付第二順位ノ抵當權ヲ取得スルニ當リ被上告人ノ  
 有スル第一順位ノ抵當權ヲ以テ擔保スル債權ハ單ニ八千四百七  
 圓ニ過キササルモノト思惟シタルヤモ知ルヘカラスト雖被上告人  
 ノ有スル抵當權ノ債權額カ二萬八千四百七圓ナルコトハ登記  
 簿ヲ一見スルトキハ容易ニ之ヲ知ルコトヲ得ル以上ハ上告人  
 「エム、エス、ジョセフ」ハ該金額全部ヲ以テ被上告人ヨリ第一順  
 位ノ抵當權者タルノ權利ヲ以テ對抗セラルルモ之カ爲ニ毫モ不  
 測ノ損害ヲ被ムルモノニアラサルノミナラス該債權中ノ二萬圓  
 カ元金債權ヲ記載スヘキ登記簿ノ部分ニ於テ誤脱セラレテ其  
 ノ表示ヲ缺キタルモノナルコト登記簿上極メテ明白ナル本件ノ

場合ニ於テハ「エム、エス、ジョセフ」ハ之カ更正登記ニ對シ  
 テ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得サルハ論ヲ俟タサル所ナレハナリ然  
 ラハ原院力之ト同趣旨ノ理由ノ下ニ本件被上告人ノ請求ヲ以テ  
 上告人「ボツトル、ローラ」合資會社ニ對シテ不能ヲ強フルモ  
 ノニアラス且上告人「エム、エス、ジョセフ」ハ被上告人ノ爲  
 ス更正登記申請ニ付承諾ヲ爲スヘキ義務アリト判斷シタルハ洵  
 ニ相當ナリ(大審大正一四年民七四〇頁)

◎更正登記ノ效力發生時期

更正登記ハ更正セラレタルトキヨリ其效力ヲ生スルモノニ非ス  
 シテ基本登記ノ當時ニ遡リ更正ノ效力ヲ生スヘキモノトス(東  
 京地大正七年評論七卷民訴二四九頁)

◎更正前ノ登記ノ效力

不動産登記ニ付個人カ登記權利者ナルトキハ登記申請書及ヒ登  
 記簿上之ヲ表示スルニ其氏名ヲ以テスルコトヲ要シ商人ト雖其  
 商號ヲ以テ表示スルヲ得サルコト不動産登記法第三十六條第四  
 十三條第五十條ノ規定ニ徴シ明カナリト雖登記簿上登記權利者  
 ノ表示トシテ氏名ノ記載ナキモ其何人タルヤヲ認識スルコトヲ  
 得ヘキ記載アルトキハ同法第六十三條第六十四條等ノ規定ニ依  
 リ其登記ノ更正ヲ爲スコトヲ得ヘク而カモ更正以前ノ登記ハ效

力ヲ有セストノ規定ナキヲ以テ看レハ其登記ハ有效ノモノト爲  
 スヘク從テ其後同一不動産ニ付權利ヲ取得シタル第三者ハ登記  
 セラレタル物權ノ得喪變更ヲ否認スルコトヲ得サルモノト解セ  
 サルヘカラス(大審大正四年民九三頁)

第九十四條

甲、建物又ハ其附屬建物ヲ分割又ハ區分シテ之ヲ乙、建物  
 ト爲シタル場合ニ於テ其登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄  
 ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ分割又ハ區分ニ因リテ登記何號ヨリ移シ  
 タル旨ヲ記載スルコトヲ要ス  
 前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ甲、建物ノ登記用紙中表紙欄ニ殘餘部  
 分ノ表示ヲ爲シ分割又ハ區分ニ因リテ他ノ部分ヲ登記何號ニ移シ  
 タル旨ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ抹スルコトヲ要ス但分割  
 又ハ區分シタル附屬建物ノミニ關スル表示番號アルトキハ其番號  
 チモ抹スルコトヲ要ス

◎建物ノ分割登記ノ請求權

甲種建物ノ附屬建物ヨリ分割シテ乙種建物ト爲シ登記簿上之ヲ獨  
 立ノ建物ト爲サント欲セハ獨リ該建物ノ所有名義人ヨリ分割登  
 記申請ヲ爲シ得ヘク其他ノ者ヨリ之カ申請ヲ爲シ能ハサルモノ  
 トス又建物所有名義人以外ノ者ハ該名義人ニ對シ法律ノ規定又  
 ハ契約等ニ依リ分割登記ノ請求權ヲ有スルカ或ハ債權者トシテ  
 債權保全ノ爲債務者タル所有名義人ノ該權利ヲ代位シテ行使ス  
 ル場合ニ非サレハ之カ分割登記ノ請求權ヲ有セス(東京控大正  
 五年法一一二七號二六頁)

第三百三條

土地ノ收用ニ因ル所有權移轉ノ登記ハ登記權利者ノミニ  
 テ之ヲ申請スルコトヲ得其申請書ニハ補償金ノ受取證又ハ供託受  
 領證ヲ添付スルコトヲ要ス  
 前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テ必要アルトキハ起業者ハ登記名義人  
 又ハ相續人ニ代ハリ土地ノ表示若クハ登記名義人ノ表示ノ變更又  
 ハ相續ニ因ル所有權移轉ノ登記ヲ申請スルコトヲ得  
 官廳又ハ公署カ起業者ナルトキハ其官廳又ハ公署ハ混濁テ前二  
 項ノ登記ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

◎協議ニ因ル所有權移轉ノ效力(本卷「ト」土地收用法六三條)

第四百條第一項 不動産ヲ華族世襲財産ト爲スコトヲ認可シタルトキハ當該官廳ハ遲滞ナク世襲財産ノ設定ノ登記ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

◎華族世襲財産ト對抗要件(續民法九二二頁)

第四百條ノ八 信託ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ申請書ニ添付スルコトヲ要ス

- 一 委託者、受託者、受益者及信託管理人ノ氏名住所法人ニ在リテハ其名稱及事務所
- 二 信託ノ目的
- 三 信託財産ノ管理ノ方法
- 四 信託終了ノ事由

五 其他信託ノ條項  
前項ノ書面ニハ申請人署名捺印スルコトヲ要ス

◎信託財産ヲ以テスル競落ト登記手續

信託財産ヲ以テ競落シタル不動産ニ付テハ執行裁判所ハ申立人ヲシテ不動産登記法第四百條ノ八所定ノ書面ヲ提出セシメ所有權移轉登記ト同時ニ信託ノ登記ヲ囑託スヘキモノトス又競賣申込ノ際信託財産ニテ競落スル旨ノ申立ナキトキト雖所有權移轉登記ノ囑託ノ際信託登記ノ囑託アリタキ旨ノ申立アルトキハ同一ニ取扱フヘキモノトス(法曹會決議昭和三年法曹會雜誌六卷四號一四二頁)

第四百五條 未登記ノ土地所有權ノ登記ハ左ニ掲ケタル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

- 一 土地臺帳謄本ニ依リ自己又ハ被相續人カ土地臺帳ニ所有者トシテ登録セラレタルコトヲ證明スル者
- 二 判決ニ依リ自己ノ所有權ヲ證明スル者

◎本條ニ關スル諸問

- ◎承繼取得者ノ保存登記ノ效力(第二續民法二四五頁)
- ◎保存登記ノ無効ト爾後登記ノ效力(第二續民法二四九頁)
- ◎從來保有スル所有權ト對抗要件(第二續民法二四四頁)
- ◎不動産ノ相續取得ト對抗要件(第二續民法二四二頁)
- ◎不明ナル相續人ニ登記手續ノ請求(民法六七九頁)
- ◎土地賣主ノ絶家ト登記手續(民法六七九頁)

◎自己ノ所有權ヲ證スル判決ノ意義

一 通常裁判所ノ權限ニ屬スル事項ニ關スル法令ニ於テ單ニ判決トアルハ通常裁判所ノ判決ヲ指ステ其用例トスレハ不動産登記法第五百條第二號ニ所謂判決ノ意義モ亦之ニ外ナラス故ニ原裁判所カ同條ノ判決ニハ行政裁判所ノ判決ヲ包含セサル者ト爲シ登記申請ヲ却下スルニ此理由ヲ以テシタル區域裁判所ノ決定ヲ是認シタルハ正當ニシテ法律ニ違背スル所ナシ(大審大正三年法九三九號一八〇頁)

二 國有土地森林原野下展法ニ依リ提起セシ行政訴訟事件ニ付キ一定ノ土地ヲ下展ス可キ旨判決アリタル場合ニ於テハ勝訴者ハ下展判決ヲ以テ不動産登記法第五百條第二號ニ依リ所有權保存ノ登記申請ヲ爲シ得ルモノトス又其ノ登録稅ハ同條第二條第五號ニ該當スルモノトス(司法省法務局長大正三年民七九二號回

答)

◎本條ニ所謂判決ノ意義(第二七條)

第四百六條 未登記ノ建物所有權ノ登記ハ左ニ掲ケタル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

- 一 建物ノ敷地ノ所有者又ハ地上權者トシテ登記簿ニ登記セラレタル者
- 二 土地臺帳謄本ニ依リ自己又ハ被相續人カ土地臺帳ニ敷地ノ所有者トシテ登録セラレタルコトヲ證明スル者
- 三 既登記ノ敷地ノ所有者又ハ地上權者ノ證明書ニ依リ自己ノ所有權ヲ證明スル者
- 四 判決其他官廳又ハ公署ノ書面ニ依リ自己ノ所有權ヲ證明スル者

◎本條ニ關スル諸問

- ◎新築建物ト所有權ノ對抗要件(第二續民法二四四頁)
- ◎未登記建物ノ讓渡ト登記義務(第二續民法二四六頁)
- ◎建築前ニ係ル建物保存登記ノ效力(第二續民法二四四頁)

◎地番ニ錯誤アル家屋保存登記ノ效力(第二續民法二五〇頁)  
◎本條ニ關スル諸問(前條)

◎建物保存登記ト家屋所有ノ證明

一 土地ノ賃借人カ借地上ノ建物ニ付キ保存登記ヲ爲サントスル場合ニ於テハ賃借人ハ敷地所有者トシテ證明ヲ爲スヘキ義務アルモノトス(長崎控四五年評論一卷民法六〇〇頁)  
二 大正十五年法律第二十四號地方稅ニ關スル法律第九條ニ家屋稅ハ家屋ノ賃賃價額ヲ標準トシテ家屋ノ所有者ニ之ヲ賦課ストアルカ故ニ道府縣其ノ他該稅賦課ノ權限ヲ有スル官署又ハ公署ハ諸般ノ事情ヲ查覈シ家屋ノ所有者ナルコトヲ認ムルニ非サルハ之ニ該稅ヲ賦課スルコトヲ得サルハ論ヲ俟タス此故ニ該稅ヲ賦課スル官署又ハ公署ニ於テ荷モ一定ノ人ヲ以テ一定ノ家屋ヲ所有スル者ト認メ之ニ該稅ヲ賦課スル事實アル以上其ノ者ヨリ該家屋ノ所有ニ關シ之カ證明ヲ求メラレタルトキハ該官署又ハ公署ハ之ニ對シ家屋ノ所有者ナリト認メテ該稅セル旨ノ證明ヲ賦與スヘキモノト解スルテ相當トス——次ニ所同家屋稅納付ノ證明ニシテ特定ノ家屋ニ付特定ノ家屋稅ヲ納付セルコトヲ證スル書面ナリトスルトキハ該書面ヲ提出スル者ハ不動産登記法第百六條第四號ニ於テ保存登記ヲ爲スニ付要求スル所同官署又ハ公署ノ書面ニ依リ自己ノ所有權ヲ證明スル者ニ該當スルヲ以テ其ノ他ノ必要ナル條件具備スル限リ登記所ハ宜ク之ヲ受理スヘキモノナルモ若夫ノ證明ニシテ普通納稅ノ領收書ノ類ニ止マルトキハ該書面ハ單ニ家屋稅ヲ納付シタルコトヲ證スルニ止マリ如何ナル家屋ニ付納稅シタルモノナルヤ明カナラサルカ故ニ之ヲ以テ直ニ特定ノ家屋保存登記ヲ爲スニ付必要ナル要件ヲ充タシタルモノト解スルヲ得ス隨テ斯ル書面ニ基キ登記ノ申請ヲ爲シタルトキハ登記所ハ該申請ヲ受理スヘキモノニ非ス(法曹會決議昭和三年法曹會雜誌第六卷六號一四〇頁)

◎自己ノ所有權ヲ證スル判決ノ意義(第二〇五號)

第九九條 第二百二十八條及第二百二十九條ノ規定ハ未登記ノ不動産所有權ノ變更又ハ處分ノ制限ノ登記ニ之ヲ準用ス

◎本條ニ關スル諸問

一 未登記抵當權ノ實行(諸法令上卷一九二頁)  
二 國有無番地上ノ未登記建物ノ競賣(本卷〔キ〕競賣法二二二條)

第十七條 抵當權ノ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ債權額ヲ記載シ若シ登記原因ニ辨濟期ノ定アルトキハ利息ニ關スル定アルトキハ其發生期若クハ支拂時期ノ定アルトキハ債權ニ條件ヲ附シタルトキ又ハ民法第三百七十條但書ノ定アルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

◎違約金又ハ賠償額ノ登記

抵當權設定登記ノ申請ニ付テハ不動産登記法第十六條ノ如キ明文ナキモ當事者カ申請書ニ違約金又ハ賠償額ニ關スル事項ヲ記載シ登記ヲ申請シタルトキハ登記官吏ハ登記ヲ爲スヘキモノトス(民事局長回答三五年法一〇六號二五頁)

◎特約ニ因ル重利ノ登記

遲延利息ハ利息中ニ包含セサルモ債權ノ效力トシテ法律上當然請求權ヲ有スルハ民法第三百七十四條第二項ノ規定ニ依リ明カナリ故ニ之カ登記ヲ爲ササルモ第三者ニ對抗シ得ヘキハ勿論ナルモ茲ニ抵當權設定登記申請ニ際シ一定ノ利息ヲ付シ該期限ニ

至リ利息ノ支拂ヲ爲ササルトキハ其遲延利息ニ對シ更ニ同額又ハ法定ノ利率等ノ損害賠償額ヲ重利利息ヲ附加スルコトノ特約ヲ付シ貸借契約ヲ爲シ不動産登記法第十七條ニ依リ特約トシテ申請書ニ之ヲ掲ケタルトキハ之ヲ受理登記スヘキモノトス(法曹會決議大正四年法曹記事二五卷九號)

◎抵當權移轉ノ附記登記ノ利害關係人

抵當權移轉ノ附記登記ハ讓渡人ト讓受人ノ關係ニ止マルカ故ニ其ノ附記登記ノ利害關係人モ亦右讓渡人及讓受人ノ外ニ出テサルモノニシテ單ニ抵當權設定者タルニ過キサル者ノ如キハ之ニ該當セサルモノトス(大審大正一三年評論一三卷諸法一八〇頁同旨六年評論六卷諸法一七八頁)

第二百二十六條 數箇ノ不動産ニ關スル權利ノ先取特權、質權又ハ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ其一個ノ不動産ニ關スル權利ヲ目的トス

ル先取特權、質權又ハ抵當權ノ變更又ハ消滅ノ登記ヲ爲シタルトキハ他ノ不動産ノ登記用紙中相當區事關ニ其權利ノ表示ヲ爲シ且其權利ノ變更又ハ消滅シタル旨ヲ附記シ第二百二十四條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル登記中變更又ハ消滅ニ係ル事項ヲ未抹スルコトヲ要ス其一個ノ不動産ニ關スル權利ノ表示ニ付キ變更ノ登記ヲ爲シタルトキ亦同シ

第百十四條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

◎耕地整理登記ト本條

一 耕地整理登記ニ付テハ不動産登記法第二百二十六條ヲ準用スヘキモノト解スルテ相當トス(法曹會議議決大正元年法曹記事二二卷九號五七頁)

二 數箇ノ土地カ共ニ先取特權質權又ハ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ其一箇ノ土地カ耕地整理ニ因リテ變更シタルトキハ不動産登記法第二百二十六條ノ趣旨ニ依リ取扱フヘキモノトス(司法省民事局長元年農八一二號回答)

第百二十七條 質借權ノ設定又ハ質借物ノ轉貸ノ登記ヲ申請スル場

合ニ於テハ申請書ニ借貸ヲ記載シ若シ登記原因ニ存續期間若クハ借貸ノ支拂時期ノ定アルトキ又ハ質借權ノ移轉若クハ質借物ノ轉貸ヲ許シタルトキハ之ヲ記載シ質借權ヲ爲ス者カ處分ノ能力若クハ權限チ有セザル者ナルトキハ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス

質借權ノ移轉又ハ質借物ノ轉貸ヲ許シタル旨ノ登記アラサル場合ニ於テ質借權ノ移轉又ハ質借物ノ轉貸ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ質借人ノ承諾書ヲ添附スルコトヲ要ス

◎借貸ノ支拂時期ノ定ノ意義

不動産登記法第二百二十七條ニ所謂借貸ノ支拂時期ノ定メアルトキハ單ニ上管人所論ノ如キ將來借貸ヲ支拂フヘキ時期ノ定メアル場合ノミチ指稱シタルモノニ非スシテ一定ノ時期ニ借貸ヲ前拂スルノ定メアル場合モ亦借貸ノ支拂時期ヲ定メタルモノニ外ナラサレハ同條ニ依リ其登記ヲ申請スルコトヲ得ルヤ明カナリ故ニ其登記ナキ以上ハ質借人ハ借貸ノ前拂ニ關スル時期ノ定メアルコトヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス(大審四〇年民二六二頁)

◎資料ノ前拂ヲ登記シ得ルカ(民法四一四頁)

第百四十一條 登記シタル權利カ或人ノ死亡ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テ申請書ニ其死亡ヲ證スル戸籍吏ノ書面其他ノ公正證書ヲ添附スルトキハ登記權利者ノミニテ登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

◎終期附贈與ノ消滅ト其ノ登記

終期付贈與ノ效力ハ其終期タル受贈者ノ死亡ト共ニ消滅セルモ其消滅ニ至ル迄ハ受贈者ニ於テ有效ニ贈與ノ目的タル土地ノ所有權チ有シ其ノ消滅ト共ニ其所有權贈與者ニ復歸シタルモノナレハ其所有權ハ受贈者ヨリ贈與者ニ移轉シタルモノニシテ消滅ニ歸シタルモノト謂フヘカラス故ニ此場合ニ於テハ登記權利消滅ノ場合ニ於ケルカ如ク抹消登記ヲ爲スヘキモノニ非スシテ所有權移轉ノ登記ヲ爲スヘキモノトス(大審大正三年法九五七號二二二頁)

第百四十二條 登記權利者カ其義務者ノ行方ノ知レサルニ因リテ

諸法令下 (7) 不動産登記法

一四二條

一四二條

一八九一

ト共ニ登記ノ抹消ヲ申請スルコト能ハサルトキハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ公告催告ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ除權判決アリタルトキハ申請書ニ其原本ヲ添附シ登記權利者ノミニテ登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テ申請書ニ債權證書及債權竝ニ最後ノ二年分ノ定期金ノ受取證書ヲ添附シタルトキハ登記權利者ノミニテ先取特權質權又ハ抵當權ニ關スル登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

◎本條ニ違背スル抹消登記ノ效力

本件抹消登記ハ不動産登記法第一四二條ノ特別ニ從ヒ登記權利者ノ申請ノミニ依リ爲サレタルモノナルコト明ナリト雖右申請ニ當リテハ其申請書ニ同條第二項所定ノ除權判決ノ原本ノ添付ナク又同條第三項所定ノ債權證書ノ添付モナク單ニ債權受取證書ヲ付シタルニ過キサルコト亦右書證ニ徴シ之ヲ認メ得ヘク右ハ同條所定ノ要件ヲ具備セザルモノナルチ以テ同條ノ適用チ受ケ登記權利者一人ノ申請ニ依リ登記スヘキ場合ニ該當セザルニ拘ラス右申請手續ヲ完了セラレタルハ結局同法第二十六條ノ規定ニ反スル違法ノ處分ニ屬シ其效力チ生スル能ハサルモノトス

(東京地昭和二年法二六七四號九頁)

第四百四十四條 假登記ノ抹消ハ假登記名義人ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

申請書ニ假登記名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキハ登記上ノ利害關係人ヨリ假登記ノ抹消ヲ請求スルコトヲ得

◎假登記ノ抹消ハ囑託スヘキモノニ非ス

不動産登記法第一四四條ニ依レハ假登記ノ抹消ハ假登記名義人若ハ登記上ノ利害關係人ヨリ申請スルコトヲ得ヘキモノニシテ管轄區域外ノ囑託ヲ爲シ得ヘキ事項ニ非ルカ故ニ斯ル囑託ヲ受ケタル登記官吏ハ同法第二五條第二項第四九條第二號ニ依リ決定ヲ以テ其囑託ヲ拒絕セサルヘカラサルモノトス(大審大正一一年評諭一一卷諸法五七一頁、同旨大正四年民二四二頁)

◎不動産ノ讓渡ト假登記抹消ノ請求權

物權的請求權ハ事實上ノ狀態カ所有權其ノ他ノ物權ノ本來ノ内

ラサルヘカラサルモノニ非ス假登記義務者ニ對シテ本登記ヲ請求スルト同時ニ第三者ニ對シ前叙抹消登記ヲ請求スルヲ妨ケスト爲ス趣旨ナルコト明ナリ論旨援用ノ當院判例ハ(大正四年七月同年十二月大正五年四月大正八年九月判決)右判例ニ依リ變更セラレタルモノナルコト言テ俟タス(大審昭和三年民六四二頁)

◎外國會社ノ支店閉鎖ト假登記ノ抹消

日本ニ支店ヲ設ケ且其所在地ニ登記ヲ爲シタル外國會社ト取引ヲ爲シタル者ハ爾後右外國會社ニ於テ右登記ヲ抹消スルモ其一事ニ依リ右會社ノ成立ヲ否認スルコトヲ得ル旨ノ法則ナク從テ不動産ノ所有者カ其不動産ニ關シ右會社ト爲シタル取引ニ付假登記アリタル後右會社カ支店登記ヲ抹消スルモ其一事ニ依リ不動産登記法第四十一條ノ規定ニ準シ單獨ニテ右假登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得サルノ筋合ナリトス而シテ斯ル場合ニ於テ假登記ノ原因無効ニシテ假登記ヲ抹消スヘキモノナルトキハ右取引ヲ爲シタル不動産ノ所有者ハ右會社ニ對シ不動産所在地ノ裁判所ニ假登記抹消ノ手續ヲ爲スヘキ旨ノ訴ヲ提起シ因テ以テ右假登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得ルモノトス(大審大正一〇年民八五二頁)

◎假登記ニ關スル諸問(第二條、第七條、第三二條)

諸法令下 (7) 不動産登記法

一四四條

容ニ適セサル爲之ヲ其ノ内容ニ適セシムルコトヲ目的トスルモノニシテ物權ノ效力トシテ發生シ物權ノ移轉アルトキハ之ニ隨伴シテ移轉スルモノナレハ物權ヲ有スル者ニ非サレハ物權的請求權ヲ有セザルト同時ニ其ノ者カ物權ヲ他人ニ讓渡スルトキハ之ト共ニ其ノ請求權ヲ失フモノトス(大審昭和三年民九七五頁)

◎假登記ニ抵觸スル登記ト抹消ノ時期

假登記ハ本登記ノ爲ニ順位保存ノ效力ヲ有スルモノナレハ假登記アリタル後本登記カ爲サレタルトキハ其ノ間ニ於テ假登記義務者ノ爲シタル處分ハ本登記ノ權利ニ抵觸スル範圍内ニ於テ其ノ效力ナク從テ本登記ノ權利者ハ前記假登記義務者ノ處分ニ因ル權利取得ノ登記ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ登記ノ抹消ヲ請求シ得ヘク而カモ此ノ請求ハ必スシモ先ツ自己ノ本登記ヲ爲シタル後ニ於テセザルヘカラサルモノニ非ス假登記義務者ニ對シ本登記ヲ爲スヘキコトヲ請求スルト同時ニ之ヲ爲スモ敢テ妨ケザルコトハ當院判例ノ示ス所ナリ(大正九年(オ)第二百九十四號同年七月十日判決)而シテ該判例ハ假登記後本登記前ニ假登記義務者ニ於テ本登記ノ目的タル權利ト全然相容レザル處分ヲ爲シ之ニ因ル第三者ノ權利取得ノ登記アリタル場合ニ於テハ假登記權利者ハ先ツ本登記ヲ受ケ而シテ後右第三者ノ權利取得登記ノ抹消登記ヲ受ケヘキモノナルモ而カモ必スシモ此ノ順序ニ依

第四百四十六條 登記ノ抹消ヲ申請スル場合ニ於テ其抹消ニ付キ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

◎本條ノ「第三者」及「裁判」ノ意義

一 建物ノ假裝賣買ニ基キ所有權移轉ノ登記ヲ爲シ登記簿上所有名義ヲ有スル者ノ相續人カ家督相續ニ因リ所有權取得ノ登記ヲ爲シタル後善意ノ第三者ニ對シ抵當權ヲ設定シ更ニ家督相續ニ因ル所有權取得登記アリタルトキハ前二回ノ外所有權取得登記ハ之ヨリ傳來セル善意ノ第三者ノ抵當權登記ヲ維持スルニ必要ニシテ又最後ノ所有權取得登記ハ其抵當權實行ノ爲メニ必要ナルカ故ニ第三者ハ右各登記ノ抹消ニ付キ不動産登記法第一四六條ニ所謂登記上利害關係ヲ有スル第三者ニ該當スルモノトス(大審大正一四年評諭五卷民法三三三頁)

二 登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者トハ第三者カ事實上當該權利ヲ有スルト否トヲ問ハス登記簿ニ自己ノ權利ヲ登記シタル者ニシテ登記簿ニ依レハ登記抹消ニ因リテ權利上ノ損害ヲ受ケ又

一四六條

一八九三

ハ受ク可キ虞アル者ヲ謂フ故ニ抹消ス可キ權利ノ競賣其ノ他ノ事由ニ依リ抵當權カ消滅シタル場合ト雖其ノ登記カ抹消セラレサル以上ハ抵當權者トシテ登記セラレタル者ハ地上權ノ抹消登記ニ付登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者タルヲ妨タルモノニアラス(大審昭和二年民六五頁)

二 右地上權抵記ノ抹消ヲ求ムル者ハ其ノ申請書ニ抵當權者トシテ登記セラレタル者ノ承諾書又ハ之ニ對抗シ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スルコトヲ必要トスルノミナラス抗告人ハ本件登記ノ申請ニ付テハ地上權者ニ對スル地上權消滅ニ因ル地上權登記抹消手續ヲ爲スコシトノ確定判決謄本ヲ添附シ且右消滅原因ハ民法第二百六十六條第二百七十六條ニ基クモノニシテ之ヲ抵當權者ニ對抗シ得ヘキモノナルヲ以テ右判決ハ之ヲ以テ抵當權ニ對抗シ得ルモノナレハ不動産登記法第四百六條所定ノ裁判ノ謄本ヲ添附シタル場合ニ該モノナリト謂フモ假令實體法上地上權ノ消滅ヲ以テ抵當權者ニ對抗シ得可キ場合ト雖前記判決ハ單ニ地上權者トシテ登記セラレタル者ニ其登記抹消手續ニ必要ナル意思表示ヲ命シタル判決タルニ過キス其ノ確定力ハ判決ヲ受ケタル當事者以外ノ抵當權者ニ及ブモノニアラサルカ故ニ其ノ確定力ヲ以テ抵當權者ニ對抗シ得サルハ言テ俟タサルトコロニシテ此ノ如キ判決ヲ以テ本件地上權ノ消滅ヲ抵當權者ニ對抗シ得ヘキ裁判ナリト稱スルヲ得ス(大審昭和二年民六五頁)

第四百九條ノ二 登記官吏ハ登記ヲ完了シタル後其登記カ第四百九條第一號又ハ第二號ニ該當スルモノナルコトヲ發見シタルトキハ登記權利者登記義務者及ヒ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者ニ對シ一ヶ月ヲ超エル期間ヲ定メ其期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ登記ヲ抹消スヘキ旨ヲ通知スルコトヲ要ス  
通知ヲ受クヘキ者ノ住所又ハ居所カ知レサルトキハ前項ノ通知ニ代ヘ商業登記ニ付キ定メタル公告ト同一ノ方法ヲ以テ公告スヘキコトヲ要ス  
登記官吏ハ前項ノ外相當ト認ムル新聞紙ニ同一ノ公告ヲ掲載セシムルコトヲ得

◎申請ニ欠缺アル登記ト是正方法

一 不動産登記法第四百一一條、第四百二二條ニ於テ登記權利者ノミニテ登記ノ抹消ヲ申請シ得ヘキ例外ノ場合ヲ定メ同法第四百四十六條ニ於テ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スルニ非サレハ登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得サル旨ヲ定メ又同法第四百九條

ノ二以下ニ於テ第四十九條第一號又ハ第二號ニ該當スル場合ニ登記官吏カ職權ヲ以テ登記ヲ抹消スヘキ手續ヲ規定シ同條第三號乃至第九號ノ場合ニ新ル職權ヲ以テ登記ヲ抹消スヘキ手續ニ關シ規定スルトコロナキニ依リテ之ヲ觀レハ右第四十九條第一、二號ノ場合ヲ除ク外登記官吏ハ職權ヲ以テ登記ノ抹消ヲ爲スコト能ハサルモノナレハ第四十九條第八號ノ場合ニ該當スルモノアリシトスルモ登記官吏カ一旦登記申請ヲ受理シテ其ノ登記ヲ完了シタル以上ハ抗告ノ方法ニ依リテハ其ノ抹消シタル登記ノ回復ヲ求ムルヲ得サルモノトス(當院大正五年(ウ)第四百六十三號同年十二月二十六日第一民事部決定參照)然ラハ原裁判所カ右ト同一理由ニ依リ抗告人ノ抗告ヲ許容スヘカラサルモノトシ抗告ヲ棄却シタルハ正當ナリ(大審大正一三年民五〇四頁)

二 登記官吏カ不動産登記法ニ依リ區裁判所ノ囑託ニ基キ既ニ登記ヲ爲シタルトキハ假令其ノ囑託書並其ノ添附書類ノ表示カ登記簿ノ表示ト符合セサル場合ト雖同法第四十九條第六號ノ場合ニ該當セサル限リ右登記ニ對シテハ抗告ヲ爲シ得サルモノト解スヘキモノトス(大審昭和二年法二七四〇號九頁)

三 不動産登記法第四十九條ハ其ノ事件ヲ登記スヘキモノニ非サルヘキハ登記官吏ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ登記ヲ拒絕スルコトヲ要スル旨規定シ囑託アリタル場合ニ付テハ同法第二十五條第二項ノ規定ニ依リ別段ノ定アル場合ヲ除ク外申請ニ關スル規定ヲ準用スヘキカ故ニ登記官吏カ法律ノ規定ニ基キ登

記ノ囑託ヲ受ケタル場合ニアリテモ囑託セラレタル登記者カ果シテ法律上登記スヘキモノナリヤ否ヲ審査シ其ノ登記ス可キモノニアラサルトキハ其ノ囑託ヲ拒絕セサル可カラス而シテ登記官吏カ之カ拒絕ヲ爲サス囑託ニ基キ登記ヲ爲シタルトキハ正當ノ利益關係ヲ有スル者ニ於テ抗告ヲ以テ不服ヲ申立テ得ルコト同法第五百十條ノ規定ニ徴シ疑ナキ所ナリ蓋同條ハ登記官吏ノ決定又ハ處分ヲ不當トスルモノニ管轄裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ト定メ登記官吏ノ處分ノ種類ヲ限定セサルカ故ニ登記官吏カ囑託ニ基キ登記ヲ爲スカ如キ處分ヲ包含スルモノト解スルヲ相當トスレハナリ然レハ原審カ登記官吏ニ於テ囑託ニ基キ一旦其ノ登記ヲ爲シタル以上ハ其ノ登記事項カ本來登記ス可カラサルモノナリトスルモ抗告ノ方法ニ依リ之カ抹消ヲ求メ得ヘキモノニ非スト爲シ抗告ヲ排斥シタルハ不法ニシテ原決定ハ全部廢棄ヲ免レス(大審大正一五年彙報三八卷民事六九頁)

第五百十條 登記官吏ノ決定又ハ處分ヲ不當トスル者ハ管轄地方裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

◎本法ノ抗告ト非訟事件手續法ノ不適用

抗告人ハ登記ハ非訟事件ナレハ別段ノ規定ナキ限リハ非訟事件

手續法ノ規定ニ依リ抗告ヲ爲シ得ヘキモノナリト云フモ不動産登記法ニ於ケル抗告ニ非訟事件手續法ノ規定ノ適用ナキコトハ不動産登記法第三十二條第四項第四百九十九條ノ四第百五十九條等カ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用シタルニ依ルモ明カナル所ナレハ假登記ヲ命スル假處分命令ニ對シテ其裁判ニ因リ權利ヲ害セラレタリトシテ非訟事件手續法第二十條ニ依リ抗告ヲ爲シ得ヘキ限リニアラス(大審大正三年民二九(頁))

◎登記官吏ノ處分ニ對スル抗告權者

◎登記官吏ノ處分ト利害關係アル者

- 一 登記官吏ノ處分ニ對シ抗告ヲ爲シ得ル者ハ登記上直接ノ利害關係ヲ有スルモノニ限ルモノトス(大審大正一三年評論一三卷諸法一八〇頁)
- 二 按スルニ登記官吏ノ決定又ハ處分ヲ不當トシ抗告ヲ爲スハ登記上直接ノ利害關係ヲ有スル者ニ限ルコトハ不動産登記法第五百十條以下ノ規定ニ徴シテ疑テ容レズ本件抵當權設定ノ登記ニ於テ之ニ依リテ利益ヲ享クル者ハ登記權利者ニシテ設定者タル登記義務者ニ非ス登記義務者ハ抵當權ノ登記ニ依リテ間接ニ利益ヲ享クルコトアルモ直接ノ利益ヲ享クルコトナシ隨テ登記官吏カ右抵當權設定ノ登記申請ヲ却下シタル場合ニ於テ其決定ニ對シテ登記義務者ヨリ抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノトス(大審

◎登記官吏ノ不當處分ナリヤ否ノ判定

- 一 不動産登記法第五百十條ニハ登記官吏ノ決定又ハ處分ヲ不當トスル者ハ管轄地方裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ト規定シアリテ登記官吏カ管轄區域裁判所ノ囑託ニ基キ假登記ノ抹消ヲ爲スハ即チ登記官吏ノ處分ニ外ナラザレハ之ヲ不當トスル者ハ同條ニ依リ抗告ヲ爲シ得ヘキコト勿論ナリ(大審大正四年民二四二頁)
- 二 本訴請求ノ原因トスル所ハ賃借權ノ登記適法ノ理由ナクシテ抹消セラレタル事實ニ在リテハ登記官吏ノ不當處分ニアラサルコトハ原判決ニ援用シタル第一審判決ノ事實摘示ニ徴シテ明白ナルノミナラス本件ノ事實タル登記抹消ハ登記官吏カ當該區域裁判所ノ囑託ニ因リテ爲シタルモノナレハ假令其囑託ハ失當ナリトスルモ登記官吏ノ處分ハ之ヲ不當トスルヲ得サルヲ以テ不動産登記法第五百十條ニ依リ抗告スルモ其目的ヲ達スヘキ限ニ在ラス(大審四〇年民九二七頁)
- 三 登記官吏ハ登記申請ヲ受理スルニ際シ其實體ニ關スル調査ノ權限ヲ有セサルカ故ニ之カ受理ノ受理ノ處分ハ一ニ其申請ニ關シ提出セラレタル書類及ヒ事實ノ形式的調査ノ上ニ基礎ヲ措カサルヘカラス從テ登記官吏ノ處分ノ當否ヲ判斷スルニハ其申請ノ當時ニ現ハレタル書類及ヒ事實ノ形式ヲ以テ之カ證據トナス

大正四年民一六六八頁)

- 三 原裁判所ノ判示スル所ニ依レハ抗告人ハ若林文治ニ對シ額面三萬圓及ヒ六萬圓ノ爲替手形債權ヲ有シ其債權ハ督促手續ニ依リテ確定シ右債務者文治ハ若林謙次郎ノ長男ニシテ右謙次郎ノ死亡ニ因リ大正九年七月一日其家督相續ヲ爲シタリ又同人ハ多額ノ負債アリテ財産隱匿ノ恐アルヲ以テ抗告人ハ同年同月五日亡謙次郎ノ所有タリシ本件ノ土地ニ付キ債務者ノ代位ニ依ル家督相續所有權轉移ノ登記ヲ太田原區裁判所ニ申請シ同日右代位登記ノ記入アリタルモ同年同月七日右債務者文治ノ申請ニ因リ同區裁判所登記官吏ハ右家督相續登記ヲ錯誤ノ登記ト爲シ之ヲ抹消シタルモノナリト主張シ因テ右抹消ノ處分ニ對シ原裁判所ニ抗告ヲ爲シタルコト明白ナリ果シテ然ラハ抗告人ハ民法第四百二十三條ノ規定ニ從ヒ右債務者文治ニ代位シテ登記申請スル權利ヲ有スル者ナルヲ以テ前示抹消ノ處分ニ關シ登記上ノ直接利害ヲ有スルコト言テ然ラス然ルニ原裁判所ハ事茲ニ出テスシテ漫然「抗告人ハ其主張自體ニヨリ明白ナルカ如ク本件不動産ノ所有者タリシ若林謙次郎ノ長男タル若林文治ニ對シ手形上ノ債權ヲ有スト云フニ止マリ抗告人ノ代位登記ニ係ル本件不動産ニ付キ登記上直接ニ利害關係ヲ有スルモノニ非ラス從テ本件不動産ニ付キ登記官吏カ抗告人主張ノ處分ヲ爲シタルハトテ抗告人ヨリ抗告ヲ爲シ得ヘキモノニアラサルヲ以テ」トシ抗告棄却ノ裁判ヲ爲シタルハ違法ナルヲ免カラス(大審大正九年民一

◎抗告ノ方法ニ依ル登記抹消ノ能否

- 一 登記官吏カ登記申請書ニ必要ナル書面ノ添附ナキニ拘ラス登記ヲ爲シタルトキハ其ノ抹消ハ登記官吏ノ處分ニ對スル抗告ノ方法ニ依ルコトヲ得サルモノナルコトハ當院ノ判例トスル所ニシテ(大正十三年(ク)第五百十三號同年十一月十四日第一民事部決定參照)今之ヲ變更スルノ必要ヲ見ス然ラハ本件ニ於テ未成年荒井武ノ親權者タル母荒井ハルカ武ニ代リ抗告人ニ對スル債權ト共ニ抵當權ヲ川又儀太郎ニ讓渡シ其ノ登記ヲ爲スニ付親族會ノ同意ヲ得ス從テ其ノ同意書ヲ添附セシテ登記申請ヲ爲シ登記官吏ニ於テ既ニ之カ登記ヲ完了シタルコトハ記錄ニ徴シ明白ナルカ故ニ右登記官吏ノ處分ニ對スル抗告ノ方法ニ依リテ前記登記ノ抹消ヲ求ムルコトヲ得サルモノトス(大審昭和三年法二八六號一二頁)
- 二 (右ノ引用判例)申請ニ欠缺アル登記ト是正方法(第一四九條ノ二)

第五百五十五條 抗告裁判所カ抗告理由アリトスルトキハ決定ヲ以テ登記官吏ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス



抗告裁判所ハ登記上ノ利害關係人ニ決定ノ附本ヲ送達スルコトヲ要ス

○抗告裁判所ト登記抹消處分ノ命令

- 一 登記ノ抹消ハ登記官吏ニ於テ不動産登記法第一四七條ノ規定ニ從ヒ之ヲ爲ス可キモノナルカ故ニ同第一五五條第一項ニ依リ登記官吏ニ其處分ヲ命セサル可カラス然ルニ原裁判所カ其處分ヲ命セスシテ單ニ該登記ヲ抹消スル旨ノ決定ヲ爲シタルハ違法ナリ(大審大正二年評論二卷諸法六七頁)
- 二 抗告裁判所カ抗告ヲ理由アリトスルトキハ決定ヲ以テ登記官吏ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ得ヘク抗告ノ申立ニ拘束セラレヘキモノニ非サレハ抗告人カ登記官吏ノ處分ノ取消ヲ求メタルニ拘ハラズ抗告裁判所カ不服申立ノ趣旨ニ從ヒ登記ヲ更正スヘキ旨ノ裁判ヲ與フルモ違法ニアラス(大審大正八年評論八卷諸法一八三頁)

第五百五十八條 抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ法律ニ違背シタル決定ナルコトヲ理由トスルトキニ限り抗告ヲ爲スコトヲ得

第五百五十四條乃至第五百五十七條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

○抗告裁判所ノ裁判ノ意義

- 一 不動産登記法第一五八條ニ所謂抗告裁判所ノ裁判トハ事件ノ本體ニ付キ爲シタル裁判ヲ指稱シ本體ニ付テノ裁判ヲ前審ニ委任スル裁判ヲ指稱セサルモノトス(大審大正九年評論九卷諸法一五一頁)
- 二 抗告裁判所ノ裁判ノ意義 (本卷(七)非訟事件手續法二四條)

○再抗告ノ裁判ニ對スル抗告

- 一 不動産登記法第五十八條第一項ハ非訟事件手續法第二十四條第一項ト其法意ヲ同フシ第一抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ法律ニ違背シタル決定ナルコトヲ理由トスルトキニ限り更ニ抗告ヲ爲スコトヲ許シタルニ止リ第二抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ其理由ノ如何ヲ問ハス絕對ニ抗告スルコトヲ許ササルノ法意ナリトス(大審三八年民一頁)
- 二 再抗告ノ裁判ニ對スル抗告(本卷(七)非訟事件手續法二四條)

第六十二條 明治六年第十八號布告地所買入書入規則又ハ同八年第四百四十八號布告建物書入規則ニ從ヒテ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ一年內ニ債權者ヨリ其登記ヲ申請セサルトキハ其權利ハ公證ノ效力ヲ失フ  
前項ノ規定ニ從ヒテ登記シタル權利ノ順位ハ公證ノ順位ニ依ル第一項ニ定メタル登記ニ關スル手續ハ司法大臣之ヲ定ム

○公證ヲ經タル證書面ノ權利ノ意義

公證ヲ經タル證書面ノ權利トハ民法上登記ニヨリ第三者ニ對抗スルコトヲ得ル權利ヲ指スモノニシテ債權ノ如キハ公證ノ效力ヲ失フモノニアラス(東京控三四年法三八號一四頁)

○公證ノ效力ト優先權ノ範圍

明治六年第一八號布告地所買入規則ニ從ヒテ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ付テハ不動産登記法施行ノ日即明治三年六月一六日ヨリ起算シテ一年內ニ債權者ヨリ其登記ヲ申請シタルトキハ其登記ハ公證ノ效力ヲ失ハサルモノトス——從テ其後ニ不動産

ニ付キニ番順位ノ抵當權ヲ取消シ登記ヲ爲シタル者アルモ公證權者ハ前順位ノ抵當權者トシテ左ノ權利ニ付キ優先權ヲ有スルモノトス(一)元金(二)利息(三)民法施行前ニ生シタル遲滯損害金ノ全部(四)民法施行後ニ生シタル遲滯損害金ニ付テハ之ニ關スル特別ノ登記ヲ爲ササルトキハ民法施行法第五〇條及民法第三七四條ニ依リ最後ノ二年分(長崎控大正九年評論九卷諸法二八一頁)

平和條約附屬書

○同盟國ト獨逸國トノ平和條約ノ適用

世界大戰後ニ構成セラレシ獨逸國ト同盟及聯合國トノ平和條約第十編第四款附屬書ハ締約國ノ裁判所又ハ行政官憲カナシタル處理行為ニ對シテハ其形式ノ如何ニ拘ラス不服ノ申立ヲ許ササル趣旨ニシテ其ノ官憲ノ處理ニ因テ被ル不利益カ或個人ノ不法行為ニ原因スルモノトナシ其ノ個人ニ對シ損害賠償ヲ要求スルコトハ該條約ノ關スル所ニアラス(大審昭和二年報一一〇號一頁)

### 米穀検査規則(栃木縣)

#### ◎本則第二十六條第四號ノ解釋

○續利法三八一頁「公務所ノ記號偽造罪ノ構成」ノ四參看

### 辯護士法

第一條 辯護士ハ當事者ノ委任ヲ受ケ又ハ裁判所ノ命令ニ從ヒ通常裁判所ニ於テ法律ニ定メラレタル職務ヲ行フモノトス但シ特別法ニ因リ特別裁判所ニ於テ其ノ職務ヲ行フコトヲ妨ケス

#### ◎本條ノ解釋

辯護士法第一條ハ辯護士ノ本然ノ職務ヲ明ニシタルニ止マリ之ニ依リテ直ニ該本然ノ職務ヲ行使ス可キ前提タルヘキ準備行為並ニ係争關係ノ任意履行及ヒ之カ受領行為ノ受任ヲ其從屬的職務トシテ禁シタルモノト解スヘキモノニアラス(大阪地法七五〇號二五頁)

#### ◎辯護士ト裁判外ノ和解權限

訴訟委任ヲ受ケタル辯護士ハ裁判外ニ於テ和解ヲ爲スヘキ權限ナキモノノ如ク一應思惟セラルヘキモ元來訴訟委任ヲ受ケタル辯護士カ訴訟提起以前事件解決ノ捷徑トシテ豫メ相手方ト交渉シ裁判外ノ示談ヲ試ミルカ如キハ顯著ナル事例ニシテ素人タル相手方ニ於テモ毫モ之ヲ怪マス之ヲ以テ權限外ノ事項ナリト斷定スルカ如キハ普通ノ狀態ニ適合セサルモノト謂ハサルヲ得ス(靜岡地昭和三年法二八二二號九頁)

#### ◎辯護士ノ職務ニ關スル債權ノ意義(第二續民法二三〇頁)

第十四條 辯護士ハ左ニ掲クル訴訟事件ニ付其ノ職務ヲ行フコトヲ得ス  
第一 相手方ノ協議ヲ受ケテ之ニ贊助シ又ハ委任ヲ受ケル事件  
第二 刑事檢察官職中取扱ヒタル事件  
第三 仲裁手續ニ依リ仲裁人ト爲リテ取扱ヒタル事件

#### ◎本條ノ法意及適用

一 辯護士法第十四條ノ規定ハ辯護士ノ品位ヲ維持セムカ爲メノ職務規律タルニ止リ之ニ違背シテ訴訟委任ヲ受ケタル辯護士ノ訴訟行為ヲ無効ト爲スノ趣旨ニ非ス(東京控大正五年法一一九五號二二頁)  
二 辯護士法第十四條第一項第一號前段ノ規定ハ辯護士カ嘗テ或者ヨリ協議ヲ受ケ之レニ同意シ助成シタル事件ニ付キ其者ヲ相手方トスル訴訟事件ニ關シ職務ヲ行フコトヲ禁スルノ趣旨ニシテ其者ニ對スル告訴事件ニ付キ告訴人ヲ代理シテ其者ト示談契約ヲ爲シタル場合ノ如キハ右條項ノ適用ヲ受クヘキ場合ニ該當セス蓋シ同條カ辯護士ニ對シ相手方ノ協議ヲ受ケ之ヲ贊成シタル事件ニ付キ其職務ヲ行フコトヲ禁シタル所以ハ較モスレハ之レニ因リテ知リ得タル相手方ノ内情其他秘密ヲ利用ヘル等相手方ノ不利益ト爲ルヘキ結果ニ到達スル弊アルノミナラス少クトモ相手方ヲシテ辯護士ノ職務上ノ信用ニ疑惑ヲ懷カシムル虞アルニ由ルモノナルモ誠キニ告訴人ノ代理トシテ提起シタル告訴ニ關シ相手方ニ交渉示談ヲ爲シタル辯護士カ爾後其事件ニ付キ告訴人ノ爲メ訴訟代理人トシテ其職務ヲ執行スルカ如キハ終始告訴人ノ爲メ其利益ニ於テ行動シタルモノニ過キス辯護士トシテ寧ろ當然ニシテ毫モ前示ノ弊害アルコトナク又危懼ヲ惹起スルコトナキヲ以テナリ(大審大正四年刑八〇七頁)

#### ◎本條ニ係争權利ノ意義

辯護士法第十五條ニ所謂係争權利トハ訴訟ノ目的ト爲リタル債

三 甲辯護士カ其ノ業務ニ從事中乙ヨリ同人カ丙銀行ニ對スル債務擔保ノ爲メ抵當權ヲ設定セル其ノ所有不動産ヲ同銀行取締役丁等ニ於テ乙ヨリ受取リ置キタル白紙委任狀ヲ濫用シテ戊會社ニ賣渡シ其ノ登記ヲ爲シタルハ刑法第一五九條及第二四六條ニ該當スル犯罪ナリトシ丁等ニ對スル告訴ノ委任ヲ受ケ乙ノ代理人トシテ檢事ニ告訴ヲ爲シタル後該係争物件ヲ買受タル戊會社ハ乙ニ前記不動産ノ引渡ヲ要求シタルモ應セサル理由トシテ同人ニ對シ家屋明渡致家賃損害金請求ノ訴訟ヲ提起シ該訴訟進行中同會社代表社員ヨリ甲辯護士ニ對シ該訴訟代理ヲ依頼シタルニ甲ハ該訴訟ノ相手方タル乙ノ協議ヲ受ケ之ヲ贊助シテ本人ノ爲メ告訴ヲ爲シタルニ拘ラス右訴訟代理ヲ受任シタル上訴狀訂正ノ申立書ヲ提出シ次テ法廷ニ出願シ訴訟行為ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ行為ハ辯護士法第一四條第一二違背シタルモノナリトス(長崎控大正一三年評論一三卷諸法二一一三頁)

#### 第十五條 辯護士ハ係争權利ヲ買受クルコトヲ得ス

利ニシテ現ニ其訴訟中ニ係ルモノヲ指稱スルモノナレハ權利實  
行ノ爲メニ申立テラレタル競賣ノ目的ト爲リタルモノハ同條ニ  
所謂係争權利ニ非ス(大審大正二年民四〇一頁)

**第二十三條** 辯護士會ハ其ノ會則ヲ定メ檢事正ヲ經由シテ司法大臣  
ハ認可ヲ受ケ可シ  
辯護士ハ所屬辯護士會ノ會則ヲ遵守スヘシ

◎忌避ノ申請ト辯護士ノ品位

刑事被告人ノ辯護人五名カ人證鑑定書類ノ取寄ノ申請ヲ爲シタ  
ルニ裁判長ハ申請却下ノ決定ヲ言渡シ證據取調濟ノ旨ヲ宣告シ  
タルハ時正ニ午後四時五十分頃ナリシカ故ニ辯護人カ時既ニ點  
燈時ニ及ヘルコト辯護人中一名カ感冒ニ罹リ夜間ノ辯論ニ堪ヘ  
サルコト他ノ辯護人一名ハ其夜知人ノ送別會ニ列席スル約アル  
コトヲ理由トシテ辯論ノ延期ヲ申請シ裁判長カ感冒ニ罹レル辯  
護人ニ對シ延期ヲ許可ス其他ノ辯護人ニ對シテハ申請却下ス  
ル旨ヲ言渡スヤ辯護人等打合セノ必要アリトテ暫時延期ヲ許  
テ求メテ延期シ裁判所カ既ニ點燈時ニ及ヘルニ辯論ノ延期ヲ許  
ササルハ訴訟ノ進捗ヲ欲スルニ偏シ辯護人ノ辯論ノ如キハ之ニ

重キヲ措クノ意ナキモノナリ是事案ニ付キ豫斷スル所アルニ由  
ルモノニシテ裁判ノ公正時期スヘカラサルノ疑アリト速斷シ今  
一應裁判所ニ對シ延期ヲ許スノ意ナキヤチ確メ其再考ヲ促シ尙  
願ミラレサルニ於テハ列席判事ヲ忌避スヘシト議決シタル上更  
ニ出廷シ(退廷ヨリ出廷ノ時迄五分間)辯護人一人カ他ヲ代表  
シテ裁判所ノ意思ヲ確メタルニ裁判所ハ前決定ヲ固持シテ動か  
サリシテ以テ豫定ノ如ク偏頗ノ恐アルモノトシテ係理事全部ニ  
對スル忌避ノ申請ヲ爲シタリ右所爲ハ高知地方裁判所々屬辯護  
士會々則第二三條ニ會員ハ辯護士タルノ品位ヲ保持スヘシトア  
ルニ違背シタルモノニシテ辯護士法第三三條第一號ノ懲戒罰ニ  
處スルヲ相當ナリトスルモ右所爲ヲ以テ正當ノ原因ナキコトヲ  
自覺シ乍ラ單ニ忌避ノ結果辯論ノ中止セラレルコトニ因リ其希  
望スル辯論延期ノ目的ヲ達セントスル意思ニ出テタルモノト爲  
シ過料ニ處スルハ不當ニシテ證實スヘキモノトス(大審大正一  
一年評論一一卷諸法三二二頁)

◎書證ノ故意ノ否認ト辯護士ノ體面

被告人及辯護人ハ判示爲替手形ニ付テハ該ニ當事者間ニ和解成  
立シ債務ノ大部分ハ既ハ辨濟ヲ了シタルモノナルカ故ニ手形金  
全額ノ支拂ヲ求ムル原告ノ訴ハ實體上ノ請求權ナクシテ提起シ  
タル不法ノ訴訟ニシテ書證トシテ其ノ提出セル手形ノ如キハ既  
ニ效用ヲ終リタル一ノ紙片ニ過キス從テ其ノ成立ヲ否認シタル

保險業法

(明治三十三年法律第六十九號)

**第一條** 保險事業ハ主務官廳ノ免許ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ營ムコ  
トヲ得ス

◎會社ノ成立ト當該官廳ノ認可(第二續商法一四二六頁)

**第五條** 保險會社カ免許ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附ス  
ルコトヲ得ス

- 一 定款
- 二 事業方法書
- 三 普通保險約款
- 四 保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類
- 五 財産ノ利用方法ヲ記載シタル書類

◎實費ナル文詞ノ意義

ハ固ヨリ正當ナルノミナラス若シ單ニ形式上眞正ナルノ故ヲ以  
テ之カ成立ヲ認メサルヲ得ストモ徒ニ敗訴ノ不利ヲ招クニ至  
ルヘク斯ル不法ノ請求ニ對シ被告ノ利益ヲ保護スルカ爲其ノ成  
立ヲ否認スルハ洵ニ止ムコトヲ得サル防禦手段ニシテ辯護士ト  
シテ何等非難ヲ受クヘキ行爲ニ非スト主張スルニヨリ案スルニ  
辯護士カ訴訟當事者ノ委任ヲ受ケ其ノ事務ヲ處理スルニ方リテ  
ハ委任ノ範圍ニ於テ委任者ノ利益ヲ正當ニ保護スルヲ念トシ苟  
クモ遺憾ナキ時期スヘキハ當然ナリト雖然カモ法律上過料ノ制  
裁ヲ付シテ禁止セル手段ニ因リ其ノ利益ヲ支持スルヲ得サルコ  
ト毫モ疑ヲ容レズ而シテ民事訴訟ニ於テ相手方ノ提出セル私署  
證書ノ眞正ナルコトヲ故意ニ眞實ニ反キテ爭フコトノ如キハ通  
常訴訟タルト將タ證書訴訟及爲替訴訟タルトチ間ハス又其ノ動  
機ノ如何ヲ論セス民事訴訟法第三百五十五條第二項ノ場合ニ該  
當シ辯護士カ訴訟代理人トシテ之ヲ爲スコトハ即チ職務上ノ非  
行ニ外ナラス(大審大正一四年法二三八三號五頁)

辯護士間ニ使用セラレル實費ナル文字ノ意義ハ單ニ印紙代證人  
訊問ノ費用等辯護士ノ所得ニ歸セサルモノヲ云フモノニシテ手  
數料ノ如キハ之ヲ包含セサルモノトス(大阪控四四年法七六四  
號二三頁)

第八條 第五條ニ掲ケタル書類ヲ變更スルニハ主務官廳ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

◎普通保険約款ト拘束力(第二續商法一六九九頁)

第二十八條 相互會社ノ基金ハ十萬圓ヲ下ルコトヲ得ス  
基金ノ支拂ハ金錢以外ノ財産ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ス

◎相互保險會社ノ成立ト基金ノ拂込

- 一 保險業法ハ基金拂込方法ニ付キ金錢以外ノ財産ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得サル旨ヲ規定スルニ止リ他ニ之ヲ規定ナキヲ以テ其基金拂込ノ方法ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得ヘキモノトス(東京控大正七年評論七卷諸法三八六頁)
- 二 相互保險會社ノ基金ノ基金總出者ノ基金支拂方法ニ關シテハ常ニ金錢ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ規定スルニ止リ他ニ何等ノ規定ナキヲ以テ一ニ定款ニ於テ自由ニ之ヲ定メ得ヘキ其相互保險會社ノ性質上必スシモ株式會社ノ如ク四分ノ一ノ拂込ヲ要ス

第三十三條 相互會社ハ創立總會ノ終結ニ因リテ成立ス

◎相互保險會社ノ成立要件

- 一 保險業第三十三條ニ依レハ相互會社ハ創立總會ノ終結ニ因リ

レハ設立條件ハ充タサレタルモノト謂ハサルヘカラス(大審大正八年民八一四頁)

◎會社ノ成立ト當該官廳ノ認可(第二續商法一四二六頁)

第七十八條 會社カ第七十二條第二號第三號又ハ第六號ニ掲ケタル事由ニ由リテ解散シタルトキハ保險金額ヲ支拂フヘキ事由カ解散ノ時ヨリ三ヶ月内ニ生シタルトキニ限リ保險金額ヲ支拂フコトヲ要ス  
前項ノ期間經過ノ後ハ損害保險目的トスル會社ニ在リテハ未ダ經過セサル期間ニ對スル保險料生命保險目的トスル會社ニ在リテハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ拂戻スコトヲ要ス

◎本條第一項ノ期間ノ計算方

本法第二十四條第七十八條ノ保險契約當事者間ニ於ケル私法的關係ニ付テノ特別規定ナルヲ以テ同第七十八條ノ期間ハ民法ノ規定ニ依リ之ヲ計算スヘキモノトス(大審四二年民六四五頁)

テ成立スルモノニシテ右創立總會ノ招集ニ付キテ同法第三十一條第一項ニ社員力確定ノ數ニ滿チタルトキハ發起人ハ選滯ナク創立總會ヲ招集スルコトヲ要スト規定スルニ止マリ基金ノ拂込ニ付キ商法第三百一十一條第一項第二百九十九條第一項ノ如キ規定ナキヲ以テ從テ基金總額ノ引受アリヤ否ヤ及ヒ基金總出者カ全部第一回ノ拂込ヲ爲シタルヤ否ヤハ相互會社ノ成立ニ付キ何等ノ關係ナシ(東京地大正五年法一一二五號二三頁、最一七卷三三九頁)

二 保險業法ニ依レハ相互會社ニ於ケル基金總出者タル者ハ相互會社ノ成立ニ必要ナル社員トハ全然異ルモノニシテ且相互會社ノ成立ニハ社員ノ數カ百人以上ナルヲ要シ社員力確定ノ數ニ滿チタルトキハ發起人ハ創立總會ヲ招集スヘキ其總會ノ終結ニ因リテハ會社ハ成立スルコトヲ規定シ毫モ確定ノ基金總出者ヲ得サル場合ニ會社ヲ成立セシメサルモノト解スヘキ規定ナク唯其基金ハ拾萬圓ヲ下ルコトヲ得サル旨ノ規定アルノミニシテ被控訴會社ノ基金總額ハ貳百萬圓ナルヲ以テ基金總額三分ノ一ノ基金總出者存スル以上右制限ニ抵觸セサルモノト謂フヘキ從テ會社ノ成立ヲ妨ケルモノニ非サルモノトス(東京控大正七年評論七卷諸法三八五頁)

三 入社員百名以上ニ上リ且引受基金ニシテ十萬圓以上ニ達シタルトキハ定款所定ノ基金總額ニ至ラサルモ保險相互會社資本ノ鞏固ハ之ニ由リテ保タレ保險事業ノ遂行ニ毫モ障礙ヲ與ヘサ

◎保險會社ノ免許取消ト保險金ノ支拂(商法一七七頁)

第九十八條第七號 保險會社ノ取締役監督役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上十圓以下ノ過料ニ處ス但其行爲ニ付キ利ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス  
七 第二十條ノ二第二十條ノ三又ハ第二十條ノ五ノ規定ニ違反シテ保險契約ノ移轉ヲ爲シ又ハ保險ヲ爲シ又ハ保險契約ヲ爲シタルトキ

◎本條第七號ノ解釋

本法第九十八條第七號ハ保險會社カ同法第二十五條ノ規定ニ違背シテ合併ヲ爲シタル場合ニ適用スヘキ制裁ニシテ合併ノ決議カ主務官廳ノ認可ヲ得タルト否トハ其適用ヲ爲スヘキヤ否ヲ決スル標準ト爲ラス(大審三六六年民二五三頁)

保管金規則

書ノ如キ有價證券ヲ現金ト同一ニ取扱ヒタルノミナラス政府ノ保管スル物件ニ付キ現金ト有價證券トヲ區別スヘキ理由ナキヲ以テ同規則ニ於テ政府ノ保管スル公有金私金ニ付キ定メタル規定ハ公債證券ノ如キ現金ニ代用シ得ヘキ有價證券ニ類推適用スヘキモノト解スルヲ相當トス(大審大正六六年民一六五四頁)

第三條 保管金ノ證書ハ賣買讓與又ハ書入買入スルコトヲ得ス

◎保管物ノ返還請求權ト讓渡性

- 一 保管證書ノ賣買讓與等ヲ禁スルハ保管物ノ返還請求權ノ讓渡ヲ禁スルノ旨趣ナレハ政府ノ保管ニ係ル公債證券ノ返還請求權ハ之ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得サルモノトス(大審大正六六年民一六五四頁)
- 二 政府ノ保管ニ係ル公債證券ノ返還請求權ハ法律上他人ニ讓渡シ得ヘカラサルモノナリト雖モ民事訴訟法第六一五條第一項ノ方法ニ依リテ其ノ請求スル保管金規則第三條ニ抵觸スル所ナク其引渡サレタル公債證券其物ヲ換價スルコトモ亦同條ニ抵觸スル所ナキモノトス(同上)
- 三 不動産競賣買得剩餘金ノ寄託ハ執行裁判所カ自ラ之ヲ金庫ニ

(明治二十三年法律第一號)

第一條 法律勅令又ハ從來ノ規則ニ依リ政府ニ於テ保管スル公有金私有金ハ左ノ計算法ニ從ヒ滿五年ヲ過キテ拂戻ノ請求ナキトキハ政府ノ所得トス但別段ニ法律ヲ以テ失權ノ期限ヲ定メタルモノハ各其定ムル所ニ依ル

第一 保管義務解除ノ期アルモノハ其義務ヲ解除シタル翌日ヨリ起算ス

第二 保管義務解除ノ期ナキモノハ保管ノ翌日ヨリ起算ス

第三 訴訟事件ノ爲拂戻ヲ請求スル能ハサル場合ニ於テハ裁判確定ノ翌日ヨリ起算ス

◎保管金規則ノ適用

- 一 明治二十六年勅令第七十號ハ同二十三年勅令第二號ト相續テ保管金規則ヲ適用シ又ハ類推適用スヘキ政府ノ保管物(金錢又ハ有價證券)ニ付キ保管ノ方法ヲ定メタルモノトス(大審大正六六年民一六五四頁)
- 二 明治二十三年法律第一號保管金規則發布當時ノ法令ハ公債證

託スル場合ニ該當シ金庫ハ權利者ニ對シ保管金證書ヲ交付スルコトナク又其拂渡ニ付テモ執行裁判所ノ發シタル拂渡證ニ基キ爲ス場合ナルヲ以テ其保管金債權ノ處分ニ付テハ保管金規則第三條ノ適用ナク從テ讓渡ヲ爲シ得ヘキモノトス(東京地大正五年法一一四四號二四頁)

四 保管證書所載ノ債權ト賣買讓渡(續民法一一五八頁)

法人處罰ニ關スル規定

(法人ニ於テ租稅ニ關シ事犯アリタル場合ニ關スル法律)  
(明治三十三年法律第五十二號)

第一條 法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其他ノ從業者法人ノ義務ニ關シ租稅(及業煙草專賣)ニ關スル法規ヲ犯シタル場合ニ於テハ各法規ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス但シ其ノ罰則ニ於テ罰金料料以外ノ刑ニ屬スヘキコトヲ規定シタルトキハ法人ヲ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

◎法人ノ税法違反ト審判ノ手續

明治三十三年法律第五十二號第一條ニ法人ノ代表者又ハ其雇人其他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ租稅及煙草專賣ニ關スル法規ヲ犯シタル場合ニ於テハ各法規ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス云ト規定シ以テ右法令違反ノ所爲ニ付法人ヲ處罰スヘキ旨ヲ明示シ第二條ニ法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トシト規定シ以テ法人ノ爲メ事實上被告人トシテ審理及判決言渡ヲ受クヘキ責任者ヲ定メ法人處罰ノ手續ヲ明カニシ其目的ヲ達スルコトヲ期シタルモノナレハ原院ニ於テ本件酒造株式會社ナル法人ノ代表者タル專務取締役三宮保太郎ヲ被告人トシテ審理ヲ遂ケタル末同會社ノ支配人風間守太郎カ同會社ノ業務ヲ執行トシテ酒造税法ヲ犯シタル事實ヲ認定シ被告人トシテ同會社專務取締役三宮保太郎ノ名義ヲ列文ニ掲ケ同人ニ對シ同會社ヲ處罰スル旨ノ言渡ヲ爲シタルハ右法律ノ規定ニ適合セルモノニシテ本論旨ハ不當ナリ(大審三八年利一〇四九頁)

◎代表者ノ資格喪失ト訴訟手續ノ進行

一 明治三十三年法律第五十二號第一條ニハ法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トスルコトヲ規定ス之ニ依レハ判決ヲ以テ處罰セラルル者ハ法人ニシテ訴訟ニ於テ被告

人トナル者ハ法人ノ代表者ナリ故ニ此場合ニ於ケル法人代表者ノ地位ハ民事訴訟ニ於ケル當事者ノ法律上代理人ノ地位ニ酷似スルモノト云フヘシ然リ而シテ刑事訴訟法ハ職權審理ヲ以テ主義トスルカ故ニ法人ノ處罰目的トスル公訴ニ關シテハ裁判所ハ職權ヲ以テ法人ノ代表者ノ資格ヲ調査シ起訴狀若クハ豫審終結決定書ノ表示如何ニ拘ハラズ眞ノ代表者ト認メタル者ニ對シ呼出狀ヲ發シ訴訟手續ヲ進行スヘキモノトス故ニ裁判所カ法人ノ代表者ト認メテ被告人ト爲シ之ニ對シ刑言渡シタル判決カ形式上確定スルニ於テハ其判決ハ執行力ヲ有スルヲ以テ從テ法人ニ對シ之ヲ執行スルヲ得ルモノト云ハサルヘカラス若シ夫レ代表者カ言渡當時若クハ其以前辭任シタルコトヲ理由トシテ之レカ執行力ヲ拒否スルカ如キハ確定判決ノ效力ヲ無視スルモノニシテ法理ノ容ササル所ナリ(法曹會決議大正四年法曹記事二六卷一號)

二 而シテ檢事カ株式會社ノ保險業法第九十七條違反事件ニ付キ常務取締役乙ヲ被告人トシテ豫審ヲ請求シ後ニ及ヒ乙ハ取締役ヲ辭シ取締役丙之ニ代ハリタルモ豫審判事ハ其事實ヲ覺知セス乙ヲ依然取締役ノ職ニ在リテ法人ヲ代表スル者ト認メ豫審終結決定ニ於テ之ヲ被告人トシテ公判ニ付シ第一審裁判所ハ乙ヲ法人ノ代表者ト認メ之ヲ被告人トシテ有罪ノ判決ヲ言渡シ乙ハ控訴ノ申立ヲ爲シタルモ第二審裁判所ハ控訴ヲ不適法ナリトシテ棄却シ茲ニ訴訟手續完結シタルトキハ之レカ爲メ第一審判決ハ

確定シ執行力ヲ有スルニ至ルヲ以テ其判決ハ株式會社ニ對シテ執行スルヲ得ルモノトス又如上ノ場合ニ乙ヲ法人ノ代表者ト認メ之ヲ被告人トシテ公判ニ付シタル豫審終結決定ハ確定力ヲ有スルヲ以テ公訴ハ有效ニ公判ニ繫屬スルモノト云フヘキ又乙カ豫審終結決定以前既ニ法人ノ代表資格ヲ喪失シタルニ拘ハラズ第一審裁判所ニ於テ乙ヲ依然代表資格ヲ有スル者ト認メテ判決ヲ爲シタルハ訴訟手續上違法タルヲ免カレサルモ第一審裁判所ヨリ法人ノ代表者ト認メラレ被告人トシテ判決ノ言渡ヲ受ケタル乙ハ形式上其判決ニ於テハ法人ノ代表者ナルヲ以テ之ニ對シテ控訴ノ申立ヲ爲スヘキ此場合ニ乙ハ眞ノ法人代表者ニアラサルモ第一審判決ニ之ヲ法人代表者ト認メ被告人トシテ訴訟關係人タル地位ヲ有セシメタルカ爲メ乙ハ法人代表者トシテ其判決ニ對シ適法ニ控訴ノ申立ヲ爲スヘキモノト云ハサルヘカラス故ニ第二審裁判所ニ於テハ第一審判決言渡當時若クハ其以前乙カ代表資格ヲ喪失セルコトヲ理由トシ其控訴ヲ不適法トシテ棄却スルヲ得ス第二審裁判所ハ控訴ハ之ヲ受理シ法人ノ代表資格ヲ喪失シタル乙ヲ訴訟ヨリ脱退セシメ眞ノ代表者丙ヲ被告人トシテ呼出シ訴訟手續ヲ進行シテ結局第一審判決ヲ取得シ更ニ相當ノ判決ヲ爲スヘキモノトス(同上)

◎本法ハ法人ニ犯罪能力ヲ認メタルヤ

明治三十三年法律第五十二號同年法律第五十九號及其他ノ法規中法人ノ處罰ニ關スル規定ハ特ニ法人ノ犯罪能力ヲ認メタルモノナリヤ將々雇人等ノ犯罪行爲ニ付キテ其刑罰責任ノミチ法人ニ科スル例外規定ナルヤ學者ニ依リ見解ヲ異ニスト雖モ此等ノ規定ノ文例ニ依レハ法人ノ業務ニ關シ其代表者雇人其他ノ從業者該法令ノ罪ヲ犯シタル時ハ其罰則ヲ法人ニ適用スルモノナルカ故ニ罪ヲ犯シタル者ハ從業者ニシテ罪ヲ受クル者ハ法人タルコト明カナルノミナラス此等ノ法規ノ制定當時ニ於テ本邦ノ學者及立法者ノ採用シタル法人擬制說ヨリ觀察スル時ハ此等ノ規定ニ依リ法人ニ罪ヲ犯スノ能力アルコトヲ認メタリト推斷スル

◎法人ノ解散ト刑事訴追ノ效力

甲酒造合資會社ニ係ル酒造税法違反ノ公訴事實カ同會社ノ目的

ルノ不當ナルハ益々明白ナリ要之此等ノ規定ハ取締ノ目的ヲ達スル爲メ從業者等ノ犯則行爲アル場合ハ其刑ヲ法人ニ科スルニ過キサルモノトス以上ノ説明ニ依レハ法人カ其業務ニ關シ從業者等ノ行爲ニ付責任ヲ負フヘキ場合アルハ明カニシテ此ヲ規定スル法令ハ前掲ニ法條ノ外屠場法鐵道船舶郵便法漁業法畜牛結核豫防法煙草專賣法飲食物防腐取締規則等ヲ初メトシ其他茲ニ列舉スル邊ナシ而シテ以上ノ法令ハ取締ノ目的ヲ貫徹スルニ急ニシテ民法第七百十五條ニ於ケルカ如ク本人ノ不注意ヲ以テ責任負擔ノ一要件ト爲スコトナク絕對ノ規定ヲ設ケタルカ故ニ從業者等ノ選認及監督上ニ於ケル不注意ノ有無ハ何等ノ關係ナキモノトス(明治四十一年十一月七日法曹會決議)

◎從業者ノ犯行ト業務主ノ責任トノ關係(諸法令上卷六三六頁)

第二條 法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

◎法人處罰ノ場合ニ於ケル被告人

一 明治三十三條法律第五十二號第二條ハ實體法上ノ被告人カ法人ナルトキハ訴訟法上其代表者ヲ以テ被告人ト爲スノ旨趣ニ外ナラス故ニ刑ノ言渡ハ毎ニ實體法上ノ被告人ニ對シテ之ヲ爲スヘキモノトス(大審大正四年刑一頁、法九九號三〇四頁)

二 處罰スヘキ法人カ合資會社ニシテ其無限責任社員ノ各自ニ依リ代表セラレ得ル場合ニ於テハ其代表者ノ全部ヲ被告人ト爲スト其一部ヲ被告人ト爲ストハ致テ問フ所ニ非ス(大審大正七年刑六七五頁)

三 法人ノ代表者カ詐欺ノ手段ヲ以テ關稅ヲ滯脱シタル場合ニハ明治三十三年法律第五十二號第一條ニ依リ法人ヲ責任者トシテ處罰スヘキ場合ニ該當シ彼ノ雇人カ雇主ト共謀シテ稅則違反ノ行爲ヲ爲シタル場合トモ其趣ヲ異ニスルモノナレハ其代表者ニ對シテハ關稅法第七十五條ハ勿論刑法第二百四十六條第二項ヲモ適用スヘキモノニ非ス(大審大正四年刑一七四五頁)

◎贈賄罪ト關稅滯脱罪トノ關係(續刑法四五九頁)

◎租稅公課ノ滯脱ト詐欺罪ノ成否(續刑法六〇四頁)

◎法人ニ對スル判決ノ控訴ト表示スヘキ代表者  
法人ニ對スル判決ニ付キ控訴ヲ爲スニハ必スシモ第一審判決ニ表示セラレタル代表者ヲ悉ク表示スルコトヲ要セスシテ其一部ヲ表示スルモ不法ニ非ス(大審大正七年刑六七五頁)

法 例

(明治三十一年法律第十號)

第一條 法律ハ公布ノ日ヨリ起算シ滿二十日ヲ經テ之ヲ施行ス但法律ヲ以テ之ニ異ナリタル施行時期ヲ定メタルトキハ此限ニ在ラズ  
臺灣、北海道、沖繩縣其他島地ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ施行時期ヲ定ムルコトヲ得

◎法律ノ了知ニ關スル推定

法律ハ之ヲ施行スルニ先チ人民ヲシテ知ラシムル爲メニ之ヲ公布スルヲ通例ト爲スカ故ニ反證ナキ限ハ人民ハ法律ヲ知リテ法律行爲ヲ爲シタルモノト推定スルヲ通則トス(大審三六年民一二六五頁)

第二條 公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反セサル慣習ハ法令ノ規定ニ依

リテ認メタルモノ及ヒ法令ニ規定ナキ事項ニ關スルモノニ限リ法律ト同一ノ效力ヲ有ス

◎本條ノ法令ニ規定ナキ事項ノ意義

假差押債權者カ假差押ヲ取消ス爲メニ供託セラレタル金額ヨリ優先辨濟ヲ受ケルノ慣習アリトスルモ其慣習ハ法例第二條ノ所謂法令ニ規定ナキ事項ニ該當セス(大審大正三年民八一〇頁)  
◎本法ニ規定ナキモノノ例(續商法四二五頁)  
◎慣習ノ存否ト裁判所ノ職責(第二續民法九七頁)  
◎慣習ニ關スル諸問(第二續商法一二八〇頁以下、第二續民法九六頁以下)

◎本條ニ所謂慣習ノ意義(續民法七九八頁)

第三條 人ノ能力ハ其本國法ニ依リテ之ヲ定ム  
外國人カ日本ニ於テ法律行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ其外國人カ本國法ニ依リハ無能力者タルヘキトキト雖モ日本ノ法律ニ依レハ能力者タルヘキトキハ前項ノ規定ニ拘ハラズ之ヲ能力者ト看做ス

前項ノ規定ハ親族法又ハ相續法ノ規定ニ依ルヘキ法律行為及ヒ外國ニ在ル不動産ニ關スル法律行為ニ付テハ之ヲ適用セス

◎無國籍社團ノ訴ト哈爾賓領事ノ裁判

原告社團カ我法廷ニ於テ法人タル會社トシテ訴訟當事者能力ヲ有スルヤ否ヤハ國際私法ノ原則及東省特別區域ナル特種國際都市ノ性質ト斟酌シテ定ムヘク人ノ能力ハ本國法ニ依ルコト國際私法ノ原則ナルモ無國籍ナル原告社團ニ付テハ承審國タル我國法ノ定ムル能力ニ依ルヘク我國法ハ未タ如斯社團ヲ會社ナリトシテ法人格ヲ認定シ居ラス又其社團ノ名ニ於テ訴訟ヲ爲スコトモ許シ居ラス從テ其名ニ於テ代表者カ訴訟ヲ提起スルモ其請求ノ被告等カ原告ノ訴訟當事者能力ヲ否認シタル場合本訴ハ不適法トシテ之ヲ却下スヘキモノトス(哈爾賓日本總領事館昭和二年法二六六七號一八頁)

第七條 法律行為ノ成立及效力ニ付テハ當事者ノ意思ニ從ヒ其何レハ國ノ法律ニ依ルヘキカヲ定ム

年法五三六號一八頁)

◎消滅時効ノ準據法(親民法九〇九頁)

第十條 動産及ヒ不動産ニ關スル物權其他登記スヘキ權利ハ其目的物ノ所在地法ニ依ル  
前項ニ掲クル權利ノ得喪ハ其原因タル事實ヲ完成シタル當時ニ於ケル目的物ノ所在地法ニ依ル

◎貨物引渡ノ差止權ト準據法

貨物引渡差止權ハ其實質賣主ノ物品取戻權ニシテ該權利ニ付テハ法例第十條ノ精神ニ從ヒ其貨物ノ到達地法ヲ以テ之カ準據法ト爲スヘキモノトス(橫濱地大正八年評論八卷諸法四頁)

◎英國法ト合意ニ因ル留置權ノ創設

假ニ米國法ニ於テハ合意ニヨリ留置權ヲ創設シ得ヘキモノナリトスルモ我國法ニ於テハ留置權ハ一ノ物權ニシテ法律ノ定ムル外之ヲ創設スルコトヲ得サルモノナルカ故ニ之ヲ我國内ニ適用

當事者ノ意思カ分明ナラザルトキハ行為地法ニ依ル

◎本條ノ適用

一 法例第七條ヲ適用スル場合ニ於テ法律行為ノ成立及ヒ效力ニ付キ何レノ國ノ法律ニ從フヘキカヲ定ムルニハ契約當事者ノ意思如何ヲ審究セサルヘカラス而シテ之ヲ審究スルコトハ事實問題ニ屬スルモノトス(大審三八年民一八〇六頁)  
二 法例第七條ノ如ク法律行為ノ成立及ヒ效力ニ付テハ當事者ノ意思ニ從ヒ其何レノ國ノ法律ニ依ルヘキカヲ定ムヘク當事者ノ意思分明ナラザルトキハ行為地法ニ依ルヘキコトハ同法施行前ニ在リテモ國際私法上認容セラレタル所ナリトス(大審大正六年民三七八頁)

◎雇傭契約ノ效力ト英國法ニ依ル約定

法例第七條第一項ニ依ルハ法律行為ノ成立及ヒ效力ニ付テハ當事者ノ意思ニ從ヒ其何レノ國ノ法律ニ依ルヘキカヲ定ムヘキモノニシテ當事者間ニ雇傭契約ノ效力ニ付英國法ノ解釋ニ從フヘキ約定ノ存スルトキハ同國法ニ從フヘク而シテ英國法ニ於テハ金錢支拂義務ノ履行場所ハ當事者ノ意思ニ依リテ定マルヲ通例トシ若シ其場所カ當事者ノ意思ニ依リテ定マラザルトキハ債務者ハ債權者ノ所在ニ付テ義務ヲ履行スヘキモノトス(大審四一

スルハ公ノ秩序ニ反スルモノナレハ法例第三十條ニ依リ適用スヘキモノニ非ス(神戸地大正六年法一三三九號二三頁)

◎瑞西國ト抵當權設定ノ效力

瑞西國法ニアリテハ土地ノ上ニ設定シタル抵當證書中ニハ其上ニ存在セル家屋モ共ニ抵當權ノ目的トシテ當然含蓋セラルルコトハ同國領事ノ認證セル法律ノ證明ニ徴シ明カナレハ同法ノ司配ヲ受クヘキ者ノ間ニ於テ特ニ別段ノ意思表示ヲ爲ササル場合ニハ當然同法ノ意思アリシモノト解セサルヘカラス(橫濱地三四年法六四號一一頁)

第十四條 婚姻ノ效力ハ夫ノ本國法ニ依ル

外國人カ女戸主ト入夫婚姻ヲ爲シ又ハ日本人ノ婚養子ト爲リタル場合ニ於テハ婚姻ノ效力ハ日本ノ法律ニ依ル

◎夫ノミノ歸化ト夫妻關係ノ消長

一 日本ニ本籍ヲ有スルモノニシテ夫ノミ英國ニ歸化シ我國籍ヲ喪失セル場合ニ妻トノ婚姻關係ハ消滅セス(司法省民事局長大



正元年民四二九號回答)  
 二 妻ノ行爲ニ對スル夫ノ許可ハ法例第十四條ニ從ヒ夫ノ本國法ニ依ルヘキモノニシテ加奈太ニ於テハ妻カ法律行爲ヲ爲スニ付夫ノ許可ヲ要セサルヲ以テ夫ノミ加奈太ニ歸化シタルトキハ妻ノ行爲ニ對シテハ夫ノ許可ヲ要セサルモノトス(司法省民事局長昭和元年民四二九號回答)

第十六條 離婚ハ其原因タル事實ノ發生シタル時ニ於ケル夫ノ本國法ニ依ル但裁判所ハ其原因タル事實カ日本ノ法律ニ依ルモ離婚ノ原因タルモノニ非サレハ離婚ノ宣告ヲ爲スコトヲ得ス

◎離婚訴訟ノ準據法

- 一 離婚ノ訴訟ニ於テ起訴者カ請求ノ原因トシテ主張スル事實ハ果シテ夫ノ本國法ニ於テ離婚ノ原因ト認ムルモノナルヤ否ヤテ判斷スルニ當リ若シ該國法上相手方カ惡意ヲ以テ起訴者ヲ遺棄シタルコトヲ必要トセハ其惡意ノ有無ノ如キハ固ヨリ右ノ本國法ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノトス(大審三六年民一一六八頁)
- 二 法例第十六條ニ依レハ離婚ハ其原因タル事實ノ發生シタル時ニ於ケル夫ノ本國法ニ據ルヘキモノニシテ甲第五號證ニ依レハ

モ離婚原因タルトキニ非サレハ離婚ノ宣告ヲ爲スコトヲ得サル旨ヲ規定スルニ過キサレハ既ニマサチユセツ州法ニ我民法第八一六條ノ如キ規定ナキ場合ニ法例第一六條ニヨリ民法第八一六條ヲ適用シ一年經過後ニ於テ離婚請求訴訟ヲ提起シ得ヘカラスト爲シ得ヘキモノニアラス(同上)

◎外國人間ノ離婚訴訟(民法五五三頁)  
 ◎英國法ニ因ル離婚ノ宣告(民法五五三頁)  
 ◎日本在住英國人間ノ離婚原因(民法五五四頁)

第二十條 親子間ノ法律關係ハ父ノ本國法ニ依ル若シ父アラサルトキハ母ノ本國法ニ依ル

◎所謂「本國法ニ因ル」ノ意義

◎外國裁判ノ確定力ト判斷ノ基礎

法例第二十條ニ依レハ親子間ノ法律關係ハ父若クハ母ノ本國法ニ依ルチ原則トスル旨規定シアリ本國法ニ依ルトハ當該國法規ヲ解釋適用シテ之ヲ決スト云フ意味ニシテ即チ我國ニ於テ訴訟カ繫屬シタル場合ニハ我裁判所カ其獨立ノ意見ヲ以テ之ヲ解釋

大正七年二月當時ニ於ケル夫タル被告ノ本國法タル大不列顛國ノ法律ニ於テハ離婚ハ其訴訟提起當時ニ於ケル當事者間ノ住所地法ニ準據スヘキモノナルニヨリ按スルニ原告カ本訴提起當時ヨリ日本ニ住所ヲ有スルコト及被告ノ最後ノ住所カ日本ニ在リタルコトハ本訴狀ニ依リ明カナルヲ以テ離婚ノ當否ハ一ニ民法ニ準據シテ之ヲ定ムヘキモノトス然ルニ前段認定ノ如ク被告ノ生死カ三年以上不明ナル事實ハ民法第八百十三條第九號ニ所配偶者ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキト謂フニ外ナラサルヲ以テ原告ノ本訴請求ヲ理由アリト認ム(東京地大正一五年法二六二三號五頁)

三 當事者雙方カ各其本籍國タル北亞米利加合衆國マサチユセツ州ニ於テ適法ニ婚姻ヲ爲シ現ニ夫婦ノ身分關係ヲ有スルモノナルトキハ其離婚訴訟ニ於ケル準據法ハ夫ノ本國法タル北亞米利加合衆國マサチユセツ州ノ法律ナリトス一北米合衆國マサチユセツ州改正法第一五二章第一條ハ訴狀根本直近連續三年間繼續シタル完全ナル遺棄ヲ以テ離婚ノ一原因ト爲スチ以テ斯ル事實存在スルトキハ當然離婚原因アリト解ス可キモノニシテ同州法ニハ我民法第八一六條ノ如キ法規ナクハ假令離婚原因ヲ知リタル後一年經過後ニ起シタル離婚訴訟ト雖モ不適法視スヘキモノニアラス(東京控大正一〇年評論一〇卷諸法四八八頁)

四 法例第一六條但書ニハ離婚原因タル事實カ日本ノ法律ニ依ル

適用スルコトヲ云フ我國裁判所カ關係法規ヲ解釋適用シテ爲シタル裁判(確證的タルト創設的タルトト間ハス)ニ準據スト云フ意味ナラサルコト多言ヲ俟タス尤モ外國裁判ノ確定力ソノモカ吾國ニ於テ認メラレル以上ハ自カラ別問題ナリ此場合ニハ外國裁判所ニ於テ確證セラレ若ハ創設セラレタル權利狀態ハ吾裁判所ニ於テモ亦之ヲ其判斷ノ基トセサルヘカラスト雖モコレハ時ニ外國裁判ノ確定力ヲ我國ニ於テ認ムル旨ノ條約又ハ法律アル場合ニ限ラレルハ論ナシ蓋外國主權ノ一作用タル裁判ハ當然吾國ニ於テ其效力ヲ有スルモノナラサレハナリ(東京控大正五年法一一二四號二頁)

◎親權ノ效力ト準據法

一 子ノ監護教育居所ノ指定懲戒其他子ノ身上ニ關スル親權ノ效力ノ如キハ公益ニ關スル事項ナルヲ以テ常ニ我國法ニ依ルヘク外國法ニ準據スヘキ性質ノモノニアラサルヲ以テ北米合衆國ノ國法州法ハ此點ニ付總テ之ヲ省ミスシテ可ナリ依テ之ヲ吾法律ニ照シテ判斷スルニ子ニ對スル監護教育ノ點ニ付テノミ特ニ親權ヲ行ハシメサルコトハ吾法律ノ認メサルトコロナリ斯ハ親權ノ一效力タル財產管理權ニ付キテハ特ニ父ノミヲ喪失セシムル規定(民法第八百九十七條)アルニ拘ハラズ其他ノ親權ノ效力ニ付キテハ斯ル規定ナキニ照シ甚タ明白ナリ(東京控大正五年法一一二四號二頁)

二 外國判決ニヨリテ創設セラレタル妻ノ幼兒ニ對スル監護權ニ基キ其權利ノ行使トシテ夫ニ對シ該幼兒ノ引渡ヲ請求スルハ正當ナリ (東京地大正四年評論四卷民法六六七頁)

三 甲カ乙ノ妻ニシテ其本國タル「マサチユセツツ」ノ裁判所ノ裁判ニ因リ幼兒丙ヲ監護スルノ權ヲ有スルニ至リタルヲ以テ乙ニ對シ丙ノ引渡ヲ求ムル訴ニ於テ右本國ノ裁判力假處分ノ性質ヲ有スルニ止リ確定力ヲ有スル終局判決ノ性質ヲ有セザルトキハ外國タル日本ニ於テ其效力ヲ是認スヘキモノニ非ス (大審大正六年法一二七八號三〇頁)

四 夫妻別居ノ場合ニ於テ其ノ幸福ノ爲メニ妻カ夫ニ代リテ子ノ監護權ヲ取得シタル事實ハ公序良俗ニ反スルモノニアラス我裁判所ハ外國裁判所ノ判決ヲ取消シ又ハ變更スルコト能ハサルヲ以テ外國裁判所カ妻ニ子ノ監護權ヲ與ヘタル事實ヲ無視シテ更ニ現時ノ狀況ニ鑑ミ何人カ監護ヲ爲スニ適スルヤチ審判スルコト能ハサルモノトス (東京地大正四年評論四卷民法六六八頁)

第二十六條 遺言ノ成立及ヒ效力ハ其成立ノ當時ニ於ケル遺言者ノ本國法ニ依ル遺言ノ取消ハ其當事者ニ於ケル遺言者ノ本國法ニ依ル

◎露西亞國ノ帝政廢滅ト同國法令ノ效力

露西亞國ノ帝政廢滅シタルコトハ顯著ナル事實ナリト雖道ハ國體ノ變革タルニ止リ露西亞國ノ滅亡ヲ以テ論スヘカラサルハ勿論之カ爲ニ當然露西亞國法令カ其效力ヲ失ヒ又ハ其ノ國際條約ノ效力ニ影響ヲ及ホスヘキ謂ナシ (長崎控九年份一七一五號一三頁)

暴力行爲等處罰ニ關スル件

(大正十五年法律第六十號)

第一條 團體若ハ多衆ノ威力ヲ示シ團體若ハ多衆ヲ假裝シテ威力ヲ示シ又ハ兇器ヲ示シ若ハ數人共同シテ刑法第二百八條第一項第二百二十二條又ハ第二百六十一條ノ罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
常習トシテ前項ニ掲グル刑法各條ノ罪ヲ犯シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

諸法令下 (ホ) 暴力行爲處罰ニ關スル件 一條

前二項ノ規定ハ遺言ノ方式ニ付キ行爲地法ニ依ルコトヲ妨ケス

◎英國法ト遺言執行者ノ權限

英國法ニ依ル遺言執行者ハ一千八百九十七年ノ土地移轉條例施行以後ニ在リテハ遺產ニ付テモ亦死者ヲ代表シ訴訟ヲ提起スルノ權限ヲ有スルモノトス (大審三八年民一四一四頁)

第三十條 外國法ニ依ルヘキ場合ニ於テハ規定カ公ノ秩序又ハ善良ハ風俗ニ反スルトキハ之ヲ適用セス

◎時效期間ノ長短ト公ノ秩序

時效ハ其性質公益的規定ニ屬シ時效期間ノ長短ハ國際公安ニ影響ヲ及ホスモノナルカ故ニ米國法ノ消滅時效ニシテ我國ノ消滅時效ヨリモ長期ナリトセハ法例第三十條ノ規定ノ如ク我國ノ時效ヲ適用スヘキ米國法ヲ適用スヘキ限ニアラス (大審大正六年法一二五六號一九頁)

◎本法ノ趣旨及適用

一 暴力行爲處罰ニ關スル法律ハ團體ヲ標榜シ之レヲ背景トシテ其ノ威力ヲ利用シ暴行又ハ脅迫ノ罪ヲ政行スル者ヲ取締ル爲ニ制定セラレタル法規ニシテ團體運動其モノノ取締ヲ目的トスルモノニ非サルカ故ニ縱令團體其モノハ正當ノ目的ヲ有シ常ニ暴力行爲ヲ爲サス又ハ團體員ニ不良ノ徒ナシトスルモ之レ (被告加入ノ農村組合) ヲ背景トシテ其ノ威力ヲ利用シ暴行又ハ脅迫ノ罪ヲ政行スルトキハ其ノ行爲ハ該法律第一條ニ該當スルモノト解セサルヘカラス (大審大正一五年刑五三一頁、法二六五五號一二頁)

二 大正十五年法律第六十號第一條第一項ノ規定ハ荷モ數人共同シテ前示法條所定ノ罪ヲ犯スニ於テハ縱令或種ノ目的ヲ以テ組織セラレタル團體又ハ多衆ヲ背景トシテ暴行其ノ他ノ行爲ヲ爲シタル場合ニ非ストスルモ右法條所定ノ制裁ヲ免ルルコトヲ得サルモノト解スヘク之レ同法制定ノ趣旨ニ徴スルモ疑ヲ容レサル處ナリ (大審昭和二年刑六三頁)

三 小作契約ニ因リテ他人ノ田地ヲ耕作スル者カ其ノ地主ニ異動ヲ生シタルトキハ右借地權ノ登記ナキ限り舊地主トノ契約ニ因リテ得タル小作權ヲ新地主ニ對抗スルヲ得サルモノトス——叙上ノ場合ニ於テ田地ノ買受人タル乙カ該田地ノ新所有者トシテ之ヲ被告人丙ニ小作セシムルコトヲ拒ミ自ラ之ヲ耕作スル旨通

告シテ該田地ニ挿苗ヲ爲シタルトキハ右土地ノ事實上ノ占有モ亦所有者タル乙ニ歸シタルモノト謂フヘク被告人丙ニ於テ之ニ對抗シ自己ノ小作權ヲ主張スルヲ得サルモノトス叙上ノ場合ニ於テ被告人丙ハ新所有者乙ニ對シ自己ノ小作ノ權利アリト主張シ暴力ヲ以テ同人ノ挿苗ヲ引拔キ投棄スルカ如キハ自己ノ權利ノ行使ニ非スシテ名ヲ權利行使ニ籍リ他人所有ノ物ヲ害シタルモノト謂フヘク其ヲ行爲タルヤ正當防衛ニ非ラスシテ刑法第二六一條ノ毀棄罪ヲ構成スルコト言テ俟タサルモノトス叙上ノ場合ニ於テ被告人丙ハ農民組合員タル他ノ相被告人等ト謀リ共同シテ多衆ノ威力ヲ以テ右ノ暴行ヲ爲シタルモノナレハ其ノ行爲ハ大正一五年法律第六〇號第一條第一項ノ適用ヲ受クヘキコト勿論ナリトス——他人所有ノ挿苗ヲ引拔キ投棄シタル事實アル以上ハ其ノ苗力尙使用ニ堪フルト否トテ同ハス毀棄ノ事實ヲ認ムルニ足ルモノトス(大審昭和三年評論一七卷諸法三二七頁)

◎本條第二項ノ解釋

大正十五年法律第六十號暴力行爲等ノ處罰ニ關スル法律第一條第二項ノ犯罪ハ常習トシテ同條第一項ニ掲グル刑法各條ノ罪ヲ犯シタル場合ニ成立スルモノニシテ其ノ所謂常習トハ叙上掲記ノ刑法罰條ニ規定スル各個ノ犯罪行爲ノ常習性ノミヲ指スモノニ非ス是等ノ犯罪行爲ヲ包括シタル暴力行爲ヲ爲ス習癖ヲモ言

フモノト解スルチ相當トスルチ以テ如上習癖ヲ有スル者ニ於テ前掲刑法各條項所定ノ罪ノ數種ヲ犯シタルトキト雖モ其ノ各行爲ハ包括セラレテ右暴力行爲等處罰ニ關スル法律第一條第二項ノ單純一罪ヲ構成スルニ止リ其ノ各行爲毎ニ其ノ觸ルル所ノ刑法各條項所定ノ罪ノ常習罪ヲ構成スヘキモノニ非ス(大審昭和二年法二七二四號一三頁)

北海道國有未開地處分法

(明治四十一年法律第五十七號)

第一條 北海道國有未開地ノ處分ハ本法ニ依リ北海道廳長官之チ行フ

◎北海道廳官ト訴訟資格

北海道廳長官ハ國ノ行政機關ニシテ同道ノ拓地植民上ノ事務ヲ總理シ其所管事務ニ係ル民事訴訟ニ付テハ國ヲ代表スルモノナルカ故ニ之カ訴訟ニハ國ヲ原告トシテ該長官ハ所謂法律代理人トシテ揭示スヘキモノトス而シテ該訴訟ニ右法律上ノ講究疎漏

ニシテ假令不精密ナル記載アルモ其趣旨前記ニ外ナラザルトキハ其提起チシテ不適法ナリトナスコトヲ得ス(東京控大正元年最一三卷八頁)

第二條 土地ノ賣拂ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間内ニ其ノ土地ニ關スル事業ヲ成功スヘキ者又ハ棄地ノ儘使用セムトスル者ニ對シ之チ行フ

◎出願名義ト内部契約トノ關係

- 一 他人名義ヲ以テセル未開地貸付出願ニ對シ許可アリタルトキハ所有權ハ名義人ニ移轉スヘキモノトス(大審大正元年評論一卷諸法一二三頁)
- 二 北海道國有未開地ノ貸付ヲ出願シタル者ハ縱令第三者ニ對シ之チ直接ニ所有權ヲ取得セシムル契約ヲ爲シタリトスルモ其效力ハ單ニ當事者間ニ債權關係ヲ生スルニ止マリ貸付ニ因リ所有權ヲ取得スル者ハ出願者ナリトス(大審大正元年民一〇九八頁)

第十二條 土地ノ貸付ヲ受ケタル者ノ權利ハ之ヲ讓渡スルコトヲ得

諸法令下 (ホ) 北海道國有未開地處分法 二條

一二三條

一九一九

ス但シ行政廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス前項ノ規定ニ違反シタル者ニ對シテハ其ノ貸付處分ヲ取消スコトヲ得

◎北海道未開地借受人ノ義務ノ性質

本條ノ規定ニ依リ北海道未開地ノ無償貸付ヲ受ケタル者ハ其土地ニ於テ開墾牧畜植樹等豫定ノ事業ヲ爲スノ權利ヲ取得スルト同時ニ又其豫定ノ事業ヲ爲スヘキ義務ヲ國ニ對シテ負擔スルモノト謂フコトヲ得ヘシト雖モ其義務ハ私法上ノ債務ニ非サルコト明白ナレハ明治十年布告第四十三號ニ所謂金數借入ノ債務ニ該當セサルモノトス(大審大正五年民九七一頁)

◎賣拂出願者ノ地位ト相續

◎死亡出願者名義ノ賣拂處分ノ效力

北海道廳令第六十四號北海道未開地處分法施行細則第十條及ヒ勅令第五十號北海道國有未開地處分法施行規則第七條ノ規定ニ依レハ右未開地若クハ右地上立木ノ賣拂出願者ノ地位ハ其相續人ニ於テ法律上一定ノ資格ヲ具有スル限りハ之チ承繼スルチ

得ヘキモノナルコト明白ニシテ殊ニ右施行細則第十條ニ賣拂出願者ノ相續ノ場合ヲ豫想シ其場合ニ於テ賣拂處分ヲ爲ス手續ノ便宜上賣拂出願者ノ相續人ニ對シ遲滞ナク其相續アリタル旨ノ届出ヲ爲スヘキ旨ヲ規定スルト同時ニ相續人カ右届出ヲ怠リタル場合ニ受クヘキ何等ノ制裁ヲ規定セサルノ旨趣ニ徴スレハ賣拂出願者ノ地位ハ其相續ノ開始ニ因リ相續人ニ於テ當然之ヲ承繼スルコトヲ得ヘク且右相續人カ斯ル届出ヲ怠リタルノ一事ニ依リ一旦承繼シタル前示ノ地位ヲ喪失スルモノニ非サルコト洵ニ瞭然タリ是ニ依リテ之ヲ觀レハ當該官廳ニ於テ右届出ナカリシカ爲メ誤テ死亡セル被相續人名義ノ賣拂處分ヲ爲スコトアルモ這ハ畢竟賣拂出願者ノ地位ヲ有スル者ニ對シ爲シタル有效ノ行政處分ニシテ死亡セル被相續人其者ニ對シテ爲シタル無効ノ行政處分ト解スヘカラス蓋右賣拂處分ハ其賣拂ヲ出願シタル者ノ一身ニ專屬スル性質ヲ具ヘサルコト前示說明ノ如クナルヲ以テ右ノ錯誤ハ賣拂處分ヲ無効視スルニ至ルヘキ重要ノ錯誤ニ非サレハナリ(大審大正一〇年民二一八頁)

◎貸付地上ノ權利ト無許可讓渡ノ效力

舊北海道有未開地處分法ニ依リ開墾ノ目的ヲ以テ土地ノ貸付ヲ受ケタル者カ其貸付地上ニ存スル權利ヲ舊法施行當時ニ於テ他人ニ讓渡スルコトヲ約シ又新北海道有未開地處分法施行後ニ於テ行政廳ノ許可ヲ得スシテ他人ニ讓渡スコトヲ約スルトキ

ハ當事者間ニ貸付地下附ノ後ニ於テ其所有權ヲ移轉スヘキ債權關係ヲ生スルコトアルヘキモ貸付地下附ト同時ニ當然讓受人ニ於テ其土地ノ所有權ヲ取得スルモノト云フヲ得ス(大審大正三年評論三卷民訴二六〇頁)

第十四條 土地ノ賣拂又ハ第三條第二項ニ依ル貸付ヲ受ケタル者法令ノ規定又ハ確定ノ事業方法ニ違反シタルトキハ未成功地ノ全部ニ付賣拂又ハ貸付ノ處分ヲ取消スヘシ此ノ場合ニ於テ拓殖上又ハ土地整理上支障アリト認ムルトキハ成功地ノ一部又ハ全部ニ付亦同シ前項ノ場合ニ於テ賣拂ヒタル土地ニ付テハ賣拂代金ハ之ヲ還付セ

◎拂下處分ノ取消ト返還訴訟ノ管轄

北海道有未開地處分ニ依リ國ノ私有財産トシテ拂下ヲ受ケ又私有財産トシテ占有スル土地ニ付テハ縱令國カ其拂下處分ヲ取消シタリトテ占有者ヨリ任意返還ヲ爲ササルトキハ司法裁判所

ニ訴訟ヲ提起シテ其返還ヲ請求スルノ外ナキモノトス(大審三八年民二一八頁)

◎伐木代價ノ辨償額ヲ定ムル標準(第一八條)

第十八條 天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因ルニ非スシテ貸付地ヲ返還シ又ハ第十四條第一項ノ處分若ハ付與ノ處分ノ取消ヲ受ケタル場合ニ於テ伐採シタル樹木アルトキハ其ノ相當代價ヲ辨償セシム

◎伐木代價ノ辨償義務ノ性質

一 明治三十年法律第二十六號北海道有未開地處分法第十三條第一號ハ同第三條ニ依レル貸付中ノ土地ヲ自己ノ便宜ニ因リ貸付期限内ニ返還シ又ハ第十條ニ依リ返還ヲ命セラレタル場合ニ於テ伐採シタル樹木アルトキハ土地ノ貸付ヲ受ケタル者ニ法律上當然其相當代價ヲ賠償スヘキ私法上ノ義務アルコトヲ規定シタルモノトス(大審大正三年民七四五頁)

諸法令下 (水) 北海道有未開地處分法 一四條

◎第三者ノ盜伐ト借地人ノ辨償責任

一 北海道有未開地處分法第十三條ノ趣旨ハ樹木伐採ノ結果ノ

◎伐木代價ノ辨償額ヲ定ムル標準

一 北海道有未開地處分法第十四條第一項ニ依リ貸付取消處分ヲ受ケタル者ニ對シ同法第十八條ニ依リ命スヘキ伐採樹木辨償金額ハ右取消處分當時ニ於ケル價額ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノトス(大審昭和三年民九五八頁)

依リ返還セシメタル未成功地ニ於ケル伐採樹木ノ相當代價ヲ辨償セシムルコトハ私人ニ金錢ノ給付ヲ爲サシムルコトヲ以テ目的ト爲スニハ相違ナシト雖モ固ヨリ刑罰タルノ性質ヲ有セス又公用徵收タルノ性質ヲ有セサルカ故ニ到底之ヲ以テ行政上ノ權力行爲ニ因ル處分ナリト認ムルヲ得ス國家カ被リタル損害トシテ借地人ニ對シテ常ニ其伐採樹木ノ相當代價ノ賠償ヲ求メ得ル旨ヲ定メタルモノニ過キス(東京控大正三年法九四七號二五頁)

ミニ對スル辨償責任ヲ定メタルモノナルカ故ニ借地關係存續中ニ於テ其地上ノ樹木伐採ノ事實アルニ於テハ其事實カ借地人ノ所爲ニ出タルト盜伐ナルトテ同ハス總テ借地人ニ於テ辨償ノ責任アルモノトス(東京控四三年法六八三號二四頁)

二 北海道國有未開地處分法第十八條ノ取消ハ一種ノ行政處分ニシテ民法ノ取消ニ非ス從テ同條ノ貸付權利者ノ所謂辨償義務ハ貸付カ取消サルル當時貸付權者ニ於テ伐採シタルト否トテ問ハス之ヲ負擔スヘキモノトス故ニ縱令貸付權ヲ讓受クル前ニ於ケル盜伐ニ原因スルモノトスルモ其責ヲ免ルルコトヲ得ス(札幌地大正六年法一一一九號二七頁)

### ◎伐木辨償義務ノ發生及期滿免除

舊北海道國有未開地處分法第十三條ニ依ル伐採樹木ノ代價辨償ノ義務ハ貸付地豫定存置ノ指令ヲ無効トセラレ貸付地ノ返還ヲ命セラレタル時ニ發生スルモノニシテ右代價辨償ノ義務ハ納入告知書ノ發セラレタル日ノ屬スル會計年度ノ經過後五ヶ年ヲ經過シタルトキハ滿期免除完成スルモノトス(東京控大正四年評論四卷諸法二一〇頁)

### ◎伐木辨償義務ノ履行請求ト管轄

本條第一號ニ所謂土地返還ノ場合ニ於ケル伐採樹木代價辨償ノ

北海道農産物検査規則第二條第一項後段ノ規定ハ封緘紙ヲ毀損又ハ亡失シタルトキハ更ニ検査ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ授受輸送移出又ハ輸出スルコトヲ得サルコトヲ意味スルモノトス(大審大正一一年刑四六二頁)

## 北海道土功組合法

### ◎本法ニ依ル組合ノ性質

明治三十五年法律第十二號北海道土功組合法ヲ見ルニ其第一條ニハ「北海道ニ於テ區町村又ハ區町村組合ノ事業ト爲スコトヲ得サル特別ノ事情アル場合ニ限リ左ノ事情ヲ目的トシ一定ノ地區ヲ定メテ土功組合ヲ設置スルコトヲ得」トアリ其第五條ニハ「北海道廳長官ハ必要ト認ムルトキハ組合……加入ニ同意セサルモノニ對シ之カ加入ヲ命スルコトヲ得」トアリ又其第六條ニハ「組合員組合費ヲ完納セサルトキハ區町村長又ハ戶長ハ組合ノ請求ニ依リ區町村稅徵收ノ方法ニ準シテ之ヲ徵收ス」トアリ又其第十條ニハ「組合ハ主務大臣北海道廳長官及北海道支廳長之ヲ監督ス」トアリテ北海道土功組合法ニ因ル組合ハ北海道區町村又ハ其局部ノ公益上必要ナル事項即チ公共事務ヲ取扱フ爲メ公法上設ケラレタル公共團體ナレハ其公法人ナルコト毫モ

諸法令下 (米) 北海道土功組合法

義務ハ直接ニ法律ノ規定ニ依リ發生スル私法上ノ義務ニシテ行政處分ニ依リ生スルモノニアラス從テ司法裁判所ハ右義務履行請求ノ當否ヲ審判スル權限アルモノトス(大審大正三年評論三卷民訴二二八頁)

## 北海道農産物検査規則

第二條 本道生産ノ農産物ハ本則ニ依リ検査ヲ受ケタルモノニ非ザレハ之ヲ授受、輸送、移出又ハ輸出スルコトヲ得ス検査済ノモノニシテ包裝ヲ改メタルトキ検査證印不明トナリタルトキ封緘紙ヲ毀損又ハ亡失シタルトキ亦同シ但シ左ノ各號ノ一二該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス  
一 一俵、一袋、一箱未滿ノ端モノ  
(中略)

検査證要ヲ毀損又ハ亡失シタルトキハ更ニ検査ヲ受ケシムルコトアルハシ

### ◎本條第一項後段ノ意義

疑ナシ(大審大正三年刑五四五頁)

### ◎北海道土功組合ノ評議員ノ性質

北海道土功組合法ニ因ル組合ハ公法人ニシテ其役員タル評議員ハ同年勅令第二百十二號北海道土功組合施行令第十二條ニ依リ組合長ノ諮詢ニ應シ業務執行及財産ノ狀況ヲ監査スル職責アル者ナレハ原列決ニ認ムル如ク評議員タル被告カ秩父別土功組合ノ業務執行上ノ事ニ關シ賄賂ヲ收受シタル以上ハ刑法第九十七條ノ收賄罪ヲ構成スルハ言ヲ缺タサル所ナリトス(大審大正三年刑五四七頁)

## 北海道土功組合法施行令

### ◎法人ハ他ノ法人ノ構成員タリ得ルヤ

北海道土功組合法施行令第十二條ニ依レハ其ノ役員ハ組合法人ヲ離レタル自然人ヲ以テスルモノナルコトヲ推知シ得ルト同時ニ同令第九條ハ町村其他ノ法人ヲ排斥シテ組合ノ事務施行ニ關與セシメサルノ趣旨ヲ有スルモノニアラサルカ故ニ本件ニ於テ長沼村ヲ以テ南長沼土功組合ノ評議員トシテ選舉シ監督官廳ニ於テ之ヲ認可シタルハ長沼村ノ代表者タル亡柴垣與一郎ヲ以

テ之カ評議員トナシタル趣旨ナリト解セサルヘカラス從テ與一  
郎ハ公務員ニシテ本件瀆職罪ヲ構成スルコト明カナリトス(大  
審昭和二年法二六九九號九頁)

### 北海道警察罰令

◎本令ノ上卷頁(三七六頁)

### 民法施行法

(明治三十一年法律第十一號)

第一條 民法施行前ニ生シタル事項ニ付テハ本法ニ別段ノ定アル場  
合ヲ除ク外民法ノ規定ヲ適用セス

◎本條ニ關スル諸問

◎民法前ノ未成年者ノ行爲能力(第二續民法七頁)  
◎遺產相續ト家籍問題(第二續民法九九四條)

◎本條ニ所謂事項ノ意義及事例

- 一 民法施行法第一條ニ所謂事項トハ民法施行前ニ生シタル事實  
及ヒ法律關係ヲ包括スル文詞ナリ(大審三六年民一五三頁)
- 二 遺產相續ノ權利ハ其性質上遺產相續開始ニ至ル迄ニ發生スル  
諸種ノ事情ニヨリ變動ヲ來タスモノニシテ確定不動ノモノニア  
ラス從テ民法施行前ニ於テ遺產相續權ヲ有セザリシ事實ハ民法  
施行法第一條ニ所謂民法施行前ニ生シタル事項ト謂フヲ得ス  
(法曹會決議大正一五年法曹會雜誌五卷三號一三〇頁)

◎民法施行前ノ養子縁組ノ有效

- 一 民法施行法第六十五條ニハ民法施行前ニ爲シタル養子縁組カ  
其ノ當時ノ法律ニ依レハ無効ナルトキト雖民法ノ規定ニ依リ有  
効ナルヘキトキハ民法施行ノ日ヨリ有效ト認ムル旨ノ規定アリ  
而シテ民法第八百五十一條ニハ縁組ハ左ノ場合ニ限り無効トス  
トアルヲ以テ民法施行後ニ於テ縁組ノ無効ナルハ同條各號ニ列  
舉シタル場合ニ限リ其ノ他ノ場合ニ在リテハ縁組ハ常ニ其ノ効  
力ヲ生スルモノト解セサルヘカラス(本院大正四年(オ)第三  
百六十一號同五年一月二十日判決參照)從テ民法施行前養子ト

◎本條ノ法意及適用

- 一 民法施行法第四條ノ規定ハ確定日附ナキ證書ハ其證書ノミニ  
テハ作成ノ日附ニ付キ證據力完全ナラスト云フニ止マリ他ノ證  
據ヲ以テ之ヲ補足スルコトヲ禁スルノ法意ニ非ス(大審三五年  
民一〇卷二〇一頁)
- 二 確定日附ナキ證書ハ第三者ニ對シ其作成ノ日ニ付キ完全ノ證  
據力ヲ有セストノ規定ハ確定日附アル證書ヲ以テスルニ非サレ  
ハ主張ノ事實ヲ第三者ニ對抗シ得サル旨ノ規定アル場合ノ外絶  
對ニ其證書ノ證據力ナシトノ謂ニ非スシテ單ニ該證書ノミニ依  
リ其作成ノ日ヲ定ムル完全ノ證據ト爲シ得サルノ旨趣ニ外ナラ  
ス(大審三八年民四一四頁)
- 三 民法施行法第四條ハ確定日附アル證書ヲ以テスルニ非サレハ  
主張事實ヲ第三者ニ對抗シ得ストノ規定存スル場合ノ外訴訟當  
事者ノ一方カ第三者ノ作成シタル私書證書ヲ否認スルモノニ因  
テ直ニ其證據力ヲ失フモノニアラサルモ其證書ノ日附ヲ爭フ場  
合ニ於テハ日附以外ノ證據ニ依リ日附ノ眞實ナルコトヲ認定ス  
ルニアラサレハ作成ノ日ニ付キ證據力ヲ有セサルコトヲ規定シ  
タルモノナリ(長崎控四一年法五一二號八頁)
- 四 民法施行法第四條ノ規定ハ證書作製ノ日附ニ付キ爭アル場合  
ニ適用スヘキモノニシテ其日附ニ付キ爭ナキ場合ニ適用スヘキ  
モノニ非ス(大審三三年民三卷九九頁)

爲リタル者カ法定ノ推定家督相續人ナリシニ因リ縁組力無効ナ  
リシ場合ト雖此ノ如キ事由ハ民法第八百五十一條ニ於テ縁組ヲ  
無効ナリトスル場合ニ該當セサルカ故ニ尙モ戸籍吏ニ於テ該届  
出ヲ受理シタルトキハ民法施行後ニ於テハ右事由ニ基キ縁組ノ  
無効ヲ主張スルコトヲ得サルモノト云ハサルヘカラス(大審昭  
和三年民七三一頁)

二 民法施行前ノ養子縁組ノ無効(續民法一三〇二頁)

◎民法前ノ再相續ト手續欠缺ノ補正

民法施行前ニ父再相續ノ場合ニハ單ニ戸籍吏ニ對スル届出ヲ以  
テ足レリトモ管轄地方長官ニ對シ出願ノ上其許可ヲ經テ之カ  
届出ヲ爲スコトヲ必要ト爲シタルモ届出ヲ爲シタル後地方長官  
ニ對シ稟請シ之カ認許ヲ得タルトキハ手續上ノ欠缺ハ補正セラ  
レタルモノトス(東京控大正一四年法二四四八號一五頁)

第四條 證書ハ確定日附アルニ非サレハ第三者ニ對シ其作成ノ日ニ  
付キ完全ナル證據力ヲ有セス

第五條

- 一 公正證書ナルトキハ其日附ヲ以テ確定日附トス
- 二 登記所又ハ公證人役場ニ於テ私署證書ニ日附アル印章ヲ押捺シタルトキハ其ノ印章ノ日附ヲ以テ確定日附トス
- 三 私署證書ノ署名者中ニ死亡シタル者アルトキハ其死亡ノ日ヨリ確定日附アルモノトス
- 四 確定日附アル證書中ニ私署證書ヲ引用シタルトキハ其證書ノ日附ヲ以テ引用シタル私署證書ノ確定日附トス
- 五 官廳又ハ公署ニ於テ私署證書ニ或事項ヲ記入シ之ニ日附ヲ記載シタルトキハ其日附ヲ以テ其證書ノ確定日附トス

◎確定日附ト其ノ事例

- 一 裁判所カ當事者ヨリ提出シタル書證ニ附記シタル閱覽ノ日附ハ確定日附ナリ(大審三五年民六卷五頁)
- 二 確定日附ノ意義及其ノ事例(第二續民法五五三頁)

◎公權停止ト取締役ノ失格(第二續商法一四九六頁)

第二十八條 民法中法人ニ關スル規定ハ當分ノ内神社寺院祠宇及ヒ佛堂ニハ之ヲ適用セス

◎寺院タルノ要件

- 一 寺ハ獨立ノ財産ヲ有シ訴訟ノ當事者タルヲ得ル事ハ法理トシテ認メラルル所ナリト雖モ抑モ寺ナルモノハ寺タルノ體ヲ具フル建物ノ實在ヲ要シ之レヲ離レテ獨リ無形的ニ存在スルコトハ法理上認メサル所トス(東京控三四年法六〇號五頁)
- 二 寺院トシテ法人タルニハ一定ノ教義アリ信仰禮拜ノ目的タル佛像ノ外本堂庫裏ヲ具ヘ居レハ足り必スシモ其本堂庫裏ニ對スル所有權ヲ有スルコトヲ要スルモノニ非ス且一旦寺院ト爲リタル以上廢寺其他ノ理由ニヨリ寺院明細帳ヨリ削除セララル迄ハ尙寺院トシテ法人格ヲ有スルモノト解スヘキモノトス(大阪控大正六年法一三三六號二三頁)

◎庵ノ來歴ト其ノ人格

第十九條 民法施行前ヨリ獨立ノ財産ヲ有スル社團又ハ財團ニシテ民法第三十四條ニ掲ケタル目的ヲ有スルモノハ之ヲ法人トス  
前項ノ法人ノ代表者ハ民法第三十七條又ハ第三十九條ニ掲ケタル事項其他社員又ハ寄附者カ定メタル事項ヲ記載シタル書面ヲ作リ民法施行ノ日ヨリ三個月内ニ之ヲ主務官廳ニ差出タシ其認可ヲ請フコトヲ要ス此場合ニ於テ主務官廳ハ其書面カ民法其他ノ法令ニ反スルトキ又ハ公益ノ爲メ必要ト認ムルトキハ其變更ヲ命スルコトヲ要ス  
前項ノ規定ニ從ヒテ認可ヲ得タル書面ハ定款又ハ寄附行爲ト同一ノ效力ヲ有ス

◎民法以前ノ社團又ハ財團(續民法七三二頁)

第二十七條 剽奪公權者及ヒ停止公權者ハ法人ノ理事監事又ハ清算人タルコトヲ得ス

庵トハ草ヲ以テ圓屋ト爲シ天笠ノ僧修行者ノ居ル所ナリトハ釋氏要覽ニ記述セル庵ノ起原ニシテ發達シテ寺院ト爲レルモノアリ之ヲ以テ古來寺院ノ名稱トシテ何々庵ト稱スルモノ少カラス例之西京ノ櫻元庵又ハ東都ノ全性庵ノ如シ又僧尼ノ隱遁所タルモノアリ例之字治ノ吸江庵江州ノ興善庵ノ如シ又寺院境内ニ於ケル附屬建物ヲ指稱スルコトアリ以上寺院タル庵又ハ寺院ノ附屬建物タル庵又ハ僧尼ノ單純ノ隱遁所ニ付テハ問題ヲ生セサルモ寺院ト略ホ同様ノ設備ヲ有シ形式上寺院タラサルモノアリテ行政上其ノ取扱ニ困難ヲ來セシヨリ寛政年間牧野備前守ノ示達ヲ以テ「由緒等ヲ相糺シ一寺ニ取立ツヘシ」トノ命令ヲ發セシコトアリ維新後今日ニ至ルモ庵ハ寺院ト見ルヘキヤ否ヤニ付實質上ノ標準ヲ立ツルニ困難ナルヲ以テ我カ宗教局ニ於テハ宗教法ノ制定ヲ見ル迄一時的處理方法トシテ地方廳ヲシテ庵ト稱スルモノニ付一定ノ調査ヲ爲サシメ適當ト認ムルモノヲ寺院明細帳(或ハ佛堂明細帳)ニ登錄セシメ其ノ登錄手續タルモノヲ法人トシテ取扱フノ慣例ヲ作レリ而シテ寺院民法施行前ヨリ法人タリシコトハ大審院判例ニ於テモ既ニ認ムル所(明治四十年ノ大審院判例ニ曰ク寺院ハ其ノ實質上一ノ法人ナルカ故ニ適法ノ代表機關ヲ以テスレハ特ニ法令ノ禁止セサル限り通常法人ノ爲シ得ヘキ法律行爲ハ總テ之ヲ爲スヘキ能力アルモノトス)ナレハ本質疑ニ於ケル庵ニシテ既ニ寺院明細帳(或ハ佛堂明細帳)ニ登錄セラレ且適法ノ代表機關ヲ有スルナラハ財産ヲ所有シ

且不動産登記ヲ申請スルノ主體タルヲ得ルモノト斷シテ誤リナシト思料ス(法曹會決議昭和三年法曹會雜誌第六卷九號一〇八頁)

◎神社寺院祠宇及佛堂ノ性質(第二續民法三四頁)

第三十二條 前條但書ノ規定ハ舊法ニ出訴期限ナキ權利ニ之ヲ準用ス

◎舊法ニ出訴期限ノ定ナキ權利

- 一 本條ニ所謂舊法ニ出訴期限ノ定ナキ權利トハ出訴期限規則ニ於テ出訴期限ヲ定メタル權利以外ノ權利ニシテ時効ニ因リ消滅シ若クハ取得スヘキモノヲ指稱ス(大審大正四年法一〇六八號三二頁)
- 二 期限ノ定メナキ預米ニ付テハ舊出訴期限規則第四條ニヨリ出訴ノ日ヲ期限ト看做シ何時出訴スルモ若シカラサルモノナレハ民法施行法第三十二條ニ所謂舊法ニ出訴期限ナキ權利ニ該當ス(大阪控三九年法三五八號九頁)
- 三 明治十八年內務省達第二十號ニ依リ不動産書入公證ヲ受ケタ

ル債權ハ出訴期限之ナキモノナルヲ以テ民法施行法第三十二條ニ依リ民法施行ノ日ヨリ民法ノ規定ニ從テ其時効ヲ起算スヘキモノトス(大審三四年民九卷六〇頁)

四 民法施行前後見人カ親族ノ連署ナクシテ未成年者ノ不動産ヲ他人ニ賣渡シタル行爲ニ付テハ民法施行法第三十二條同第三十條但書ニ依リ民法中取消權ノ時効ノ規定ヲ準用スヘキモノトス(大審三九年民一四七頁)

五 民法施行前ニ於テハ滅殺請求權ニ付キ出訴期限ノ定ナシト雖民法ニ於テハ第四百四十五條ニ依リ之ヲ規定シアルヲ以テ民法施行法第三十一條但書第三十二條ニ依リ右請求權ノ時効ハ民法施行ノ日ヨリ起算シテ民法ノ時効ニ依ルヘキモノトス(長崎控大正四年法一一三號三一頁)

◎本條ニ關スル諸問

- ◎法定期間ノ意義(第二續民法一九五頁)
- ◎民法前ノ質權存續期間(民法一六一頁)

第三十七條 民法ハ不動産登記ノ規定ニ依リ登記スヘキ權利ハ從來登記ナクシテ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシモノト雖モ民法施行ノ日ヨリ一年內ニ之ヲ登記スルニ非サレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

◎本條ノ法意及適用

- 一 民法施行法第三十七條ハ地上權又ハ永小作權ノ如キ從來登記ナクシテ絕對ニ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ權利ニノミ適用スヘキモノトス從テ所有權ノ如キ登記ナクシテ惡意ノ第三者ニノミ對抗スルコトヲ得ヘカリシ權利ニハ之ヲ適用スヘキモノニ非ス(大審四〇年民六五三頁)
- 二 本條ハ民法施行前ニ於テ登記ナクシテ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ權利ハ民法施行ノ日ヨリ一年內ニ登記セサルカ爲メ其權利カ當然消滅スルカ又ハ其後ニ至リテ登記スルコトヲ得サル旨ヲ規定シタルモノト認ムルヲ得ス而シテ民法施行ノ日ヨリ一年ノ後ト雖モ其權利ニ付キ登記ヲ爲スコトヲ得ル以上ハ其登記ノ日ヨリ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘキハ固ヨリ當然ナリ(大審大正四年民一一二六頁、法一〇四八號四六三頁)

三 民法施行法第三十七條ハ苟クモ右權利ニ付キ登記ナキ以上ハ第三者ノ登記欠缺ノ主張ナクシテ同條ヲ適用シテ相互ノ權利關係ヲ判定スヘキ趣旨ヲ示シタルニ止マリ一ニ第三者ノ利益保護ヲ念トセルモノニシテ固ヨリ強行ノ規定ト謂フヘキモノニモアラサレハ第三者カ登記ノ欠缺アルニ拘ハラズ特ニ權利者ノ其權利ヲ承認シ之カ擔當ヲ辭セサル事實アルニ於テハ第三者ハ同條ノ規定ニ從ヒ登記ノ欠缺ヲ主張シ之ヲ對抗スル權利ヲ拋棄シタルモノト觀ルヘク法律上第三者ニ對抗權ノ行使ヲ強要スヘキ理由ナシト謂ハサル可ラス(大審大正八年法一六二三號二〇頁)

四 登記ナルモノハ本登記ト假登記トト同ハス總テ第三者ニ對抗スルノ效力ヲ有ス隨テ民法施行法第三十七條ニ所謂登記ナル文字ニハ本登記ノ外尙ホ假登記ヲモ包含スルモノト解釋スルヲ相當トス(大審三三年民九卷九七頁)

第四十四條 民法施行前ニ設定シタル地上權ニシテ存續期間ノ定ナキモノニ付キ當事者カ民法第二百六十八條第二項ノ請求ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ設定ノ時ヨリ二十年以上施行ノ日ヨリ五十年以下ノ範圍內ニ於テ其存續期間ヲ定ム

地上權者カ民法施行前ヨリ有シタル建物又ハ竹木アルトキハ地上權ハ其建物ノ朽廢又ハ其竹木ノ伐採期ニ至ルマテ存續ス



地上権者カ前項ノ建物ニ修繕又ハ變更ヲ加ヘタルトキハ地上権ハ  
原建物ノ朽廢スヘカリシ時ニ於テ消滅ス

◎本條ノ法意及適用

- 一 民法施行法第四十四條第一項ハ民法施行前ニ設定セル地上権ニシテ存續期間ノ定ナキモノニ付キ當事者ヨリ民法第二百六十八條第二項ノ請求アリタル場合ニ裁判所カ其存續期間ヲ定ムヘキ標準ヲ示シタルモノナルモ第二項ハ建物ノ朽廢又ハ竹木ノ伐採期ニ至ル迄ヲ以テ存續期間ト定メタルモノニシテ存續期間ヲ定ムヘキ標準ヲ示シタルモノニ非ス(大審三六〇年民一八八頁)
- 二 民法施行法第四十四條ノ規定ハ慣習ノ存在スル場合ニ適用スルコトヲ得ス(大審三二〇年民一一九九頁)

◎第二項ノ法意及適用

- 一 民法施行法第四十四條第二項ハ民法施行當時ノ狀態ニ於ケル建物ノ朽廢ニ至ルマテ地上権ノ存續スヘキ旨ヲ定メタルモノニシテ其以前建物ニ修繕又ハ變更ヲ加ヘタルト否ト同ハサルモノトス(大審四〇〇年民一一三四頁)
- 二 民法施行法第四十四條ニ所謂建物ノ朽廢期トハ建物ニ何等手入

◎建物ノ朽廢ノ意義

- 一 建物ノ朽廢ノ意義 (本卷〔シ〕借地法一七條、民法一四四頁)
- 二 民法施行法第四十四條第二項ニ所謂建物ノ朽廢トハ自然ノ朽廢ヲ指稱シタルモノトス故ニ建物カ火災水害等ニ因リ自然ノ朽廢スヘキ時期ニ先ツテ廢壞若クハ滅失シタル場合ハ之ニ包含セス(大審三三七年民一四七頁)
- 三 從物ハ常に主物ト運命ヲ共ニスルモノナレハ民法施行法第四十四條ノ場合ニ於テ主タル工作物朽廢セル以上ハ縱令從タル工

作物殘存スルモ地上権ノ消滅ヲ妨グルコトナシ(大審三九九年民一六六五頁)

四 地上権ノ目的タル一ノ地域内ニ主從ノ區別ナク箇箇獨立シタル數箇ノ建物存在スル場合ニ於テ該權利カ各建物ノ爲メニ分割獨立シテ設定セラレタルニ非サル以上ハ縱令其一ニカ朽廢スルモ特約ナキ限り之ヲ唯一ノ地上権ト看做シ總建物ノ朽廢ニ至ルマテ依然存續スヘキモノトス(大審三九九年民一六六五頁)

◎朽廢前ノ取毀ト地上権ノ存續

建物所有ノ爲メニ設定シタル地上権ニシテ民法施行法第四十四條第二項ニ依リ其建物朽廢ノ時マテ存續スヘキモノナルトキハ改築ノ爲メ朽廢前ニ之ヲ取毀シモ地上権ハ其建物ノ自然ニ朽廢スヘカリシ時マテ依然存續シ故ラニ之ヲ取毀チタル時ニ消滅スルモノニ非ス(大審三三七年民二八四頁)

◎第三項ノ建物ニ加ヘタル修繕ノ意義

民法施行法第四十四條第三項ニ所謂建物ニ加ヘタル修繕トハ普通ノ修繕ヲ指スモノニアラスシテ改築ニ互ラサル範圍ニ於テ從來ノ構造ヲ變更シ若クハ在來使用セルモノニ比シ一層良好ナル

物質材料ヲ用ヒ普通豫期スヘキ以上ニ建物ノ使用期ヲ延長スル目的ヲ以テ爲セルカ如キ修繕ヲ指示スル法意ナリト解スヘキモノトス(大審大正八年法一六五九號一九頁)

◎本條ト民法四四條トノ關係(本卷〔シ〕借地法一七條)

第五十條 民法第三百七十四條ノ規定ハ民法施行前ニ設定シタル抵押權ニモ亦之ヲ適用ス但民法施行ノ日ヨリ一年內ニ特別ノ登記ヲ爲シタル利息其他ノ定期金ニ付テハ元本ト同一ノ順位ヲ以テ抵押權ヲ行フコトヲ得

◎本條ノ法意及適用

- 一 民法施行法第五十條ノ規定ハ民法實施前ニ成立シタル債權ニシテ其利息ノ同法施行後ニ生シタル分ニ付キ抵當權ノ效力ヲ定メタル法意ニシテ其施行前ノ利息ニ及ホスノ法意ニ非ス(大審三三五年民五卷五一頁)
- 二 民法施行前既ニ發生シタル遲延利息ニ付テハ假令民法施行後

ニ抵當權ヲ行使スル場合ニ於テモ抵當權ノ效力ヲ及ホスモノトス(大審三八年法二六九號九頁)

三 民法施行前ニ在リテハ抵當權ニ於ケル期限後ノ遲延利息モ期限前ノ利息ト區分ナリ優先權ヲ得セシメタルモノナリ(大審三三年法一〇五號一〇頁)

第五十三條 民法施行前ヨリ債務ヲ負擔スル者カ其施行ノ後ニ至リ債務ヲ履行セサルトキハ民法ノ規定ニ從ヒ不履行ノ責任ニ任ス前項ノ規定ハ債權者カ債務ノ履行ヲ受ケルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受ケルコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス

◎本條ノ法意及適用

一 民法施行法第五十三條第一項ハ民法施行前ノ債務ニ對シ民法第四百十二條以下ニ規定セラレタル遲滯及ヒ損害賠償ニ關スル規定ヲ適用スヘキコトヲ謂フモノニ過キスシテ同法第四百八十四條ノ辨濟ノ場所ニ關スル規定ヲモ適用スヘキ旨趣ニ非ス(大審大正二年民四五一頁)

二 民法施行法第五十三條第一項ハ民法施行前ヨリ債務ヲ負擔ス

ル者ハ債務ノ不履行ニ付キ民法ノ規定ニ從ヒ責任ヲ負フヘキコトヲ規定シタルモノニシテ其負擔スル債務當然ノ效力ニ付キ民法ヲ適用スヘキコトヲ規定シタルモノニ非ス(大審三七年民一〇一〇頁)

三 民法施行法第五十三條ハ債務不履行ノ責任ニ關スル規定ニシテ利子ヲ元本ニ組ミ入ルルコト迄ヲ爲シ得ヘシトノ規定ニアラス(宮城控四三年法六六五號一四頁)

四 民法施行以前ニ生シタル債務ト雖モ其履行ニ付キ確定期限アルトキハ民法施行法第五十三條及ヒ第四百十二條第一項ノ規定ニ從ヒ債務者ハ其期限ノ到來シタル時ヨリ當然遲滯ノ責任ニ任スヘキモノトス(大審三八年民四四一頁)

五 民法施行前ヨリ契約上ノ債務ヲ負擔スル者カ其施行ノ後ニ至リテモ尙ホ之ヲ履行セサルトキハ債權者ハ民法施行法第五十三條ノ規定ニ依リ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得(大審三八年民四〇三頁)

第五十八條 民法施行前ニ發生シタル債務ト雖モ相殺ニ因リテ之ヲ免ルルコトヲ得

雙方ノ債務カ民法施行前ヨリ互ニ相殺ヲ爲スニ適シタルトキハ相殺ノ意思表示ハ民法施行ノ日ニ溯リテ其效力ヲ生ス

◎消滅時効ニ罹リタル債權ノ相殺(續民法二〇二頁)

第六十二條 民法施行ノ際家族タル者ハ民法ノ規定ニ依レハ家族タルコトヲ得サル者ト雖モ之ヲ家族トス

家族ハ民法施行ノ日ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ戶主權ニ服ス

◎本條ノ法意及適用

一 民法施行法第六十二條第六十三條ノ規定ハ其身分ノ歸屬スル法律上ノ家籍カ既ニ民法施行前ニ於テ定リタルモノハ民法ノ施行ニ因リ更ニ之ヲ變更セサル趣旨ニ外ナラスシテ單ニ戶籍面上他家ノ戶籍ニ登錄セラレアル者ハ總テ之ヲ以テ他家ノ家族ト爲スノ趣旨ニ非ス(東京地四一年法五〇〇號四頁、同旨東京控四一年法五三八號一二頁)

二 民法施行法第六十二條ニ民法施行ノ際家族タル者トアリ又同法第六十三條ニ民法施行ノ際他家ニ在ル者トアルハ何レモ民法施行前ノ法律ニ從ヒ正當ニ一家ノ家族トナレル者ヲ謂ヘルモノナルカ故ニ右ノ法律ハ民法施行前ノ法律ニ違ヒテ家族タル者ニ

對シテハ適用スヘキ限リニ在ラス(大審四二年民一九四頁)

三 民法施行以前ニ在リテハ妾ナル身分ヲ認メタリト雖トモ同法施行後ハ之ヲ認メサルヲ以テ戶籍上妾ト登錄シアルモノハ民法施行法第六十二條ニヨリ之レヲ家族ト看做ス可キモノトス(東京地三三年法三七號二二頁)

四 縁組ト親族ノ攜帶入籍(續民法一二五七頁)

第六十三條 民法ノ規定ニ依レハ父又ハ母ノ家ニ入ルヘキ者ト雖モ民法施行ノ際他家ニ在ル者ニハ其規定ヲ適用セス

◎本條ノ法意及適用(前條)

第六十五條 民法施行前ニ爲シタル婚姻又ハ養子縁組カ其當時ノ法律ニ依レハ無効ナルトキト雖モ民法ノ規定ニ依リ有效ナルヘキトキハ民法施行ノ日ヨリ有效トス

◎民法施行前ノ養子縁組ノ有效(第一條)

第六十七條 民法施行前ニ生シタル事實カ民法ニ依リ婚姻又ハ養子縁組ノ取消ノ原因タルヘキトキハ其婚姻又ハ養子縁組ハ之ヲ取消スコトヲ得但其實力既ニ民法ニ定メタル期間ヲ經過シタルモノナルトキハ此限ニ在ラス

◎本條ノ法意

民法施行法第六十七條ノ旨趣ハ民法施行前ニ生シタル事實ニシテ當時ノ法令若クハ慣習ニ於テ適法トセス且民法ニ於テ養子縁組取消ノ原因タルヘキモノトアルトキニ限リ民法施行ノ後モ其縁組ヲ取消スコトヲ得トノ法意ニ過キス故ニ縁組當時適法ナルモノハ民法施行法第六十七條ニ依リ其取消ヲ請求スルコトヲ得ス(大審三三年民二卷三二頁)

第六十八條 民法施行前ニ爲シタル婚姻又ハ養子縁組ト雖モ其施行ハ日ヨリ民法ニ定メタル效力ヲ生ス

◎民法前ト胎兒ノ相續權(第二續民法一二〇八頁)  
◎廢嫡長男ノ子ノ相續權(民法前)(續民法一三六〇頁)

◎本條ノ法意

本條ハ相續人カ民法施行前ノ法律ニ從ヒ相續權ヲ有シタルモ或事由ニ依リ之ヲ喪失シタル場合ヲ規定シタルモノニシテ相續人カ民法施行前ノ法律ニ從ヒ相續權ヲ有セザリシモ民法ニ依レハ有スヘキ場合ニ於テハ民法施行後相續開始シタルトキ其直系卑屬ニ承祖權アルコトヲ規定シタルモノニ非ス(大審大正八年民五〇七頁)

◎本條ノ相續人タルヘキ者ノ解

民法施行法第八十五條ニ「相續人タルヘキ者」トハ民法施行前ノ法律ニ從ヒ相續人タルヘキ者ヲ指スノ意義ナリト解スルチ相當トス(大審大正八年聯合法一五六五號一七頁)

第九十二條 相續人曠缺ノ場合ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ開始シタル相續ニ付テハ其施行ノ日ヨリ之ヲ適用ス

◎本條ノ法意及適用

- 一 本條ハ民法施行ノ日以後民法ニ定メタル養子ト同一ノ資格ヲ附與スルノ法意ニ外ナラスシテ民法施行前ニ適リ反致ノ效果アルコトヲ規定シタルモノニ非ス(大阪控四二年最五卷三四頁)
- 二 民法施行以前ニ在リテハ夫婦タル事實存在スルトキハ縱令其身分ヲ戶籍ニ登記セサルモ婚姻ノ效力ヲ生スルモノトス而シテ其婚姻ハ民法施行ノ日ヨリ民法ニ定メタル效力ヲ生スルモノナルカ故ニ婦カ訴訟行爲ヲ爲スニハ同法第十四條ニ依リ夫ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス(大審三六年民二〇〇頁)
- 三 民法前ノ事實上ノ婚姻ノ效力(續民法一二七四頁)

第八十五條 民法第九百七十四條及第九百九十五條ノ規定ハ相續人タルヘキ者カ民法施行前ニ死亡シ又ハ其相續權ヲ失ヒタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

◎本條ニ關スル諸問

◎相續權ヲ失ヒタル場合ノ意義(續民法一三六〇頁)

◎本條ノ適用

- 一 民法施行法第九二條ハ民法施行前ノ法律ニ依リ既ニ無主物トナリ又ハ國ノ所有トナリタルモノニ付テハ其適用アルヘキモノニ非スシテ唯其施行ノ當時相續人欠缺ノ爲メ舊法ニ依リテ認めラレタル法人ノ尙存續スル場合ニノミ其適用アルモノトス(東京地大正九年評論九卷諸法一五四頁)
- 二 民法施行前ノ絶家ノ遺産處分方ニ付テハ相續人曠缺ニ關スル規定ヲ適用スルノ外ナシ(法務局長大正四年民九八四號回答)
- 三 相續財產ノ處分完了セサル間ニ民法ノ施行ヲ見タル場合ハ民法施行法第九二條ニ依リ民法施行ノ日ヨリ民法ノ相續人曠缺ノ場合ニ關スル規定ノ許ス範圍ニ於テ適用スヘキモノト解セサルヘカラス(東京區大正八年評論八卷諸法三八五頁)
- 四 相續人曠缺ノ規定ハ相續人アルコト分明ナラサル場合ニ關スルモノナレハ民法施行前ニ在リテ絶家シ單ニ處分未済ノ遺産ノミ存スル場合ニ適用スヘカラサルカ如シト雖モ該規定ハ遺産ノ管理清算相續人ノ有無ヲ確定スル方法竝ニ清算後ニ於ケル遺産ノ歸屬ヲ定メタルモノナレハ相續人ノ有無ヲ確定スル方法以外ノ規定ハ此場合ニ適用シ得サルノ理ナキモノトス(同上)
- 五 民法施行前ニ絶家シ單ニ遺産ノミ存スル場合該遺産ハ民法施行後ニ於テハ法人タル資格ヲ有スルチ以テ該遺産ニ對シ所有權ヲ主張シ且其確認ヲ求メントスルモノハ相續財產ヲ相手方トシ

民法第五十二條ニ從ヒ裁判所ニ對シ相續財産管理人ノ選任ヲ求メ相續財産タル法人ニ對シ訴求スルコトヲ要スルモノトス (同上)  
六 民法前ノ絶家ト相續人ノ選定(第二續民法一二八六頁)  
七 民法前ノ絶家ト遺留財産ノ歸屬(第二續民法九八七頁)

### 民事訴訟費用法

(明治二十三年法律第六十四號)

第一條 民事訴訟法ノ規定ニ於ケル訴訟費用ハ以下數條ノ規定ニ從ヒ之ヲ算定ス

#### ◎民事訴訟費用法ノ精神

訴訟費用ハ必要ニシテ且現ニ費シタルモノナルヲ要スルハ訴訟費用法ノ精神ナリ(大審二八年民一二七頁)

#### ◎敗訴ノ當事者ト費用賠償ノ範圍

民事訴訟ニ於テ敗訴セル當事者ノ一方カ其ノ訴訟ニ關シ相手方

ノ要シタル費用ノ賠償ヲ爲スコトヲ要スル範圍ハ民事訴訟法第七十二條及民事訴訟費用法ノ規定ニ從ヒ相當ナル權利ノ伸張又ハ權利防禦ニ必要ナリシモノト認メラルモノニ限ルモノニシテ其ノ以外ニ於テハ縱令其ノ訴訟カ當事者一方ノ不法行為ヲ原因トシテ提起セラレタル場合ニ於テモ之ヲ賠償ノ責ニ任スルコトヲ要セサルモノト解スヘキモノナルト共ニ民事訴訟法ハ當事者自ラ訴訟ヲ爲スヘキコトヲ本則トシ辯護士ヲシテ訴訟ヲ爲サシムルコトヲ本則トスルモノニ非サルカ故ニ特別ノ事情ナキ限リ當事者カ辯護士ヲシテ訴訟ヲ爲サシムルコトハ其ノ權利伸張若クハ權利防禦ニ必要ナルモノト爲スヲ得サルモノトス從テ當事者カ其ノ訴訟ヲ委任シタル辯護士ニ支拂ヒタル手當金又ハ手数料若クハ謝金ノ如キモノハ相手方ノ不法行為ニ基ク損害トシテ之カ賠償ヲ請求シ得サルモノト解スルヲ相當トス(長崎控昭和三年法二八三四號一一頁)

◎辯護士費用ノ賠償義務(民訴法五六頁)

◎數名ノ代理人ト訴訟費用(次條)

第九條 當事者ハ日當ハ出頭一度ニ付キ二圓以内ニ於テ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

#### ◎數名ノ代理人ト訴訟費用

一 當事者カ自ラ訴訟行為ヲ爲ササル場合ニ於テ訴訟代理人一名ヲ以テ訴訟行為ヲ爲サシムルト將又同時ニ數名ノ訴訟代理人ヲシテ訴訟行為ヲ爲サシムルトハ業ヨリ本人ノ自由ニ取捨シ得ルトコロナルモ偶同時ニ數名ノ訴訟代理人ヲ選任シ訴訟行為ヲ爲サシメタル爲一人ノ訴訟代理人ヲシテ訴訟行為ヲ爲サシメタル場合ニ比シ相手方(敗訴ノ場合)ノ負擔ヲ重カラシムヘキモノニアラサルコトハ當然ノ事理ナレハ左レハ訴訟代理人ノ期日出頭ニ因ル日當ハ縱令數名ノ訴訟代理人出頭シタル場合ト雖一名ノ訴訟代理人出頭ノ場合ト同様各一回毎ニ一人分ノ日當トシテ訴訟費用中ニ計上スヘキモノトス(大審昭和二年法二七四〇號一〇頁)  
二 辯護士兩名ノ出頭旅費ノ認容(民訴法五八頁)

第十條 證人ハ日當ハ出頭一度ニ付キ五十錢トス但滞在費ヲ給スル場合ニ於テハ此日當ヲ二十五錢トス

#### ◎拘引シタル證人ト旅費日當ノ支給

拘引セラレタル證人モ旅費日當ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得ルモ

ノトス(法曹會決議大正一五年四卷法曹會雜誌一二號九二頁)

第十一條 鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ出頭一度ニ付キ二圓乃至十圓ノ範圍内ニ於テ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル  
鑑定又ハ通辯ニ付キ多數ノ時間又ハ特別ノ技能若クハ費用ヲ要スルトキハ日當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給スルコトヲ得

#### ◎通譯書記兼通事ノ旅費日當

通譯書記ヲ所屬廳ニ於テ通事トシテ立會ハシメタルトキハ當然ノ職務ナレハ旅費日當ヲ支給セサルモ其以外ナルトキハ之ヲ支給スヘキモノトス(法曹會決議四三年法曹記事二〇卷八號)

第十二條 當事者證人鑑定人及通事ノ止宿料ハ一日五圓以内ニ於テ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

#### ◎止宿事實ノ認定

當事者ノ止宿料ハ一日五圓以内ニ於テ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依リ旅費ハ又鐵道ノ通スル地ニ在リテハ二等以下ノ汽車賃ニシテ裁判所ノ相當ト認ムル所ニ從ヒ之ヲ定ムヘキコトハ民事訴訟費用法第十二條第十三條ノ規定スル所ニシテ原裁判所カ本件相手方ニ對シ止宿料ヲ一日金五圓トシ旅費ヲ二等汽車賃ト爲スニ相當トシテ決定シタルハ右法條ニ準據シテ爲シタルモノニシテ右止宿料及二等汽車賃ヲ支給スルコトハ當院亦相當ト認ムルカ故ニ毫モ之ヲ不當ナリト爲スコトヲ得サルモノトス尙ホ抗告人ハ相手方ノ止宿料ハ現實宿泊シタルニ非サルヲ以テ假裝ノモノナリト主張スレトモ相手方住所地福島郡白河地方ヨリ訴訟用ノ爲メ原裁判所ニ出頭スルカ爲メニハ普通宿泊スルコトヲ要スルモノト認ムルヲ相當トスヘク現ニ宿泊セサルモノナルコトハ抗法人ノ疏明ニ依リテハ之ヲ首肯シ難キ所ナルニ依リ右主張ハ謂レナシ(東京控大正一三年法二二三三五號二二頁)

**第十三條** 當事者(中略)ノ旅費ハ鐵道又ハ汽船ヲ通スル水路ニアリテハ二等以下ノ汽車賃(中略)トス

**舊第十三條第二項** 通路兩線以上アルトキハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス

正一〇年法一九五七號一二頁

**第十四條** 刑事及ヒ裁判所書記檢證ノ爲メ實地檢査ヲ爲スニ付其ハ旅費及ヒ滞在費ハ證人ニ準ス

◎本條ニ所謂檢證ノ意義

民事訴訟費用法第十四條ニ所謂檢證トアル文字ハ限定的ノ意義ヲ有スルモノニ非スシテ例示的意義ニ解スヘキモノナリ蓋シ刑事及裁判所書記カ出張ヲ爲スハ檢證ノ爲メナルコト多キニ居ルヲ以テ代表的ニ此文字ヲ使用シタルモノトス故ニ證人鑑定人顧問ノミノ爲其所在又ハ係争現場ニ出張スル場合ニ於テハ同條ノ適用アルモノト解セサルヘカラス(法曹會決議大正五年法曹記事二六卷七號)

**第十五條** 本法ニ定メサル必要ノ費用ハ其實費ニ依ル

◎舊本條第二項ノ趣旨

民事訴訟費用法第十三條第二項ニ通路兩線以上アルトキハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定スル旨規定アルモ同條ハ訴訟代理人又ハ當事者等ニ住所地ヨリ受訴裁判所迄ノ通路兩線以上アルトキハ執レノ線ニ準據シテ其旅費ヲ算定ス可キヤノ疑ヲ避クル爲メ最近ノ通路ニヨリ之ヲ算定スヘキ旨ニシテ訴訟代理人及訴訟本人ノ受訴裁判所迄ノ各距離ヲ異ニスル場合ニ適用スヘキモノニ非ス(東京地大正五年法一一二八號二二頁)

◎辯護士ノ出廷旅費ト訴訟費用

一 辯護士甲カ廣島市ニ在住スル事實ハ本件記録ニ徴シ明カナレハ同代理人カ口頭辯論期日ニ出頭スル爲メ其ノ住所タル廣島市ヨリ裁判所々在地タル吳市ニ至ル間ノ三等汽車賃モ訴訟費用ナリトス(廣島地大正一三年法二二八二號二二頁)

二 辯護士ハ一應其事務所ニ在ルモノト推定スヘク廣瀨辯護士ハ原裁判所所在地タル七尾町ニ其事務所ヲ有スルモノナルカ故ニ特ニ同裁判所ノ口頭辯論ニ出頭ノ爲メ右事務所所在地以外ノ地ヨリ往復シタルコト疎明アラサル限り之カ旅費ヲ支給スヘキモノニアラス然ルニ原決定ヲ以テ同辯護士カ金澤市ヨリ七尾町マテ往復シタル事實ヲ認ムヘキ疎明ヲ缺タスシテ前記旅費ヲ抗告人ノ分擔スヘキ訴訟費用中ニ計上シタルハ不當トス(金澤地大

◎本條ノ意義

民事訴訟費用法第十五條ニ「本法ニ定メサル必要ノ費用ハ其實費ニ依ル」トアルハ同法ニ全ク定メサル所ノ必要ノ費用ヲ指シタルモノトス(大審三一年民一一卷五四頁)

民事訴訟用印紙法

(明治二十三年法律第六十五號)

**第一條** 民事訴訟ノ書類ニハ以下數條ノ規定ニ從ヒ其正本ニ印紙ヲ貼用スヘシ但裁判所書記ニ口述シテ調書ヲ作ラシメタルトキハ其調書ニ印紙ヲ貼用ス可シ

◎印紙貼用適否ノ調査權

訴訟用印紙貼用ノ適否ヲ調査スルノ職權ハ裁判長ニ屬セスシテ裁判所ニ屬スルモノトス(大審三二年民四卷九一頁)

◎檢事ノ人事訴訟ト訴訟印紙(民訴法六四二頁)

第二條 財産權上ノ請求ニ係ル第一審ノ訴狀ニハ訴訟物ノ價額ニ應

シ左ノ區別ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ

訴訟物ノ價額金五圓マテ 二十五錢

同 十圓マテ 四十錢

同 二十圓マテ 八十錢

同 五十圓マテ 一圓八十錢

同 七十五圓マテ 二圓五十錢

同 百圓マテ 三圓五十錢

同 二百五十圓マテ 七圓

同 五百圓マテ 十二圓

同 七百五十圓マテ 十五圓

同 千圓マテ 十八圓

同 二千五百圓マテ 二十五圓

同 五千圓マテ 三十圓

同 五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ三圓ヲ加フ

訴訟物ノ價額ヲ算定スルニハ民事訴訟法第三條乃至第六條ノ規定

ニ從フ

◎登記請求權ノ性質及價額

登記請求事件ノ訴訟物カ登記請求權ナルコト上告人所論ノ如ク  
ナレトモ其權利ハ財産權ナルヲ以テ民事訴訟用印紙法第三條ノ  
規定ニ依ルヘキモノニアラス蓋シ登記ノ申請ハ國家行動ヲ要求  
スル行爲ニシテ公法上ノ行爲ナリト雖モ登記權利者カ登記義務  
者ニ對シ登記ノ申請ニ協力スルコトヲ請求スルノ權利ハ私人ニ  
對スル權利ナレハ私法上ノ行爲ヲ要求スルモノニシテ且ツ其權  
利ハ金錢ニ見積ルコトヲ得ルモノナレハナリ而シテ登記請求權  
ノ價値アルハ不動産ヲ目的トスルカ爲メナルヲ以テ其價額ハ目  
的タル不動産ノ價額ニ準據スヘキモノナリト解スルチ相當トス  
故ニ原院カ本件訴訟物ノ價額ヲ其目的タル不動産ノ價額ニ據リ  
テ五千圓ト算定シタルハ相當ナリ(大審大正八年法一六二五號  
一九頁)

◎訴訟物ノ價額ニ關スル諸問 (民法一頁、同三頁、同  
六四一頁)

第三條 財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ニ付テハ其訴訟物ノ價額百圓

ト看做シ印紙ヲ貼用ス可シ  
財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ト其訴訟トニ由テ生スル財産權上ノ  
訴訟ト併合スルトキハ其多額ナル一方ノ訴訟物ノ價額ニ依リ印紙  
ヲ貼用ス可シ

印紙ヲ貼用ス可シ

◎本條ニ關スル諸問

- ◎附帶控訴ト訴訟印紙 (民法三三三九頁)
- ◎不足印紙ト貼用時期 (民法三三七頁)
- ◎印紙不貼用ト其ノ裁判 (民法三三七頁)

◎一審ノ併合訴訟ト控訴ノ印紙

當初各別ニ相當印紙ヲ貼用シテ提起シタル二箇ノ訴訟ト雖モ第  
一審裁判所カ審理ノ便宜上之ヲ併合シ共同訴訟人ト同一ノ手續  
ニ依リ判決シ再ヒ之ヲ分ツノ必要ナキトキハ其控訴ニ於ケル訴  
訟印紙ハ全部ノ金額ニ相應スル額ヲ貼用スルチ相當ナリトス  
(大審二五年民五卷一三頁)

◎控訴審ノ申立ノ擴張

第一審ニ於テ請求金額中四萬九千五百圓ニ關スル請求ヲ却下シ  
タルニ對シ附帶控訴ヲ爲シ訴訟ノ進行中申立テ擴張シテ請求額  
一萬九千八百六十圓五十錢ヲ增加シタルトキハ控訴狀ニ貼用ス  
ヘキ印紙ハ四萬九千五百圓ト右增加額トヲ通算シタル額ニ從ヒ

◎非財産權上ノ請求ト訴訟印紙

- 一 家督相續回復ノ訴ハ財産權上ノ請求ニ非サルカ故ニ其訴訟物  
ノ價額ヲ百圓ト看做スヘシ(大阪地四五年法八二三號二三頁)
- 二 故ナク人ノ家屋ニ入りタル者ニ對シテ退去ヲ要求スル訴訟ハ  
財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ナリ(大審四一年民二五六頁)
- 三 婿養子縁組解除ト離婚ノ請求ハ二箇獨立ノ請求ナルヲ以テ之  
ニ相當スル訴訟印紙ヲ貼用セサルヘカラス(大審二八年民五卷  
七六頁)
- 四 財産權上ニ非サル訴訟ニ於テ其請求二箇以上ニ涉ルトキハ法  
律上合算スヘキ價格存セサルニ依リ單ニ其訴訟物ノ價格ヲ百圓  
ト看做シ之ニ相當スル印紙ヲ貼用スレハ足レリ(大審三〇年民  
六卷五三頁)

第五條 控訴狀ニハ第二條ノ規定ニ從ヒ其半額上告狀ニハ其金額ノ

定ムヘキモノトス (大審大正八年法一六〇六號一八頁)

第六條ノ二 左ニ掲グル申立又ハ申請ニシテ訴訟物ノ價額又ハ請求價額二十圓以下ナルトキハ二十錢ノ印紙ヲ二十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ四十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ (左記略)

◎本條ノ申立又ハ申請ノ意義

民事訴訟用印紙法ニ所謂申立又ハ申請ハ民事訴訟法ノ申立又ハ申請ト同シク裁判所ニ對シ特定ノ行動ヲ要求スル意思表示ヲ指スモノナルヲ以テ陳述ハ之ヲ申立又ハ申請ナリトスルヲ得ス (大審大正二年民一七六頁)

◎假執行ニ關スル申立ト印紙

一 假執行ノ宣言ヲ求ムル申立ハ判決ヲ受クヘキ事項ノ申立ト獨立シテ爲シタルトキハ特ニ之ヲ審査スルノ手續ヲ生スルヲ以テ本法第六條ノ二ニ依リ當事者ヲシテ相當印紙ヲ貼用セシムヘキモノナレトモ判決ヲ受クヘキ事項ト同時ニ其申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ審理上別段ノ手續ヲ要セサルヲ以テ特ニ印紙ヲ貼用

◎數個ノ證據調ノ申立ニ付テノ印紙額

一 民事訴訟用印紙法ニ證據方法ノ異ナル毎ニ五十錢ノ印紙ヲ貼用スヘキ旨ヲ規定シタル所ナキヲ以テ二箇以上ノ證據調ヲ爲スヘキ場合ナルモ同時ニ同一ノ書面ヲ以テ其申立ヲ爲ストキハ五十錢ノ印紙ヲ貼用スレハ可ナリ (大審三四年民九卷五六頁)  
二 民事訴訟用印紙法第六條第三號ニハ單ニ證據調ノ申立トアルノミニテ其申立ニハ同時ニ數箇ノ證據方法ヲ包含スルト否トチ區別スヘキ旨ノ規定ナキヲ以テ同一ノ申立ニ數箇ノ證據方法ヲ包含スルトキト雖モ五十錢ノ收入印紙ヲ貼用スレハ適法ナルモノトス (大審三五年民五卷七七頁)

◎闕席判決又ハ故障棄却ノ申立ト印紙

法廷ニ出頭シタル一方ヲ相手方闕席ノ儘判決アリタシトノ申立及ヒ故障棄却ノ申立ノ如キハ口頭辯論ノ一部ニ屬シ書面ヲ要スル限ニ在ラス從テ印紙ノ貼用ヲ命スヘキモノニ非ス (大審二七年民八二頁)

◎假處分ニ對スル異議申立ノ性質

假處分ニ對スル異議ノ申立ハ訴ノ性質ヲ有スルモノニ非ス故ニ右申立ニ代ヘテ損害賠償ヲ請求スルハ前訴ヲ變シテ損害賠償ヲ

セシムヘキモノニ非ス (大審大正八年法一六三五號一七頁)  
二 單ニ特定ノ物件ニ付執行ヲ許ササル旨ノ宣言ノミヲ求ムルモノナルコト明瞭ナル以上訴訟印紙ヲ貼用スルニ當リ一般の執行不許ノ宣言ヲ求ムル場合ノ如ク請求額全部ヲ標準トセス差押物件ノ價額ニ依ルハ毫モ不法ニアラス (東京控大正元年法八三八號二四頁)

第六條ノ三 左ニ掲グル申立又ハ申請ニシテ訴訟物ノ價額又ハ請求價額二十圓以下ナル場合ニ於テハ五十錢ノ印紙ヲ二十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ一圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ

- 一 抗告
- 二 故障
- 三 證據調ノ申立
- 四 假差押又ハ假處分ノ申請
- 五 判決送達ノ申立
- 六 執行力アル正本ヲ求ムル申立但ニ通以上ヲ求ムルトキハ一通毎ニ印紙ヲ貼用スヘシ

請求スルモノニ非スシテ新ナル訴ナリトス從テ民事訴訟用印紙法ノ定ムル所ニ從ヒ相當ノ印紙ヲ貼用スヘキモノトス (大審四四年民二四七頁)

◎在廷證人ノ訊問申請ト印紙

證人ニ關シテハ在廷證人トシテ訊問ヲ求メタルモノニシテ之ニ付キ特ニ裁判ヲ請求シタルモノニアラサルトキハ民事訴訟用印紙法ニ從ヒ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セサルモノトス (大審大正五年評論五卷諸法三八九頁)

第七條 和解及督促手續ニ付民事訴訟法第三百八十一條第三項及第三百九十條ノ規定ニ依リ訴カ區裁判所ニ繫屬スルトキハ第二條第三條ノ規定ニ從ヒ印紙ヲ貼用スヘシ  
民事訴訟法第三百九十條ノ規定ニ依リ訴カ區裁判所ニ繫屬スル場合又ハ第三百九十一條第二項ノ規定ニ依リ地方裁判所ニ訴ヲ起ス場合ニ於テハ第六條ニ依リ貼用シタル印紙ノ額ハ訴訟ニ付キ貼用ス可キ印紙ノ額ニ之ヲ通算ス可シ

◎執行命令ニ對スル故障申立ト印紙

執行命令ニ對シ故障ヲ申立タルトキモ民事訴訟用印紙法ニ依リ印紙ヲ貼用セシムヘキモノトス(法曹會決議四三年法曹記事二二卷二號)

第十條 答辯書其他前數條ニ掲ケサル申立又ハ申請ニシテ訴訟物ノ價額又ハ請求ノ價額二十圓以下ナル場合ニ於テハ二十錢ノ印紙ヲ二十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ二十五錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

◎調停調書正本送達申請ト貼用印紙

調停調書正本送達申請ハ民事訴訟法ニ於ケル和解調書ト同一ニシテ民事訴訟法外ニ民事訴訟用印紙法ヲ準用シ價額二十圓以下ハ二十錢二十圓以上ハ二十五錢トス(法曹會決議昭和二年雜誌五卷一二號一一六頁)

第十一條 民事訴訟法第九十七條第一號ノ場合ノ外此法律ニ從ヒ印

下級審上級審ノ區別ヲ立テス便チ下級審ノ印紙不足ヲ上級審ニ於テ之ニ加貼セシメ得ルモノトス既ニ然ルトキハ下級審ノ判決ヲ不當ト認メタルモノト云フヲ得ス(大審二七年民二二〇頁)

◎本條但書ノ解釋

本條但書ハ裁判長力法定印紙ヲ貼用セサル民事訴訟書類ノ無效ヲ看過シテ之ヲ受理シタル場合ニ裁判所力相當ノ印紙ヲ貼用セシメテ之ヲ有效ナラシムルコトヲ得ル旨ヲ規定シタルモノトス(東京地大正九年評論九卷諸法一四〇頁)

◎印紙不足ノ書類ト棄却

訴訟書類ニ貼用ノ訴訟印紙不足ナルトキハ加貼ヲ命シ遵ハサルトキハ棄却スヘキモ直ニ棄却スルハ不法ナリ(大審二八年民二卷五六頁)

◎上級審ニ於ケル不足印紙補充ノ效果

一 下級審ニ於テ民事訴訟用印紙ヲ貼用スヘキ書面ニ之ヲ貼用セス若クハ其貼用不足ナリシトキト雖モ上級審ニ至リ之ヲ貼用シテ其欠缺ヲ補充スレハ週テ該書面ヲ有效ナラシムルコトヲ得ヘキモノトス(大審三五年民一〇卷一八頁)  
二 下級裁判所ニ於テ訴訟印紙ノ貼用不足アルトキハ上級審ニ至

紙ヲ貼用セサル民事訴訟ノ書類ハ其效ナキモノトス但印紙ヲ貼用セス又ハ貼用スルモ不足アルトキハ裁判所ハ相當印紙ヲ貼用セシメ之ヲ有效ナラシムルヲ得

◎本條ニ所謂裁判所ノ意義

一 民事訴訟用印紙法第十一條ニ所謂裁判所トハ單ニ狹義ノ裁判所ノミチ指スモノニ非ス相當印紙貼用ノ存否ニ依リ民事訴訟上書類ノ效力ヲ判斷スヘキ職權アル場合ハ裁判長ノ如キモ其内ニ包含スルモノトス(大審大正三年民五一七頁)  
二 民事訴訟用印紙法第十一條ニ所謂裁判所トハ單ニ狹義ノ裁判所ノミチ指スモノニアラス相當印紙貼用ノ存否ニ依リ民事訴訟上書類ノ效力ヲ判斷ス可キ職權アル場合ハ裁判長ノ如キモ其内ニ包含スルモノト解スルヲ相當トス(大審大正三年法九五一號二二八頁)  
三 訴訟書類ニ印紙ノ貼用不足アルトキハ裁判所ハ何レノ審級ニ於テモ民事訴訟用印紙法ニ依リ相當印紙ヲ貼用セシメ之ヲ有效ナラシムルコトヲ得(大審二八年民三卷一六頁)  
四 訴狀ニ印紙ノ貼用不足アル場合ニ之ヲ加貼セシムルハ必ス各審級ニ限ルモノニ非スシテ何レノ審級ニ於テモ之ヲ爲スヲ得ヘキモノナリ故ニ印紙法第十一條但書ニ單ニ裁判所トノミアリテ

リ之ヲ補充追完スルモ違法ニ非ス(大審三八年民一五一四頁)  
三 訴訟ノ權利拘束中ハ下級審ニ於ケル印紙ノ不足ヲ上級審ニ至リ之ヲ貼用セシメ以テ有效ナラシムルモ不法ニ非ス(大審二八年民四七二頁)

四 民事訴訟ノ書類ニ貼用シタル印紙不足アルトキハ裁判所ハ相當ノ印紙ヲ貼用セシメ之ヲ有效ナラシムルヲ得ルハ民事訴訟用印紙法第十一條ノ規定スル所ニシテ之ヲ追貼セシムル裁判所ハ當該訴訟書類ノ提出セラレタル裁判所ト限ラサルカ故ニ下級裁判所ノ訴訟書類ニ貼用シタル印紙不足アル場合ト雖モ上級裁判所ニ於テ印紙ノ加貼ヲ命シ其書類ヲ有效ナラシムルヲ得ヘシ是レ當院力屢々列示シタル所ナリ(明治二十八年(オ)第五百三十三號同年十月二十八日本院判決明治三十五年(オ)第二百一號同年十一月五日本院判決)然レハ民事訴訟用印紙法ニ從ヒ印紙ヲ貼用スヘキ訴訟書類ナル以上ハ其種類ノ如何チ間ハス苟モ訴訟ノ繫屬中ナルニ於テハ何時ニテモ印紙ヲ追貼スルコトヲ得ヘク法定ノ一定期間内ニ提出スルヲ要スル控訴狀ノ如キ印紙ノ不足アル場合ハ其追貼ハ必スシモ期間内ニ於テスルヲ要セス期間後ニ追貼スルモ週テ控訴狀ヲ有效ナラシメ隨テ控訴ヲ適法ナラシムヘキモノトス控訴期間後ニハ印紙ヲ追貼セシメテ控訴ヲ適法ナラシムルヲ得ストノ上告人ノ議論ハ何時ニテモ追貼スルコトヲ許シタル法律ノ精神ヲ没却スルモノニシテ採ルニ足ラス但シ印紙ヲ追貼スル迄ハ控訴狀ハ無効ナルヲ以ツテ控訴裁判



所ハ其判決ヲ爲ス迄ニ印紙ノ不足カ追補セラレサルニ於テハ控訴ヲ不適法トシテ棄却セサル可ラス之ヲ棄却セスシテ本案ノ裁判ヲ爲シタルトキハ固ヨリ不法ニシテ無効ナリト雖モ其後訴訟ノ繫屬中ニ印紙ヲ加貼スルニ於テハ控訴ヲ適法ナラシムルト共ニ判決ヲシテ適法ナラシムヘシ上告人ハ其控訴狀ニ貼用スヘキ印紙ノ不足ヲ當審ニ於テ追補シタルハ印紙ノ不足セルニ拘ラス控訴ヲ不適法トシテ棄却セスシテ本案ノ裁判ヲ爲シタル原判決ノ不法ハ既ニ除却セラレタルヲ以テ之ヲ不法ナリト云フヲ得ス(大審大正六年法一三七四號三二頁)

五 原告カ本訴ヲ百圓以上ノモノナリト認メタル以上ハ民事訴訟用印紙法第十一條但書ノ規定ニ依リ訴狀ヲ有效ナラシムル爲メ相當印紙ヲ加貼セシメ若シ之ヲ肯セサルニ於テハ第一審裁判ヲ無効ナラシメ且控訴ヲ棄却スヘキモノナリ(大審二八年民六八頁)

六 訴訟用印紙不足ノ控訴狀ヲ受ケタルハ不法ヲ免レスト雖モ民事訴訟用印紙法第十一條後半ニ依リ其不足ヲ加貼セシメ之ヲ有效ナラシムルコトヲ得(大審二七年民二四八頁)

◎無印紙故障申立却下ノ效力

民事訴訟用印紙法第一一條ニヨレハ法定ノ印紙ヲ貼用セサル故障ノ申立ハ無効ニシテ原審判事カ其無効ヲ理由トシ故障カ法律上ノ法式ニ適セサルモノトシテ之ヲ却下シタル以上最早ヤ右法

一條ニ依リ無効タルヘキモノニ非ス(大審大正一二年法二二二〇號一七頁)

◎救助申請ノ不許ト其ノ訴訟書類

一 訴訟救助ノ申請ニシテ許容セラレサルトキハ之ト共ニ提出セル無印紙ノ訴訟書類ハ無効ナルカ故ニ民事訴訟用印紙法第十一條ノ注意ヲ爲スヲ要セス其書類ヲ却下スヘキモノトス(大審三〇年民三卷一〇一頁)

二 上告人カ訴訟上ノ救助ヲ許可セラレタルニ非スシテ訴訟物價額相當ノ印紙ヲ上告狀ニ貼附セス又上告豫納金ヲ預入セザルトキハ其上告ハ不適法ナリ(大審四三年民八八一頁)

◎訴訟印紙ノ不貼用ト其ノ影響

辯論續行期日指定ノ申請ニハ相當印紙ノ貼用ヲ必要トスルカ故ニ貼用ナキ申請ニヨリ續行期日指定スルハ違法ナリト雖モ之レカ爲メ續行期日ニ於ケル辯論調書ヲ無効ナリト云フヘカラス從テ之ニ仍テ爲シタル裁判亦之ヲ違法ナリト云フヲ得ス(大審昭和二年法二六八二號一四頁)

無盡業法

諸法令下 (六) 無盡業法

一條

條但書ノ規定ヲ適用スヘキ餘地ナキカ故ニ假令後ニ至リ相當ノ印紙ヲ貼用スルモ之レカ爲メ抗告審ニ於テ右却下ノ命令ヲ廢棄スルニ由ナキモノトス(東京地大正九年評議九卷諸法一三九頁)

◎訴訟印紙ヲ貼用セサル抗告

抗告狀ニ訴訟印紙ヲ貼用セサル場合ニ於テハ之カ貼用ヲ命シ之ニ遵ハサルトキハ不適法ノ抗告トシテ之ヲ棄却スヘキモノナリト雖モ直ニ之ヲ棄却スルコトヲ得サルモノトス(大審大正三年民六四九頁)

◎督促手續ニ基ク訴狀ト印紙

本件ハ被上告銀行ニ於テ上告人外二名ヲ共同債務者トシテ佐世保區裁判所ニ支拂命令ヲ申請シ之ニ基キ發セラレタル同命令ニ對シ上告人ヨリ異議申立テ爲シタルニ付被上告銀行ハ長崎地方裁判所佐世保支部ニ訴ヲ起シタルモノニシテ右督促手續ニ付テハ上告人以外ノ二名ニ對シテノミ佐世保區裁判所ニ管轄權アリ上告人ニ對シテハ管轄權ナシトスルモ之カ爲ニ該支拂命令申請ノ無効ヲ來スモノニ非サレハ被上告銀行カ上告人ノ異議申立ニ因リ上告人ニ對シ管轄權ヲ有スル佐世保支部ニ訴ヲ起シタル以上ハ其訴狀ノ貼用印紙額ニ右支拂命令ノ申請書貼用シタル印紙ノ額ヲ通算スルコトヲ妨ケスシテ本件訴狀ハ訴訟用印紙法第十

(大正四年法律第二十四號)

第一條 本法ニ於テ無盡ト稱スルハ一定ノ口數ト給付金額トヲ定期ニ掛金ヲ拂込マシメ一口毎ニ抽籤入札其ノ他類似ノ方法ニ依リ掛金者ニ對シ金錢ノ給付ヲ爲スヲ謂フ無盡類似ノ方法ニ依リ金錢又ハ有價證券ノ給付ヲ爲スモノ亦同シ但シ賭博又ハ當籤ニ類似スルモノハ此ノ限ニ在ラス

◎無盡業法第一條ノ趣旨

無盡業法第一條ノ規定ハ無盡業者ノ目的如何ヲ區別セザルカ故ニ苟モ抽籤又ハ入札ノ方法ニヨリ金錢又ハ有價證券ヲ給付スル以上ハ其目的カ資金ノ融通ニ在ルト否ト問ハス總テ之ヲ包含スルモノト解スルヲ相當トス(大審大正五年刑一七〇八頁)

◎無盡業法ノ無盡ノ意義

◎無盡營業ノ目的範圍

一 無盡業法ニ所謂無盡トハ一定ノ口數ト給付金額トヲ定期ニ掛金ヲ拂込マシメ一口毎ニ抽籤入札其他類似ノ方法ニ依リ掛

金者ニ對シ金錢ノ給付ヲ爲スノ行爲ヲ指稱スルモノナルヲ以テ同法ニ基キ無盡業ノ目的トスル營業者カ一定ノ口數ヲ以テ一組トスル其組員ノ多數ノ者ニ對シ定期ニ拂込ムヘキ掛金ヲ全部一時ニ拂込マシメ一定ノ時期ニ抽籤又ハ入札等ノ方法ニ依ラシテ各一定ノ金額ヲ給付スルコトヲ約スルカ如キハ即チ無盡業ノ性質ニ反スルモノナルニヨリ其營業ノ目的ノ範圍外ノ行爲ニ屬スルコトハ論テ談タスト雖モ之ト異リ無盡業者カ一組ノ會員中各一口ヲ有スル二人ノ者ニ對シ各定期ニ拂込ムヘキ掛金ヲ全部一時ニ拂込マシメ其内一人ニ對シテハ滿會ノトキ他ノ一人ニ對シテハ其一回前ノ開會ノトキ抽籤又ハ入札等ノ方法ニ依ラシテ各一定ノ金額ヲ給付スルコトヲ約スル場合ノ如キハ毫モ無盡業ノ性質ニ反スルコトナキニヨリ之ヲ以テ無盡業者カ負擔スヘキモノト全ク別箇ノ債務ヲ負擔スルモノトナシ其營業ノ目的ノ範圍外ニ出テタル行爲ナリト爲スヘカラス(大審大正一〇年民一八七頁)

二 蓋シ右ノ如キ場合ニ其二人ノ會員カ定期ニ拂込ムヘキ掛金ヲ全部一時ニ拂込マシメ即チ其會員カ掛金ノ拂込ニ付キ各自己ノ有スル期限ノ利益ヲ拋棄スルモノニ外ナラサルモノニシテ其法律關係ハ定期ニ拂込マシメタル場合ト毫モ異ルコトナキニミナラス一人ハ滿會他ノ一人ハ其一回前ノ開會以前ニ於ケル抽籤又ハ入札等ノ方法ニヨリ或金額ヲ營業者ヨリ給付ヲ受ケル權利ヲ拋棄スルコトヲ豫メ約スル如キハ恰モ其會員カ其期間内開會

毎ニ抽籤又ハ入札ノ權利ヲ實行セシテ經過シ來リタルト何等異ルコトナキニヨリ該契約ヲ以テ無盡業ノ性質ニ反スルモノト謂フヲ得サルハ勿論ナリ又無盡業約ニ於テハ開會ヲ重ヌルニ從ヒ未當籤又ハ未落札ノ口數ヲ減少スルモノナルヲ以テ前示ノ如キ場合ニ於テハ滿會ノトキハ勿論其一回前ノ開會ノトキニモ未當籤又ハ未落札ノ口數ハ孰レモ一口タルニ過キス從テ斯ノ如キ場合ニ抽籤又ハ入札等ノ方法ニヨラスシテ各一定ノ金額ヲ給付スヘキコトヲ豫メ約シタルハトテ是亦毫モ無盡業ノ性質ニ反スルモノニ非サレハナリ(同上)

◎商品切手ト無盡業法ノ有價證券(續商法八八五頁)

第二條 無盡業ノ營業ハ主務大臣ノ免許ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

營業トシテ無盡業ノ管理ヲ爲スハ之ヲ無盡業ト看做ス

◎會社ノ成立ト當該官廳ノ認可(第二續商法一四二六頁)

◎金融事業ヲ營ム會社ノ性質(諸法令上卷三一〇頁)

◎無盡業法ト不法原因ノ給付(續民法一二四九ノ八三)

第二十三條 主務大臣ノ免許ヲ受ケスシテ無盡業ヲ營ミタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

◎無盡業法ト法人ノ犯罪能力

法人ハ犯罪能力ヲ有セサルヲ原則トシ法律ノ明文ヲ以テ特ニ之ヲ犯罪ノ主體ト爲シタル場合ニ限リ刑事上ノ責任ヲ負フヘキコトハ當院ノ判例トシテ認ムル所ナリ而シテ法人處罰ニ關スル法規ヲ按ズルニ其規定ノ形式ニ拘ラズト雖モ法人ニ對シ罰則ヲ適用セル旨ヲ明ニ定メタル外其處罰ニ關シ被告人タル者ヲ指定シ之ニ依リテ法人處罰ノ趣旨ヲ明カニセリ雖モ無盡業法ヲ按ズルニ同法ハ前示ノ如キ法人處罰ニ關スル規定ヲ設ケサルノミナラス同法第二十四條以下ニ於テモ無盡業ヲ營ム會社ノ業務ニ關シ無盡業法ニ違反スル行爲アル場合ニ於テ總テ會社ノ業務執行社員取締役監督等ヲ處罰スル旨ヲ明カニセルニ由リテ之ヲ觀レハ同法ハ法人ヲ處罰スル趣旨ニ非スト解スルヲ妥當トス既ニ法人タル無盡業者ノ犯罪能力ヲ認メサル以上ハ現實法人ノ事業ニ關シ同法第二十三條違反ノ行爲ヲ爲シタル者ヲ實行正犯トシシ處罰スヘキモノトス原判示ニ依レハ被告ハ判示會社ノ業務執行社員トシテ無盡業法第三十一條第二項第二十三條違反ノ行爲

◎無免許無盡業者ノ掛金横領ノ疑律

利法第二百五十三條ニ所謂業務トハ法令若クハ契約慣習等ニ依リ適法ナル行爲ヲ反覆スル場合ハ勿論其他本質上違法性ヲ帶ヒサル行爲ノ反覆ヲ指稱スルモノト解スヘク而シテ刑法ニ規定セル各犯罪行爲ノ如ク其行爲自體ヲ禁遏スルコトカ法ノ目的タル場合ニ於テハ之ヲ反覆スル情態ヲ目シテ業務ト謂フヲ得サルハ勿論ナリト雖モ無盡業法ノ如ク或一定ノ行爲ヲ反覆スル者ニ對スル行政上ノ取締ノ必要アルカ爲メ主務大臣ノ免許ヲ受ケルコトヲ要スルモノトス其手續ヲ經スシテ之ヲ反覆スル者ヲ犯罪トシテ所謂スル場合ニ於テハ違法性ハ單ニ其無免許ノ點ニ存シ無盡業法ハ法ノ禁遏セントスル所ニ非サルヲ以テ無盡業行爲自體ノ本質ハ違法性ヲ帶フルモノト謂フヲ得ス從テ無免許ノ儘行ハルル無盡業ヲ指シテ之レヲ業務ト謂フヲ妨ケサルモノトス而シテ無免許ノ儘無盡業ヲ營ム罪ト其無盡業ヲ營メル結果掛金者ヨリ拂込マシメタル掛金ノ占有中擅ニ之ヲ横領スル罪トハ其害スル利益ハ全然別異ナルヲ以テ無免許無盡業ヲ營メル罪責ヲ負フヲ理由トシテ叙上業務横領ノ罪責ヲ免脱スルヲ得サルヤ勿論ナリトス(大審大正九年刑三〇九頁)

第三十一條 本法施行ノ際現ニ無盡業ヲ營ム者ハ本法施行前ニ爲シタル無盡契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ニ關スル業務ニ限リ之ヲ繼續スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ第十五條、第十六條、第十八條、第二十一條乃至第二十四條及第二十八條ノ規定ヲ準用ス

◎本條ノ適用範圍

無盡業法施行ノ際現ニ無盡業ヲ營ム者ハ同法施行前ニ爲シタル無盡契約ニ關スル業務ニ限リ主務大臣ノ免許ヲ受クルコトナク其契約ノ完了ニ至ル迄繼續シテ之ヲ經營スルヲ得ヘキモ同法施行後新ニ無盡契約ヲ爲スニハ必ス前示ノ免許ヲ受クルコトヲ要シ之ニ違背シタル者ハ同法第二十三條所定ノ罰金刑ニ處セラレヘキコトハ同法第三十一條ノ解釋上明カナル所ナリ故ニ上記無盡業者カ同法施行後新ニ無盡業ヲ開始シテ無盡契約ヲ爲シ又ハ同法施行前既ニ開始シタル無盡業ニ關シ同法施行後新ニ加入者ヲ募集シ之ト無盡契約ヲ爲スカ如キハ孰レモ同法施行後新ニ無盡契約ヲ爲スモノニ該リ上示ノ繼續シテ經營シ得ヘキ業務ノ範圍内ニ屬セサルヲ以テ之ヲ爲スニハ必ス主務大臣ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス

トヲ要ス(大審大正五年利一五二二頁)

無線電信法

(大正四年法律第二十六號)

第十六條 許可ナクシテ無線電信、無線電話ヲ施設シ若ハ許可ナクシテ施設シタル無線電信、無線電話ヲ使用シタル者又ハ許可ヲ取消サレタル後私設ノ無線電信、無線電話ヲ使用シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ無線電信又ハ無線電話ヲ他人ノ用ニ供シ因テ金錢物品ヲ取得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徴ス

◎無線電話ノ盜聴ト其ノ處分

時事音樂其ノ他ノ放送事項ノ聽取ヲ目的トスル私設無線電話ヲ許可ナクシテ施設シ又ハ使用シタルトキハ無線電信法第十六條ニ依リ之ヲ處罰スルモノトス(大審大正一五年利六七頁)

明治六年第二百四十九號  
布告

(社寺所有什物祠堂金並田畑山林  
寄附金高文書類處分心得方)

神社佛寺共古來所持ノ什物衆庶寄附ノ諸器竝ニ祠堂金等ノ類ハ神官僧侶ハ勿論氏子檀家ノモノタリトモ自儘ニ處分可致筋無之候條若シ不得巳儀有之候ハハ委詳具狀ヲ以テ教部省へ申立可ク候此旨  
布告候事

◎本布告ノ法意及適用

一 明治六年布告第二百四十九號同九年教部省達第三號及ヒ同十年布告第四十三號ハ社寺カ其所有地所等ヲ賣却其他ノ處分ヲ爲スニハ一面監督官廳ノ許可ヲ經サル可ラサルノミナラス一面氏子檀家總代ノ同意ヲ要スヘキ旨ヲ規定シタルモノトス(名古屋

諸法令下 (九) 明治六年第二百四十九號布告

控五年法一一九五號二五頁)

- 二 地方長官ノ指定セサル神社ニ對シテハ明治六年太政官布告第二百四十九號及ヒ明治九年教部省達第三號等ハ其適用アルモノト解スルチ相當トス(大審大正七年民一九六〇頁)
- 三 明治六年太政官布告第二百四十九號及ヒ明治九年教部省達第三號ハ孰モ神社財產ノ種類ヲ限定セス例示ノ二掲クルモノナレハ縱令法文中ニ指摘セラレサルモ其例示スル所ニ準スヘキ財產ハ總テ其適用ヲ受クヘキモノト解スルチ相當トス(大審七年民一九六〇頁)
- 四 明治六年第二百四十九號布告及ヒ明治九年教部省第三號ニ所謂「處分」中ニハ賣買讓渡交換拋棄等ノ如キ行爲ノミナラス抵當權設定ノ如キ行爲モ包含スルモノトス(大審大正二年民三八二頁)
- 五 地所ニ地上權ヲ設定スルトキハ所有者ハ之カ爲メニ其地所ヲ使用スルコト能ハス恰モ所有權ノ一部ヲ讓渡シ之ヲ喪失セシメタルト一般ナルチ以テ此行爲モ亦明治六年布告第二百四十九號同九年教部省達第三號ノ所謂處分ニ包含スルモノトス(大審三八八年民一二二六頁、同旨大審大正九年民六三四頁)
- 六 賣買ノ一方的豫約ノ債務者ハ其豫約ニ確的ニ羈束セラレ相手方ニ於テ賣買完結ノ意思ヲ表示スル時ハ債務者ハ其土地ノ賣買ヲ成立セシムル義務ヲ有シ而カモ債務者ハ何等ノ行爲ヲ要セス

相手方ノ賣買ハ完結ノ意思表示ニ依リ直チニ賣買ハ成立スルモノナルヲ以テ物ノ處分ナリト謂フヘク社寺カ其所有地ニ對シ賣買豫約ヲ爲スニ所轄官廳ノ許可ヲ受ケサル場合ハ其契約ハ無効ノモノトス(東京地大正二年法八八五號二二頁)

七 社寺ニ於テ永久保存スヘキ物件ハ勿論荷クモ社寺ノ基本財産ヲ構成スヘキモノタル以上ハ其物件ナルト將又債權ナルトヲ問フコトナク等シク該規定ノ下ニ其保護ヲ享受スヘク又之カ處分ニ關シ其許可ヲ受ケスシテ自儘ニ爲シタル場合ニ於テハ何等處分タルノ效力ヲ生スルコトナク當然無効ニ歸スヘキモノトス(東京地大正四年法一一〇六號二三頁)

八 明治六年第二四九號布告及ヒ明治九年教部省達第三號ハ

寺院ノ財産ヲ保護スル爲メ住職權信徒ニ於テ任意ニ寺院所有ノ地所建物又ハ什物ヲ處分スルコトヲ禁止シ其管轄官署ノ許可ヲ經スシテ爲シタル賣買抵當等ヲ無効トスルノ旨趣ナルモ裁判所カ寺院所有ノ地所建物等ニ對シ強制處分ヲ爲スニ當リテモ亦該官署ノ許可ヲ受クヘキモノト爲シタル規定ニ非ス(大審四二年民法四七八頁)

◎寺院所有不動産ノ競賣(民法五二六頁)

九 明治六年第二四九號布告及ヒ明治九年教部省三號達ハ神官竝ニ氏子總代ニ於テ濫リニ神社所屬ノ物件ヲ處分スルコトヲ豫防スルニ出テ普通ノ場合ニシテ適用スヘキモノニシテ土地收用法ニ依リ收用ヲ受ケタルカ如キ場合ニ適用スヘキモノニ非ス

(京都地四三年法七四四號二七頁)

二 神社ノ社入取得金穀即チ賽錢料守札料本札料日參月參年參料祈禱料祈雨料神水料初穂獻備料掛物御籤料手水料ノ如キ物ノ賣却ハ明治六年七月第二四九號太政官布告及ヒ明治九年二月教部省達第三號ノ規定ニ從ヒ行政官廳ノ許可ヲ經サルモ有效ナリ(水戸地土浦支部四三年法六三二號一五頁)

三 明治六年七月第二四九號太政官布告明治九年二月教部省達第三號ハ社寺ニ於テ永久ニ保存スヘキコトヲ目的トスル物件若クハ社寺ノ基本財産タル性質ヲ有スル物件ニ關スル規定ニシテ收入金穀ノ如ク日常ノ經費ニ支辨セラルヘキ性質ノモノニハ適用スヘキニ非ス從テ官廳ノ許可ヲ得スシテ斯ル物件ヲ處分スルモ無効ニ非ス(東京控四三年法六五七號一一頁)

◎寺院ト債券發行ノ權能

一 寺院ハ明治三十三年內務省令第三十八號施行以後ニ於テ當該官廳ノ許可ヲ得ルトキハ債券ヲ發行スルコトヲ得ヘシト雖モ其以前ニ在リテハ寧ロ其權能ナキモノト論斷スヘキモノトス(大審四四年民八二五頁)

二 寺院カ債券ヲ發行シテ廣ク募債シ得ル權能ハ明治三十三年內務省令第三十八號ニヨリ始メテ享受シタル權能ニシテ其發行ニ付テハ當該官廳ノ許可ヲ受クルコトヲ要件トセサルコト同省令ニヨリ明カナリ(大阪控四五年法七八四號二二頁)

諸法令下 (メ) 明治九年教部省達第三號

明治九年教部省達第三號

(大審三三年民六卷八頁)

一〇 明治六年第二四九號布告及ヒ明治九年教部省達第三號ハ神官僧侶及ヒ氏子檀家ノ者ニ於テ自儘ニ社寺有ノ地所建物又ハ什物ヲ處分スルコトヲ禁止スル旨趣ニシテ他人カ時効ノ完成ニ因リテ社寺有ノ地所ニ對シ地上權ヲ取得スルカ如キハ該布告及ヒ達ノ禁止スル所ニ非ス(大審大正元年民九三一頁、同旨東京控四五年法七九六號二二頁)

◎後日認可ヲ受クヘキ條件ノ契約

明治六年七月第二四九號布告及ヒ同九年二月教部省達第三號ニ依レハ寺院所有ノ不動産ヲ處分スル場合ニ於テハ寺院ノ住職ハ豫メ當該行政官廳ノ認可ヲ受クルヲ要スル旨規定アリ從テ住職カ後日行政官廳ノ認可ヲ受クヘキコトヲ條件トシテ寺有地所ノ所有權移轉ノ契約ヲ爲シタルモ其契約ハ無効ナリ(大阪地法五一九號一八頁)

◎官廳ノ許可ヲ要セサル處分行爲

一 寺有田畑山林ヨリ生スル所得其他廻向祠料ノ如キ寺ノ收入財産ニ付テハ明治六年七月布告第二四九號及ヒ明治九年二月教部省達第三號ノ支配ヲ受クヘキモノニ非サルヲ以テ右ノ如キ財産ヲ處分スル場合ニハ行政官廳ノ許可ヲ要セサルモノトス

◎社寺ノ處分行爲ト手續履踐ノ推定

一 社寺カ賣渡抵當ヲ爲スニハ明治六年布告第二四九號及ヒ明治九年教部省達第三號ニ所謂處分ニ該當スルモノナレハ該行爲ヲ爲スニハ官廳ノ許可ヲ要シ許可ナキトキハ無効トナルヘキヲ以テ一應適法ナル手續ヲ履踐シタルモノト推定サルヘキモノトス(東京四四年法七五一號二二頁)

二 社寺カ不動産ヲ賣渡抵當ト爲シタルトキハ一應總代ノ連署及ヒ官廳ノ認可ヲ得タルモノト推定スヘキヲ以テ右等ノ事實ナシト主張スル者ハ之カ立證ノ責ヲ負フヘキモノトス(東京控四四年法七四一號二四頁)

◎氏子總代タルノ要件

一 神社ノ地所賣却ニ付キ總代名義ヲ以テ當該官廳ノ認可ヲ受ケタル事實アリトスルモ之ヲ以テ直チニ其名義人カ總代タル資格ヲ有スルトノ適切ノ證據ト爲スナ得ス(東京控四四年最八卷一五〇頁)

二 氏子總代タルノ要件(續民法七五三頁)

明治九年教部省達第三號